元総社蒼海遺跡群（17）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２００８．３

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

元総社蒼海遺跡群（17）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

２００８．３

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

牛池川河畔道路調査区全景

蒼海西通線調査区全景（北から）

蒼海西通線調査区ピット群全景（北から）

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、２万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感ぜられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上野毛の国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（17）は古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国府推定地域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出はかないませんでしたが、古墳時代から平安時代にいたる多くの竪穴式住居跡を検出しました。今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成20年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　砂　川　次　郎

例　　言

1　本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴って実施した元総社蒼海遺跡群（17）の発掘調査報告書である。

2　遺跡の所在地　群馬県前橋市元総社町1858番１号ほか14筆（牛池川河畔道路調査区）
　　群馬県前橋市元総社町1397番１号　　（蒼海西通線調査区）

3　調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長 砂川次郎）の指導のもとに委託者 前橋市区画整理第二課（管理者　高木政夫）の委託を受け、スナガ環境測設株式会社（代表取締役 須永眞弘）が実施した。
　調査担当者　梅澤克典（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）
　　金子正人・板垣　宏・権田友寿（スナガ環境測設株式会社）
　調　査　員　戸根浩美（スナガ環境測設株式会社）

4　発掘調査期間　平成19年９月25日～平成20年３月７日

5　調査面積　1,512㎡

6　出土遺物は、前橋市教育委員会が保管する。

7　測量・調査計画…須永、調査助言…金子、調査担当…板垣・権田、測量調査…荻野博巳・戸根・佐々木智恵子・中川絹子・細井美佐子、安全管理…金子、重機オペレーター…須永・金子、作業事務…須永豊が担当した。

8　本書は、調査団指導のもと、スナガ環境測設株式会社が作成に当たり、原稿執筆…Ⅰについては梅澤克典（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）、その他は板垣・権田が担当し、編集・校正…須永・金子・権田・山口和宏、遺構・遺物のトレース…権田、遺物の整理…戸根、遺物実測…佐々木・細井、遺物洗浄・注記・接合…戸根・中川、写真整理・内業事務…須永（豊）・戸根が担当した。

9　発掘調査に参加した方々（敬称略）

上村一視	信沢弘造	小林益二	安立孝一	斉藤　守	長澤俊男
羽鳥晃正	碓井俊夫	北爪一郎	石原広吉	下田　弘	樺沢秀夫
星野陽子	三木晶人	三木邦江	村山寿美子	諸田伊勢寿	諸田ケサヱ
中山千枝子	品川浪江	森岡一久	森岡愛子	細井光治	鈴木　富　（順不同）

凡　　例

1　遺跡の略称は、19A130-17である。

2　調査委託箇所は牛池川河畔道路調査区と蒼海西通線調査区とがあるが、以下、牛池川調査区と西通線調査区と呼称する。

3　遺構名の略称は、次のとおりである。
　古墳～奈良・平安時代住居跡…H　　竪穴状遺構…T　　溝跡…W　　土坑…D
　ピット（柱穴）…P　　土坑墓…DB　　井戸跡…Ⅰ　　実測図中の記号　P…土器　　S…石

4　実測図の縮尺は、次のとおりである。
　遺跡　　住居跡…1/60　竈…1/30　竪穴状遺構…1/60　溝跡…1/60・1/100　土坑…1/60
　　ピット…1/60　土坑墓…1/20　井戸跡…1/60　全体図…1/200・1/300・1/600
　遺物　　土器…1/3・1/4　瓦…1/4　石器・石製品1/3・1/4　古銭…1/1

5　本文中の遺構名に「西」と付したものは、西通線調査区に属するものをしめす。

6　本文中の（　）は推定、［　］は現存値を表す。

7　挿図に国土地理院発行の２万５千分の１地形図「前橋」を使用した。

8　土層断面の土色名及び土器類の色調名は、『新版標準土色帖』（農林省農林水産技術会議事務局監修　財団法人日本色彩研究所 色票監修）による。

9　土層注記中の締まり・粘性は、強・中・弱・なしの４段階に区分した。

10　須恵器の断面…■、黒色土器…□、施釉部分…▒を使用した。

11　各遺構の面積は、平面図をもとに座標面積計算より算出した。

12　写真図版の遺構外遺物の表記を遺構外―１、２、３……とした。

目　　次

はじめに

Ⅰ　調査に至る経緯……1

Ⅱ　遺跡の位置と歴史的環境

1　遺跡の立地……1

2　歴史的環境……1

Ⅲ　調査の方針と経過

1　調査方針……4

2　調査経過……4

Ⅳ　層　　序……5

Ⅴ　検出された遺構と遺物

1　牛池川調査区の遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡……6

(2)　竪穴状遺構……15

(3)　溝　　跡……16

(4)　土坑・ピット……17

(5)　土　坑　墓……17

(6)　遺構外の遺物……17

2　西通線調査区の遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡……18

(2)　溝　　跡……18

(3)　土坑・ピット……19

(4)　井　戸　跡……20

Ⅵ　まとめ……21

挿　　図

第１図　遺跡位置図
第２図　周辺遺跡図……２
第３図　牛池川調査区基本土層断面図……５
第４図　西通線調査区基本土層断面図……５
第５図　時期別の竪穴住居跡の主軸方向
（牛池川調査区）……22
第６図　牛池川調査区全体図……26
第７図　時期別の竪穴住居跡配置図
（牛池川調査区西側）……28
第８図　時期別の竪穴住居跡配置図
（牛池川調査区東側）……30
第９図　牛池川調査区西側全体図……40
第10図　牛池川調査区東側全体図……42
第11図　Ｈ－１・２号住居跡……44
第12図　Ｈ－３・４号住居跡……45
第13図　Ｈ－５・６号住居跡……46
第14図　Ｈ－７・10号住居跡……47
第15図　Ｈ－11・12号住居跡……48
第16図　Ｈ－13～15・26号住居跡、
Ｄ－33号土坑……49
第17図　Ｈ－17・18号住居跡……50
第18図　Ｈ－19・20号住居跡、
Ｄ－27号土坑……51
第19図　Ｈ－22・23・24号住居跡……52
第20図　Ｈ－25・27・28号住居跡……53
第21図　Ｈ－29～33号住居跡、
Ｄ－34号土坑……54
第22図　Ｈ－34～37号住居跡……55
第23図　Ｈ－39・40号住居跡……56
第24図　Ｈ－39・40・41号住居跡……57
第25図　Ｈ－42・43号住居跡……58
第26図　Ｈ－44・45号住居跡……59
第27図　Ｈ－46～48号住居跡……60
第28図　Ｈ－49・50号住居跡……61
第29図　Ｔ－２・３号竪穴状遺構……62
第30図　Ｗ－１・３号溝跡……63
第31図　Ｗ－４・５号溝跡……64
第32図　Ｗ－６・７号溝跡、Ｄ－35号土坑、
ＤＢ－１・２号土坑墓……65
第33図　Ｄ－１～16号土坑……66
第34図　Ｄ－18・20～32・34～37号土坑……67
第35図　Ｐ－１～20号ピット……68
第36図　Ｐ－21～37号ピット……69
第37図　西通線調査区全体図……70
第38図　西Ｈ－１・２号住居跡……71
第39図　西Ｗ－１号溝跡……72
第40図　西Ｗ－３号溝跡……73
第41図　西Ｗ－２・４・５号溝跡……74
第42図　西Ｄ－１～７号土坑……75
第43図　西Ｄ－８～10号土坑、
西Ｐ－１～５号ピット……76
第44図　西Ｉ－１号井戸跡……77
第45図　西Ｉ－３号井戸跡……78
第46図　Ｈ－１～７号住居跡遺物実測図……79
第47図　Ｈ－10～14号住居跡遺物実測図……80
第48図　Ｈ－14・15・17・18号住居跡
遺物実測図……81
第49図　Ｈ－19・22～25号住居跡遺物実測図……82
第50図　Ｈ－25～29号住居跡遺物実測図……83
第51図　Ｈ－29～33号住居跡遺物実測図……84
第52図　Ｈ－34・35・37・39～42号住居跡
遺物実測図……85
第53図　Ｈ－43・45・46・50号住居跡
遺物実測図……86
第54図　Ｈ－50号住居跡、Ｗ－１号溝跡、
Ｔ－２号竪穴状遺構遺物実測図……87
第55図　Ｗ－５号溝跡、Ｄ－４・５・34号土坑、
ＤＢ－２号土坑墓遺物実測図……88
第56図　西Ｗ－５号溝跡、西Ｉ－１号井戸跡
遺物実測図……89
第57図　西Ｉ－１・３号井戸跡遺物実測図……90

表

第１表　周辺遺跡概要一覧表…… 3
第２表　西通線調査区の土坑計測表……19
第３表　牛池川調査区の住居跡一覧表……24
第４表　牛池川調査区の土坑計測表……32
第５表　牛池川調査区のピット計測表……33
第６表　出土遺物観察表……34

写真図版

口絵　元総社蒼海遺跡群（17）遠景
　　牛池川調査区　西通線調査区
図版１　調査前全景東側（東から）
　　調査前全景西側（北西から）
　　Ｈ－１号住居跡全景（北から）
　　Ｈ－２号住居跡全景（西から）
　　調査区全景（空撮）
図版２　Ｈ－３号住居跡全景（西から）
　　Ｈ－３号住居跡竈全景（西から）
　　Ｈ－３号住居跡遺物出土状況（西から）
　　Ｈ－４号住居跡全景（西から）
　　Ｈ－４号住居跡遺物出土状況
　　Ｈ－４号住居跡竈全景（西から）
　　Ｈ－５号住居跡全景（西から）
　　Ｈ－５号住居跡遺物出土状況（西から）
図版３　Ｈ－５号住居跡遺物出土状況（刀子）
　　Ｈ－５号住居跡竈全景（西から）
　　Ｈ－６号住居跡全景（西から）
　　Ｈ－６号住居跡遺物出土状況
　　Ｈ－６号住居跡竈全景（西から）
　　Ｈ－７号住居跡全景（西から）
　　Ｈ－７号住居跡遺物出土状況（西から）
　　Ｈ－７号住居跡竈全景（西から）
図版４　Ｈ－７号住居跡竈遺物出土状況（西から）
　　Ｈ－10号住居跡全景（西から）
　　Ｈ－10号住居跡遺物出土状況
　　Ｈ－10号住居跡竈全景（西から）
　　Ｈ－10号住居跡竈遺物出土状況
　　Ｈ－11号住居跡全景（西から）
　　Ｈ－11号住居跡遺物出土状況（西から）
　　Ｈ－11号住居跡竈全景（西から）
図版５　Ｈ－11号住居跡竈遺物出土状況
　　Ｈ－12号住居跡全景（南から）
　　Ｈ－12号住居跡遺物出土状況
　　Ｈ－12号住居跡竈全景（南から）
　　Ｈ－13・26・30・31・32号住居跡全景
　　Ｈ－13・26号住居跡遺物出土状況
　　Ｈ－14号住居跡、Ｄ－33号土坑全景(西から)
　　Ｈ－14号住居跡、Ｄ－33号土坑遺物出土状況
図版６　Ｈ－14号住居跡竈全景（西から）
　　Ｈ－15号住居跡全景（南西から）
　　Ｈ－15号住居跡遺物出土状況
　　Ｈ－17号住居跡全景（北東から）
　　Ｈ－17号住居跡遺物出土状況
　　Ｈ－17号住居跡竈全景（北東から）
　　Ｈ－18号住居跡全景（西から）
　　Ｈ－18号住居跡遺物出土状況（北西から）

図版７　Ｈ―18号住居跡竈全景（西から）
Ｈ―18号住居跡竈遺物出土状況（西から）
Ｈ―19号住居跡全景（北西から）
Ｈ―19号住居跡遺物出土状況（北西から）
Ｈ―20号住居跡遺物出土状況（西から）
Ｈ―22号住居跡全景（南から）
Ｈ―23号住居跡全景（南西から）
Ｈ―23号住居跡遺物出土状況（南西から）
図版８　Ｈ―23号住居跡竈全景（南西から）
Ｈ―23号住居跡竈遺物出土状況
Ｈ―24号住居跡全景（西から）
Ｈ―24号住居跡遺物出土状況（西から）
Ｈ―24号住居跡竈全景（西から）
Ｈ―25号住居跡全景（南西から）
Ｈ―25号住居跡遺物出土状況
Ｈ―25号住居跡遺物出土状況
図版９　Ｈ―25号住居跡竈全景（南西から）
Ｈ―25号住居跡貯蔵穴全景
Ｈ―27号住居跡全景（南西から）
Ｈ―27号住居跡遺物出土状況（南西から）
Ｈ―28号住居跡全景（南西から）
Ｈ―28号住居跡遺物出土状況（南西から）
Ｈ―29号住居跡遺物出土状況（南西から）
Ｈ―32号住居跡竈全景（西から）
図版10　Ｈ―33号住居跡全景（西から）
Ｈ―33号住居跡遺物出土状況（西から）
Ｈ―33号住居跡竈全景（西から）
Ｈ―34号住居跡全景（西から）
Ｈ―34号住居跡竈全景
Ｈ―34号住居跡竈遺物出土状況
Ｈ―35・37号住居跡全景（南西から）
Ｈ―37号住居跡遺物出土状況
図版11　Ｈ―36号住居跡竈全景（北から）
Ｈ―39号住居跡全景（北西から）
Ｈ―39号住居跡竈全景（北東から）
Ｈ―40号住居跡全景（北西から）
Ｈ―40号住居跡竈全景（南西から）
Ｈ―41号住居跡全景（南西から）
Ｈ―41号住居跡遺物出土状況
Ｈ―42号住居跡全景（北西から）
図版12　Ｈ―43・44・45号住居跡全景（南西から）
Ｈ―43号住居跡全景（北西から）
Ｈ―43号住居跡Ｐ５遺物出土状況
Ｈ―43号住居跡竈全景（南西から）
Ｈ―43・44号住居跡全景（南西から）
Ｈ―44号住居跡全景（南西から）
Ｈ―44号住居跡竈全景（南西から）
Ｈ―44号住居跡竈構築状況（石組状況）
図版13　Ｈ―44号住居跡竈構築状況（石組状況）
Ｈ―45号住居跡全景（西から）
Ｈ―45号住居跡竈全景（西から）
Ｈ―45号住居跡Ｄ―１遺物出土状況
Ｈ―46号住居跡全景（南西から）
Ｈ―47号住居跡全景（南西から）
Ｈ―48号住居跡全景（南西から）
Ｈ―49号住居跡全景（南西から）
図版14　Ｈ―50号住居跡全景（西から）
Ｈ―50号住居跡遺物出土状況（西から）
Ｈ―50号住居跡竈全景（西から）
Ｔ―２号竪穴状遺構全景（南から）
Ｔ―３号竪穴状遺構全景（南西から）
Ｗ―１号溝跡全景（西から）
Ｗ―３号溝跡全景（南から）
Ｗ―４・５号溝跡全景（東から）

図版15　W―５号溝跡全景（南から）
W―５号溝跡土層堆積状況
W―５号溝跡竈構築材採掘跡全景
W―６・７号溝跡全景（南西から）
D―４号土坑遺物出土状況
D―５号土坑遺物出土状況
D―13号土坑全景（南から）
D―14号土坑全景（南から）
図版16　D―15号土坑全景
D―34号土坑遺物出土状況
DB―１号土坑墓人骨出土状況
DB―２号土坑墓人骨出土状況
DB―２号土坑墓人骨出土状況
深掘り（東側）
深掘り（中央）
深掘り（西側）
図版17　調査前全景（北から）
調査前全景（南から）
調査区全景（北から）
調査区全景（南から）
H―１号住居跡全景（西から）
H―２号住居跡全景（西から）
W―１号溝跡全景（南から）
W―２・４・５号溝跡全景（南から）
図版18　W―２・５号溝跡全景（西から）
W―３号溝跡全景（南から）
W―４号溝跡全景（東から）
W―５号溝跡全景（西から）
D―１号土坑全景（西から）
D―２号土坑全景（西から）
D―３号土坑全景（西から）
D―４号土坑全景（西から）
図版19　D―５号土坑全景（西から）
D―６号土坑全景（西から）
D―７号土坑全景（西から）
D―８号土坑全景（西から）
D―９号土坑全景（南から）
D―10号土坑全景（西から）
ピット群全景（北から）
ピット群全景（南から）
図版20　P―１号ピットセクション
P―２号ピットセクション
P―３号ピットセクション
P―４号ピットセクション
P―５号ピットセクション
I―１号井戸跡全景（東から）
I―３号井戸跡全景（西から）
深掘り（東壁側）
図版21　H―１～７号住居跡出土遺物
図版22　H―10～15・17・18号住居跡出土遺物
図版23　H―18・19・22～25号住居跡出土遺物
図版24　H―25～31号住居跡出土遺物
図版25　H―30・32～35・37・39～41号
住居跡出土遺物
図版26　H―41～43・45・46・50号
住居跡出土遺物
図版27　H―50、T―２・３、W―１・４・５、
D―４・５・７・33・34・遺構外出土遺物
図版28　DB―２号土坑墓、W―５、
I―１・３出土遺物

牛池川調査区
西通線調査区
蒼海公園
元総社
梅ガ丘公園
御霊神社
117.7
123.7
125.2
124.4
124.6
124
123.2
122.3
123.7
122.6
121.6
122.2
122
118.3
122
121.4
119.8
121.6
0
1:2,500
100m

第１図　遺跡位置図

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、８年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に亘って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成19年６月15日付けで、前橋市長 高　木　政　夫（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団へ調査実施の協議を行った。調査団では直営による本発掘調査の実施が困難であるとして、民間調査機関に調査業務を委託したいと回答した。民間調査機関の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成19年９月12日付けで前橋市埋蔵文化財発掘調査団と前橋市との間で、埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した、調査団は民間調査機関であるスナガ環境測設株式会社と、９月25日付けで業務委託契約を締結し、10月10日より発掘調査を開始した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（17）」（遺跡コード：19Ａ130―17）の「元総社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、数字の「(17)」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

Ⅱ　遺跡の位置と歴史的環境

１　遺跡の立地

元総社蒼海遺跡群（17）は、前橋市元総社町に所在し、前橋市街地の西側約３㎞で、ＪＲ新前橋駅の北西約２㎞に位置する。また関越自動車道の前橋インターチェンジから北へ約２㎞、関越自動車道の側道から東へ約500ｍに位置し、北東に赤城山、北西に榛名山、西に浅間山・妙義山を望む田畑の広がる地域である。

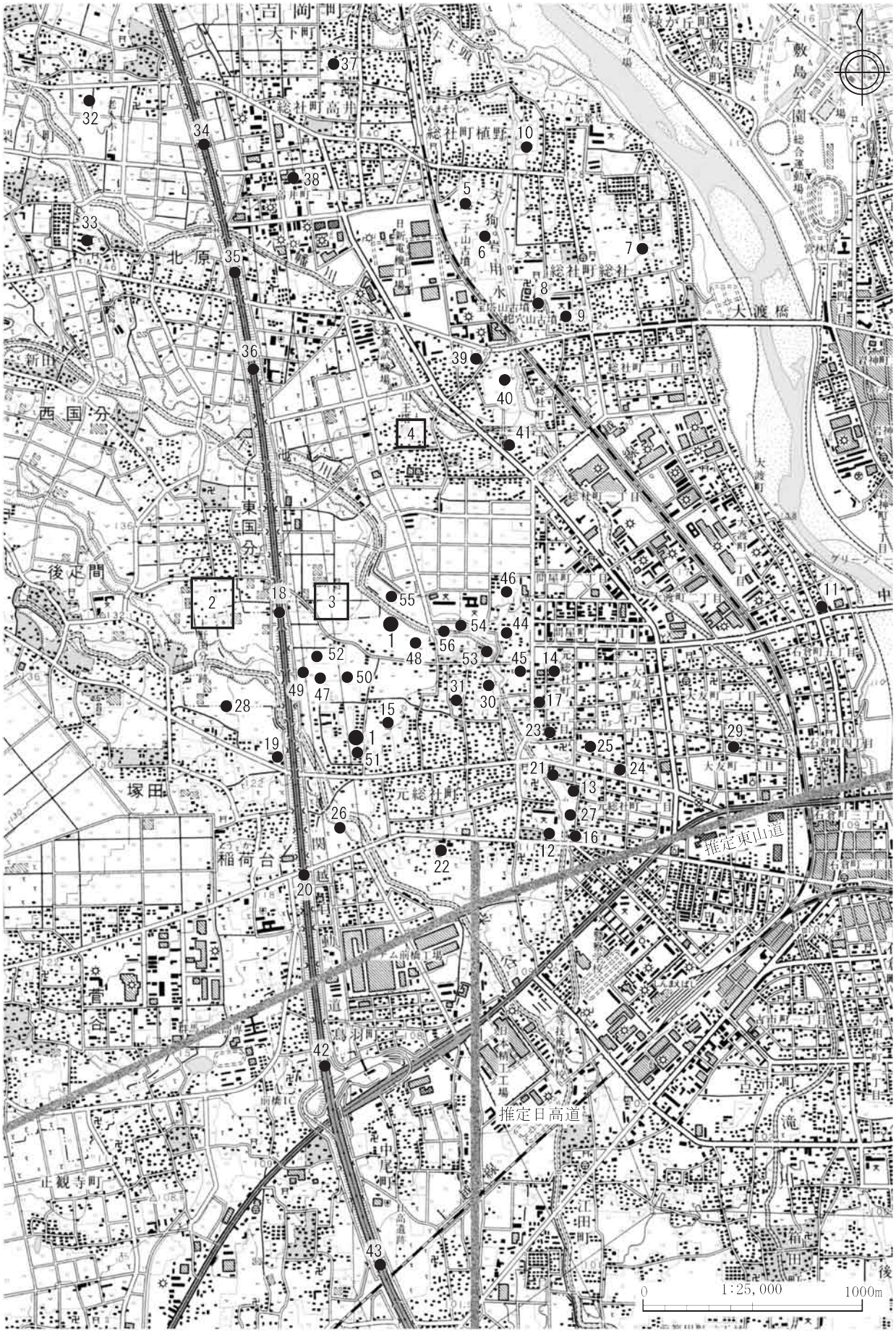
前橋市の地形は、北東部の赤城火山斜面、東部の広瀬川低地帯、南部の現利根川氾濫源、南西部の前橋台地の４地域に大別される。当遺跡群は前橋台地上に立地しており、榛名山の南東麓に広がる相馬ヶ原扇状地の先端部にあたる。また、榛名山を起源とする南東方向に流下するいくつかの中・小河川のうちの、南を染谷川、北を牛池川に挟まれた北西から南東に延びる微高地上にある。

２　歴史的環境

この地域では土地区画整理事業に伴い遺跡調査が行われ多くの遺構、遺物が検出されている。また、近隣には多くの遺跡があり、中でも本調査区域に近接する関越自動車道建設工事に伴う『上野国分僧寺・尼寺中間地域』は上野国分寺の僧寺･尼寺跡、上野国府跡、山王廃寺跡に近接する遺跡として早くから注目を浴び、昭和55年から昭和59年にかけて大規模な発掘調査が行われ、縄文時代を始めとし近世までの遺構が数多く検出されている。

縄文時代前期の住居跡は、清里・長久保遺跡、熊野谷遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、元総社小見Ⅶ遺跡、中期後半の住居跡は上野国分僧寺・尼寺中間地域、下東西遺跡、熊野谷遺跡、元総社小見Ⅱ・Ⅲ・Ⅶ遺跡等で確認されている。

弥生時代では中期の環壕集落跡が発見された清里・庚申塚遺跡、後期集落跡では上野国分僧寺・尼寺中間地域の他、日高遺跡、下東西遺跡、元総社小見内Ⅲ遺跡等で報告されているが、調査例は少ない。



第２図　周辺遺跡図

古墳時代では本遺跡周辺は県内有数の古墳密集地域で、5世紀末頃の遠見山古墳、6世紀代には王山古墳、総社二子山古墳、終末期には愛宕山古墳、宝塔山古墳、最終に蛇穴山古墳などの総社古墳群がある。その近くには白鳳期の建築物と考えられる山王廃寺遺跡があり仏教文化と古墳文化の併存がうかがえる。集落跡は4世紀代の住居跡を初現に、6世紀から7世紀代の遺構を多数検出しており、下東西遺跡、元総社明神遺跡Ⅰ～Ⅻ、鳥羽遺跡、草作遺跡、弥勒遺跡・Ⅱ遺跡、大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡、屋敷遺跡・Ⅱ遺跡、閑泉樋南遺跡、上野国分寺参道遺跡、元総社宅地遺跡、上野国分僧寺･尼寺中間地域等がある。この時期の生産址としては、3世紀後半に降下した浅間山起因の軽石（As-C）により埋没した水田跡や畠跡、6世紀代に降下した榛名山起因の軽石（Hr-FA･FP）により埋没した水田跡や畠跡を検出した元総社神明Ⅷ遺跡、元総社植野北開土遺跡、北原遺跡、総社閑泉明神北遺跡、元総社牛池川遺跡、元総社北川遺跡等がある。

奈良・平安時代の本遺跡地域は、いよいよ古代上野の政治的・文化的中心地となり、上毛野国から上野国に移行した時期であり国府が造営された時期でもある。また、天平13年（741年）に、聖武天皇により国分寺建立の詔が発せられ国分僧寺、国分尼寺が建立された。国府を中心とした周辺の遺跡は元総社明神遺跡Ⅰ～Ⅻ、元総社小学校校庭遺跡、閑泉樋遺跡、鳥羽遺跡、草作遺跡、元総社寺田遺跡、寺田遺跡、大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡、天神遺跡・Ⅱ遺跡、屋敷遺跡・Ⅱ遺跡、堰越遺跡、堰越Ⅱ遺跡、閑泉樋南遺跡、総社閑泉明神北遺跡、弥勒遺跡・Ⅱ遺跡、元総社宅地遺跡、大友宅地添遺跡、上野国分寺参道遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡等がある。また、本遺跡の南約2.5kmには条里水田研究の発端となった日高遺跡がある。この遺跡で報告されている約4.5mの道路状遺構は、国府正面へ続く日高道と考えられている。

中世では国府跡を利用し蒼海城が築かれ(1429年)、近世には秋元氏による総社城築城や天狗岩用水、五千石堰など貴重な遺跡や旧跡が集中する地域である。前橋市元総社町の町名は、平安時代に総社神社がこの地に祀られたことによるものであるが、江戸時代の初め秋元氏が新たに領内の植野の地に城を築き、元総社の人々を移住させた。その城下町を総社町とし、この地は総社町の元地であることから元総社と呼ばれるようになった。

第1表　周辺遺跡概要一覧表

No.	遺　跡　名	概　　要	No.	遺　跡　名	概　　要
1	元総社蒼海遺跡群（17）	本遺跡古墳・奈良・平安住居跡、他	29	大友宅地添遺跡	平安水田跡
2	上野国分僧寺跡	奈良	30	総社閑泉明神北遺跡	古墳水田・畠・溝跡、中世溝跡
3	上野国分尼寺跡	奈良	31	元総社宅地遺跡1～23トレ	古墳・平安・近世住居跡、溝跡、他
4	山王廃寺跡	白鳳期	32	薬師前遺跡	縄文ピット、奈良・平安住居・溝跡
5	総社二子山古墳	前方後円墳（6世紀末）	33	熊野谷遺跡・Ⅱ・Ⅲ遺跡	縄文・平安住居跡、平安溝跡
6	愛宕山古墳	円墳（7世紀初）	34	下東西遺跡	縄文埋甕、弥生～平安住居跡、他
7	遠見山古墳	前方後円墳	35	北原遺跡	縄文土坑、古墳水田、奈良・平安住居
8	宝塔山古墳	方墳（7世紀末）	36	国分境遺跡・Ⅱ・Ⅲ遺跡	古墳～奈良・平安住居跡、他
9	蛇穴山古墳	方墳（8世紀初）	37	総社植野北開土遺跡	古墳水田跡、他
10	稲荷山古墳	円墳	38	柿木遺跡・Ⅱ遺跡	奈良・平安住居・溝跡
11	王山古墳	前方後円墳（6世紀中）	39	村東遺跡	古墳・奈良・平安住居・溝跡、中世堀跡
12	元総社小学校校庭遺跡	平安掘立柱建物跡、他	40	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅴ	縄文～奈良・平安住居跡、中世溝跡他
13	元総社明神遺跡Ⅰ～Ⅻ	古墳水田跡、古墳～中世住居跡、他	41	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	奈良・平安住居跡
14	閑泉樋遺跡	奈良・平安溝跡	42	中尾遺跡	奈良・平安住居跡
15	草作遺跡	古墳～平安住居跡、中世井戸跡	43	日高遺跡	弥生住居・水田跡、平安水田跡、他
16	寺田遺跡	平安溝跡	44	総社甲稲荷塚大道西遺跡	平安住居・溝跡、他
17	閑泉樋南遺跡	古墳住居跡、奈良・平安溝跡	45	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	古墳～平安住居跡、溝跡
18	上野国分僧寺・尼寺中間地域	縄文～平安住居跡、中世溝・道路	46	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	古墳～平安住居跡、溝跡
19	塚田村東遺跡	平安住居跡	47	元総社小見遺跡	古墳～平安住居跡、溝跡
20	鳥羽遺跡	古墳～平安住居跡、鍛冶、掘立柱跡	48	元総社小見内Ⅲ遺跡	弥生住居跡、古墳～平安住居跡、溝跡
21	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	古墳～平安住居跡、平安溝跡、他	49	元総社小見Ⅱ遺跡	縄文住居跡、古墳～平安住居跡、溝跡
22	天神遺跡・Ⅱ遺跡	奈良・平安住居跡	50	元総社小見Ⅲ遺跡	縄文住居跡、古墳～平安住居跡、溝跡
23	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡	古墳～平安住居跡、中世堀跡、他	51	元総社草作Ⅴ遺跡	古墳～平安住居跡、溝跡
24	堰越遺跡	奈良・平安住居跡、溝跡	52	元総社小見Ⅶ遺跡	縄文住居跡、古墳～平安住居跡、溝跡
25	堰越Ⅱ遺跡	平安住居跡	53	総社閑泉明神北遺跡	古墳水田・畠跡
26	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡	古墳、平安住居跡	54	元総社牛池川遺跡	古墳水田跡
27	元総社寺田遺跡	古墳水田跡、奈良・平安住居・溝跡	55	元総社北川遺跡	古墳水田跡、平安水田跡
28	上野国分寺参道遺跡	古墳、平安住居跡	56	元総社小見内Ⅴ遺跡	中世土坑

Ⅲ　調査の方針と経過

1　調査方針

調査委託箇所は、前橋土地計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、牛池川調査区が1,160㎡、西通線調査区が352㎡の合計1,512㎡である。２つの調査区の間は距離があり、混乱を避けるため、遺構番号は調査区毎に個別に付番した。

グリッドは公共座標に基づいて４×４ｍで設定し、南北方向をＹ軸として北から南へＹ１、Ｙ２、Ｙ３、……、東西方向をＸ軸として西から東へＸ１、Ｘ２、Ｘ３、……、と付番した。各グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。各調査区の公共座標（日本測地系　第Ⅸ系）は次のとうりである。

牛池川調査区　　Ｘ150・Ｙ85　　Ｘ＝43,660m　Ｙ＝－71,600m

西通線調査区　　Ｘ82・Ｙ192　　Ｘ＝43,232m　Ｙ＝－71,872m

水準は公共水準点に基づき牛池川調査区内に３ヶ所（BM.１　Ｈ＝122.00m、BM.２　Ｈ＝123.00m、BM.３　Ｈ＝123.00m）、西通線調査区に１ヶ所（BM.１　Ｈ＝120.00m）設置した。

調査方法は、表土掘削、遺構確認、杭打ち、遺構掘り下げ、遺構精査、写真撮影、測量の手順で行った。

図面作成は、平板・遣り方測量を用い、原則として１/20、竈は１/10、土坑・溝跡等１/40、全体を１/100の縮尺で作図を行った。遺物については遺物分布平面図を作成し、遺物台帳に記載し、付番処理して取り上げた。また、遺構・遺物等の写真撮影（白黒・リバーサルフィルム）も行った。

2　調査経過

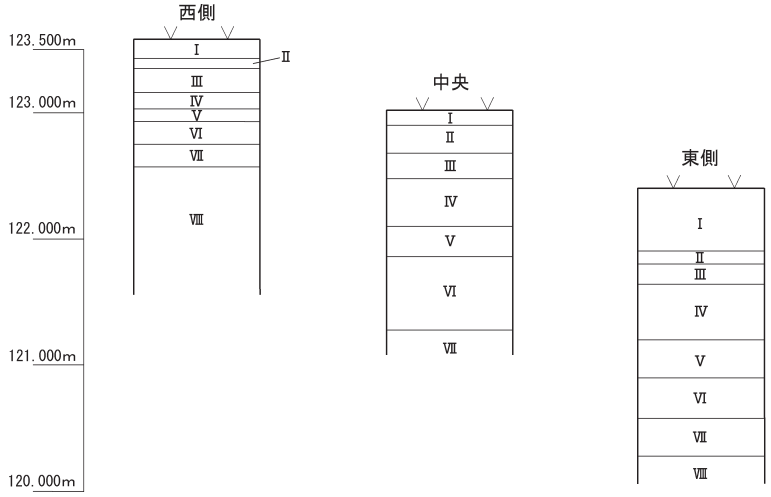
調査は、市教育委員会のもとに組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導、監督のもと、スナガ環境測設株式会社が実施した。９月27日、調査範囲の確認のため立会を行う。調査面積が広いことと樹木の伐採が必要なため、牛池川調査区から調査を開始することにした。10月上旬、現地調査事務所設営、機械及び資材の搬入、樹木の伐採を行う。10月中旬、表土掘削は、調査区が狭長であるため、中央部から東部に向かって開始し、下旬には西部を含め全て終了した。調査は、表土掘削と並行してジョレン掛けから入り、時期の新しい土坑墓から遺構掘り下げ、遺構精査に入った。

11月上旬、西通線調査区の表土掘削を南側から開始した。手順に従い調査を行い、11月下旬には測量を残し、他の作業は終了した。一方、牛池川調査区は引き続き中央部から東部へと調査を進めた。

12月上旬、西通線調査区の調査は終了し、牛池川調査区の西部の調査に入った。下旬には全ての作業を終了し、調査団業務監督員の調査終了検査を受け、埋め戻し作業を行い資材を撤収した。

Ⅳ　層　　序

層序は、調査区内に入れた深掘りトレンチをもとに、模式的に、断面図を作成し、それについての土層説明を下記に掲載した。

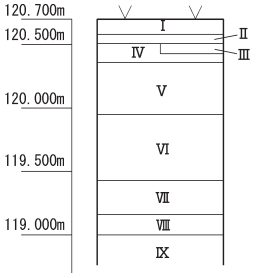


第３図 牛池川調査区基本土層断面図

牛池川調査区基本土層　西側 土層注記
Ⅰ.表土（現耕作土）
Ⅱ.暗褐色（10YR3/3）粘なし、中締、白色軽石粒φ1～5mmを3%、礫φ2～10mmを1%含む
Ⅲ.黒褐色（10YR3/2）弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを2%含む
Ⅳ.黒褐色（10YR3/2）弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、砂岩質粒φ1～5mmを1%含む
Ⅴ.暗褐色（10YR3/4）弱粘、弱締、白色軽石粒φ1mmを1%、砂岩質粒φ2～20mmを少量含む
Ⅵ.オリーブ褐色（2.5Y4/6）粘なし、弱締、白色軽石粒φ1mmを少量、砂岩質粒φ1～10mmを少量含む砂礫層
Ⅶ.黄褐色（10YR5/6）粘なし、中締、赤褐色の酸化跡が多い砂礫層
Ⅷ.鈍い黄褐色（10YR5/3）粘なし、強締、Ⅵ層と砂を多く含む砂礫層

牛池川調査区基本土層　東側 土層注記
Ⅰ.盛土
Ⅱ.暗褐色（10YR3/4）粘なし、中締、白色軽石粒φ1～3mmを2%、小礫を少量含む
Ⅲ.暗褐色（10YR3/3）弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを少量、小礫を1%含む
Ⅳ.褐色（10YR4/6）粘なし、締なし、砂と礫が6：4の砂礫層
Ⅴ.褐色（10YR4/6）粘なし、締なし、砂と礫が4：6の砂礫層
Ⅵ.褐色(10YR4/6)と灰黄褐色(10YR4/2)の砂がラミナ状に堆積した砂層 粘なし、中締
Ⅶ.鈍い黄橙色（10YR6/4）粘なし、強締、砂礫層
Ⅷ.灰黄褐色（10YR6/2）粘なし、強締、砂層

牛池川調査区基本土層　中央 土層注記
Ⅰ.表土（現耕作土）
Ⅱ.暗褐色（10YR3/3）粘なし、中締、白色軽石粒φ1～5mmを3%、礫φ2～10mmを1%含む
Ⅲ.黒褐色（10YR2/3）中粘、中締、白色軽石粒φ1～7mmを10%、砂岩質粒φ1～10mmを1%含む粘質土層
Ⅳ.黒褐色（10YR2/3）中粘、中締、白色軽石粒φ1～2mmを2%、砂岩質粒φ1～10mmを1%含む粘質土層
Ⅴ.褐色（7.5YR4/4）弱粘、中締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、黒色粒を多く含む砂礫層
Ⅵ.鈍い黄褐色（10YR5/3）弱粘、強締、砂岩質粒φ2～30mmを非常に多く含む砂礫層
Ⅶ.灰黄褐色（10YR5/3）粘なし、弱締、砂岩質粒φ2～10mmを少量含む砂層



第４図 西通線調査区基本土層断面図

西通線調査区基本土層　土層注記
Ⅰ.表土（現畑）
Ⅱ.黒褐色（10YR3/2）弱粘、中締、白色軽石粒φ1～2mmを1%含む赤褐色の酸化跡あり(旧田)
Ⅲ.暗褐色（10YR3/4）弱粘、中締、白色軽石粒φ1～5mmを10%、砂岩質粒φ2～7mmを1%含む
Ⅳ.暗褐色（10YR3/3）中粘、中締、白色軽石粒φ1mmを2%、砂岩質粒φ2～5mmを1%含む
Ⅴ.褐色（10YR4/6）粘なし、弱締、砂岩質粒φ2～30mmを1%、明黄褐色(10YR6/6)のシルトを少量含む
Ⅵ.灰黄褐色（10YR6/2）粘なし、弱締、砂岩質ブロックを非常に多く、明黄褐色(10YR6/6)のシルトを多く含む
Ⅶ.灰黄褐色（10YR6/2）粘なし、中締、砂岩質粒φ2～10mmを少量含む
Ⅷ.褐灰色（10YR5/1）粘なし、締なし、砂岩質粒φ1～2mmと砂をラミナ状に16層からなる
Ⅸ.鈍い黄橙色（10YR6/3）弱粘、弱締、シルト層 砂を少量含む

Ⅴ　検出された遺構と遺物

1　牛池川調査区の遺構と遺物

本調査区は、長さが約230m、幅が６ｍに満たない狭長の調査区で、牛池川に沿って占地している。検出された遺構は、竪穴住居跡45軒、竪穴状遺構２軒、溝跡６条、土坑35基、ピット37基、土坑墓２基で、時期はすべて古墳時代後期以降のものである。

(1)　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡〔第11図、図版１〕

位置　Ｘ157・158、Ｙ90グリッド　**重複**　Ｗ－５号溝跡の覆土上に住居跡の西側の一部がかかる。南側は調査区域外のため、形状や規模は現存値をあげる。　**形状**　隅丸長方形か。　**規模**　東西3.10m、南北[1.55]m、現壁高30㎝。　**面積**　[4.47]㎡　**主軸方向**　（Ｎ－107°－Ｅ）　**床面**　平坦で、床面標高は121.65mを測る。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**竈**　東壁に位置する。主軸方向Ｎ－115°－Ｅ、全長81㎝、最大幅58㎝、焚口部幅37㎝。　**時期**　覆土や出土遺物から、９世紀後半と考えられる。　**遺物**　竈前から完形にちかい須恵器坏（2）・高台付皿（3）が床直で、また竈内からは土師器「コ」字状口縁の甕（1）が潰れた状態で出土している。また竈からは須恵器坏・甕の破片が出土している。

Ｈ－２号住居跡〔第11図、図版１〕

位置　Ｘ155・156、Ｙ88・89グリッド　**重複**　北東側でＨ－11号住居跡と攪乱に切られ、北壁の一部をＤ－１・３号土坑に切られる。南西端は調査区域外。　**形状**　不定形で張り出し住居と思われる。　**規模**　東西4.50m、南北4.75m、現壁高19㎝。　**面積**　[17.31]㎡　**主軸方向**　Ｎ－74°－Ｅ　**床面**　平坦で、床面標高は121.69mを測る。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　住居の南東隅から検出。規模は東西62㎝、南北62㎝、深さ34㎝を測り、隅丸方形を呈する。　**竈**　北竈は、東壁に位置する。主軸方向Ｎ－67°－Ｅ、全長52㎝、最大幅31㎝、焚口部幅25㎝。南竈ははっきり検出された訳ではないが東壁南側に形跡が見え、竈があったものと考える。　**時期**　出土遺物から、７世紀前半と考えられる。　**遺物**　土師器坏（1）・甕、須恵器などの小片、菰編石５点が出土している。

Ｈ－３号住居跡〔第12図、図版２〕

位置　Ｘ154、Ｙ88･89グリッド　**重複**　Ｐ－16号ピットに竈の一部を切られる。南側は調査区域外。　**形状**　不明。　**規模**　東西[2.70]m、南北[2.50]m、現壁高30㎝。　**面積**　[3.87]㎡　**主軸方向**　（Ｎ－73°－Ｅ）　**床面**　平坦で、床面標高は121.71mを測る。　**竈**　東壁に位置する。主軸方向Ｎ－107°－Ｅ、全長[105]㎝、最大幅[39]㎝、焚口部幅[12]㎝で、褐色粘土の短い袖をもつ。　**時期**　覆土や出土遺物から、７世紀代と考えられる。　**遺物**　竈前から床直で、土師器長胴甕（1）が潰れた状態で出土。他に土師器片が出土しているが、少量である。

Ｈ－４号住居跡〔第12図、図版２〕

位置　Ｘ152・153、Ｙ86・87グリッド　**重複**　重複はないが、北側は調査区域外。　**形状**　隅丸長方形を

呈すと思われる。 **規模** 東西3.20m、南北[3.40]m、現壁高50㎝。 **面積** [10.30]㎡ **主軸方向** N―102°―E **床面** 平坦で堅緻。床面標高は121.21mを測る。 **柱穴** 検出されなかった。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **竈** 東壁の南寄りに位置する。主軸方向N―106°―Eで、全長92㎝、最大幅45㎝、焚口部幅45㎝。 **時期** 覆土や出土遺物から、10世紀前半と考えられる。 **遺物** 竈から土師器坏(1)、覆土から須恵器坏(2)、土師器坏・甕片、瓦片などを出土した。

H―5号住居跡〔第13図、図版2・3〕

位置 X163・164、Y91・92グリッド **重複** H―6号住居跡、D―5号土坑より新しい。 **形状** 隅丸長方形を呈する。 **規模** 東西3.65m、南北2.85m、現壁高25㎝。 **面積** 9.96㎡ **主軸方向** N―100°―E **床面** 平坦で堅緻。床面標高は121.03mを測る。 **柱穴** 検出されなかった。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **竈** 東壁の南寄りに位置する。主軸方向N―110°―E、全長83㎝、最大幅48㎝、焚口部幅40㎝。 **時期** 覆土や出土遺物から、10世紀後半と考えられる。 **遺物** 竈から土師器甕の口縁部片(4)、須恵器高台付埦(1)、床直で土師器坏片(3)、刀子(2)が出土した。覆土からは、土師器台付甕・甕、須恵器坏・高台付埦・甕、瓦などの破片が大量に出土している。

H―6号住居跡〔第13図、図版3〕

位置 X163・164、Y91・92グリッド **重複** 西側をH―5号住居跡・D―5号土坑に、南側をD―4号土坑に切られる。 **形状** 隅丸方形を呈する。 **規模** 東西3.10m、南北3.10m、現壁高30㎝。 **面積** 9.22㎡ **主軸方向** N―93°―E **床面** 平坦で堅緻。床面標高は120.95mを測る。 **柱穴** 検出されなかった。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **竈** 東壁の中央付近に位置する。主軸方向N―110°―E、全長105㎝、最大幅80㎝、焚口部幅60㎝。 **時期** 覆土や出土遺物から、10世紀前半と考えられる。 **遺物** 竈から須恵器高台付埦(2)、床直で須恵器高台付埦(1)が出土。覆土からは土師器甕、須恵器坏・高台付埦・甕、瓦などの破片が大量に出土している。

H―7号住居跡〔第14図、図版3・4〕

位置 X165、Y91・92グリッド **重複** W―1号溝跡を切る。 **形状** 隅丸長方形を呈する。 **規模** 東西2.96m、南北3.48m、現壁高28㎝。 **面積** 10.14㎡ **主軸方向** N―93°―E **床面** 平坦で堅緻。床面標高は121.05mを測る。 **柱穴** 検出されなかった。 **貯蔵穴** 検出されなかった。 **竈** 東壁の南寄りに位置する。主軸方向N―89°―Eで、全長82㎝、最大幅66㎝、焚口部幅50㎝。 **時期** 覆土や出土遺物から、9世紀前半と考えられる。 **遺物** 竈から墨書のある須恵器坏(1)の完形品、床直で須恵器高台付埦(4)、覆土から墨書のある須恵器坏(2)や須恵器高台付埦(3)が出土。その他には土師器甕・台付甕、須恵器坏・高台付埦・甕、灰釉陶器、瓦などの破片が大量に出土している。

H―8号住居跡 欠番

H―9号住居跡 欠番

H―10号住居跡〔第14図、図版4〕

位置 X159・160、Y90・91グリッド **重複** 南側でH―12号住居を切る。 **形状** 正方形を呈する。 **規模** 東西2.52m、南北2.52m、現壁高8㎝。 **面積** 6.42㎡ **主軸方向** N―98°―E **床面** 平坦で堅緻。

床面標高は121.55mを測る。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**竈**　東壁のやや北寄りに位置する。主軸方向N―93°―Eで、全長78㎝、最大幅36㎝、焚口部幅21㎝。左右の袖石が残存し、支脚石や崩れていたが天井石も検出した。　**時期**　覆土や出土遺物から、10世紀前半と考えられる。　**遺物**　竈から須恵器高台付埦（1）・羽釜（2）が出土している。その他、住居内から須恵器高台付埦や竈から土師器坏・甕、須恵器高台付埦などの破片が出土しているが、量は少ない。

H―11号住居跡〔第15図、図版４・５〕

位置　X156・157、Y88・89グリッド　**重複**　H―２号住居跡・W―５号溝跡を切る。　**形状**　不明。　**規模**　東西2.70m、南北[2.20]m、現壁高24㎝。　**面積**　[4.81]㎡　**主軸方向**　（N―94°―E）　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は121.56mを測る。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**竈**　東壁の南寄りに位置するとおもわれる。主軸方向N―92°―E、全長104㎝、最大幅75㎝、焚口部幅39㎝で、右袖には截石、左袖には安山岩を配置し、瓦片や須恵器高台付埦も竈構築材として使用している。　**時期**　覆土や出土遺物から、10世紀前半と考えられる。　**遺物**　竈から須恵器足高高台埦（4）・坏（1）・高台付埦（2）（3）、床付近から灰釉陶器高台付埦（5）が出土している。その他、土師器坏（輪積み痕が残る）・甕・台付甕、須恵器羽釜、瓦などの破片を大量に出土している。

H―12号住居跡〔第15図、図版５〕

位置　X159・160、Y91グリッド　**重複**　H―10号住居跡に切られ、南側は調査区域外。規模は現存値をあげる。　**形状**　不明。　**規模**　東西［3.25］m、南北［1.70］m、現壁高15㎝。　**面積**　[3.81]㎡　**主軸方向**　（N―０°―E）　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は121.46mを測る。　**柱穴・貯蔵穴**　不明。　**竈**　北壁の中央付近に位置する。主軸方向N―２°―W、全長［88］㎝、最大幅85㎝、焚口部幅58㎝で、両袖に截石を設置する。　**時期**　重複する住居の新旧関係や主軸方向、規模から７世紀前半と考えられる。　**遺物**　竈から土師器坏片（1）が出土し、覆土からは土師器坏・甕の破片が出土しているが量は僅かである。

H―13号住居跡〔第16図、図版５〕

位置　X148・149、Y85・86グリッド　**重複**　H―26・31を切り、南側は調査区域外。　**形状**　不明。　**規模**　東西2.60m、南北[1.90]m、現壁高20㎝。　**面積**　[3.89]㎡　**主軸方向**　（N―110°―E）　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は121.75mを測る。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**竈**　不明。　**時期**　覆土や出土遺物から、９世紀中頃と考えられる。　**遺物**　床直で土師器甕（1）が出土している。覆土から土師器坏、須恵器坏・高台付埦・甕などの破片を出土しているが、土師器の割合が高い。

H―14号住居跡〔第16図、図版５・６〕

位置　X148、Y84・85グリッド　**重複**　D―33に切られる。　**形状**　隅丸方形を呈する。　**規模**　東西2.78m、南北2.88m、現壁高12㎝。　**面積**　7.45㎡　**主軸方向**　N―95°―E　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は121.76mを測る。　**柱穴・貯蔵穴**　検出されなかった。　**竈**　東壁のやや北寄りに位置する。主軸方向N―89°―E、全長60㎝、最大幅65㎝、焚口部幅45㎝。　**時期**　覆土や出土遺物から、８世紀中頃と考えられる。　**遺物**　床直で須恵器蓋（2）の完形品・坏（1）、覆土からも須恵器蓋（3）が出土している。他には土師器甕、須恵器坏などの破片が出土している。

Ｈ―15号住居跡〔第16図、図版６〕

位置　Ｘ146・147、Ｙ81・82グリッド　**重複**　北側が調査区域外に入る。規模は現存値をあげる。　**形状**　不明。　**規模**　東西[1.94]ｍ、南北4.42ｍ、現壁高40㎝。　**面積**　[7.95]㎡　**主軸方向**　（Ｎ―53°―Ｅ）　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は121.56ｍを測る。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**竈**　検出されなかった。　**時期**　覆土や出土遺物から、８世紀前半と考えられる。　**遺物**　床直や床付近から土師器坏（1）・甕（3）が、覆土から須恵器高台付埦（2）が出土している。また土師器坏・長胴甕、須恵器坏・甕などの破片が出土しているが、土師器が主体である。

Ｈ―16号住居跡　欠番

Ｈ―17号住居跡〔第17図、図版６〕

位置　Ｘ145、Ｙ80グリッド　**重複**　南側の一部が検出されたが、住居のほとんどが調査区域外に入る。規模は現存値をあげる。　**形状**　不明。　**規模**　東西[0.45]ｍ、南北[2.88]ｍ、現壁高20㎝。　**面積**　[0.91]㎡　**主軸方向**　（Ｎ―130°―Ｅ）　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は121.72ｍを測る。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**竈**　西壁の北寄りに位置する。主軸方向Ｎ―127°―Ｗ、全長[45]㎝、最大幅75㎝、焚口部幅29㎝で、褐色粘土を竈構築材として使用し、支脚石を置く。　**時期**　覆土や出土遺物から、６世紀後半と考えられる。　**遺物**　床付近から土師器坏（1）、覆土から土師器坏（2）の完形品と長胴甕（3）が出土している。

Ｈ―18号住居跡〔第17図、図版６・７〕

位置　Ｘ142・143、Ｙ79グリッド　**重複**　北側でＨ―19を切る。　**形状**　隅丸長方形を呈す。　**規模**　東西［3.58］ｍ、南北2.74ｍ、現壁高22㎝。　**面積**　[6.51]㎡　**主軸方向**　Ｎ―80°―Ｅ　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は121.98ｍを測る。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**竈**　東壁の中央付近に位置する。主軸方向Ｎ―87°―Ｅ、全長130㎝、最大幅80㎝、焚口部幅59㎝で、両袖に截石を使用。　**時期**　覆土や出土遺物から、10世紀前半と考えられる。　**遺物**　竈内から土師器甕（2）、床直で土師器坏（5）の完形品、床付近から須恵器坏（3）の完形品・把手付壺（4）、覆土から土師器坏（1）の完形品が出土している。また土師器や須恵器の破片が出土している。

Ｈ―19号住居跡〔第18図、図版７〕

位置　Ｘ142・143・144、Ｙ77・78・79グリッド　**重複**　東側でＨ―20に、南側でＨ―18・Ｄ―27に、西側でＨ―33に切られる。北側は調査区域外に入る。規模は現存値をあげる。　**形状**　不明。　**規模**　東西[5.12]ｍ、南北6.88ｍ、現壁高52㎝。　**面積**　[31.29]㎡　**主軸方向**　（Ｎ―50°―Ｅ）　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は121.63ｍを測る。　**柱穴**　３基検出した。Ｐ１は長径[48]㎝、短径[13]㎝、深さ47㎝の円形。Ｐ２は長径54㎝、短径49㎝、深さ64㎝の楕円形。Ｐ３は長径[54]㎝、短径[19]㎝、深さ14㎝の楕円形。　**貯蔵穴**　不明。　**竈**　不明。　**時期**　覆土や出土遺物から、７世紀前半と考えられる。　**遺物**　床付近から土師器坏（1）、覆土から土師器片が出土しているが、量は少ない。

Ｈ―20号住居跡〔第18図、図版７〕

位置　Ｘ143・144、Ｙ78・79グリッド　**重複**　西側でＨ―19を切る。　**形状**　不明。　**規模**　東西[1.55]ｍ、南北[3.60]ｍ、現壁高25㎝。　**面積**　[3.60]㎡　**主軸方向**　不明。　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は122.77

mを測る。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**竈**　不明。　**時期**　覆土や出土遺物から、古墳時代と考えられる。　**遺物**　覆土から土師器坏片・長胴甕片、床面から菰編石（11個）が出土しているが、資料として掲載し得る個体はなかった。

Ｈ―21号住居跡　欠番

Ｈ―22号住居跡〔第19図、図版７〕

位置　Ｘ137、Ｙ75･76グリッド　**重複**　南西側でＨ―23に切られる。規模は現存値をあげる。　**形状**　不明。　**規模**　東西2.58m、南北[0.82]m、現壁高７㎝。　**面積**　[1.93]㎡　**主軸方向**　（Ｎ―110°―Ｅ）　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は122.26mを測る。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**竈**　不明。　**時期**　覆土や出土遺物から、10世紀代と考えられる。　**遺物**　床直で須恵器羽釜（1）を出土し、ほかに土師器の小片、須恵器坏片が少量出土しているのみである。

Ｈ―23号住居跡〔第19図、図版７・８〕

位置　Ｘ136・137、Ｙ75・76グリッド　**重複**　北側でＨ―22を切る。　**形状**　隅丸方形を呈する。　**規模**　東西2.55m、南北2.28m、現壁高13㎝。　**面積**　5.61㎡　**主軸方向**　Ｎ―62°―Ｅ　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は122.17mを測る。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**竈**　東壁のやや南寄りに位置する。主軸方向Ｎ―64°―Ｅ、全長70㎝、最大幅63㎝、焚口部幅25㎝。両袖には褐色粘土を使用。　**時期**　覆土や出土遺物から、６世紀前半と考えられる。　**遺物**　竈から土師器甕(3)、右袖脇から土師器甕(4)、左袖付近から土師器坏（1、焼成後底部穿孔）(2)、竈前から完形の土師器坏（5)、住居中央付近から土師器甕（6）が出土している。

Ｈ―24号住居跡〔第19図、図版８〕

位置　Ｘ135･136、Ｙ75グリッド　**重複**　単独で占地するが北側は調査区域外。　**形状**　不明。　**規模**　東西3.24m、南北[2.80]、現壁高25㎝。　**面積**　[8.10]㎡　**主軸方向**　（Ｎ―87°―Ｅ）　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は122.18mを測る。　**柱穴・貯蔵穴**　検出されなかった。　**竈**　東壁に位置する。主軸方向Ｎ―93°―Ｅ、全長93㎝、最大幅70㎝、焚口部幅50㎝。燃焼部の右壁に瓦を使用している。　**時期**　覆土や出土遺物から、９世紀中頃と考えられる。　**遺物**　瓦は、竈構築材として使用している平瓦のほかに、竈の覆土から出土している軒平瓦（3）がある。住居からは、床直で須恵器高台付埦（1）･皿（2)、覆土から土師器坏･甕、須恵器坏などの破片が出土している。

Ｈ―25号住居跡〔第20図、図版８・９〕

位置　Ｘ134・135、Ｙ75・76グリッド　**重複**　単独で占地するが南側は調査区域外。　**形状**　不明。　**規模**　東西[4.10]m、南北3.64m、現壁高28㎝。　**面積**　[9.35]㎡　**長軸方向**　（Ｎ―55°―Ｅ）　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は122.22mを測る。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　南東隅に検出。長軸66㎝、短軸60㎝の隅丸方形を呈する。　**竈**　東壁に位置する。主軸方向Ｎ―60°―Ｅ、全長123㎝、最大幅71㎝、焚口部幅32㎝で、両袖に粘土を使用し、支脚石を検出。　**時期**　覆土や出土遺物から、６世紀前半と考えられる。　**遺物**　いずれも土師器で、床直で坏（1)、鉢（8)、潰れた状態の甑（9)、竈左袖脇から坏（2）（3）（4）（5）（6）が重なった状態で、また貯蔵穴から壺形土器（7）が出土し、覆土からは長胴甕片等がある。

Ｈ―26号住居跡〔第16図、図版５〕

位置　Ｘ148、Ｙ85グリッド　**重複**　Ｈ―13に切られ、南側は調査区域外。規模は現存値をあげる。　**形状**　不明。　**規模**　東西[1.05]ｍ、南北[0.60]ｍ、現壁高27㎝。　**面積**　[0.33]㎡　**主軸方向**　不明。　**床面**　平坦で、床面標高は121.80ｍを測る。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵穴**　不明。　**竈**　不明。　**時期**　遺構の切り合いから、古墳時代後期と推定される。　**遺物**　出土した遺物は、石製紡錘車（1）の未製品のみである。

Ｈ―27号住居跡〔第20図、図版９〕

位置　Ｘ134、Ｙ74・75グリッド　**重複**　Ｈ―28を切るが、住居の大半は調査区域外。　**形状**　不明。　**規模**　東西[3.20]ｍ、南北[2.88]ｍ、現壁高35㎝。　**面積**　[4.93]㎡　**主軸方向**　不明。　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は122.15ｍを測る。　**柱穴・貯蔵穴**　検出されなかった。　**竈**　不明。　**時期**　覆土や出土遺物から、６世紀後半と考えられる。　**遺物**　床直で土師器坏（1）と菰編石を４点出土。覆土や床付近から土師器坏・甕片と若干の須恵器片が出土している。

Ｈ―28号住居跡〔第20図、図版９〕

位置　Ｘ133・134、Ｙ74・75グリッド　**重複**　Ｈ―27に切られるが、住居の大半は調査区域外。　**形状**　不明。　**規模**　東西[2.25]ｍ、南北4.80ｍ、現壁高50㎝。　**面積**　[8.62]㎡　**主軸方向**　不明。　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は122.05ｍを測る。　**柱穴**　１基検出。規模は径39～40㎝の円形を呈する。　**貯蔵穴**　検出されなかった。　**竈**　検出されなかった。　**時期**　覆土や出土遺物から、６世紀後半と考えられる。　**遺物**　床直で土師器坏（1）と菰編石、覆土から土師器甕片（2）、須恵器甕片などが出土している。

Ｈ―29号住居跡〔第21図、図版９〕

位置　Ｘ132、Ｙ74・75グリッド　**重複**　単独で占地するが、北側の一部は調査区域外。　**形状**　隅丸長方形を呈する。　**規模**　東西3.15ｍ、南北2.52ｍ、現壁高20㎝。竪穴状遺構の可能性もあるが、一応住居として扱う。　**面積**　[7.20]㎡　**主軸方向**　Ｎ―53°―Ｅ　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は122.36ｍを測る。　**柱穴・貯蔵穴**　検出しなかった。　**竈**　不明。　**時期**　覆土や出土遺物から、６世紀後半と考えられる。　**遺物**　床直で土師器坏（2）・甕（6）・甑（4）、床付近から土師器坏（1）（5）、覆土から土師器甕（3）を出土。須恵器坏・蓋・甕の破片もみられたが、いずれも小片である。

Ｈ―30号住居跡〔第21図、図版５〕

位置　Ｘ149・150、Ｙ85・86グリッド　**重複**　Ｈ―31を切る。Ｈ―32とも重複するが、攪乱があるため、詳細は不明。規模は現存値をあげる。　**形状**　不明。　**規模**　東西3.64ｍ、南北[2.80]ｍ、現壁高20㎝。　**面積**　[13.20]㎡　**主軸方向**　（Ｎ―95°―Ｅ）　**床面**　堅緻で、床面標高は121.65ｍを測る。　**柱穴・貯蔵穴・竈**　不明。　**時期**　覆土や出土遺物から、９世紀前半と考えられる。　**遺物**　床直で瓦（2）、覆土から須恵器高台付埦（1）を出土。その他に土師器甕片や須恵器甕片などがみられるが、須恵器が主体である。

Ｈ―31号住居跡〔第21図、図版５〕

位置　Ｘ149、Ｙ85・86グリッド　**重複**　西側をＨ―13に切られ、東側ではＨ―30に切られる。規模は現存値をあげる。　**形状**　不明。　**規模**　東西[3.00]ｍ、南北[1.00]ｍ、現壁高17㎝。　**面積**　[11.12]㎡　**主軸方向**　（Ｎ―82°―Ｅ）　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は121.74ｍを測る。　**柱穴**　検出されなかった。　**貯蔵**

穴　検出されなかった。　**竈**　検出されなかった。　**時期**　不明。　**遺物**　床付近から須恵器高台付埦（1）の小片を出土している。

Ｈ―32号住居跡〔第21図、図版５・９〕

位置　Ｘ149・150、Ｙ86グリッド　**重複**　Ｈ―30・31、Ｄ―34土坑と重複し、南側では調査区域外に入る。**形状**　不明。　**規模**　不明。現壁高30㎝。　**面積**　不明。　**主軸方向**　不明。　**床面**　不明。竈焚口部付近で標高は121.80ｍを測る。　**柱穴**　不明。　**貯蔵穴**　不明。　**竈**　攪乱下から竈を検出し、東壁に位置する。主軸方向Ｎ―106°―Ｅ、全長[56]㎝、最大幅[45]㎝、焚口部幅[19]㎝。　**時期**　出土遺物から、９世紀後半と考えられる。　**遺物**　竈から須恵器高台付埦（1）を出土している。

Ｈ―33号住居跡〔第21図、図版10〕

位置　Ｘ141・142、Ｙ77・78グリッド　**重複**　Ｈ―19・Ｄ―27より新しい。　**形状**　隅丸長方形を呈する。**規模**　東西4.06ｍ、南北3.32ｍ、現壁高35㎝。　**面積**　13.41㎡　**主軸方向**　Ｎ―80°―Ｅ　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は121.90ｍを測る。　**柱穴・貯蔵穴**　検出されなかった。　**竈**　東壁のやや北寄りに位置する。主軸方向Ｎ―81°―Ｅ、全長104㎝、最大幅90㎝、焚口部幅49㎝。　**時期**　覆土や出土遺物から、８世紀後半と考えられる。　**遺物**　床直で須恵器蓋（1）・坏（2）、覆土から軒丸瓦片（3）鉄製品の釘（4）・刀子（5）が出土している。他に土師器では丸底の坏・「く」字状口縁の甕、須恵器坏・高台付埦・蓋でかえりのあるものとないもの・甕、瓦などの破片がみられる。

Ｈ―34号住居跡〔第22図、図版10〕

位置　Ｘ139、Ｙ76・77グリッド　**重複**　なし。　**形状**　隅丸長方形を呈する。　**規模**　東西2.86ｍ、南北3.32ｍ、現壁高０㎝。　**面積**　9.74㎡　**主軸方向**　Ｎ―102°―Ｅ　**床面**　平坦。床面標高は122.21ｍを測る。**柱穴・貯蔵穴**　検出されなかった。　**竈**　東壁のやや南寄りに位置する。主軸方向Ｎ―102°―Ｅ、全長75㎝、最大幅105㎝、焚口部幅45㎝。竈構築時、袖石として凝灰質砂岩の截石を使用し、天井石を載せる。壁材として粘土を使用している。　**時期**　出土遺物から、９世紀前半と考えられる。　**遺物**　竈から土師器「コ」字状口縁の甕（1）（2）が出土したが、床面からは資料として掲載し得る個体はなかった。

Ｈ―35号住居跡〔第22図、図版10〕

位置　Ｘ140・141、Ｙ77・78グリッド　**重複**　Ｈ―37と重複し、Ｈ―35が新しい。規模は現存値をあげる。**形状**　不明。　**規模**　東西[4.26]ｍ、南北[1.62]ｍ、現壁高18㎝。　**面積**　[11.73]㎡　**主軸方向**　（Ｎ―64°―Ｅ）　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は122.11ｍを測る。　**柱穴・貯蔵穴・竈**　検出されなかった。　**時期**　覆土や出土遺物から、８世紀後半と考えられる。　**遺物**　床直で土師器甕（1）が潰れた状態で出土した。

Ｈ―36号住居跡〔第22図、図版11〕

位置　Ｘ137・138、Ｙ75・76　グリッド北壁から竈の一部を検出したものである。　**重複**　なし。　**形状・規模・主軸方向・床面・柱穴・貯蔵穴**　不明。　**竈**　南向きに検出した。主軸方向（Ｎ―180°―Ｅ）、全長[53]㎝、最大幅[53]㎝、焚口部幅[30]㎝。　**時期**　不明。　**遺物**　出土しなかった。

Ｈ―37号住居跡〔第22図、図版10〕

位置　Ｘ141・142、Ｙ77グリッド　**重複**　Ｈ―35に切られる。　**形状**　不明。　**規模**　東西[3.50]ｍ、南

北[3.30]m、現壁高14㎝。　**面積**　[1.70]㎡　**主軸方向**　不明。　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は122.11mを測る。　**柱穴・貯蔵穴**　検出されなかった。　**竈**　検出されなかった。　**時期**　覆土や出土遺物から、8世紀中頃と考えられる。　**遺物**　床直で土師器坏（1）（2）、床付近から須恵器蓋（3）が出土。

Ｈ―38号住居跡　欠番

Ｈ―39号住居跡〔第23・24図、図版11〕

位置　X124・125、Y71グリッド　**重複**　H―40に切られる。南側が調査区域外のため、規模は現存値をあげる。　**形状**　不明。　**規模**　東西[2.20]m、南北[4.80]m、現壁高29㎝。　**面積**　[5.37]㎡　**主軸方向**（N―24°―W）　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は122.60mを測る。　**柱穴**　1基検出され、径42～48㎝の楕円形を呈する。　**貯蔵穴**（Ｐ５）　長径48㎝、短径45㎝、深さ70㎝の方形。　**竈**　北壁に位置する。主軸方向（N―25°―W）、全長[138]㎝、最大幅[49]㎝、焚口部幅不明である。竈の構築材として粘土を使用する。　**時期**　覆土や出土遺物から、6世紀後半と考えられる。　**遺物**　すべて土師器である。貯蔵穴から坏（1）、覆土から甕片などが出土している。

Ｈ―40号住居跡〔第23・24図、図版11〕

位置　X124・125、Y70・71グリッド　**重複**　H―39を切り、H―41に切られている。　**形状**　方形を呈する。　**規模**　東西5.04m、南北4.38m、現壁高22㎝。　**面積**　22.93㎡　**主軸方向**　N―54°―E　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は122.66mを測る。　**柱穴**　4基検出した。Ｐ１は長径38㎝、短径35㎝、深さ38㎝の円形。Ｐ２は長径43㎝、短径32㎝、深さ57㎝の楕円形。Ｐ３は長径35㎝、短径31㎝、深さ31㎝の円形。Ｐ４は長径44㎝、短径41㎝、深さ41㎝の円形。　**貯蔵穴**（Ｐ５）　長軸43㎝、短軸31㎝、深さ53㎝の長方形。　**竈**　東壁の中央付近に位置する。主軸方向N―47°―E、全長85㎝、最大幅82㎝、焚口部幅31㎝。　**時期**　覆土や出土遺物から、6世紀後半と考えられる。　**遺物**　竈からの遺物の出土はない。床直で土師器の小型甕（2）、Ｐ４から土師器坏（1）などが出土している。覆土から須恵器高坏の破片が出土しているが、小さい。

Ｈ―41号住居跡〔第24図、図版11〕

位置　X126・127、Y70・71グリッド　**重複**　H―40を切る。　**形状**　北側が調査区域外のため不明。　**規模**　東西[2.80]m、南北4.10m、現壁高22㎝。　**面積**　[8.34]㎡　**主軸方向**　（N―61°―E）　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は122.51mを測る。　**柱穴・貯蔵穴**　検出しなかった。　**竈**　検出されていない。　**時期**　覆土や出土遺物から、7世紀後半と考えられる。　**遺物**　床直で土師器坏（1）、須恵器蓋（2）、床付近から土師器坏（3）、覆土から須恵器蓋（4）、瓦片が出土している。

Ｈ―42号住居跡〔第25図、図版11〕

位置　X125・126、Y71・72グリッド　**重複**　単独で占地するが、南側は調査区域外。　**形状**　不明。　**規模**　東西3.88m、南北[1.70]m、現壁高0㎝。　**面積**　[4.30]㎡　**主軸方向**　（N―110°―E）　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は122.90mを測る。　**柱穴・貯蔵穴・竈**　不明。　**時期**　覆土と出土遺物から、10世紀代と考えられる。　**遺物**　床付近から須恵器羽釜片（1）と瓦片が出土している。

Ｈ―43号住居跡〔第25図、図版12〕

位置　X120・121・122、Y67・68グリッド　**重複**　H―44・45に切られる。　**形状**　不明。　**規模**　東西

［4.80］m、南北4.70m、現壁高18㎝。　**面積**　［16.61］㎡　**主軸方向**　N―70°―E　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.10mを測る。　**柱穴**　3基検出した。P1は長径52㎝、短径39㎝、深さ52㎝の楕円形。P2は長径33㎝、短径32㎝、深さ57㎝の円形。P3は長径46㎝、短径45㎝、深さ64㎝の円形。　**貯蔵穴**　長軸58㎝、短軸48㎝の隅丸長方形。　**竈**　東壁の南寄りに位置する。主軸方向N―65°―E、全長130㎝、最大幅88㎝、焚口部幅33㎝。　**時期**　覆土や出土遺物から、6世紀前半と考えられる。　**遺物**　床直や床付近から土師器坏（5）（6）（7）・甕（2）・甑（4）、貯蔵穴から土師器坏（1）・小型甕（9）・壺（8）・鉢（3）が出土。須恵器は少なく、高坏の脚部と甕の小片が出土している。

H―44号住居跡〔第26図、図版12・13〕

位置　X121、Y68グリッド　**重複**　H―43を切り、南側は調査区域外。規模は実測値をあげる。　**形状**　不明。　**規模**　東西［0.96］m、南北［2.50］m、現壁高25㎝。　**面積**　［1.66］㎡　**主軸方向**　（N―66°―E）　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.03mを測る。　**柱穴・貯蔵穴**　検出されなかった。　**竈**　東壁に位置する。主軸方向N―61°―E、全長87㎝、最大幅63㎝、焚口部幅40㎝。　**時期**　覆土や出土遺物から、8世紀と考えられる。　**遺物**　土師器坏・長胴甕の小片を出土してのみである。

H―45号住居跡〔第26図、図版13〕

位置　X121・122、Y67グリッド　**重複**　H―43・46を切り、北側は調査区域外。規模は現存値をあげる。　**形状**　不明。　**規模**　東西3.06m、南北［3.68］m、現壁高19㎝。　**面積**　［9.27］㎡　**主軸方向**　N―102°―E　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.00mを測る。　**土坑**　床面中央付近に床下土坑を検出。規模は長径114㎝、短径80㎝、深さ21㎝の楕円形。南壁に接するように土坑を検出。規模は長径82㎝、短径59㎝、深さ42㎝の楕円形。　**竈**　東壁の南寄りに位置する。主軸方向N―105°―E、全長68㎝、最大幅38㎝、焚口部幅23㎝。　**時期**　覆土や出土遺物から、11世紀代と考えられる。　**遺物**　竈からの出土遺物はない。床付近から須恵器坏（3）、覆土から須恵器高台付椀（2）、D―1から須恵器坏（1）が出土している。その他土師器坏・甕の破片や瓦片がある。

H―46号住居跡〔第27図、図版13〕

位置　X121、Y66・67グリッド　**重複**　H―45・47に切られるが、遺構の深さがあるため、遺存状態はよい。北側は調査区域外。　**形状**　不明。　規模　東西［2.55］m、南北3.45m、現壁高36㎝。　**面積**　［6.19］㎡　**主軸方向**　（N―56°―E）　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は122.83mを測る。　**柱穴・貯蔵穴**　検出されなかった。　**竈**　検出されなかった。　**時期**　覆土や出土遺物から、7世紀前半と考えられる。　**遺物**　床直で土師器坏（1）、小型の鉢（2）、覆土から土師器甕、須恵器坏、瓦などの破片が出土している。

H―47号住居跡〔第27図、図版13〕

位置　X120・121、Y66グリッド　**重複**　東側でH―46を切り、西側でH―48に切られる。北側は調査区域外。規模は現存値をあげる。　**形状**　不明。　**規模**　東西［3.93］m、南北［1.70］m、現壁高0㎝。　**面積**　［3.33］㎡　**主軸方向**　（N―120°―E）　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.12mを測る。　**柱穴・貯蔵穴・竈**　検出されなかった。　**時期**　不明。　**遺物**　須恵器模倣坏・土師器長胴甕の小片のみ出土している。資料として掲載し得る個体はなかった。

Ｈ―48号住居跡〔第27図、図版13〕

位置　Ｘ119・120、Ｙ65・66グリッド　**重複**　Ｈ―47・49を切り、Ｈ―50に切られる。北側が調査区域外のため、規模は現存値をあげる。　**形状**　不明。　**規模**　東西3.66m、南北[2.18]m、現壁高18㎝。　**面積**　[7.65]㎡　**主軸方向**　（Ｎ―134°―Ｅ）　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.04mを測る。　**柱穴・貯蔵穴・竈**　検出されなかった。　**時期**　不明。　**遺物**　土師器長胴甕・須恵器甕の小片のみ出土している。資料として掲載し得る個体はなかった。

Ｈ―49号住居跡〔第28図、図版13〕

位置　Ｘ119・120、Ｙ65・66グリッド　**重複**　東側でＨ―48に、南側でＨ―50に切られる。北側が調査区域外。規模は現存値をあげる。　**形状**　不明。　**規模**　東西[1.90]m、南北4.30m、現壁高23㎝。　**面積**　[8.20]㎡　**主軸方向**　（Ｎ―136°―Ｅ）　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は122.87mを測る。　**柱穴・貯蔵穴・竈**　不明。　**時期**　不明。　**遺物**　土師器甕片、須恵器の小片のみ出土している。資料として掲載し得る個体はなかった。

Ｈ―50号住居跡〔第28図、図版14〕

位置　Ｘ119・120、Ｙ66・67グリッド　**重複**　Ｈ―48・49を切る。　**形状**　隅丸長方形を呈する。　**規模**　東西2.94m、南北4.38m、現壁高30㎝。　**面積**　[11.97]㎡　**主軸方向**　Ｎ―90°―Ｅ　**床面**　平坦で堅緻。床面標高は123.00mを測る。　**柱穴・貯蔵穴**　検出されなかった。　**竈**　東壁の南寄りに位置する。主軸方向Ｎ―86°―Ｅ、全長70㎝、最大幅55㎝、焚口部幅45㎝。煙道部から凝灰質砂岩の截石を検出し、竈前から焚口部天井に使用したと思われる截石も検出。　**時期**　覆土や出土遺物から、８世紀後半と考えられる。　**遺物**　床直で須恵器坏（1）・大甕（2）、瓦片（3）が出土。ほかには土師器甕、須恵器坏・高台付埦、瓦（4）などの破片が大量に出土している。須恵器が主体である。

⑵　竪穴状遺構

Ｔ―１号竪穴状遺構　欠番

Ｔ―２号竪穴状遺構〔第29図、図版14〕

位置　Ｘ160・161、Ｙ90・91グリッド　**重複**　重複はないが、南端が調査区域外。　**形状**　楕円形を呈する。　**規模**　東西5.47m、南北4.41m、現壁高66㎝。　**面積**　[17.47]㎡　**床面**　平坦で、床面標高は120.90mを測る。　**柱穴・土坑**　検出されなかった。　**時期**　覆土や出土遺物から、７世紀と考えられる。　**遺物**　土師器坏と須恵器大甕・体部に一条の沈線が横走する鉢（1）などの破片を少量出土している。資料となり得る個体は少ない。

Ｔ―３号竪穴状遺構〔第29図、図版14〕

位置　Ｘ137・138、Ｙ76・77グリッド　**重複**　単独で占地する。　**形状**　隅丸長方形。　**規模**　東西2.75m、南北3.76m、現壁高８㎝。　**面積**　9.34㎡　**主軸方向**　Ｎ―32°―Ｅ　**床面**　平坦で、床面標高は122.28mを測る。　**柱穴・土坑**　検出されなかった。　**時期**　出土遺物や周辺住居跡の主軸方向から、７世紀代と考えられる。　**遺物**　土師器坏（1）などの破片を少量出土している。

⑶ 溝　　跡

W－１号溝〔第30図、図版14〕

Ｘ164～168、Ｙ92･93グリッド内に位置する。東西に走行し、９世紀代のＨ－７号住居跡に切られている。確認された全長は17.20m、上幅0.70～1.20m、下幅0.50～0.55m、確認面からの深さ0.15～0.52mを測る。東側底面の標高は121.07m、西側は120.81mで東から西へ下がる。断面形状は皿状ないしＵ字状である。遺物は、土師器坏（3）・甕、須恵器坏・高台付埦、瓦（1）、砥石（2）などを大量に出土し、須恵器が主体である。

W－２号溝　欠番

W－３号溝〔第30図、図版14〕

Ｘ159、Ｙ90･91グリッドに位置する。南北に走行し、重複は見られない。確認された全長は5.70m、上幅0.55～0.80mで、南壁付近で若干の広がりがある。下幅は0.20～0.38m。確認面からの深さは0.37～0.47mで、断面形状はＵ字状である。北側底面の標高は121.24m、南側は121.16mで、８㎝の高低差で北から南に向かって下がる。覆土にはAs-B軽石を含み、住居群より新しいことがわかる。遺物は、土師器、須恵器の小片のみ出土。

W－４号溝〔第31図、図版14〕

Ｘ156・157、Ｙ89・90グリッドに位置する。東西に走行し、W－５号溝跡と重複し、W－４が新しい。断面形状は皿形で、確認された全長は1.60m、上幅2.14m、下幅0.34～0.43m、確認面からの深さ0.43mを測る。西側底部の標高は121.43m、東側は121.39mで、東に向かって下がる。遺物は流れ込みと思われる土師器や須恵器坏（1）片などを出土している。時期は不明。

W－５号溝〔第31図、図版14・15〕

Ｘ157・158、Ｙ88・89・90グリッドに位置する。南北に走行し、重複するＨ－１・11号住居跡、W－４号溝跡より古い。本遺跡より南側の道路を隔てた元総社小見Ⅱ遺跡でも検出されている。断面形状を見ると薬研状で、確認された全長は5.72m、上幅2.85～3.35m、下幅0.30～0.50m、確認面からの深さ1.51～1.76mを測る。北側底部の標高は120.58m、南側は120.39mで、底面は平らである。北から南へ19㎝の高低差がある。遺物は、おもに上層からのもので、下層からの出土はない。土師器片、須恵器羽釜（1）片などを出土。時期は古墳時代後期と思われる。

W－６号溝〔第32図、図版15〕

Ｘ127、Ｙ72･73グリッドに位置する。南北に走行し、重複はない。平面形状は長楕円形で、断面形状は皿形である。全長は3.16m、幅0.45m、確認面からの深さ0.05～0.11mを測る。北側底部の標高は122.62m、南側は122.67mで、底面は平らである。高低差は５㎝。遺物は出土していない。時期は不明。

W－７号溝〔第32図、図版15〕

Ｘ127、Ｙ71･72グリッドに位置する。南北に走行し、重複するＤ－35号土坑より古い。断面形状は皿形である。確認された全長は4.75m、幅0.54m、確認面からの深さ0.09～0.11mを測る。北側底部の標高は122.59

m、南側は122.65mで、底面は平らである。高低差は６㎝で、北側に向かって下がる。遺物は出土していない。時期は不明。

⑷　土坑・ピット〔第16・18・21・32～36図、図版５・15・16〕

土坑は35基検出した。そのうち遺物を出土したものはＤ－１・２・３・４・５・６・７・９・12・13・14・16・18・20・22・26・27・28・33・34・36・37の22基である。時期別に分類すると、①覆土の様相や重複の関係から住居跡と同時期と考えられるものは、Ｄ－１・４・５・７・９・11・12・13・15・33の10基である。Ｄ－７は、覆土に締まりは見られないが、②に分類されるＤ－16に切られることから①に分類した。②覆土にAs-B軽石を含むものや土坑の形態から中世と考えられるものは、Ｄ－10・14・16・24・25の５基である。Ｄ－14・24は、その形態から土坑墓の可能性が高い。③時期の特定は難しいが、覆土に締まりが無く新しい時期と考えられるものは、Ｄ－２・３・６・８・18・20・28・29・30・31・32・34・35・36の14基である。④覆土の観察ができず、時期不明のものは、Ｄ－21・22・23・26・27・37の６基である。なお、各土坑の計測値は第４表牛池川調査区の土坑計測表にまとめた。

調査区全体でピットは37基検出し、東側のＸ147～155、Ｙ84～89グリッドと中央のＸ143～145、Ｙ80～81・Ｘ132～133、Ｙ75グリッドでピット群をなしている状況がみられた。平面形状は円形、楕円形で上端が14×17㎝～60×63㎝、深さ５～52㎝を測る。遺物の出土はなく、時期の特定できるものは少ない。また掘立柱建物跡を組めるものはなかった。なお、各柱穴の計測値は第５表牛池川調査区のピット計測表にまとめて報告する。

⑸　土 坑 墓

DB－１号土坑墓〔第32図、図版16〕

位置　Ｘ145、Ｙ82グリッド　**重複**　なし。　**形状**　平面形状は楕円形を呈し、断面形状は浅めの皿状である。　**規模**　長径0.51m、短径0.32m、深さ12㎝。　**主軸方向**　Ｎ－56°－Ｗ　**底面**　平坦で、標高は122.12mを測る。　**覆土**　As-B軽石を含む。　**時期**　覆土や出土遺物から、中世と考えられる。　**遺物**　人骨（頭部）のみの出土で、他の遺物はない。

DB－２号土坑墓〔第32図、図版16〕

位置　Ｘ147、Ｙ82グリッド　**重複**　なし。　**形状**　平面形状は楕円形を呈し、断面形状は浅めの皿状である。　**規模**　長径0.73m、短径0.48m、深さ11㎝。　**主軸方向**　Ｎ－４°－Ｅ　**底面**　平坦で、標高は121.85mを測る。　**覆土**　As-B軽石を含む。　**時期**　覆土や出土遺物から、中世と考えられる。　**遺物**　人骨とともに古銭（洪武通宝ほか）６枚の出土で、他の遺物はない。

⑹　遺構外の遺物

遺構確認に際し、縄文時代前期に属する諸磯式土器片数点と、弥生時代後期に属する樽式土器の壺の口縁部片１点が出土したが、遺構は検出していない。

2　西通線調査区の遺構と遺物

⑴　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡〔第38図、図版17〕

位置　Ｘ81･82、Ｙ191･192グリッド　**重複**　単独で占地するが東側は調査区域外。　**形状**　正方形。　**規模**　東西[4.10]ｍ、南北4.25ｍ、現壁高15㎝。　**面積**　[13.82]㎡　**主軸方向**　Ｎ－68°－Ｅ　**床面**　平坦で堅緻。　**柱穴・貯蔵穴・竈**　検出されなかった。　**時期**　不明。　**遺物**　掲載できるような遺物は出土していないが、土師・須恵器の甕の小片を数点出土した。

Ｈ－２号住居跡〔第38図、図版17〕

位置　Ｘ82、Ｙ192・193グリッド　**重複**　ピット群に切られ、東側は調査区域外。　**形状**　不明。　**規模**　東西[2.62]ｍ、南北[3.05]ｍ、現壁高０～10㎝。　**面積**　[7.98]㎡　**主軸方向**　Ｎ－95°－Ｅ　**床面**　平坦で堅緻。　**柱穴・貯蔵穴・竈**　検出されなかった。　**時期**　不明。　**遺物**　掲載できるような遺物は出土していないが、須恵器の甕の小片を数点出土した。

⑵　溝　　跡

Ｗ－１号溝跡〔第39図、図版17〕

Ｘ81、Ｙ186～Ｘ81・82、Ｙ189・190グリッドに位置する。北から南へ走行し、ほぼ直角に折れ東へ走行する。規模は北から南方向では、確認された全長12.25ｍ、上幅0.69～1.21ｍ、下幅0.47～0.73ｍ、深さ0.15～0.20ｍで緩やかな皿状の掘り込みで、溝底の標高は119.89～120.01ｍで、勾配は9.8‰であった。西から東方向では、検出長5.42ｍ、上幅1.26～1.49ｍ、下幅0.40～0.52ｍ、深さ0.74～0.77ｍですり鉢状の掘り込みで、溝底の標高は119.32～119.38ｍで、勾配は11.1‰であった。道路遺構で見られるような硬化面はなかった。時期は中世以降と思われる。遺物は、掲載できるようなものは出土しなかったが、陶器や軟質陶器の破片などを出土した。

Ｗ－２号溝跡〔第41図、図版17・18〕

Ｘ81･82、Ｙ197グリッドに位置する。規模は確認された全長2.62ｍ、上幅3.30ｍ、中段2.09ｍ、下幅0.34ｍ、深さ2.02ｍ、溝底の標高は117.92ｍを測る。やや薬研状の掘り込みで東から西へ走行すると思われ、Ｗ－４・５号溝が注ぎ込む。また、底部や上層部に水が流れたようすがなく、人が歩いたような硬化面も確認されなかった。大型の自然石などいっきに埋めた様子が見られ、時期は中世以降と思われる。遺物は、掲載できるようなものは出土しなかったが、瓦の破片、陶器や軟質陶器の破片、緑泥片岩の板碑片を出土した。

Ｗ－３号溝跡〔第40図、図版18〕

Ｘ81、Ｙ193～Ｘ81、Ｙ196グリッドに位置する。検出状況が調査区西側の壁際に僅かに確認し、全容は不明であるが、調査区域外の西から走行し、本遺構の北端から南へ走行しＷ－２へ注ぎ込むと思われる。規模は確認された全長11.25ｍ、上幅[0.88～1.14]ｍ、下幅0.36～0.58ｍ、深さ0.78～1.24ｍ、溝底の標高は117.92ｍを測る。硬く締まった土層など検出せず、いっきに埋めた様子が見られる。時期は中世以降と思われる。遺物は、掲載できるようなものは出土しなかったが、須恵器、瓦などの破片が数点と軟質陶器、緑泥片岩の

板碑などの破片が出土した。

W－4号溝跡〔第41図、図版17・18〕

X82、Y195・196～X81・82、Y197グリッドに位置する。調査区東壁から南側にあるW－2へ注ぐ。規模は確認された全長6.20mで上幅1.05～1.45m、下幅0.15～0.58m、深さ0.40～0.70m、溝底の標高は、東側で118.90m、南側で118.82m、平均勾配1.3%を測る。硬く締まった土層は検出せずいっきに埋めた様子が見られる。時期は中世以降と思われる。遺物は、出土していない。

W－5号溝跡〔第41図、図版17・18〕

X82、Y197・198グリッドに位置する。調査区東壁から西側にあるW－2へ注ぐ。規模は確認された全長2.35mで上幅1.38～2.82m、中段0.60～1.10m、下幅0.21～0.40m、深さ1.25m、溝底の標高は東側で118.66～118.48mで、勾配は7.7%であった。硬く締まった土層など検出せず、大型の自然石などいっきに埋めた様子が見られる。時期は中世以降と思われる。遺物は、須恵器、瓦などの破片が数点と軟質陶器や石臼、緑泥片岩の板碑片が出土した。時期は中世以降と思われる。掲載した遺物は、石臼（1)、くぼみ石（2)、棒状石器（3)。

(3) 土坑・ピット〔第42・43図、図版18～20〕

ピットは、調査区域の南側半分に集中し、調査区内だけで231基も検出され、ピット群を形成している。形状は、ほとんど正方形や長方形で、最小が10×10cm、深さ7cmのものから最大で70×72cm、深さ85cmであった。砂岩質の硬い確認面を掘り込んでいる。また、重複して掘られているものが多い。遺物の出土はなかったが土層から中世以降と考えられる。

土坑は10基検出され、遺物の出土はD－8号土坑から内耳鍋の破片が1点のみであった。土層や遺物からD－1～10号土坑は、中世以降のものと思われる。各土坑の計測値は、第2表 土坑計測表にまとめた。

第2表　西通線調査区の土坑計測表　　［　］は現存値を表わす。

土坑番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形状	備考
D－1	X80・81，Y188	275	227	40	楕円	
D－2	X81・82，Y187	130	123	24	楕円	
D－3	X82，Y188	120	98	22	楕円	
D－4	X82，Y190	66	57	12	楕円	
D－5	X82，Y190	68	66	11	円	
D－6	X82，Y190	48	44	35	楕円	
D－7	X82，Y190	［120］	［50］	56	不明	東側が調査区外
D－8	X81，Y188・189	95	75	40	長方形	W－1を掘り込む
D－9	X81，Y194	122	62	12	楕円	W－3を掘り込む
D－10	X81，Y191・192	305	115	47	楕円	

⑷ 井 戸 跡

Ⅰ－1号井戸跡〔第44図、図版20〕

X80・81、Y190・191グリッドに位置する。形状は、確認面では楕円形で北側へ大きくオーバーハングし下部で方形の掘り込みとなる。規模は、上端の長径4.50m、短径3.03m、下端の長径4.95m、短径2.52m、方形部分の上端は1.20×1.35m、下端1.00×1.03m、確認面からの深さ2.80mを測り、いっきに埋めた様子が見られる。遺物は、瓦などの破片が数点、陶器や軟質陶器、緑泥片岩の板碑の破片が出土した。時期は中世以降と思われる。掲載した遺物はカワラケ（1)、内耳鍋（3)、くぼみ石（4）と覆土から遺構には直接関係ないと思われるが刻書のある平瓦（4)。

Ⅰ－2号井戸跡　　欠番

Ⅰ－3号井戸跡〔第45図、図版20〕

X81、Y192グリッドに位置する。形状は楕円形で、上端が広く下端が狭くなるロート状を呈している。規模は、上端の長径2.34m、短径2.08m、下端の長径1.40m、短径1.15m、確認面からの深さ2.60mを測る。遺物は、軟質陶器や緑泥片岩の板碑の破片が出土した。時期は中世以降と思われる。掲載した遺物は灯明皿（1)、板碑（2)。

Ⅵ　ま と め

（牛池川調査区）

１．住居跡の時期の分類

本遺跡では、古墳時代から奈良・平安時代にわたる遺構が検出され、多くの遺物が出土している。調査区の地形は、基本的には北西から南東に向かって次第に低くなるが、中央部は谷地にあたる。

ここでは、元総社蒼海遺跡群で用いられている時期区分に従い、律令制の繁栄、衰退の時期を考えⅠ期を律令期以前（～７世紀前半）、Ⅱ期を律令期（７世紀後半～10世紀初頭）、Ⅲ期を律令期以後（10世紀前半～）に分類し集落を中心に考えてみることにする。

Ⅰ期（～７世紀前半）

本遺跡の古墳時代の住居跡については、Ｈ―２・12・17・19・23・25・27・28・29・39・40・43・46の13軒を検出し、住居跡の軒数では全体の36.1％で、Ⅱ期の次に割合が高い。いずれも６世紀前半から７世紀前半の古墳時代後期のものであった。この時期の住居跡の規模は、Ⅱ・Ⅲ期に比べ大型の住居が建築されている。Ｈ―19・40号住居跡は大型で確認面からの掘り込みも深く、壁際には周溝が巡っている。特にＨ―19号住居跡は6.88×[5.12]ｍの規模で、確認面からの掘り込みは52㎝を測る。その他の住居跡の規模については住居の一辺が2.28ｍ～4.70ｍ、掘り込みは13～50㎝を測る。この時期の住居跡の形状は正方形や正方形に近いものが多く整美な形状を示している。竈が構築されている方向は東が多く、構築材には白色粘土や両袖端部からは凝灰質砂岩の袖石を検出している。主軸方向はＮ―54°―Ｅ～Ｎ―74°―Ｅの範囲で画一化されており、有力者を中心に集落を形成していたと考えられる。

Ⅱ期（７世紀後半～10世紀初頭）

Ｈ―１・７・13・14・15・24・30・32・33・34・35・37・41・50の14軒検出した。奈良時代の住居跡の形状は、確認できたものでは正方形や長方形で、規模は2.78×2.88ｍ（Ｈ―14）等であった。平安時代の規模は最小2.86×3.32ｍ（Ｈ―34）、最大2.94×4.34ｍ（Ｈ―50）であった。古墳時代と比較して徐々に小型化し、確認面からの掘り込みも浅くなる傾向が窺える。竈は、全て東側に設けている。また、構築材として９世紀中頃以降から竈の内壁に瓦を使用している住居跡を検出している。

この時期の住居跡の軒数は全体の38.9％で、Ⅰ・Ⅲ期に比べて一番建築軒数が多い。主軸方向はＮ―80°―Ｅ～Ｎ―107°―Ｅの範囲を中心に画一化され、国司の強い権力の下に充実した律令制が窺える。

Ⅲ期（10世紀前半～）

10世紀前半の住居跡はＨ―４・５・６・10・11・18・22・42・45の９軒検出している。住居跡の形状は、確認できたものでは正方形や長方形で、規模は最小で2.52×2.52ｍ（Ｈ―10）、最大で3.88×[1.79]ｍ（Ｈ―42）であった。Ⅱ期からの小型化の流れで住居の一辺が３ｍ前後のものが多く、一辺が４ｍを越えるものはない。竈は、全て東側に付設され、その構築材として瓦を使用している住居跡を検出している。主軸方向はＮ―80°―Ｅ～Ｎ―102°―Ｅの範囲で画一化がいっそう進んでいる。この時期の住居跡の軒数は全体の25.0％で、Ⅰ・Ⅱ期に比べると割合が一番低い。

10世紀に入ると国司暗殺や兵乱により律令制が大きく崩れ、10世紀中頃には平将門による国府占領で律令制が衰退した。大乱による律令制の崩壊で居住地域の規制がなくなり、兵乱のない場所に移り住んだと考えられる。

２．竈について

竈を調査した住居跡は、Ｈ―１・２・３・４・５・６・７・10・11・12・14・17・18・23・24・25・32・

33・34・36・39・40・43・44・45・50号住居跡の合計26軒である。転居時に竈を壊して住居跡を廃棄することや、後世の耕作等の影響で必ずしも残存状態が良いわけではないが、平面形態を中心に竈の特徴について述べる。

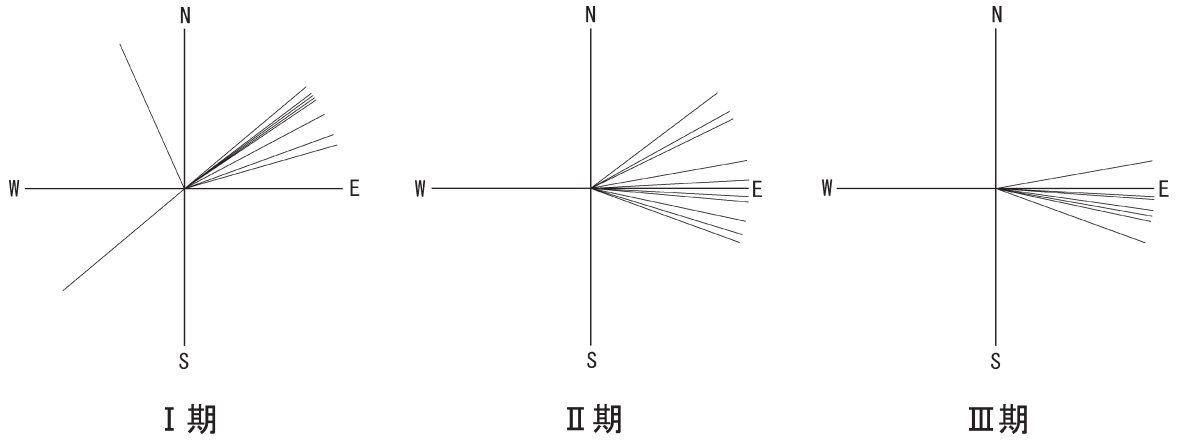
Ⅰ期に属する住居跡は、H－２・12・17・23・25・39・40・41号住居跡の８軒である。袖を住居内に伸ばして竈を構築し、燃焼部と明確に区別された煙道を有さないもの（H―17）と煙道は壁を掘り込んで長く延びるもの（H―23・25・39・40・43）が主体である。Ⅱ期に属する住居跡は、H－１・７・14・24・32・33・34・50号住居跡の８軒である。燃焼部は壁を掘り込んで構築し、袖はやや内側に突出するもの（H―32・33・34）と袖が明確でないもの（H－１・７・14・24・50）に大別される。Ⅲ期に属する住居跡は、H－４・５・６・10・11・18・45号住居跡の７軒である。袖はもたず、燃焼部は壁を掘り込んで構築し、更にそこから煙道がのびるもの（H－４）と明確な煙道を持たないもの（H－５・６・10・11・18・45）がある。H－４は竈の右側に棚をもつ。

竈を築く際に補強のため用いられる構築材は、粘土・石・土器・瓦などが用いられている。粘土は竈の構築主体のものであるが、Ⅰ期の年代の古い住居跡に用いられるものが多い。石は竈の袖・焚口部天井・燃焼部壁・支脚などに使用している。凝灰質砂岩の截石が主体で、H―34号住居跡の焚口部天井石は、両袖石にのった状態で検出されている。支脚石は、地山や川原から採取したものを使用しているのであろう。土器を構築材として使用していることが確認できたのはわずかであるが、H―11号住居跡の高台付埦（3）は截石を安定させるために置かれたものである。瓦は燃焼部の壁や煙道などに使用されていて、Ⅱ・Ⅲ期にみられる。

３．その他の遺構について

T－２号竪穴状遺構は、平面形状は円形にちかい楕円形で、断面形状は埦状を呈する。遺構の性格は不明である。柱穴が確認できず、出土遺物も床面からのものはない。中央部には地山に含まれる60×45cmほどの自然石がある。T－３号竪穴状遺構は、周辺住居跡の主軸方向から、７世紀代と考えられる。

W－５号溝跡は、埋土の状況や走行方向から元総社小見内Ⅲ遺跡の３区A－１・12区A－１号道路状遺構と同一の遺構と考えられる。薬研状の掘り込みで、埋没過程において５面、11面、14面に硬化面が確認でき、道路として機能していたことが想定される。特筆されることは、埋没過程における截石の採掘跡を検出したことである。火山灰の堆積した凝灰岩質の地山（東側基本層序のⅦ層）をくり抜き、竈に用いられる構築材に使用したと考えられる。その範囲は溝跡に平行で南北に長く全長215cm、北側幅47cm、南側幅33cmでL字形を呈し、北側は採掘済で長さ100cm、深さ32cmである。南側は採掘途中で長さ70cm、幅20cm、厚さ10cmほどの角柱状の用材が残存していた。採掘時には溝跡はⅦ層の上位付近まで埋没し、残土を東側に掻き出していることが確認できた（図版15）。なお、凝灰質砂岩採掘跡を検出した周辺遺跡には、元総社蒼海遺跡群（6）、上野国分僧寺・尼寺中間地域、鳥羽遺跡などがある。



第５図 時期別の竪穴住居跡の主軸方向（牛池川調査区）

〈西通線調査区〉

本調査区は、14世紀以後上野国を治めた長尾氏の居城である蒼海城の西側に位置する。長尾氏は、牛池川と染谷川を外堀とし、その内側に縦横の溝を掘り、本丸の周囲に有力な一族郎党の館を造らせ居住させた。居宅を意味する諏訪屋敷、出雲屋敷、瀬下屋敷、松井屋敷、豊後屋敷、鎌田屋敷、讃岐屋敷などと言った郭名が使われており、「曲輪」の名を用いていない城郭発達史上初期の平城である。この城は、15世紀前半に最も繁栄したと言われ堀割りや館を建設するにあたり、おそらく大規模な土木工事が行われていると考えられる。本遺構のD－７号土坑の土層断面図から見られるように、D－７号土坑から北側では古代の土層が残っているが、南側では下層の硬い凝灰質砂岩層まで削り取られたようすが見られる。したがって奈良・平安時代と思われるH－１・２号住居跡は、壁高が０～15cmを計測するにとどまった。

本調査区で確認されているW－１～５号溝は、土を削り取る造成工事の後、硬い凝灰質砂岩の地盤を掘り込んで造られている。出土した遺物は、内耳鍋の破片がいずれの溝からも出土し、その他緑泥片岩からなる板碑や粉挽き用の石臼、在地系の片口鉢などが出土していることから中世以降の溝と考えられ、蒼海城に関係する堀割りの一部が検出されたものと思われる。

ピット群では、調査区内だけで231基のピットを検出した。形状はほとんどが正方形もしくは長方形で、造成工事の後、硬い凝灰質砂岩を鏨のような道具により掘り込んでいるため、円形に掘るより四角形に掘る方が堀り易かったと考えられる。また、大きさや深さも様々で、重複しているものが多く柱穴と考えられる。この城の牛池川を越えた東側には村山館や大友館があるのと同じように、城の西側にも館があったと思われる。このピット群から掘立柱建物跡に組めるものは、柱穴としては多数あるものの、個々の特色が少なく埋め土も同じような状態であったが、東壁際のやや大きい柱穴４基（P－６～９）は、平面形状40～55cm、深さ45～66cmで南北に列を形成し、柱穴間隔が約1.80～2.00mを測る。対応する柱穴は東側の調査区域外にあるものと推定される。また、柱穴は溝との関係や硬い地盤と穴の多さから考えると、長期間継続し、数次にわたり建て替えられた屋敷の虎口か門の柱跡と考えるか、もしくは遠方を見渡せるような物見やぐらが建てられていたのか、用途は断定できない。元総社蒼海遺跡群では、中世の蒼海城に関連した堀割りや井戸、土坑墓などが多く確認されているが、このように密集した柱穴は他に検出されておらず、本調査区は限られた範囲での調査のため不明な部分が多いが、蒼海城の歴史研究に係わる貴重な資料になると思われ、ピット群の東側未調査部分における今後の調査が期待される。

参考文献

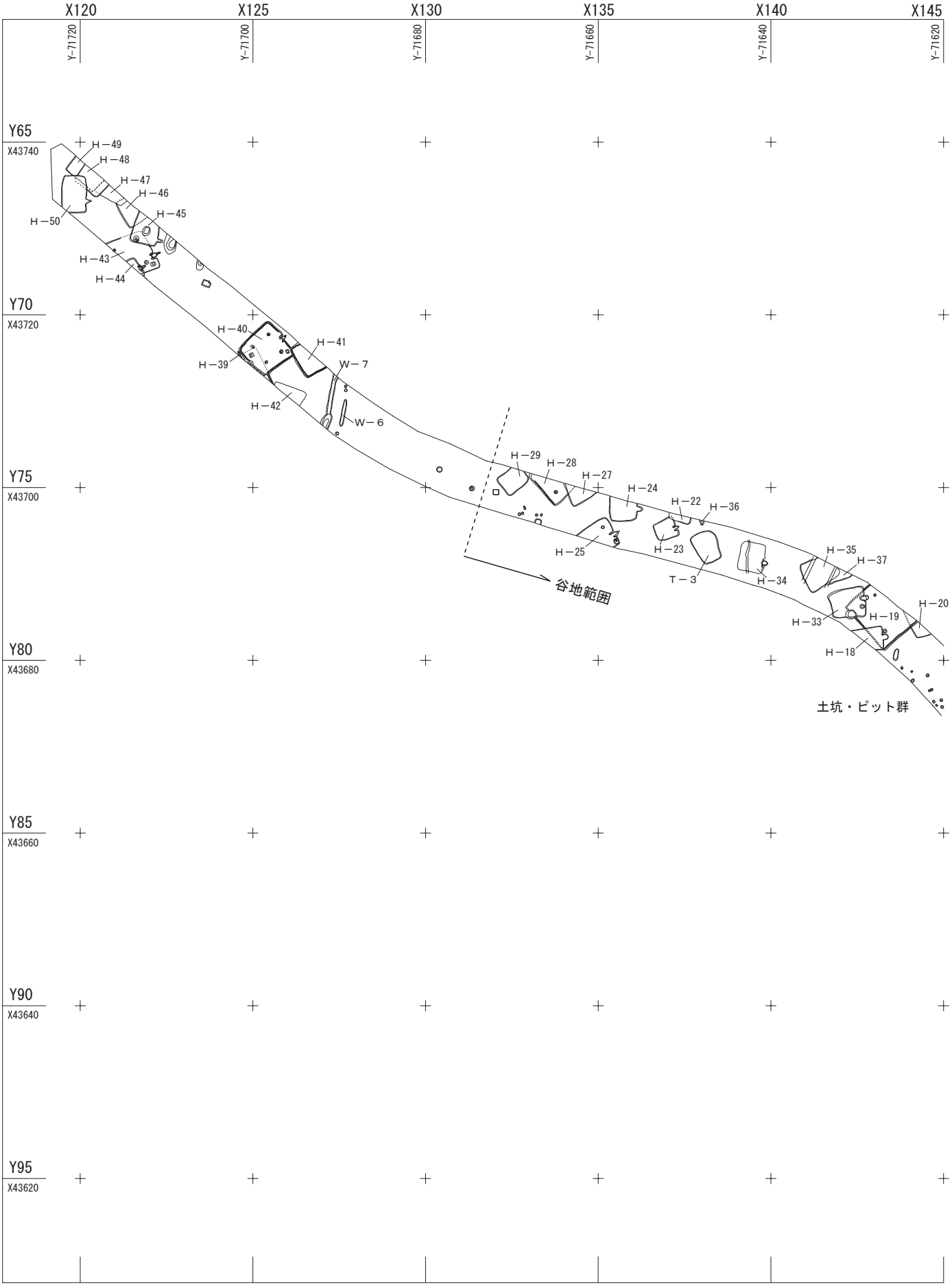
群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1986　『上野国分僧寺・尼寺中間地域（1）』
群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1987　『上野国分僧寺・尼寺中間地域（2）』
群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1988　『上野国分僧寺・尼寺中間地域（3）』
群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1990　『上野国分僧寺・尼寺中間地域（4）』
群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1991　『上野国分僧寺・尼寺中間地域（5）』
群馬県教育委員会・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　1990　『鳥羽遺跡―Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ区―』
群馬県前橋土木事務所・㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団　2007　『総社閑泉明神北遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内Ⅴ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1986　『元総社明神遺跡Ⅰ～Ⅻ』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000　『元総社宅地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査Ⅱ』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000　『元総社小見遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001　『元総社小見内Ⅲ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002　『元総社小見Ⅱ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2002　『元総社小見Ⅲ遺跡・総社閑草作Ⅴ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2005　『元総社小見Ⅶ遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2006　『元総社蒼海遺跡群（6）』
前橋市・前橋市史編さん委員会　『前橋市史　第１巻』

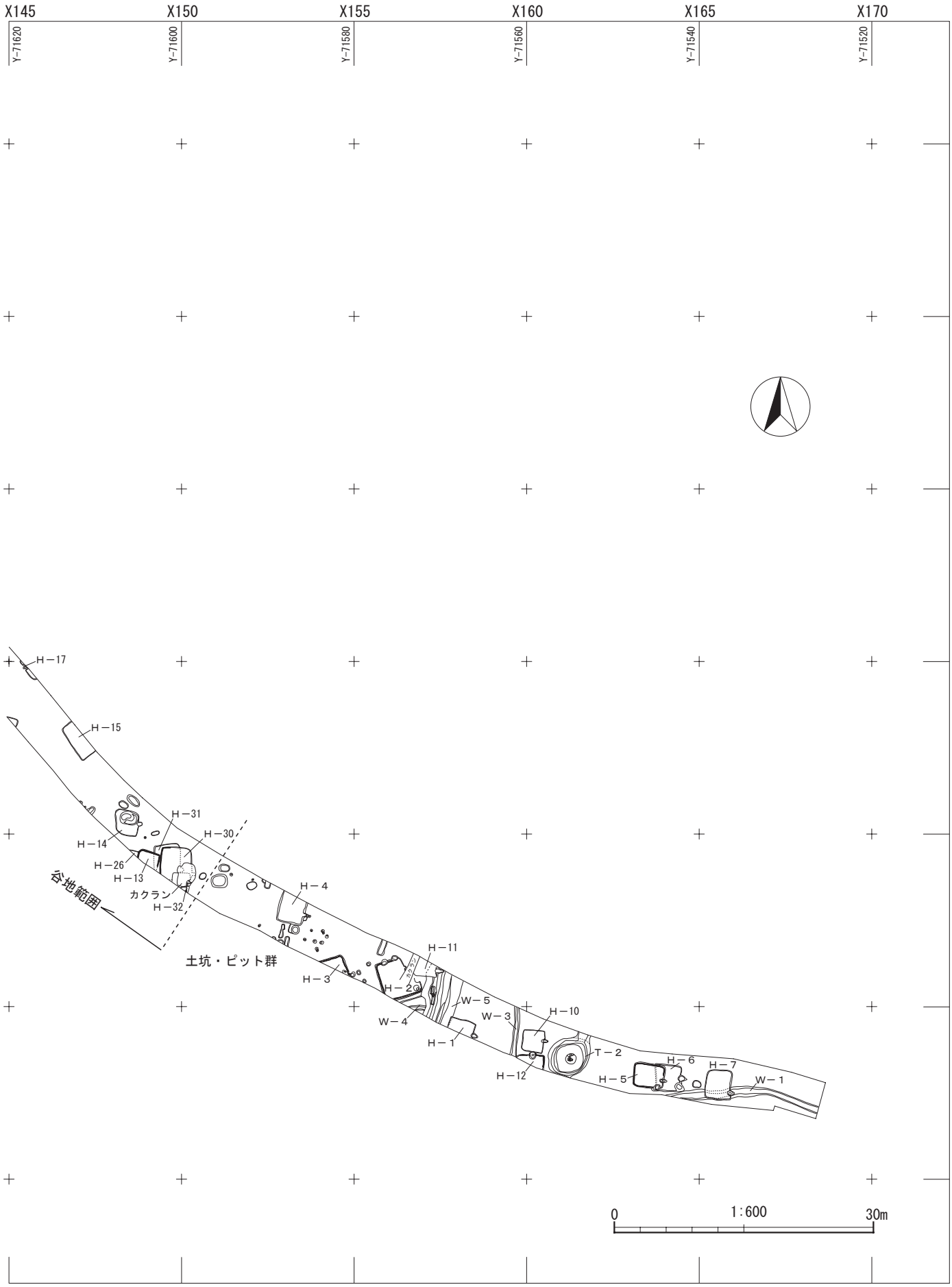
第３表　牛池川調査区の住居跡一覧表

（　）は推定値、［　］は現存値を示す。

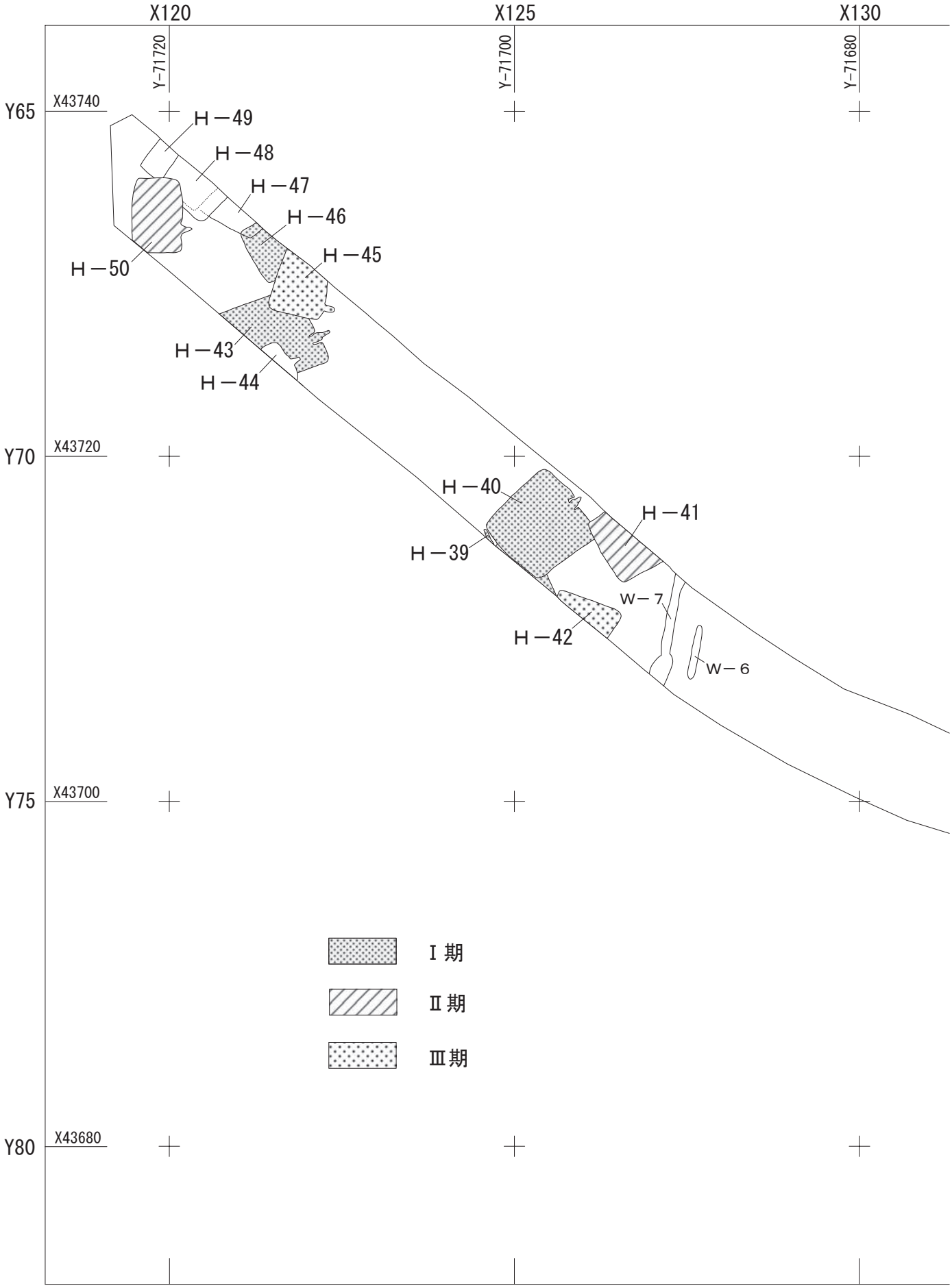
遺構名	位置 グリッド	規模（m） 東西	南北	壁高	平面形状	主軸方向	竈 位置・方向	周溝	貯蔵穴	重複 旧＜新	時期
H－1	X157・158 Y90	3.10	[1.55]	0.30	不明	(N－107°－E)	東壁 N－115°－E	無	不明	W－5＜	9C後
H－2	X155・156 Y88・89	4.50	4.75	0.19	張り出し	N－74°－E	東壁 N－67°－E	有	有	H－11＞ D－1・3＞	7C前
H－3	X154 Y88・89	[2.70]	[2.50]	0.30	不明	(N－73°－E)	東壁 N－107°－E	有	不明	P－16＞	不明
H－4	X152・153 Y86・87	3.20	[3.40]	0.50	隅丸 長方形	N－102°－E	東壁 N－106°－E	無	無		10C前
H－5	X163・164 Y91・92	3.65	2.85	0.25	隅丸 長方形	N－100°－E	東壁 N－110°－E	有	無	H－6＜ D－5＜	10C後
H－6	X163・164 Y91・92	3.10	3.10	0.30	隅丸 方形	N－93°－E	東壁 N－110°－E	無	無	H－5＞ D－4・5＞	10C前
H－7	X165 Y91・92	2.96	3.48	0.28	隅丸 長方形	N－93°－E	東壁 N－89°－E	無	無	W－1＜	9C前
H－8		欠番									
H－9		欠番									
H－10	X159・160 Y90・91	2.52	2.52	0.08	正方形	N－98°－E	東壁 N－93°－E	無	無	H－12＜	10C前
H－11	X156・157 Y88・89	2.70	[2.20]	0.24	不明	(N－94°－E)	東壁 N－92°－E	無	無	H－2＜ W－5＜	10C前
H－12	X159・160 Y91	[3.25]	[1.70]	0.15	不明	(N－0°－E)	北壁 N－2°－W	有	無	H－10＞	7C前
H－13	X148・149 Y85・86	2.60	[1.90]	0.20	不明	(N－110°－E)	不明	有	不明	H－26＜ H－31＜	9C中
H－14	X148 Y84・85	2.78	2.88	0.12	隅丸 方形	N－95°－E	東壁 N－89°－E	無	無	D－33＞	8C中
H－15	X146・147 Y81・82	[1.94]	4.42	0.40	不明	(N－53°－E)	不明	不明	不明		8C前
H－16		欠番									
H－17	X145 Y80	[0.45]	[2.88]	0.20	不明	(N－130°－W)	西壁 N－127°－W	不明	不明		6C後
H－18	X142・143 Y79	[3.58]	2.74	0.22	隅丸 長方形	N－80°－E	東壁 N－87°－E	無	無	H－19＜	10C前
H－19	X142～144 Y77～79	6.88	[5.12]	0.52	不明	(N－50°－E)	不明	有	不明	H－18・20・33＞ D－27＞	7C前
H－20	X143・144 Y78・79	[1.55]	[3.60]	0.25	不明	不明	不明	不明	不明	H－19＜	不明
H－21		欠番									
H－22	X137 Y75・76	2.58	[0.82]	0.07	不明	(N－110°－E)	不明	不明	不明	H－23＞	10C代
H－23	X136・137 Y75・76	2.55	2.28	0.13	隅丸 方形	N－62°－E	東壁 N－64°－E	無	無	H－22＜	6C前
H－24	X135・136 Y75	3.24	[2.80]	0.25	不明	(N－87°－E)	東壁 N－93°－E	無	不明		9C中
H－25	X134・135 Y75・76	[4.10]	3.64	0.28	不明	(N－55°－E)	東壁 N－60°－E	無	有		6C前

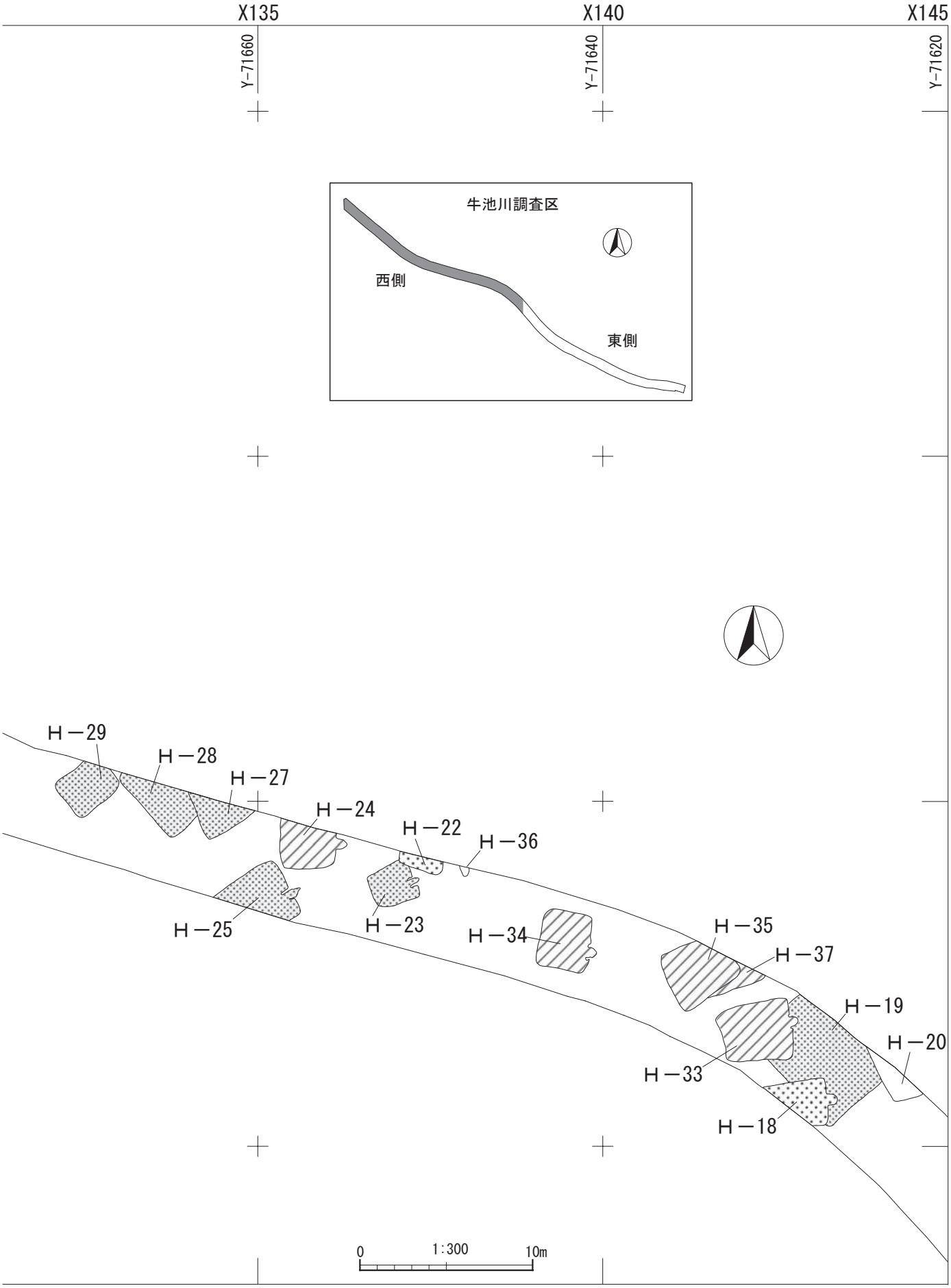
遺構名	位置 グリッド	規模（m） 東西	南北	壁高	平面形状	主軸方向	竈 位置・方向	周溝	貯蔵穴	重複 旧＜新	時期
H—26	X148 Y85	[1.05]	[0.60]	0.27	不明	不明	不明	不明	不明	H—13＞	不明
H—27	X134 Y74・75	[3.20]	[2.88]	0.35	不明	不明	不明	不明	不明	H—28＜	6 C後
H—28	X133・134 Y74・75	[2.25]	[4.80]	0.50	不明	不明	不明	有	不明	H—27＞	6 C後
H—29	X132 Y74・75	3.15	2.52	0.20	隅丸 長方形	N—53°—E	不明	無	不明		6 C後
H—30	X149・150 Y85・86	3.64	[2.80]	0.20	(隅丸 長方形)	(N—95°—E)	不明	有	不明	H—31＜ H—32＞	9 C前
H—31	X149 Y85・86	[3.00]	[1.00]	0.17	(隅丸 長方形)	(N—82°—E)	不明	不明	不明	H—13＞ H—30・32＞	不明
H—32	X149・150 Y86	不明	不明	不明	不明	不明	東壁 N—106°—E	不明	不明	H—30・31＜ D—34＞	9 C後
H—33	X141・142 Y77・78	4.06	3.32	0.35	隅丸 長方形	N—80°—E	東壁 N—81°—E	無	無	H—19＜ D—27＜	8 C後
H—34	X139 Y76・77	2.86	3.32	0	隅丸 長方形	N—102°—E	東壁 N—102°—E	無	無		9 C前
H—35	X140・141 Y77・78	[3.50]	3.54	0.18	不明	(N—64°—E)	不明	無	無	H—37＜	8 C後
H—36	X137・138 Y75・76	不明	不明	不明	不明	不明	南壁 (N—180°—E)	不明	不明		不明
H—37	X141・142 Y77	[3.50]	[3.30]	0.14	不明	不明	不明	不明	不明	H—35＞	8 C中
H—38		欠番									
H—39	X124・125 Y71	[2.20]	[4.80]	0.29	不明	(N—24°—W)	北壁 (N—25°—W)	有	有	H—40＞	6 C後
H—40	X124～126 Y70・71	5.04	4.83	0.22	方形	N—54°—E	東壁 N—47°—E	有	有	H—39＜ H—41＞	6 C後
H—41	X126・127 Y70・71	[2.80]	4.10	0.22	不明	(N—61°—E)	不明	有	不明	H—40＜	7 C後
H—42	X125・126 Y71・72	3.88	[1.70]	0	不明	(N—110°—E)	不明	不明	不明		10C代
H—43	X120～122 Y67・68	[4.80]	4.70	0.18	不明	N—70°—E	東壁 N—65°—E	無	有	H—44・45＞	6 C前
H—44	X121 Y68	[0.96]	[2.50]	0.25	不明	(N—66°—E)	東壁 N—61°—E	不明	不明	H—43＜	不明
H—45	X121・122 Y67	3.06	[3.68]	0.19	不明	N—102°—E	東壁 N—105°—E	不明	不明	H—43・46＜	11C代
H—46	X121 Y66・67	[2.55]	3.45	0.36	不明	(N—56°—E)	不明	不明	不明	H—45・47＞	7 C前
H—47	X120・121 Y66	[1.70]	[3.93]	0	不明	(N—120°—E)	不明	不明	不明	H—46＜ H—48＞	不明
H—48	X119・120 Y65・66	[2.18]	3.66	0.18	不明	(N—134°—E)	不明	不明	不明	H—47・49＜ H—50＞	不明
H—49	X119・120 Y65・66	[1.90]	4.30	0.23	不明	(N—136°—E)	不明	不明	不明	H—48・50＞	不明
H—50	X119・120 Y66・67	2.94	4.38	0.30	隅丸 長方形	N—90°—E	東壁 N—86°—E	無	無	H—48・49＜	8 C後


X120
X125
X130
X135
X140
X145
Y-71720
Y-71700
Y-71680
Y-71660
Y-71640
Y-71620
Y65
X43740
Y70
X43720
Y75
X43700
Y80
X43680
Y85
X43660
Y90
X43640
Y95
X43620
H－49
H－48
H－47
H－46
H－45
H－50
H－43
H－44
H－40
H－41
H－39
W－7
H－42
W－6
H－29
H－28
H－27
H－24
H－22
H－36
H－25
H－23
T－3
H－34
H－35
H－37
H－20
H－33
H－19
H－18
谷地範囲
土坑・ピット群

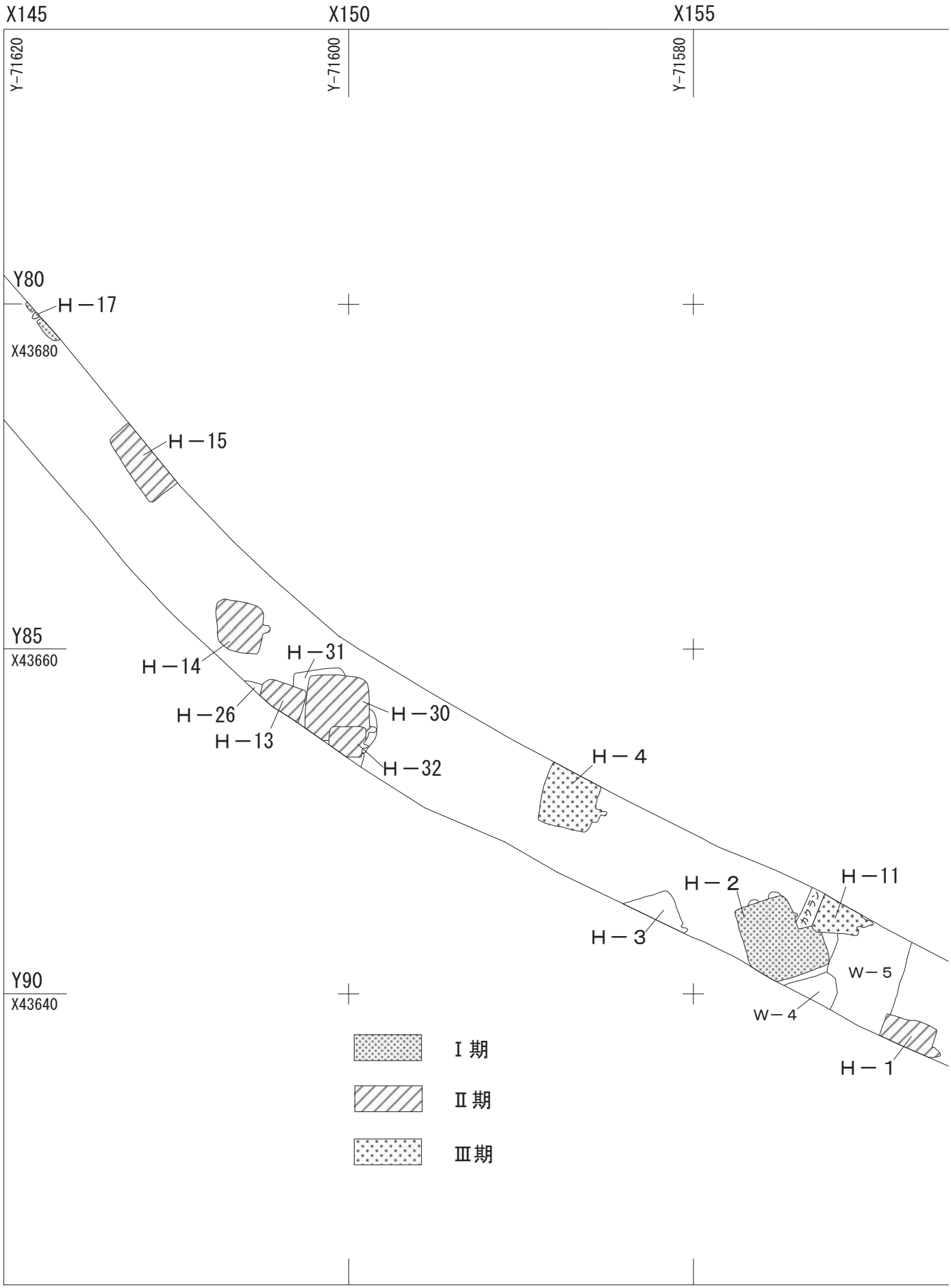


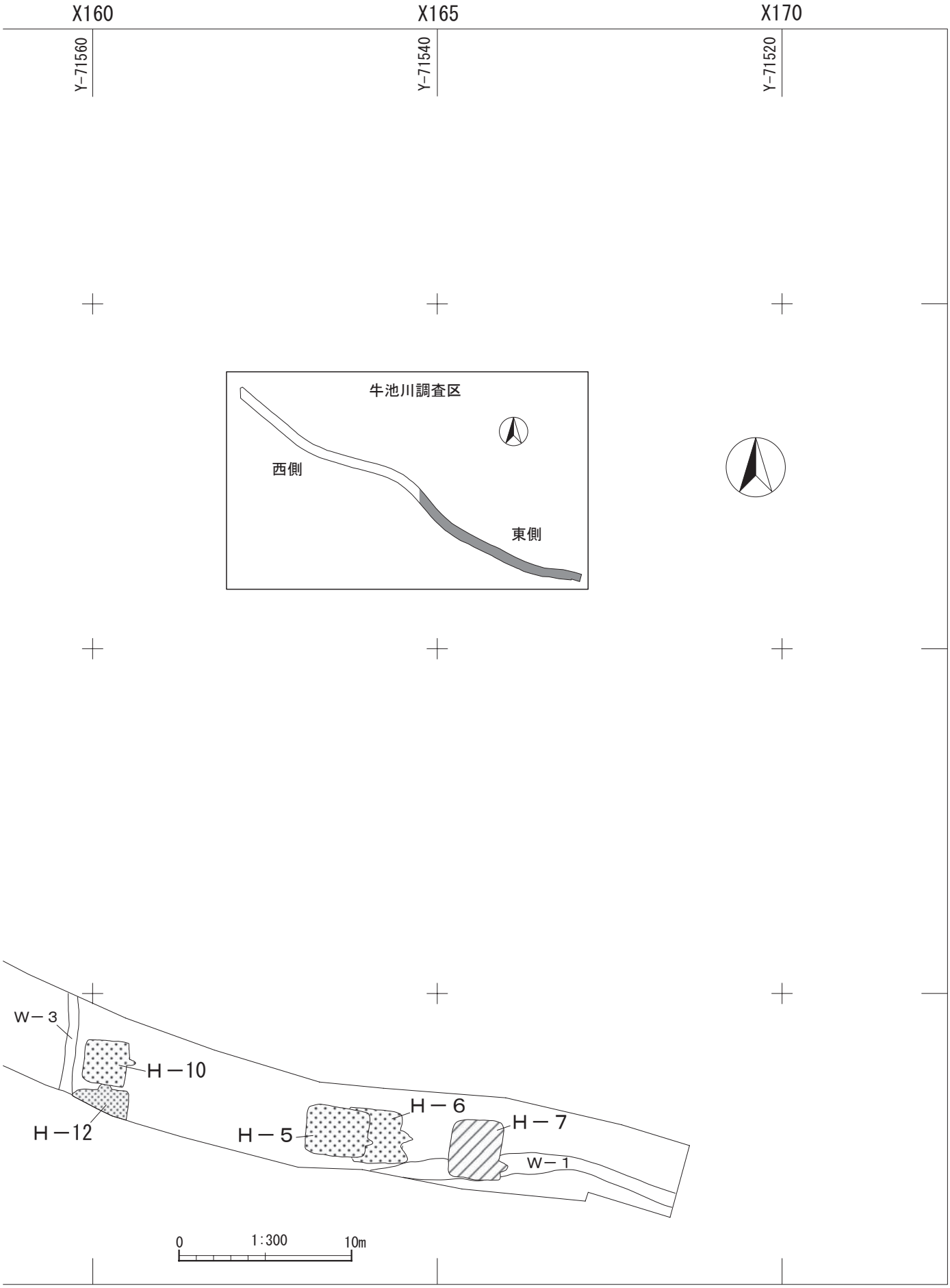
第６図　牛池川調査区全体図


X120
X125
X130
Y-71720
Y-71700
Y-71680
Y65
X43740
Y70
X43720
Y75
X43700
Y80
X43680
H－49
H－48
H－47
H－46
H－45
H－50
H－43
H－44
H－40
H－41
H－39
H－42
W－7
W－6
Ⅰ期
Ⅱ期
Ⅲ期



第７図　時期別の竪穴住居跡配置図
（牛池川調査区西側）


X145
X150
X155
Y-71620
Y-71600
Y-71580
Y80
X43680
H－17
H－15
Y85
X43660
H－14
H－31
H－26
H－13
H－30
H－32
H－4
H－2
H－11
カクラン
H－3
W－5
Y90
X43640
W－4
H－1
Ⅰ期
Ⅱ期
Ⅲ期



第８図　時期別の竪穴住居跡配置図
（牛池川調査区東側）

第４表　牛池川調査区の土坑計測表

（　）は推定値、［　］は現存値を示す。

土坑番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形状	備考
D－1	X155，Y88	82	68	38	楕円形	H－2を切る　土師器片・菰編石出土
D－2	X164・165，Y92	102	80	6	楕円形	須恵器甕片出土
D－3	X156，Y88	69	56	26	楕円形	H－2を切る 土師器片出土
D－4	X164，Y92	116	90	83	楕円形	H－6を切る　底面から完形の土師器坏のほか土師器片・須恵器片出土
D－5	X163，Y92	107	62	40	楕円形	H－5・6を切る　須恵器坏・高台付埦・土師器片等出土
D－6	X155，Y88	［173］	80	34	隅丸長方形	一部調査区外　土師器片・羽釜片出土
D－7	X153，Y87	101	80	50	円形	D－16が切る　土師器甕片・須恵器片出土
D－8	X152・153，Y87・88	［103］	54	46	長楕円形か	一部調査区外
D－9	X152，Y87	168	44	10	不定形	土師器片・須恵器片出土
D－10	X152，Y86	［ 80］	70	47	楕円形か	D－11を切る　一部調査区外
D－11	X152，Y86	［ 45］	［ 34］	31	楕円形か	D－10が切る　一部調査区外
D－12	X151・152，Y86	115	88	8	楕円形	瓦片出土
D－13	X151，Y85・86	127	86	36	楕円形	土師器片出土
D－14	X150・151，Y86	186	156	53	隅丸長方形	土坑墓　底面から拳大の石2個のほか覆土から土師器片・須恵器片出土
D－15	X150，Y86	90	73	7	楕円形	
D－16	X153，Y87	92	82	10	隅丸長方形	D－7を切る　土師器片出土
D－17	欠番					
D－18	X152，Y88	［ 86］	［ 33］	34	円形か	土師器片出土　一部調査区外
D－19	欠番					
D－20	X152，Y87・88	［ 59］	［ 19］	22	円形か	土師器片・須恵器片出土　一部調査区外
D－21	X149，Y84・85	96	45	7	楕円形	
D－22	X148，Y83・84	178	89	20	楕円形	土師器片出土
D－23	X148，Y84	115	78	13	楕円形	
D－24	X144・145，Y81	［137］	［ 84］	24	隅丸長方形か	土坑墓　一部調査区外
D－25	X143，Y79	136	53	2	楕円形	
D－26	X147，Y84	［ 81］	77	27	楕円形か	瓦片出土　一部調査区外
D－27	X142，Y78	130	103	73	楕円形	H－19を切り、H－33に切られる　土師器片出土
D－28	X122，Y67・68	［195］	142	64	楕円形か	土師器片出土　一部調査区外
D－29	X123，Y68	［115］	82	32	楕円形か	一部調査区外
D－30	X123，Y68・69	97	76	25	不定形	
D－31	X130，Y74	69	65	28	円形	
D－32	X131，Y74・75	59	58	34	円形	
D－33	X148，Y84	208	150	37	楕円形	H－14を切る　完形の土師器坏・土師器片・須恵器片・瓦片出土
D－34	X149・150，Y86	［108］	［ 74］	41	不定形	H－32を切る　土師器片・須恵器坏等出土　一部調査区外
D－35	X126・127，Y72・73	165	109	23	楕円形	W－7を切る
D－36	X131・132，Y75	67	63	12	方形	土師器片・須恵器片出土
D－37	X133，Y75・76	78	［ 55］	10	隅丸長方形か	土師器片出土　一部調査区外

第５表　牛池川調査区のピット計測表

［　］は現存値を示す。

ピット番号	遺構位置	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	形状	備考
P－1	X155，Y88	51	45	18	円形	
P－2	X155，Y89	45	40	12	円形	
P－3	X155，Y88・89	54	46	16	楕円形	
P－4	X154，Y87	37	32	12	円形	
P－5	X154，Y87	27	22	23	円形	
P－6	X154，Y87・88	39	36	24	楕円形	
P－7	X154，Y88	46	38	19	楕円形	
P－8	X153，Y88	52	35	25	双円形	
P－9	X153，Y88	44	39	14	円形	
P－10	X153，Y87	28	26	19	円形	
P－11	X153，Y88	33	32	15	円形	
P－12	X153，Y88	26	21	5	円形	
P－13	X152，Y87	33	25	20	楕円形	
P－14	X151，Y86	37	33	18	円形	
P－15	X151・152，Y86	17	14	9	円形	
P－16	X154・155，Y89	63	50	29	楕円形	H－3を切る
P－17	X144，Y81	37	35	12	円形	
P－18	X144，Y81	36	33	17	円形	
P－19	X144，Y81	27	21	42	円形	
P－20	X144，Y81	37	27	17	楕円形	
P－21	X144，Y80	27	23	15	円形	
P－22	X144，Y80	31	26	13	円形	
P－23	X144，Y80	40	37	28	円形	
P－24	X144，Y80	40	36	21	楕円形	
P－25	X144，Y80	24	21	6	円形	
P－26	X143，Y80	35	23	15	楕円形	
P－27	X127，Y72	34	30	21	円形	
P－28	X127，Y72	32	30	18	円形	
P－29	X127，Y73	39	38	15	円形	
P－30	X132，Y75	45	21	10	楕円形	
P－31	X132，Y75	36	32	21	円形	
P－32	X132，Y75	29	26	24	円形	
P－33	X133，Y75	29	28	11	円形	
P－34	X133，Y75	26	25	13	円形	
P－35	X147，Y84	［27］	［16］	18	円形か	一部調査区外
P－36	X147，Y84	［43］	［18］	25	円形か	一部調査区外
P－37	X148，Y85	25	25	9	円形	

第６表　出土遺物観察表

牛池川調査区

法量は①口径②底径③胴部最大径④器高を表し、単位はcmである。また(　)は推定値、[　]は現存値を表す。

遺物番号 出土位置	台帳番号	器　種	法　　量	①胎土②焼成 ③色調④残存	器形の特徴、成・整形方法	備　　考
H-1-1 竈	H-1カ№3	土師器 甕	①(18.3) ②3.6 ③22.6④24.6	①細粒②良好(酸化) ③橙7.5YR6/6 ④ほぼ完形	口縁部は「コ」字状を呈する。口縁部の器厚はやや厚い。 外面：口縁部横撫で。胴部上位横方向篦削り。 内面：口縁～胴部撫で。	
H-1-2 床直	H-1№1	須恵器 坏	①(13.4) ②6.6 ④3.3	①細粒②良好(還元) ③灰黄褐10YR6/2 ④2/3残	体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。 右回転ロクロ整形。底部回転糸切り。	
H-1-3 床直	H-1№2	須恵器 高台付 皿	①13.8 ②7.2 ④3.2	①細粒②良好(還元) ③褐灰10YR6/1 ④ほぼ完形	体部は大きく外傾し、口縁部に至る。 ロクロ整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-2-1 覆土	H-2№8・一括	土師器 坏	①(12.3) ④3.3	①細粒②良好(酸化) ③橙5YR6/8 ④1/5残	口縁部と体部の境に稜を有し、口縁部は外傾する。 底部は浅い丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。 内面：口縁部横撫で。体～底部撫で。	
H-3-1 床直	H-3№3	土師器 甕	①(17.6) ④ [24.2]	①中粒(白色粒含む) ②良好(酸化) ③明赤褐5YR5/6④1/3残	口縁部は外反する。胴部は細長く底部に向かいすぼむ。最大径は口径。外面：口縁部横撫で。胴部縦方向篦削り。 内面：口縁部横撫で。胴部撫で。	
H-4-1 竈	H-4カ№1	土師器 坏	①12.5 ②8.3 ④4.3	①細粒②良好(酸化) ③橙5YR7/8 ④3/4残	体部は直線的に外傾し、口縁部は直立する。底部は平底で、器肉は厚い。外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。 内面：口縁部横撫で。体部横撫で。	
H-4-2 覆土	H-4一括	須恵器 坏	①11.8 ②7.5 ④3.3	①細粒②良好(還元) ③褐灰10YR6/1 ④4/5残	体部は内湾して、口縁部で外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り。	
H-5-1 竈 床直	H-5カ№3・4・№40	須恵器 高台付埦	①(16.6) ②7.6 ④7.2	①細粒②良好(酸化) ③橙2.5YR7/8 ④2/5残	体部は内湾して、口縁部はやや外反する。ロクロ整形後外面篦削り。高台貼付。口縁部外面に一条の沈線をめぐらす。	
H-5-2 床付近	H-5№42	鉄製品 刀子	長さ27.9cm　幅(1.6)cm　厚さ0.5cm 重さ68.42g　完形		刀身部は幅が狭く断面逆台形状で、柄は細く先が尖る。	
H-5-3 床直	H-5№14	土師器 坏	①(12.2) ②(7.4) ④3.3	①細粒②良好(酸化) ③にぶい橙5YR6/4 ④口～底部片	口縁部は外反する。底部は平底。 外面：口縁部横撫で。体～底部無調整。 内面：口縁部横撫で。体～底部撫で。	
H-5-4 床直	H-5カ№2	土師器 甕	①(23.2) ④ [8.2]	①細粒②良好(酸化) ③にぶい赤褐5YR5/4 ④口縁～胴部上位片	口縁部は「コ」字状を呈する。 外面：口縁部横撫で。胴部上位横方向篦削り。 内面：口縁部横撫で。胴部上位篦撫で。	
H-6-1 床直	H-6№11・12・13	須恵器 高台付埦	①13.6②6.4 ④5.1	①細粒(小礫含む) ②良好(還元) ③灰白5Y7/1④ほぼ完形	体部は内湾して、口縁部は外反する。ロクロ整形。 底部回転糸切り。高台貼付。	
H-6-2 竈	H-6カ№1	須恵器 高台付埦	①(14.9) ②7.2 ④5.5	①細粒②良好(酸化) ③淡橙5YR8/3 ④3/5残	体部は内湾して、口縁部は外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-7-1 竈	H-7カ№5	須恵器 坏	①13.4 ②5.7 ④3.9	①細粒②良好(還元) ③灰黄2.5Y7/2 ④完形	体部は内湾して、口縁部は外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り。	内面に墨書。
H-7-2 覆土	H-7№26	須恵器 坏	①(13.0) ②5.6 ④3.9	①細粒 ②良好(還元) ③灰黄2.5Y7/2④2/5残	体部は内湾して、口縁部は外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り。	内面に墨画か。
H-7-3 覆土	H-7№21	須恵器 高台付埦	①(15.6) ②8.5 ④4.7	①細粒②良好(還元) ③灰白5Y8/1 ④1/2残	体部はやや直線的に開き、口縁部は外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-7-4 床付近	H-7№16・一括	須恵器 高台付埦	① [15.6] ④(4.8)	①細粒②良好(還元) ③灰白2.5Y8/1 ④体～底部片	体部は内湾する。 ロクロ整形。底部回転糸切り。高台欠損。	底部外面に墨書[子]。
H-10-1 竈	H-10カ№1	須恵器 高台付埦	①(14.1) ②7.1 ④4.8	①細粒②良好(酸化) ③にぶい黄橙10YR6/3 ④1/2残	体部は内湾して、口縁部は外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-10-2 竈	H-10カ№4・5・7・10・13・15	須恵器 羽釜	①(19.9) ②6.5③24.4 ④27.2	①中粒②良好(酸化) ③橙5YR6/6 ④1/3残	最大径を胴部上半に有し、鍔部はやや上方を向き、口縁部は強く内傾する。ロクロ整形。胴部中位から下位に向かい縦方向篦削り。	
H-11-1 竈	H-11カ№2	須恵器 坏	①(13.2) ②6.2 ④3.9	①細粒②良好(酸化) ③にぶい橙5YR7/4 ④3/4残	体部は直線的に外傾し、口縁部は短く外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り。	
H-11-2 竈	H-11カ№1	須恵器 高台付埦	①13.2 ②8.2 ④5.7	①細粒(小礫含む) ②良好(半還元)③褐灰10YR6/1④4/5残	体部は内湾ぎみに外傾し、口縁部は短く外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-11-3 竈	H-11カ№11	須恵器 高台付埦	①16.1 ②8.3 ④6.1	①細粒(結晶片岩含む) ②良好(酸化) ③橙2.5YR7/6④完形	体部は直線的に外傾し、口縁部は短く外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-11-4 竈	H-11カ№9	須恵器 足高 高台埦	①(18.4) ②11.5 ④9.3	①細粒(小礫含む) ②良好(酸化)③にぶい黄橙10YR7/3④4/5残	体部は直線的に開き、口縁部は僅かに外反する。高台部は直線的で付高台である。 ロクロ整形。	
H-11-5 床付近	H-11№1	灰釉陶器 高台付埦	①13.0 ②7.0 ④4.4	①水簸②良好(還元) ③灰白2.5Y7/1 ④ほぼ完形	体部は緩やかに内湾して、口縁部は短く外反する。 ロクロ整形。高台貼付。漬け掛け。	
H-12-1 竈	H-12カ一括	土師器 坏	①(13.8) ④[3.5]	①細粒②良好(酸化) ③橙5YR7/8 ④口縁部片	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は外傾する。 外面：口縁部横撫で。 内面：口縁部横撫で。	

遺物番号 出土位置	台帳番号	器　種	法　　量	①胎土②焼成 ③色調④残存	器形の特徴、成・整形方法	備　　考
H-13-1 床付近	H-13№11・一括	土師器 甕	①20.3 ③22.6 ④[12.0]	①細粒②良好(酸化) ③橙5YR6/6 ④口～胴部上位片	口縁部は「コ」字状を呈する。 外面：口縁部横撫で。胴部上位横方向篦削り。 内面：口縁部横撫で。胴部上位篦撫で。	
H-14-1 床直	H-14№5・一括	須恵器 坏	①(16.6) ②9.2 ④5.2	①細粒②良好(還元) ③灰白2.5Y7/1 ④2/5残	体部は直線的に外傾して、口縁部に至る。 ロクロ整形。底部回転糸切り。	
H-14-2 床直	H-14№6	須恵器 蓋	①15.6 摘径:3.9 ④3.3	①細粒②良好(還元) ③黄灰2.5Y6/1 ④完形	摘は環状で貼付。口縁端部は折り曲げ。 ロクロ整形。天井部周辺は回転篦削り。	
H-14-3 床付近	H-14№11	須恵器 蓋	①17.6 摘径:4.0 ④3.7	①細～中粒②良好(還元) ③黄灰2.5Y5/1 ④3/5残	摘は環状で貼付。口縁端部は折り曲げ。 ロクロ整形。天井部周辺は回転篦削り。	
H-15-1 床付近	H-15№14・17・一括	土師器 坏	①(14.7) ④4.5	①細粒②良好(酸化) ③橙5YR7/6 ④3/5残	口縁部は短く内傾する。底部は浅い丸底。 外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。 内面：口縁部横撫で。体～底部篦撫で。	
H-15-2 覆土	H-15№34	須恵器 高台付埦	①(14.8) ②6.1 ④5.2	①細粒②良好(酸化) ③にぶい黄橙10YR7/2 ④4/5残	体部は直線的に開き、口縁部はやや外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-15-3 床付近	H-15№20・23・24・25・35・36・38・一括	土師器 甕	①22.0 ③(28.2) ④[16.0]	①中粒②良好(酸化) ③にぶい橙7.5YR6/3 ④口縁～胴部中位片	口縁部は外反する。球体の甕であろう。最大径は胴部。 外面：口縁部撫で。胴部上位横方向、中位斜方向篦削り。 内面：口縁部横撫で。胴部篦撫で。	
H-17-1 床付近	H-17№2	土師器 坏	①(12.6) ④4.7	①中粒②良好(酸化) ③明赤褐5YR5/8 ④1/2残	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は外傾する。底部は丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。 内面：口縁部横撫で。体～底部撫で。	
H-17-2 覆土	H-17№3	土師器 坏	①13.8 ④5.0	①細粒②良好(酸化) ③赤褐5YR4/6 ④完形	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は外傾する。底部は浅い丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。 内面：口縁部横撫で。体～底部撫で。	内黒土器。
H-17-3 覆土	H-17№4	土師器 長胴甕	①20.1 ④[31.8]	①中粒(白色粒含む) ②良好(酸化) ③にぶい橙7.5YR7/3 ④1/2残	口縁部は大きく外反し、胴部は多少の膨らみを持ち、その膨らみは中位で最大となる。最大径は口径。 外面：口縁部横撫で。胴部は縦方向の篦削り。底部付近は斜め方向の篦削り。内面：口縁部横撫で。胴部篦撫で。	
H-18-1 覆土	H-18№27	土師器 坏	①11.1 ②5.5 ④3.9	①細粒②良好(酸化) ③橙5YR7/6 ④ほぼ完形	体部は外傾し、口縁部は直立ぎみ。底部は平底で、器肉が厚い。外面：口縁部横撫で。体部無調整。底部篦削り。 内面：口縁部横撫で。体～底部横撫で。	輪積み痕顕著。
H-18-2 竈	H-18カ№2・一括	土師器 甕	①(16.9) ②25.0③21.8 ④27.0	①細粒②良好(酸化) ③赤褐2.5YR4/8 ④4/5残	口縁部は弱く外反し、最大径は胴部上位で張りは弱い。 外面：口縁部撫で。胴部上位横方向、中位以下斜方向篦削り。内面：口縁部横撫で。胴部篦撫で。	
H-18-3 覆土	H-18№30	須恵器 坏	①12.2 ②6.6 ④4.0	①細粒②良好(還元) ③灰10Y6/1 ④ほぼ完形	体部は内湾ぎみで、口縁部に至る。ロクロ整形。底部回転糸切り後回転篦調整。	
H-18-4 床付近	H-18№17・23	須恵器 把手付壺	③(26.0) ④[15.2]	①中粒(小礫含む) ②良好(還元) ③灰黄2.5Y6/2④頸～胴部片	頸部は直立ぎみ。 ロクロ整形。 把手接着痕が3cmほど離れて上下にある。	
H-18-5 床直	H-18№31	土師器 坏	①12.5 ②8.2 ④4.1	①細粒②良好(酸化) ③にぶい橙5YR6/4 ④ほぼ完形	体部は直線的に外傾し、口縁部は直立ぎみ。底部はほぼ平底。外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。 内面：口縁部横撫で。体～底部撫で後磨き。	
H-19-1 床付近	H-19№1	土師器 坏	①(14.4) ④3.7	①細粒②良好(酸化) ③にぶい橙5YR6/4 ④1/2残	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は外傾する。底部は丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。 内面：口縁部横撫で。体～底部撫で。	
H-22-1 床直	H-22№3	須恵器 羽釜	①(23.2) ③(26.0) ④ [9.2]	①中粒②良好(還元) ③灰7.5Y6/1 ④口縁～胴部片	胴部上半の張りは弱く、口縁部はほぼ直立する。鍔は断面三角形状である。口唇部は平坦で水平。ロクロ整形。	
H-23-1 床直	H-23カ№1	土師器 坏	①13.3 ④ [5.2]	①細粒②良好(酸化) ③明赤褐2.5YR5/6 ④底部欠損	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は外傾する。 外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。 内面：口縁部横撫で後斜方向篦磨き。体～底部撫で。	
H-23-2 床付近	H-23№5	土師器 坏	①(11.0) ②7.4 ④4.6	①細粒②良好(酸化) ③橙5YR6/6 ④4/5残	体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。器肉は厚く、底部は平底。外面：口縁部横撫で。体部指押え。 内面：口縁部横撫で。体～底部篦撫で。	
H-23-3 竈	H-23カ№2・一括	土師器 小型甕	①(20.0) ②7.0 ④17.7	①中粒(白色粒含む) ②良好(還元)③にぶい橙 7.5YR6/4④2/3残	口縁部は外反する。最大径は口径。 外面：口縁部横撫で。胴部斜方向篦削り。 内面：口縁部横撫で。胴部篦撫で。	
H-23-4 床直	H-23カ№3	土師器 甕	①(19.3) ②8.3③24.2 ④27.4	①中粒(白色粒含む) ②良好(酸化)③にぶい黄橙 10YR7/3④7/8残	球状の胴部で、口縁部は外反する。 外面：口縁部横撫で。胴部斜・縦方向篦削り。 内面：口縁部横撫で。胴部篦撫で。	
H-23-5 床付近	H-23№6	土師器 坏	①13.4 ④5.0	①細粒②良好(酸化) ③明赤褐2.5YR5/6 ④完形	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は外反する。丸底。 外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。 内面：口縁部横撫で後斜め方向篦磨き。体～底部撫で。	
H-23-6 床直	H-23№15・一括	土師器 小型甕	①13.0 ②8.0 ④15.7	①中粒②良好(酸化) ③にぶい橙5YR6/4 ④ほぼ完形	口縁部は外反する。 外面：口縁部横撫で。胴部斜・縦方向篦削り。 内面：口縁部横撫で。体部撫で。	
H-24-1 床直	H-24№1	須恵器 高台付埦	①(14.3) ②7.2 ④5.8	①細粒(小礫含む) ②良好(酸化)③にぶい黄褐 10YR5/3④4/5残	体部はやや内湾して、口縁部は直線的に外傾する。 ロクロ整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-24-2 床直	H-24№12	須恵器 高台付皿	①(13.0) ②6.9 ④2.8	①細粒②良好(還元) ③灰白2.5Y8/1 ④3/5残	体部は大きく外傾し、口縁に至る。 ロクロ整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-24-3 竈	H-24カ№3	瓦 軒平瓦	長さ[20.8]cm 幅[11.8]cm 厚さ3.1cm	①中粒②良好(還元) ③灰黄2.5Y6/2④破片	瓦当面文様：唐草文　外区素文 凸面：斜位篦撫で。凹面：布目後篦撫で。 側部：面取り3回。端部：面取り1回。	竈構築材として使用。

遺物番号 出土位置	台帳番号	器　種	法　　量	①胎土②焼成 ③色調④残存	器形の特徴、成・整形方法	備　　考
H-25-1 床直	H-25№4	土師器 坏	①13.0 ④5.2	①細～中粒②不良(酸化) ③明赤褐2.5YR5/6 ④完形	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は外傾する。丸底。 外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。 内面：口縁部横撫で後斜方向篦磨き。体～底部撫で。	表面の荒れ目立つ。
H-25-2 床付近	H-25№15	土師器 坏	①13.0 ④5.3	①細粒②良好(酸化) ③明赤褐2.5YR5/8 ④完形	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は外傾する。底部は浅い丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。 内面：口縁部横撫で。体～底部撫で。	黒色土器。
H-25-3 床付近	H-25№14	土師器 坏	①13.3 ④5.5	①細粒②良好(酸化) ③橙2.5YR6/8 ④完形	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は外傾する。底部は丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。 内面：口縁部横撫で。体～底部撫で。	
H-25-4 床付近	H-25№17	土師器 坏	①13.4 ④5.2	①細粒②良好(酸化) ③明赤褐2.5YR5/6 ④完形	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は外傾する。底部は丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。 内面：口縁部横撫で後斜方向篦磨き。体～底部撫で。	
H-25-5 床付近	H-25№18	土師器 坏	①13.4 ④5.2	①細粒②良好(酸化) ③明赤褐2.5YR5/6 ④ほぼ完形	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は外傾する。丸底。 外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。 内面：口縁部横撫で後斜方向篦磨き。体～底部撫で。	
H-25-6 床付近	H-25№16	土師器 坏	①13.5 ④5.5	①細粒②良好(酸化) ③明赤褐2.5YR5/6 ④完形	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は外傾する。丸底。 外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。 内面：口縁部横撫で後斜方向篦磨き。体～底部撫で。	内黒土器。
H-25-7 貯蔵穴	H-25№19	土師器 壺	①9.5 ③11.9 ④12.9	①細粒②良好(還元) ③明赤褐5YR5/8 ④ほぼ完形	底部は丸底。 外面：口縁部横撫で。胴部篦削り後撫で。 内面：口縁部横撫で。胴部撫で。	
H-25-8 床直	H-25№3	土師器 鉢	①13.4 ②4.9 ④11.5	①中粒②良好(酸化) ③浅黄橙10YR8/4 ④ほぼ完形	口縁部は外反する。 外面：口縁部横撫で。胴部篦削り。 内面：口縁部横撫で。胴部篦撫で。	
H-25-9 床直	H-25№1	土師器 甑	①24.4 ②9.9 ④27.0	①中粒(灰白色粒含む) ②良好(酸化) ③にぶい黄橙10YR7/4 ④完形	口縁部は短く外反する。胴部上位に僅かな膨らみをもつ。底部は無底式。外面：口縁部横撫で。胴部上～中位縦方向、下位斜方向篦削り。 内面：口縁部横撫で。胴部篦撫で。	
H-26-1 床直	H-13№19	石製 紡錘車	大径4.9cm　小径4.6cm　厚さ1.7cm 穿孔0.35cm　重さ52.54g 石材：砂岩か　ほぼ完形		偏平な台形状を呈し、厚い作り。全体に丁寧な作り。	未製品。
H-27-1 床直	H-27№11	土師器 坏	①14.0 ④4.3	①中粒②不良(酸化) ③橙5YR7/8 ④4/5残	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は外傾する。底部は浅い丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。 内面：口縁部横撫で。体～底部撫で。	
H-28-1 覆土	H-28№7・一括	土師器 坏	①12.8 ④4.6	①細粒②良好(酸化) ③橙5YR6/8 ④ほぼ完形	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は外傾する。底部は丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。 内面：口縁部横撫で。体～底部撫で。	
H-28-2 覆土	H-28№4	土師器 甕	②(25.7) ④[13.4]	①中粒②良好(酸化) ③にぶい橙7.5YR6/4 ④口～胴部片	口縁部は大きく外反し、胴部は多少の膨らみをもつ。最大径は口径。外面：口縁部横撫で。胴部縦方向篦削り。 内面：口縁部横撫で。胴部篦削り。	
H-29-1 床付近	H-29№1	土師器 坏	①14.0 ④4.5	①細粒②良好(酸化) ③橙5YR7/6 ④完形	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は外傾する。底部は浅い丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。 内面：口縁部横撫で。体～底部撫で。	
H-29-2 床直	H-29№6	土師器 坏	①12.7 ④4.9	①細粒②良好(酸化) ③橙2.5YR6/8 ④完形	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は外傾する。底部は浅い丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り後撫で。 内面：口縁部横撫で。体～底部撫で。	内黒土器。
H-29-3 覆土	H-29№3	土師器 甕	①12.6②5.5 ③17.5 ④20.2	①中粒(白色粒含む) ②良好(酸化)③にぶい橙 5YR7/4④ほぼ完形	口縁部は外反する。胴部中位に最大径をもつ。 外面：口縁部横撫で。胴部縦方向篦削り。 内面：口縁部横撫で。胴部篦撫で。	
H-29-4 床直	H-29№20	土師器 甑	①(25.9) ②10.6 ④31.6	①中粒(白色粒含む) ②良好(酸化)③にぶい黄橙 10YR7/4④ほぼ完形	口縁部は外反する。胴部は僅かな膨らみをもつ。底部は無底式。外面：口縁部横撫で。胴部縦方向篦削り。 内面：口縁部横撫で。胴部篦撫で。	
H-29-5 床付近	H-29№2・一括	土師器 坏	①12.3 ④4.5	①細粒②良好(酸化) ③橙2.5YR6/8 ④完形	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は外傾する。底部は丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り後撫で。 内面：口縁部横撫で。体～底部撫で。	
H-29-6 床直	H-29№19・一括	土師器 甕	①(22.0)②5.6 ③(20.5) ④37.7	①中粒②良好(酸化) ③浅黄橙7.5YR8/6 ④口縁～底部	口縁部は「く」字状に外反する。胴部の張りは緩やか。 外面：口縁部横撫で。胴部斜方向篦削り。 内面：口縁部横撫で。胴部撫で。	
H-30-1 床直	H-32№4・H-13一括	須恵器 高台付埦	①15.5 ②6.1 ④5.1	①細粒②良好(還元) ③灰白10YR8/1 ④口～底部片	体部は内湾し、口縁部でやや外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-30-2 床直	H-32№2	瓦 丸瓦	長さ[19.9]cm 幅[15.6]cm 厚さ2.8cm	①中粒(小礫含む) ②良好(還元) ③浅黄2.5Y7/3④破片	半截作りか。 凸面：篦撫で。凹面：布目。 側部：側部面取3回。端部面取り2回。	
H-31-1 覆土	H-32№11	須恵器 高台付埦	②(7.8) ④[2.0]	①中粒②良好(還元) ③灰白10YR7/1 ④体～底部片	ロクロ整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
H-32-1 竈	H-32カ№3・一括	須恵器 高台付埦	①(14.8) ②6.5 ④4.7	①細粒②良好(酸化) ③橙5YR6/6 ④1/2残	体部は内湾して、口縁部は外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り。 高台貼付。	
H-33-1 床直	H-33№6	須恵器 蓋	①(14.1) 摘径:3.7 ④2.7	①細粒②良好(還元) ③灰5Y6/1 ④2/5残	摘は環状で貼付。口縁端部は折り曲げ。 ロクロ整形。天井部周辺は回転篦削り。	
H-33-2 床付近	H-33№12	須恵器 坏	①12.9 ②7.4 ④3.5	①細粒②良好(還元) ③灰白2.5Y7/1 ④ほぼ完形	体部は内湾ぎみで、口縁部は外反する。 ロクロ整形。底部回転篦切り未調整。	
H-33-3 覆土	H-33№2	軒丸瓦	長さ[14.7]cm 幅[7.2]cm 厚さ3.9cm	①中粒(小礫含む) ②良好(還元) ③灰N4/④破片	単弁8葉蓮華文。外区は素文。 外縁の幅がくずれ、雑な作り。	

遺物番号 出土位置	台帳番号	器　種	法　　量	①胎土②焼成 ③色調④残存	器形の特徴、成・整形方法	備　　考
H-33-4 覆土	H-33一括	鉄製品 釘	長さ6.7㎝　幅0.5㎝　厚さ0.4㎝　重さ5.55ｇ ほぼ完形		角釘。	
H-33-5 覆土	H-33№1	鉄製品 刀子	長さ[10.2]㎝　幅1.0㎝　厚さ0.3㎝ 重さ15.08ｇ		刀身部は幅が狭く断面逆台形状。	
H-34-1 竈	H-34カ№1・一 括・カ一括	土師器 甕	①20.6②4.0 ③21.2 ④28.0	①細粒 ②良好(酸化) ③橙5YR6/8④完形	口縁部は「コ」字状で、胴部は上位から緩やかに下位へ向かってすぼむ。外面：口縁部横撫で。胴部横・斜方向箆削り。 内面：口縁部横撫で。胴部箆撫で。	
H-34-2 竈	H-34カ№2	土師器 甕	①19.0 ③20.9 ④[25.0]	①細粒②良好(酸化) ③橙5YR6/6 ④口～胴部下位	口縁部は「コ」字状で、胴部は上位から緩やかに下位へ向かってすぼむ。外面：口縁部横撫で。胴部横・斜方向箆削り。 内面：口縁部横撫で。胴部箆撫で。	
H-35-1 床直	H-35№13・一括	土師器 甕	①23.3 ②(5.9) ④29.5	①細粒②良好(酸化) ③赤10R5/6 ④口～底部片	頸部は「く」字状を呈し、口縁部は外反する。 外面：口縁部横撫で。胴部斜方向箆削り。 内面：口縁部横撫で。胴部箆撫で。	
H-37-1 床付近	H-35№4	土師器 坏	①(12.5) ④3.1	①細粒②良好(酸化) ③橙5YR6/6 ④1/2残	体部は直線的で、口縁部は直立する。底部は平底。 外面：口縁部横撫で。体～底部箆削り。 内面：口縁部～底部横撫で。	
H-37-2 床直	H-35№11	土師器 坏	①(13.1) ④[4.1]	①細粒②良好(酸化) ③橙5YR6/6 ④口～底部片	体部は内湾して、口縁部は外反する。底部は丸底であろう。 外面：口縁部横撫で。体～底部箆削り。 内面：口縁～底部横撫で。	
H-37-3 床付近	H-35№1	須恵器 蓋	①13.2 摘径:6.2 ④2.5	①細粒②良好(還元) ③灰黄2.5Y6/2 ④1/2残	摘は環状で貼付。かえりが付く。 ロクロ整形。天井部周辺は回転箆削り。	
H-39-1 貯蔵穴	H-39Ｐ５№1	土師器 坏	①(12.8) ④4.3	①細粒②良好(酸化) ③赤褐2.5YR4/6 ④2/5残	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は外傾する。底部は丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部箆削り。 内面：口縁部横撫で。体～底部撫で。	
H-40-1 Ｐ４	H-40Ｐ４一括	土師器 坏	①(13.1) ④[4.1]	①細粒②良好(酸化) ③橙2.5YR6/8 ④口～底部片	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は直立ぎみ。底部は丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部箆削り。 内面：口縁部横撫で。体～底部撫で。	
H-40-2 床直	H-40№2・3,カ一括	土師器 小型甕	①(16.1) ③(17.6) ④[11.5]	①中粒(白色粒含む) ②良好(酸化)③にぶい橙 7.5YR6/4④口～胴部片	口縁部は外反する。胴部上位に最大径をもつ。 外面：口縁部横撫で。胴部斜方向箆削り。 内面：口縁部横撫で。胴部箆撫で。	
H-41-1 床直	H-41№7	土師器 坏	①10.4 ④3.6	①細粒②良好(酸化) ③橙5YR7/8 ④完形	体部は内湾して、口縁部は内傾する。底部は丸底。 外面：口縁部横撫で。体～底部箆削り。 内面：口縁部横撫で。体～底部撫で。	
H-41-2 床直	H-41№8	須恵器 蓋	①11.0 ④[2.2]	①細粒②良好(酸化) ③灰5Y6/1 ④摘欠損	摘の貼付痕は小さい。かえりが付く。ロクロ整形。 天井部周辺は回転箆削り。	
H-41-3 床付近	H-41№2・3	土師器 坏	①11.4 ④3.8	①細粒②良好(酸化) ③橙5YR7/6 ④4/5残	体部は内湾し、口縁部は短く直立する。底部は丸底。 外面：口縁部横撫で。体～底部箆削り。 内面：口縁部横撫で。体～底部箆撫で。	
H-41-4 覆土	H-41№1	須恵器 蓋	①10.2 ④[2.2]	①中粒②良好(還元) ③灰白10Y7/1 ④摘を除き完形	上半身は回転箆削り。かえりが付く。 ロクロ整形。摘欠損。	
H-42-1 床付近	H-42№3	須恵器 羽釜	①(21.6) 鍔径：(25.0) ④[17.5]	①中粒(白色粒含む) ②良好(還元)③灰黄褐 10YR6/2④口縁～胴部片	胴部上位の張りは弱く、口縁部はほぼ直立する。鍔部はやや上方を向き、口唇部は平坦で水平。ロクロ整形。胴部中位から下位に向かい縦～斜方向箆削り。	
H-43-1 貯蔵穴	H-43Ｐ５№1	土師器 坏	①13.2 ④7.3	①細粒②良好(酸化) ③橙2.5YR6/6 ④完形	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は直立する。底部は丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部箆削り。 内面：口縁部横撫で。体～底部撫で。	
H-43-2 床直	H-43№2	土師器 小型甕	①13.1 ③14.3 ④15.1	①中粒(褐色粒含む) ②良好(酸化)③にぶい橙 7.5YR6/4④ほぼ完形	口縁部は外反する。底部は丸底。 外面：口縁部横撫で。胴部斜方向箆削り。 内面：口縁部横撫で。胴部箆撫で。	
H-43-3 貯蔵穴	H-43Ｐ５№3	土師器 鉢	①20.2 ②7.4 ④12.4	①中粒②良好(酸化) ③明赤褐2.5YR5/6 ④完形	口縁部は外反する。 外面：口縁部横撫で。胴部縦方向箆削り。 内面：口縁部横撫で。胴部撫で。	
H-43-4 床直	H-43№1	土師器 甑	①21.0 ②6.2 ④11.9	①中粒②良好(酸化) ③橙5YR6/6 ④口縁～胴部片	口縁部はやや内湾ぎみの逆ハの字状を呈する。外面：口縁部横撫で。胴部縦方向箆削り。内面：口縁部横撫で。胴部箆撫で。底部は有底で、大１・小７の穿孔。	
H-43-5 床付近	H-43№7・一括・H-44一括	土師器 坏	①(12.4) ④3.9	①細粒②良好(酸化) ③明赤褐2.5YR5/6 ④1/2残	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は内傾する。底部は丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部箆削り。 内面：口縁部横撫で。体～底部箆撫で。	
H-43-6 床付近	H-43№5	土師器 坏	①(12.4) ④3.5	①細粒(石英含む) ②良好(酸化)③にぶい橙 5YR7/4④口縁部欠損	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は短く内傾する。底部は丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部箆削り。 内面：口縁部横撫で。体～底部箆撫で。	
H-43-7 床直	H-43№4・6・一括	土師器 坏	①12.6 ④4.5	①細粒②良好(酸化) ③にぶい赤褐5YR4/4 ④ほぼ完形	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は内傾する。底部は丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部箆削り。 内面：口縁部横撫で。体～底部箆撫で。	
H-43-8 貯蔵穴	H-43Ｐ５№2	土師器 壺	①11.6 ②5.6 ④11.7	①細粒②良好(酸化) ③灰白10YR8/1 ④ほぼ完形	口縁部はやや外反する。 外面：口縁部横撫で。胴部箆削り後磨き。 内面：口縁部横撫で。胴部箆撫で。	
H-43-9 貯蔵穴	H-43Ｐ５№4	土師器 小型甕	①13.2②6.2 ③15.6④12.7	①中粒②良好(酸化) ③橙5YR7/6 ④ほぼ完形	口縁部は外反する。 外面：口縁部横撫で。胴部箆削り。 内面：口縁部横撫で。胴部箆撫で。台付か。	
H-45-1 Ｄ-1	H-45Ｄ-1№1	須恵器 坏	①10.4 ②5.4 ④3.2	①細粒(小礫含む) ②良好(酸化) ③橙7.5YR7/6④完形	体部は内湾する。 ロクロ整形。底部回転糸切り。	土師質。

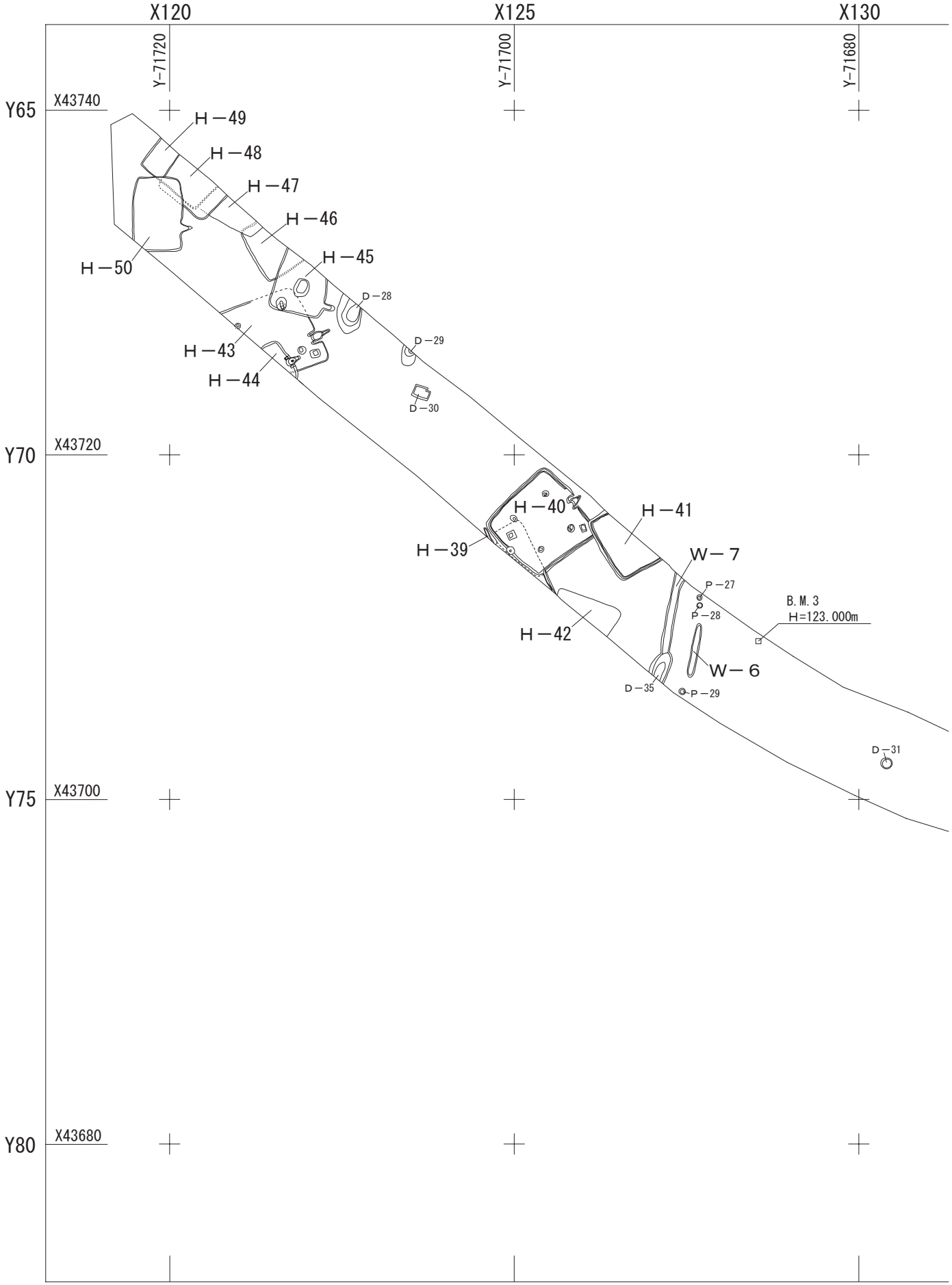
遺物番号 出土位置	台帳番号	器　種	法　　量	①胎土②焼成 ③色調④残存	器形の特徴、成・整形方法	備　　考
H-45-2 覆土	H-45一括	須恵器 高台付埦	①(13.0) ②6.8 ④5.3	①細粒(輝石含む) ②良好(酸化)③明赤褐 2.5YR5/6④2/5残	体部は内湾し、口縁部はやや外反する。内面篦磨き。 ロクロ整形。底部回転糸切り。高台貼付。	内黒土器。
H-45-3 床付近	H-45№1	須恵器 坏	①11.6 ②5.8 ④3.1	①中粒(小礫含む) ②良好(酸化) ③にぶい橙7.5YR7/4④完形	体部は内湾する。 ロクロ整形。底部回転糸切り。	土師質。
H-46-1 床直	H-46№1	土師器 坏	①11.0 ④3.4	①細粒②良好(酸化) ③橙5YR6/8 ④完形	口縁と体部の境に弱い稜を有し、口縁部は直立する。底部は丸底。外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。 内面：口縁部横撫で。体～底部篦撫で。	
H-46-2 床直	H-46№3	土師器 小型鉢	①8.9 ④5.5	①細粒②良好(酸化) ③にぶい橙7.5YR6/4 ④ほぼ完形	胴部は内湾し、口縁部はやや内傾する。 外面：口縁～体部篦削り後磨き。底部篦削り。 内面：磨き。	内黒土器。
H-50-1 床直	H-50№24	須恵器 坏	①(13.5) ②7.6 ④3.5	①細粒②良好(還元) ③灰5Y5/1 ④1/2残	体部は内湾して、口縁部は外反する。 ロクロ整形。底部静止糸切り。	
H-50-2 床直	H-50カ№6,№5・10・一括	須恵器 甕	②(18.4) ③(38.0) ④[41.3]	①中粒(白色粒含む) ②良好(還元)③灰10Y5/1 ④頸部～底部片	胴部上位で丸みを有し、頸部は外反する。 内外面：撫で。	
H-50-3 床直	H-50№9	瓦 平瓦	長さ[15.6]cm 幅[13.4]cm 厚さ1.8cm	①中粒(白色粒含む) ②良好(還元) ③灰黄2.5Y6/2④破片	凸面：素文。撫で。 凹面：布目圧痕。 側部：面取り2回。	
H-50-4 床直	H-50一括	瓦 平瓦	長さ[17.3]cm 幅[19.0]cm 厚さ2.3cm	①中粒(白色粒含む) ②良好(還元) ③灰10Y5/1④破片	凸面：素文。撫で。 凹面：布目圧痕。 側部：面取り3回。	凸面に篦描。 「□」「川」か。
T-2-1 床付近	T-2№6	須恵器 鉢か	①(16.6) ④[7.9]	①細粒(小礫含む)②良好 (還元)③灰7.5Y5/1 ④口～胴部片	口縁部は直立する。 ロクロ整形。胴部中位に一条の沈線が横走する。	
T-3-1 覆土	T-3一括	土師器 坏	①(9.9) ④[2.4]	①細粒②良好(酸化) ③橙5YR6/6 ④口～底部片	口縁部は直立する。底部は丸底であろう。 外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。 内面：口縁部横撫で。体～底部撫で。	
W-1-1 覆土	W-1一括	瓦 平瓦	長さ[13.5]cm 幅[6.5]cm 厚さ2.0cm	①中粒②良好(酸化) ③にぶい赤褐5YR5/4 ④破片	凸面：斜格子叩き。 凹面：布目圧痕。	凸面に刻印。 「勢」か。
W-1-2 覆土	W-1一括	砥石	長さ11.7cm　幅4.0cm　厚さ4.1cm　重さ270g 石材：砥沢石か　完形		4面使用し、研磨痕著しく弓張り状を呈する。側面に研ぎ傷あり。	
W-1-3 覆土	W-1一括	土師器 坏	①(12.4) ②(8.5) ④3.8	①細粒②良好(酸化) ③橙5YR6/6 ④口～底部片	口縁部は直線的に大きく開く。底部は平底。 外面：口縁部横撫で。体～底部篦削り。 内面：口縁部横撫で。体～底部撫で。	
W-4-1 覆土	W-4一括	須恵器 坏	①(13.0) ②(8.4) ④3.6	①細粒②良好(還元) ③褐灰10YR6/1 ④1/3残	口縁部は外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り。	
W-5-1 床付近	H-11№6	須恵器 羽釜	①(22.4) ④[7.0]	①水簸②良好(還元) ③10YR6/2灰黄褐 ④口縁部片	口縁部はほぼ直立する。鍔は断面三角形で突出する。胴部は緩やかに内湾する模様。 ロクロ整形。	
D-4-1 覆土	D-4№1	土師器 坏	①13.8 ④4.9	①細粒②良好(酸化) ③明赤褐5YR5/8 ④完形	口縁と体部の境に稜を有し、口縁部は外反する。底部は丸底。外面：口縁部横撫で。体部篦削り。 内面：口縁部横撫で。体部篦撫で。	
D-4-2 覆土	H-6№1	須恵器 高台付 皿	①13.5 ②6.0 ④3.2	①細粒②良好(還元) ③灰白2.5Y7/1④2/3残	体部は直線的に立ち上がり、口縁部でやや外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
D-5-1 覆土	D-5№1	須恵器 坏	①12.6 ②7.2 ④3.4	①細粒(小礫含む) ②良好(還元) ③灰白10YR8/1④ほぼ完形	体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。ロクロ整形。底部回転糸切り。	
D-5-2 覆土	D-5一括	須恵器 高台付埦	①(13.6) ②6.0 ④[4.3]	①細粒②良好(酸化) ③浅黄橙10YR8/3 ④2/3残	体部は内湾して口縁部で外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り。高台部欠損。	
D-7-1 覆土	D-7一括	土師器 甕	①(21.7) ④[4.2]	①細粒②良好(酸化) ③にぶい橙5YR6/4 ④口～頸部片	口縁部は「コ」字状を呈する。 外面：口縁部横撫で。 内面：口縁部横撫で。	
D-33-1 覆土	D-33№8	土師器 坏	①12.1 ②8.7 ④2.9	①細粒(白色粒含む) ②良好(酸化)③橙 2.5YR6/6④ほぼ完形	体部は直線的に外傾し、口縁部に至る。底部は平底。外面：口縁部上位横撫で。下位は無調整。底部篦削り。内面：口縁部横撫で。体部撫で。	
D-33-2 覆土	D-33№4	須恵器 坏	①(13.2) ②(6.8) ④3.5	①細粒②良好(還元) ③灰白10YR8/2 ④口～底部片	体部は内湾ぎみに開く。 ロクロ整形。底部回転糸切り無調整。	
D-34-1 覆土	D-34№2・3	須恵器 坏	①13.4 ②6.4 ④4.2	①細粒②良好(酸化) ③明赤褐2.5YR5/6 ④4/5残	体部は内湾して、口縁部は外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り。	
D-34-2 覆土	D-34№1	須恵器 高台付 皿	①(13.8) ②7.0 ④3.5	①細粒②良好(還元) ③にぶい黄橙10YR7/2 ④3/4残	口縁部は外反する。 ロクロ整形。底部回転糸切り。高台貼付。	
DB-2-1 覆土	DB-2№1-1	古銭	径2.3cm　厚さ0.1cm　重さ2.15　方孔0.55cm		不明。	
DB-2-2 覆土	DB-2№1-2	古銭	径2.4cm　厚さ0.05cm　重さ2.43g　方孔0.7cm		不明。	

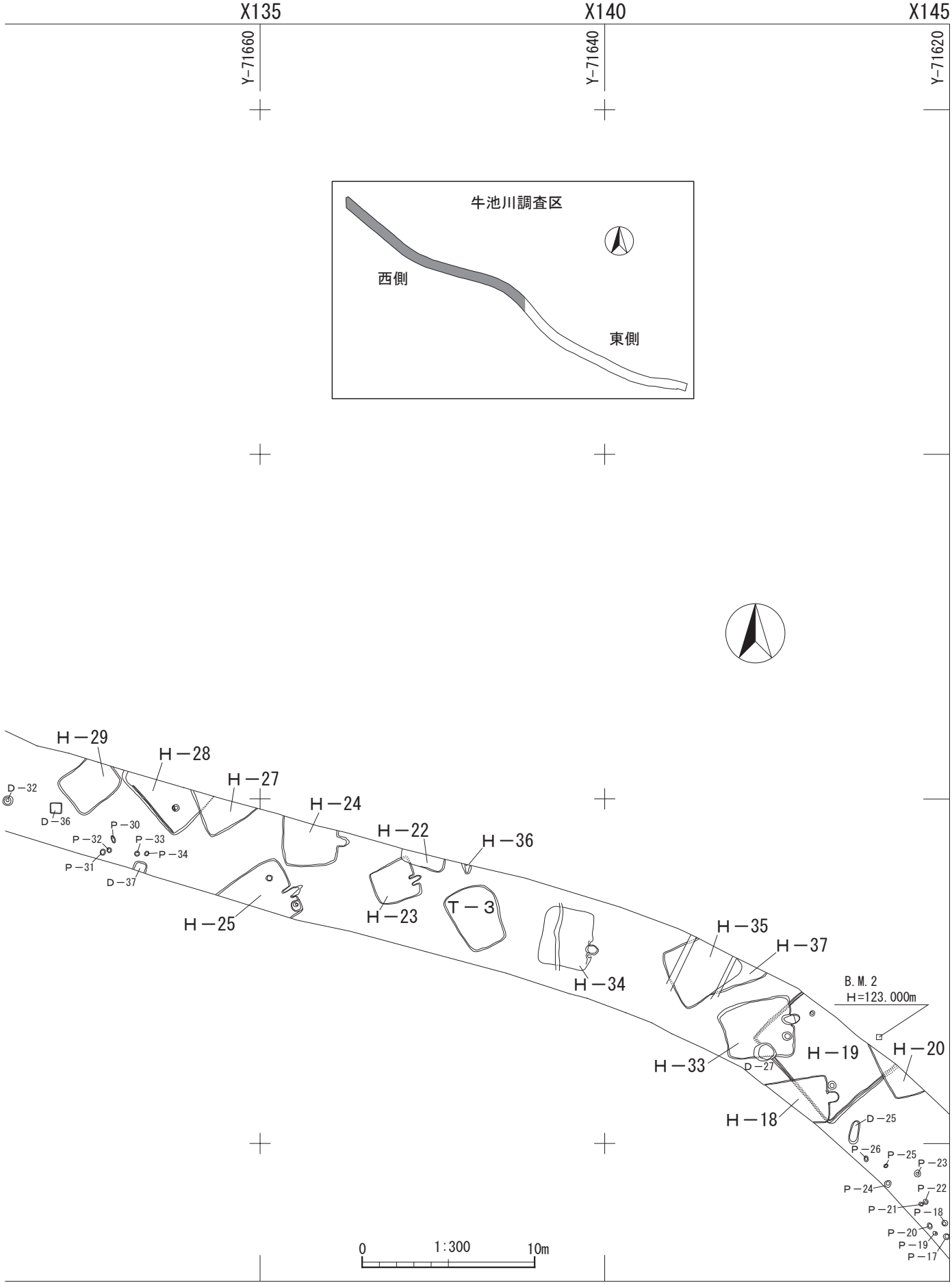
遺物番号 出土位置	台帳番号	器　種	法　　量	①胎土②焼成 ③色調④残存	器形の特徴、成・整形方法	備　　考
DB-2-3 覆土	DB-2 №1-3	古銭 明銭	径2.3cm　厚さ0.15cm　重さ3.77g 方孔0.55cm		「洪武通宝」1638初鋳。明銭。	
DB-2-4 覆土	DB-2 №1-4	古銭 明銭	径2.25cm　厚さ0.1cm　重さ3.19g 方孔0.5cm		「洪武通宝」1638初鋳。明銭。	
DB-2-5 覆土	DB-2 №2	古銭 宋銭	径2.5cm　厚さ0.1cm　重さ3.66g 方孔0.7cm		「天聖元宝」1023初鋳。宋銭。	
DB-2-6 覆土	DB-2 №3	古銭 明銭	径2.3cm　厚さ0.1cm　重さ2.16g 方孔0.65cm		「洪武通宝」1638初鋳。明銭。	
遺構外 -1	牛池川区 一括	石製品	長さ3.4cm　幅2.9cm　厚さ0.7cm　穿孔1.0cm 重さ8.84g　石材：不明　ほぼ完形		台形状を呈し、薄い作り。	

西通線調査区

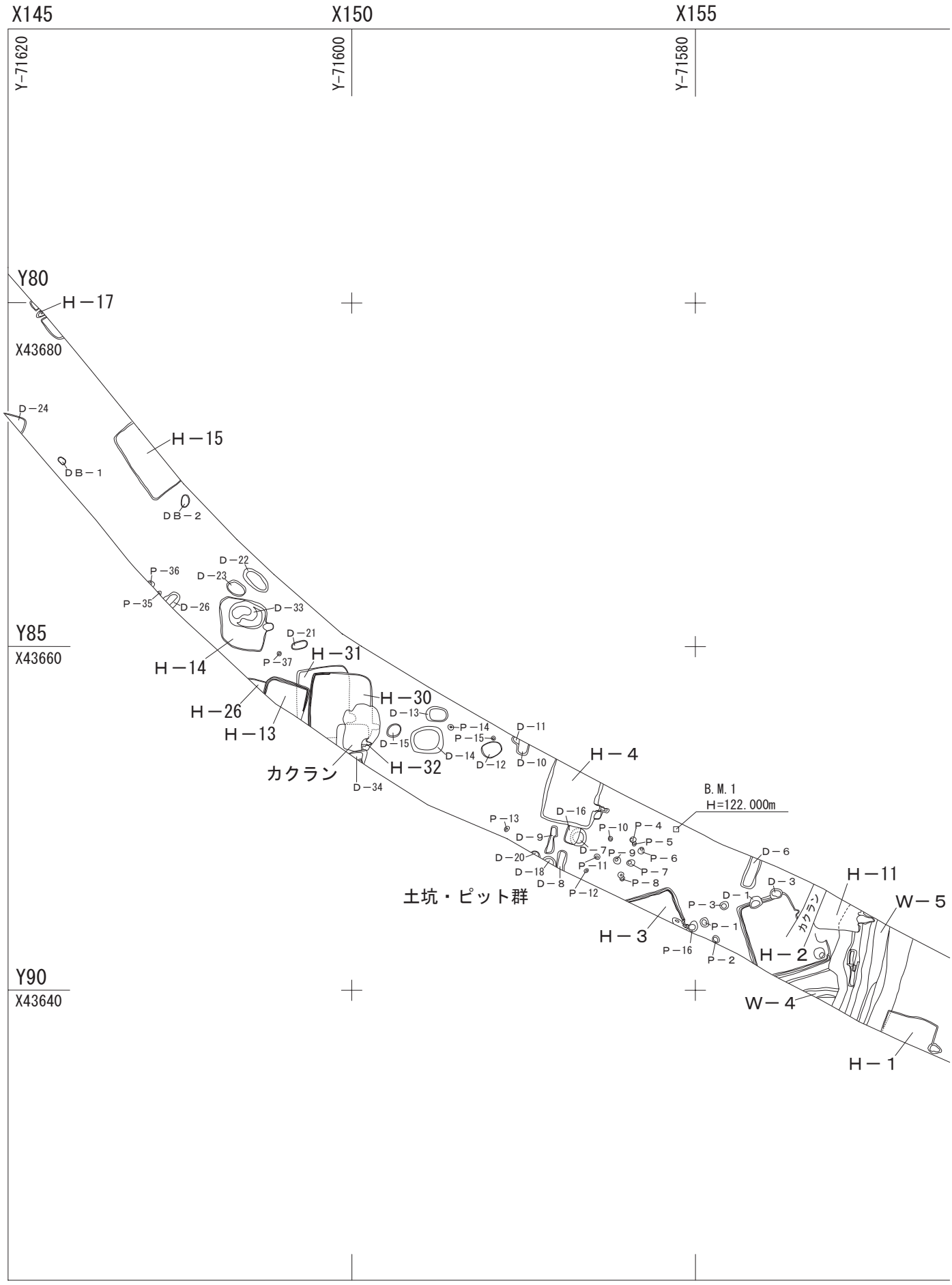
W-5-1 覆土	W-5一括	石臼	直径(33.0)cm　くぼみ高3.1cm　ふくみ高1.3cm　供給口径[5.5]cm　芯穴径[2.9～5.5]cm 芯穴高4.0cm　挽き手穴径[3.6～4.2]cm　重さ3520g　石材：安山岩			
W-5-2 覆土	W-5一括	くぼみ石	長さ[14.7]cm　幅[16.5]cm　厚さ9.4cm　重さ2825g　石材：安山岩			
W-5-3 覆土	W-5一括	棒状石器	長さ14.6cm　幅6.2cm　厚さ4.2cm　重さ565g　石材：安山岩			
I-1-1 覆土	I-1一括	カワラケ	②(6.4) ④[1.5]	①細粒②良好(酸化) ③橙7.5YR6/6 ④体～底部片	体部は外傾する。底部内面に朱色・黒色の画描あり。 ロクロ整形。底部回転糸切り。	
I-1-2 覆土	I-1一括	平瓦	長さ[19.9]cm 幅[12.3]cm 厚さ3.6cm	①粗粒(白色粒含む) ②良好(還元) ③灰10Y4/1④破片	凸面：素文。撫で。 凹面：布目圧痕。 側部：面取り3回。	凸部に刻書。 「□里□」
I-1-3 覆土	I-1一括	軟質陶器 内耳鍋	①(41.8) ②(31.0) ④16.7	①中粒(小礫含む)②良好 (還元)③灰10Y5/1 ④口～底部片	器壁は薄く、器表は黒灰色。外面に煤付着。口縁端部は平坦。口縁部下くびれ。体部内外面篦削り。	
I-1-4 覆土	I-1一括	くぼみ石	長さ13.2cm 幅17.0cm 厚さ9.6cm 重さ2165g 石材：安山岩			
I-3-1 覆土	I-3一括	灯明皿	①6.5 ②4.3 ④2.0	①細粒②良好(酸化) ③浅黄橙10YR8/4 ④ほぼ完形	体部は外傾し、口縁部に至る。 ロクロ整形。底部回転糸切り。	口唇上に油付着。
I-3-2 覆土	I-3一括	板碑	長さ[24.5]cm　幅[18.3]cm　厚さ2.4cm　重さ1875g　石材：緑泥片岩			花瓶を描画か。

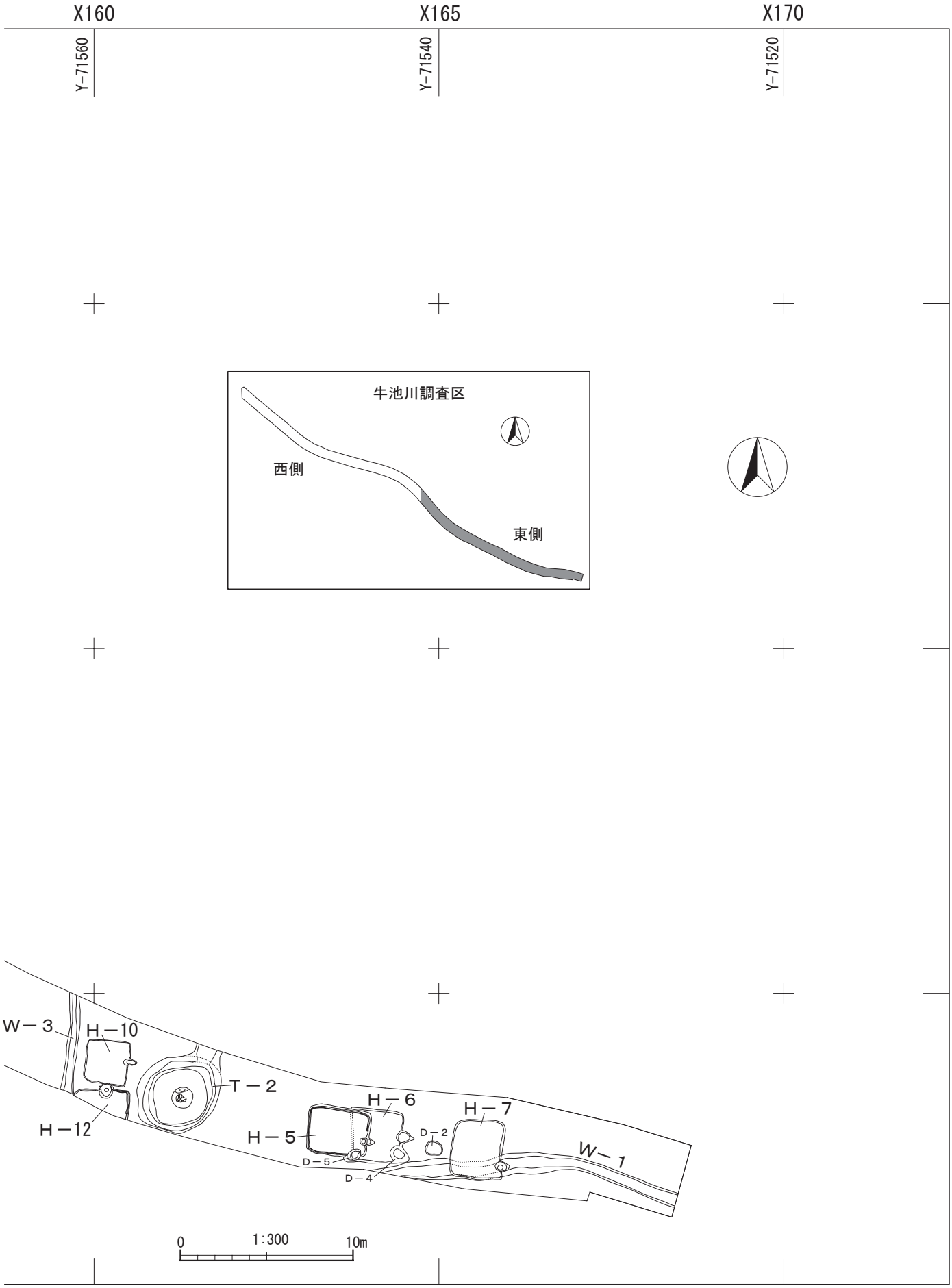
出土位置は、床直（床面より5cm以内の層位から出土）、床付近（床面から5.5～10.0cmまでに出土）、覆土（床面から10.5cm以上から出土）の3段階に分けた。竈内の出土については「竈」、貯蔵穴内は「貯蔵穴」、ピット内はそのピット番号、土坑内はその土坑番号を記載した。
台帳番号は調査時の付番で、遺物の注記番号と一致する。
胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合には鉱物名等を記載した。
焼成は、極良、良好、不良の3段階とした。
色調は土器外面で観察し、色名は『新版標準土色帳』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修　財団法人日本色彩研究所　色票監修　2000）によった。


X120
X125
X130
Y-71720
Y-71700
Y-71680
Y65
X43740
Y70
X43720
Y75
X43700
Y80
X43680
H－49
H－48
H－47
H－46
H－45
H－50
D－28
D－29
H－43
H－44
D－30
H－40
H－41
H－39
W－7
P－27
P－28
B.M.3
H=123.000m
H－42
W－6
D－35
P－29
D－31

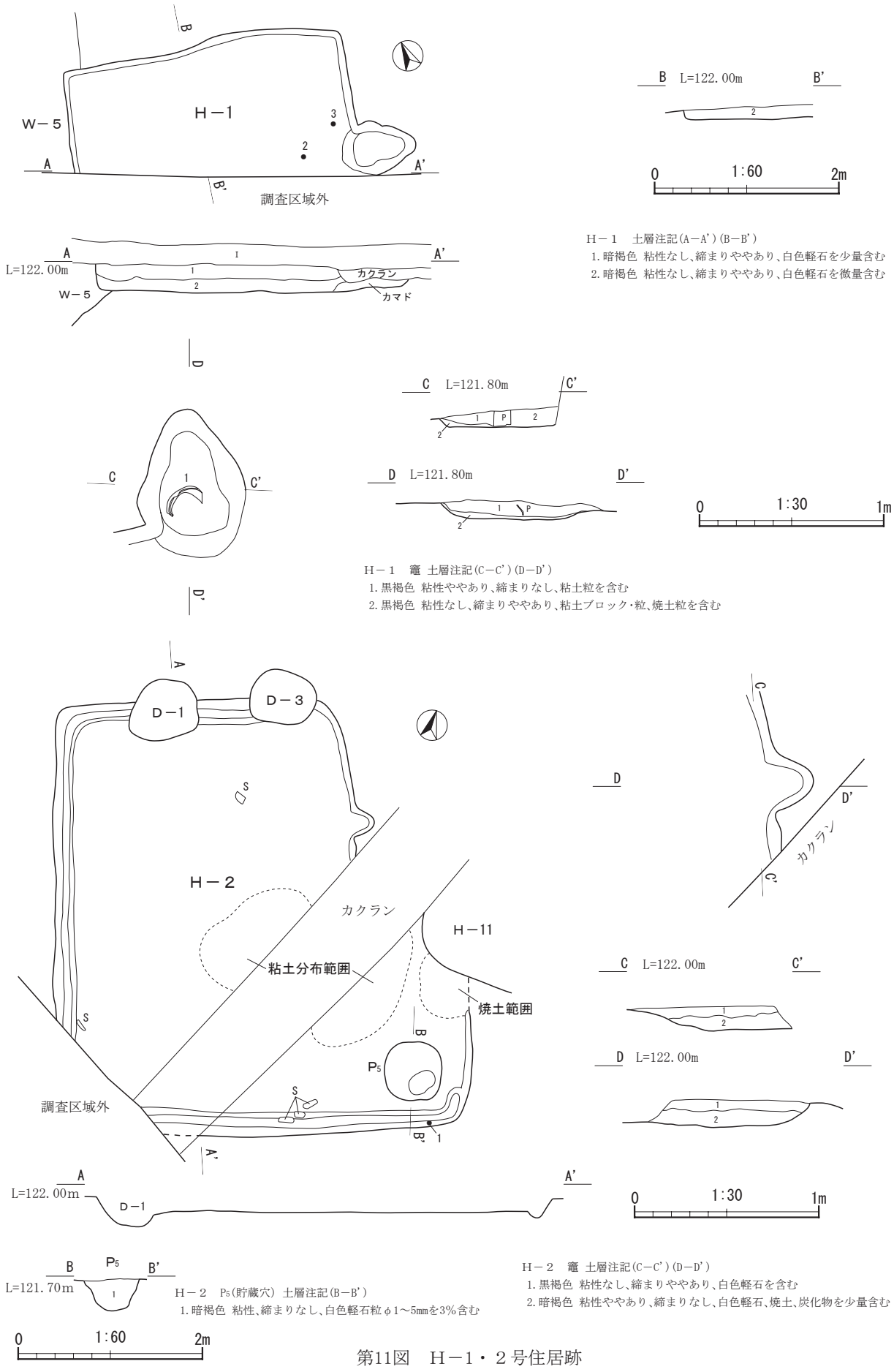


第９図　牛池川調査区西側全体図

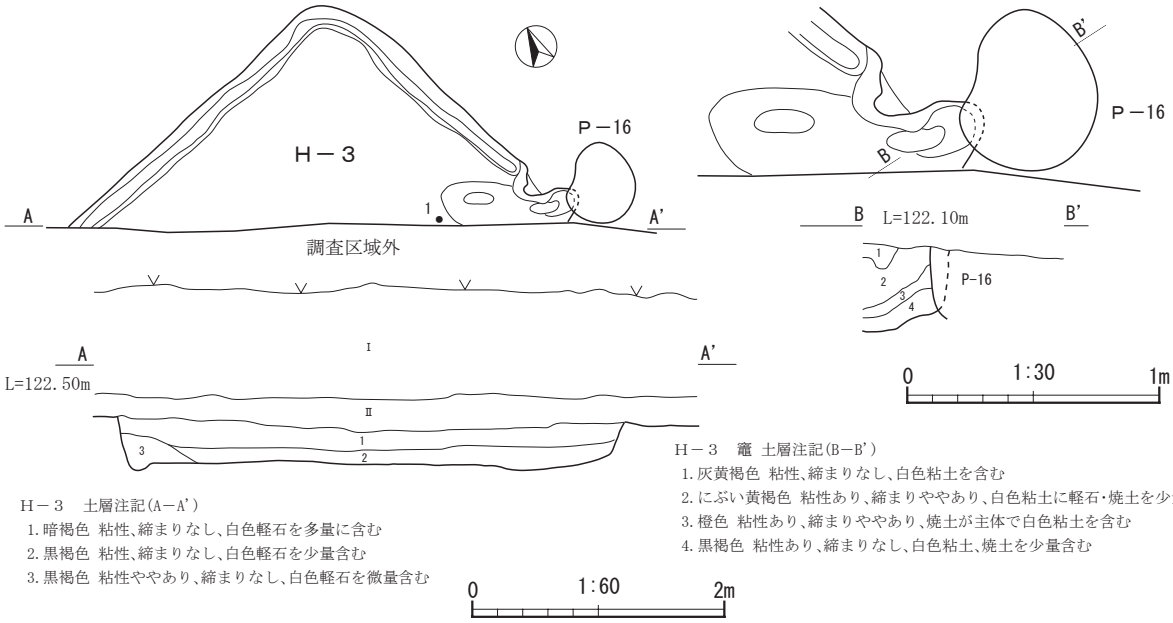

X145
X150
X155
Y-71620
Y-71600
Y-71580
Y80
X43680
Y85
X43660
Y90
X43640
H－17
H－15
H－14
H－31
H－30
H－26
H－13
H－32
H－4
H－3
H－2
H－11
H－1
W－5
W－4
カクラン
土坑・ピット群
B.M.1
H=122.000m
D－24
DB－1
DB－2
D－22
D－23
P－36
P－35
D－26
D－33
D－21
P－37
D－13
P－14
P－15
D－15
D－14
D－12
D－11
D－10
D－34
D－16
P－13
P－10
P－4
P－5
P－9
P－6
P－7
P－8
D－9
D－7
D－20
D－18
D－8
P－11
P－12
D－6
D－3
D－1
P－3
P－1
P－16
P－2



第10図　牛池川調査区東側全体図

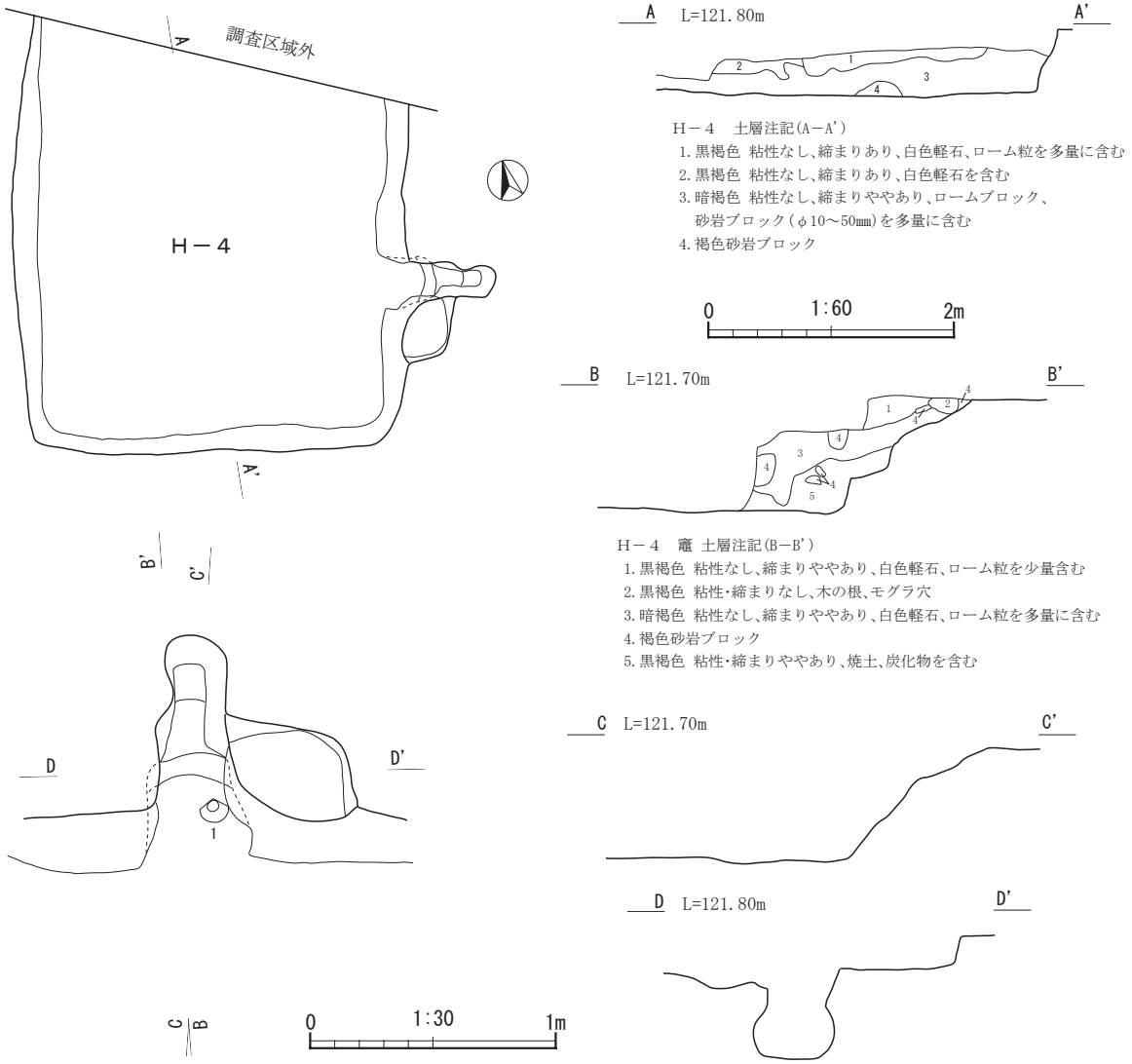


第11図　H－1・2号住居跡



H－3　土層注記(A－A')
1.暗褐色　粘性、締まりなし、白色軽石を多量に含む
2.黒褐色　粘性、締まりなし、白色軽石を少量含む
3.黒褐色　粘性ややあり、締まりなし、白色軽石を微量含む

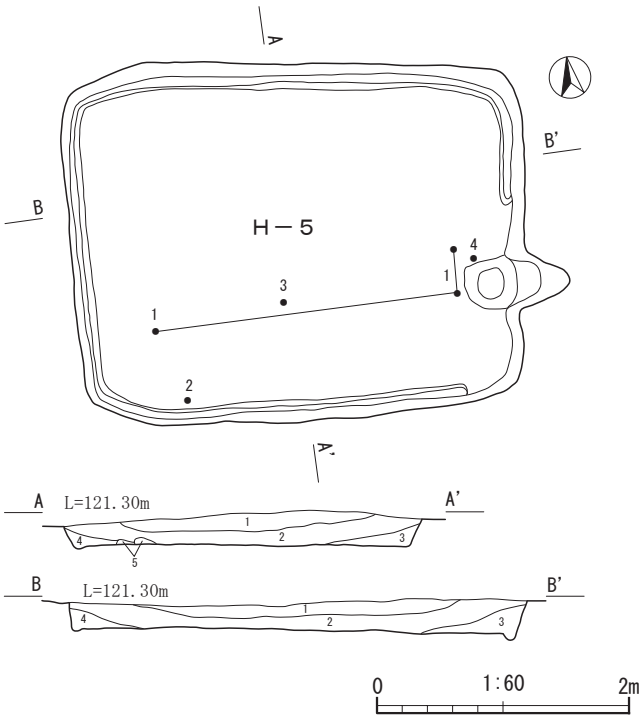
H－3　竈　土層注記(B－B')
1.灰黄褐色　粘性、締まりなし、白色粘土を含む
2.にぶい黄褐色　粘性あり、締まりややあり、白色粘土に軽石・焼土を少量含む
3.橙色　粘性あり、締まりややあり、焼土が主体で白色粘土を含む
4.黒褐色　粘性あり、締まりなし、白色粘土、焼土を少量含む



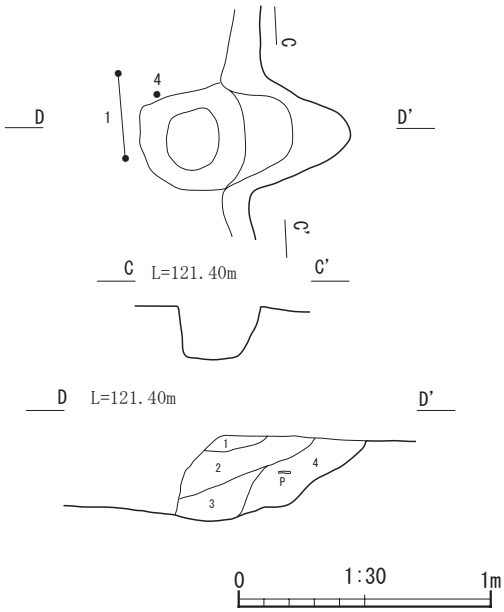
H－4　土層注記(A－A')
1.黒褐色　粘性なし、締まりあり、白色軽石、ローム粒を多量に含む
2.黒褐色　粘性なし、締まりあり、白色軽石を含む
3.暗褐色　粘性なし、締まりややあり、ロームブロック、
　砂岩ブロック(φ10～50㎜)を多量に含む
4.褐色砂岩ブロック

H－4　竈　土層注記(B－B')
1.黒褐色　粘性なし、締まりややあり、白色軽石、ローム粒を少量含む
2.黒褐色　粘性・締まりなし、木の根、モグラ穴
3.暗褐色　粘性なし、締まりややあり、白色軽石、ローム粒を多量に含む
4.褐色砂岩ブロック
5.黒褐色　粘性・締まりややあり、焼土、炭化物を含む

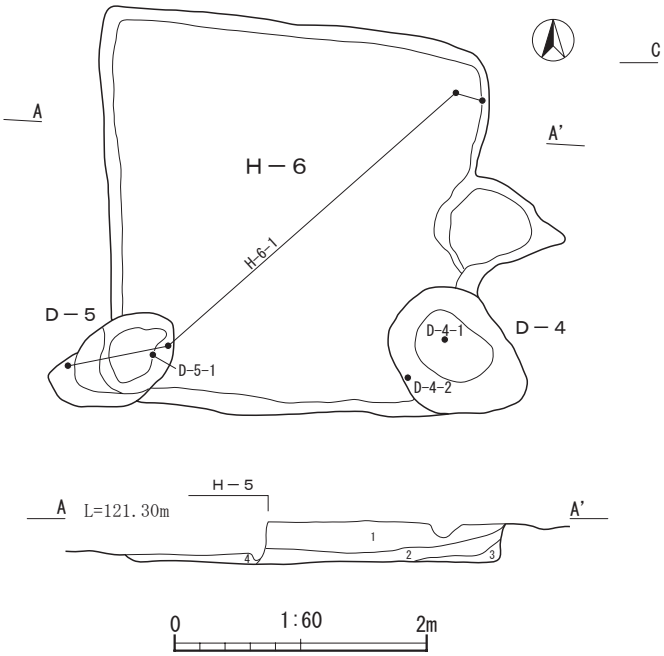
第12図　H－3・4号住居跡



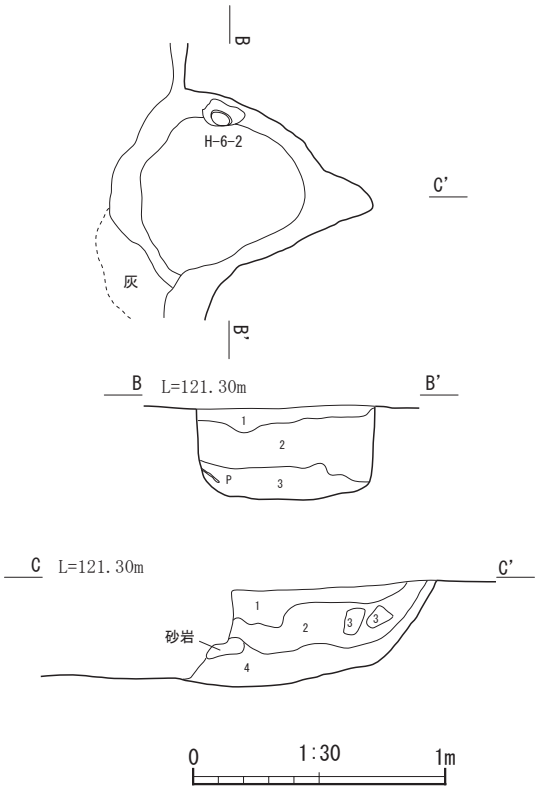
H－5　土層注記(A－A')(B－B')
1.暗褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石を含む
2.暗褐色 粘性・締まりなし、白色軽石を少量含む 土器片あり
3.暗褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石を少量含む
4.黄褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石を微量含む
5.黄褐色 粘性・締まりややあり、きめの細かい土



H－5　竈 土層注記(D－D')
1.暗褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石を含む
2.暗褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石を多量に含む
3.暗褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石、焼土を含む
4.灰黄褐色 粘性あり、締まりややあり、焼土、炭化物を含む

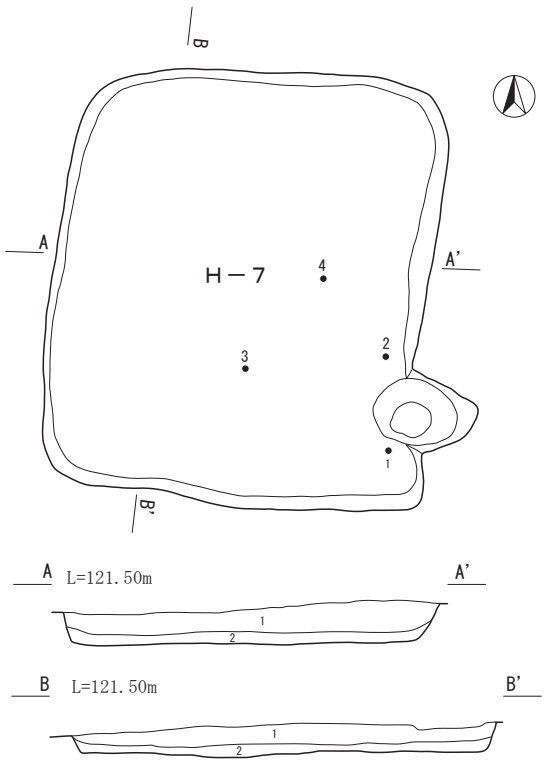


H－6　土層注記(A－A')
1.褐色 粘性なし、締まりあり、白色軽石を含む
2.暗褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石を含む
3.暗褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石、焼土、炭化物を含む
4.黒褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石を少量含む

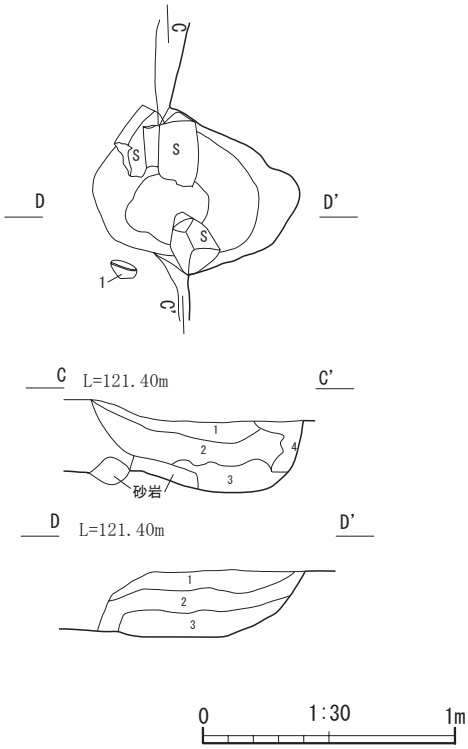


H－6　竈 土層注記(B－B')(C－C')
1.黒褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石を少量含む
2.暗褐色 粘性あり、締まりややあり、焼土粒・ブロック、白色軽石を含む
3.赤褐色 粘性なし、締まりあり、焼土ブロック
4.赤褐色 粘性あり、締まりややあり、焼土粒・ブロックを含む

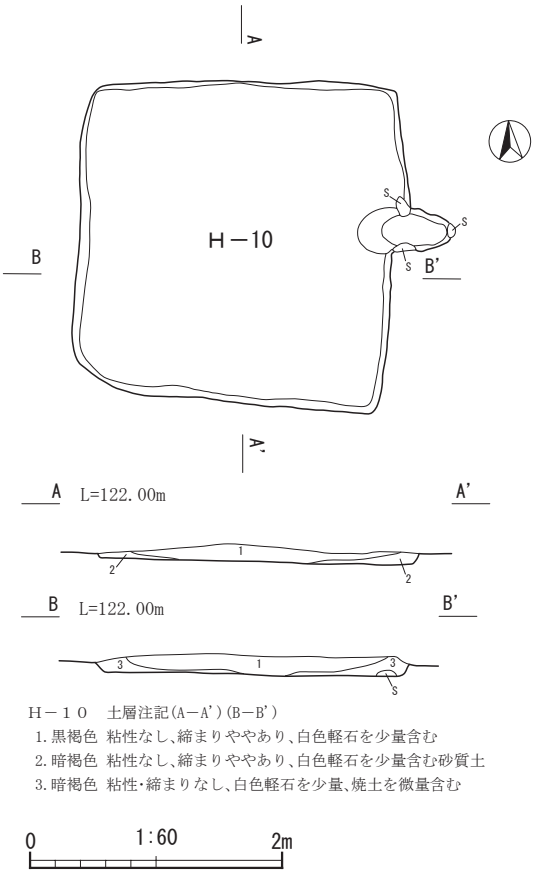
第13図　H－5・6号住居跡



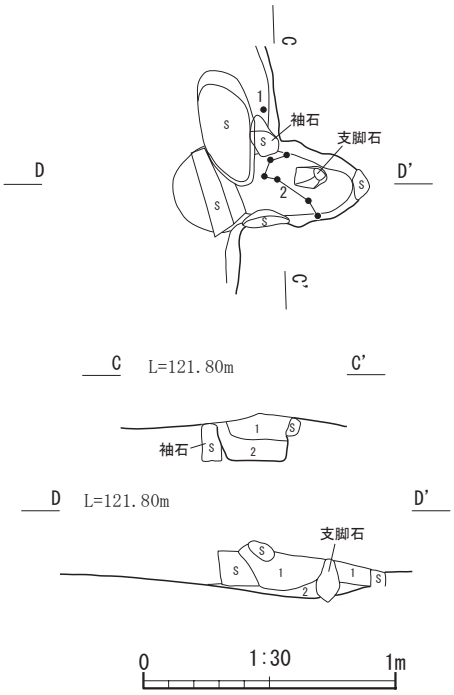
H－７　土層注記(A－A')(B－B')
1.暗褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石を含む
2.暗褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石を多量に含む



H－７　竈 土層注記(C－C')(D－D')
1.暗褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石を含む
2.暗褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石、焼土粒を少量含む
3.暗褐色 粘性、締まりややあり、焼土ブロックを含む
4.暗褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石を含む

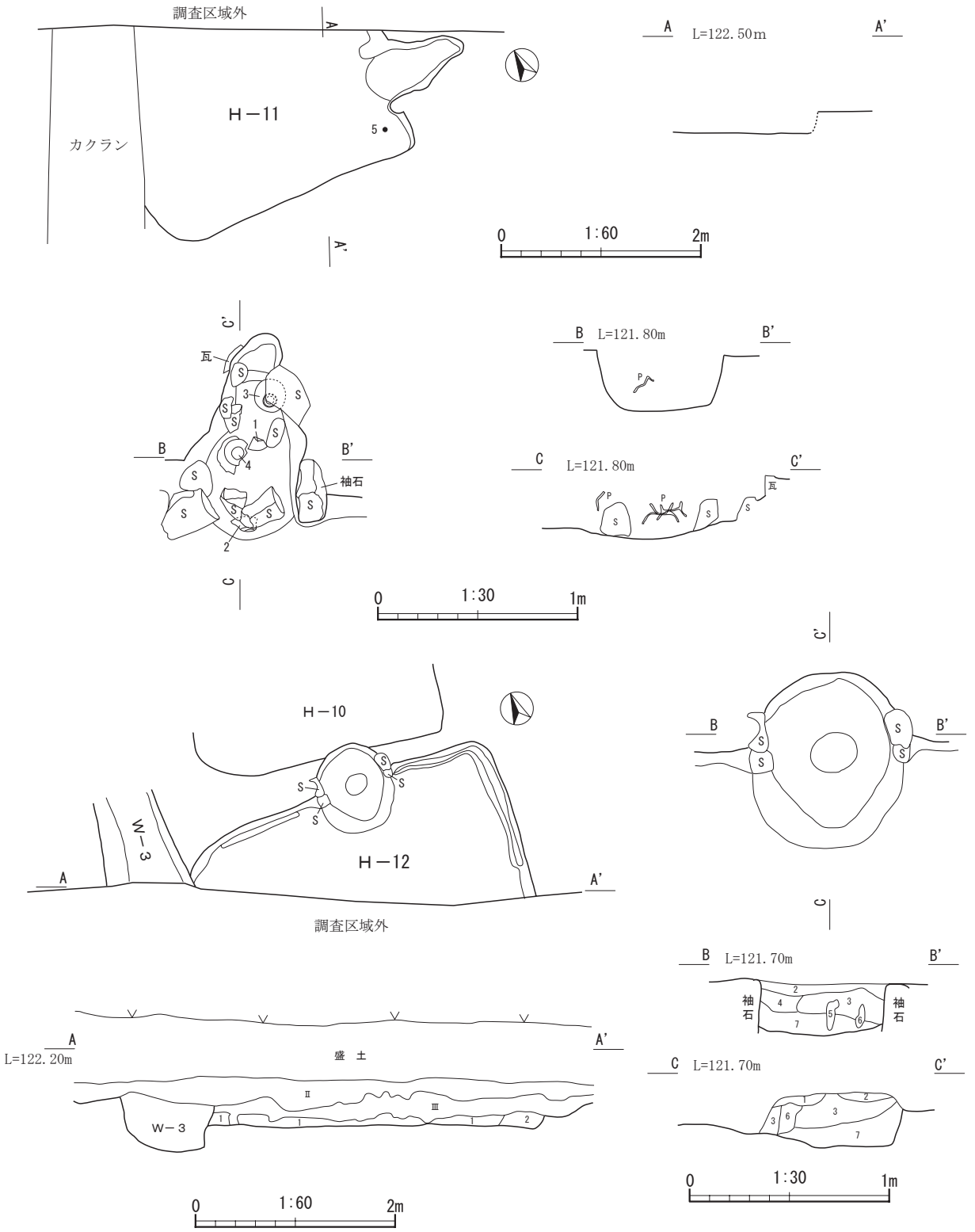


H－１０　土層注記(A－A')(B－B')
1.黒褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石を少量含む
2.暗褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石を少量含む砂質土
3.暗褐色 粘性・締まりなし、白色軽石を少量、焼土を微量含む



H－１０　竈 土層注記(C－C')(D－D')
1.黒褐色 粘性なし、締まりあり、白色軽石を含む
2.黒褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石、焼土を少量含む

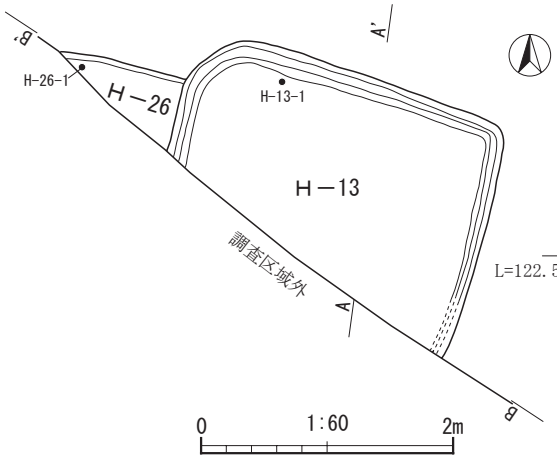
第14図　H－７・10号住居跡

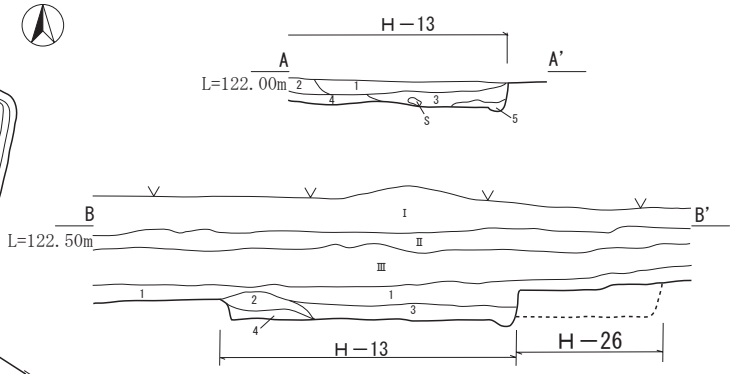


Ｈ－１２　土層注記(A－A')
1. にぶい黄褐色 粘性・締まりややあり、粘土粒を多量に含む
2. 黒褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石を含む

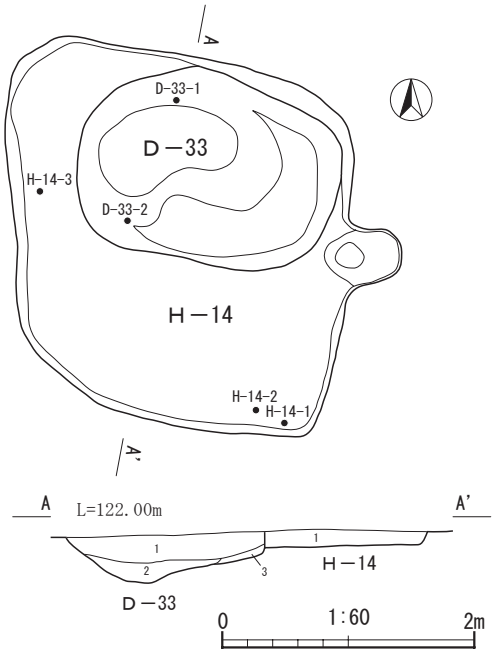
Ｈ－１２　竈 土層注記(B－B')(C－C')
1. 暗褐色 粘性・締まりなし、白色軽石を多量に含む
2. 黒褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石、粘土粒を少量含む
3. にぶい黄褐色 粘性ややあり、締まりあり、白色軽石、粘土粒、焼土を含む
4. 黒褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石を含む
5. にぶい黄褐色　焼土を多量に含む
6. 木の根の痕
7. 黒褐色 粘性、締まりなし、焼土・粘土ブロックを含む

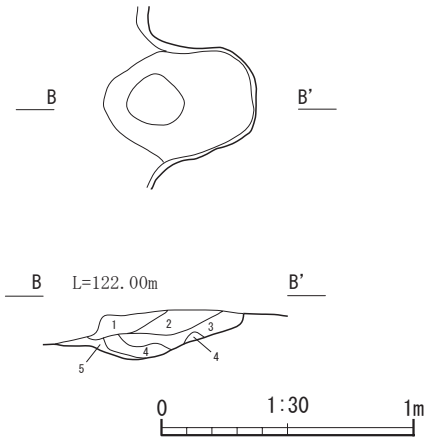
第15図　Ｈ－11・12号住居跡





H－13　土層注記(A－A')(B－B')
1.暗褐色　白色軽石を含む
2.暗褐色　白色軽石、焼土、ローム粒を含む
3.暗褐色　白色軽石、ローム粒を少量含む
4.暗褐色　白色軽石、ローム粒を微量含む
5.褐色　白色軽石を微量、ローム粒を多量に含む

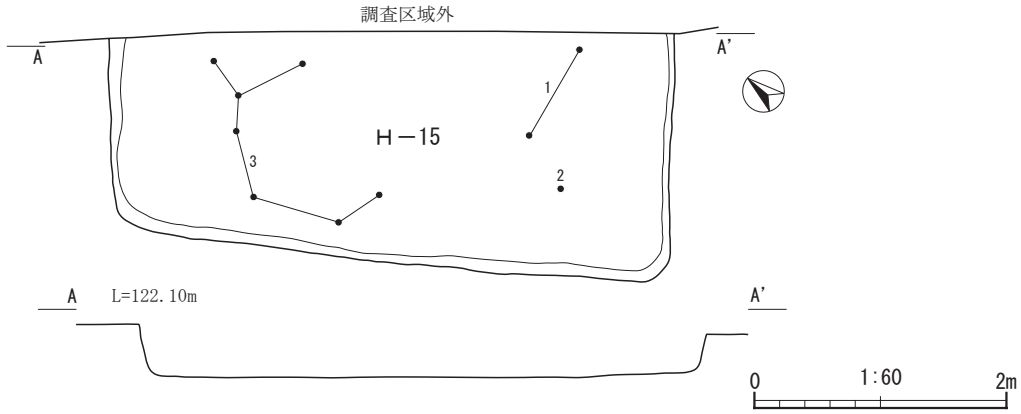




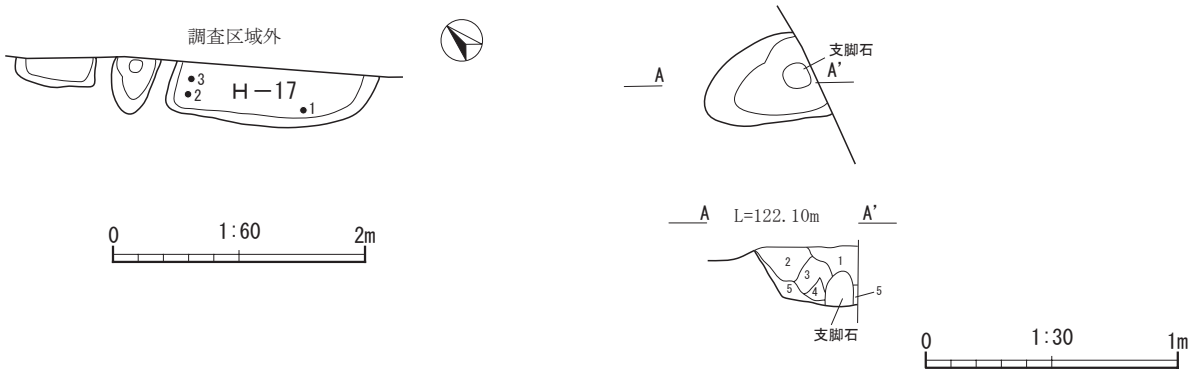
H－14　土層注記(A－A')
1.暗褐色　粘性なし、締まりあり、白色軽石を含む

D－33 土層注記(A－A')
1.黒褐色　粘性ややあり、締まりあり、白色軽石を多量に含む
2.黒褐色　粘性・締まりややあり、白色軽石を少量含む
3.暗褐色　粘性・締まりややあり、白色軽石を少量含む

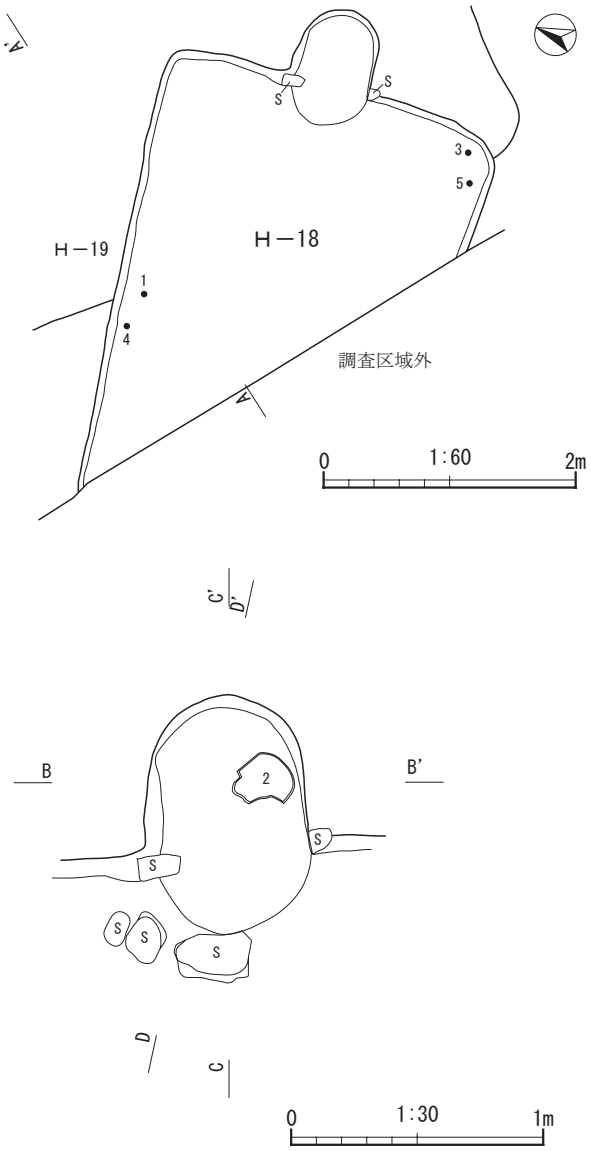
H－14　竈　土層注記(B－B')
1.暗褐色　粘性なし、締まりあり、白色軽石、焼土、炭化物を含む
2.暗褐色　粘性なし、締まりあり、白色軽石、焼土を少量含む
3.赤色　粘性ややあり、締まりあり、焼土ブロック
4.暗褐色　粘性・、締まりややあり、灰層
5.黒褐色　粘性・締まりややあり、炭化物層

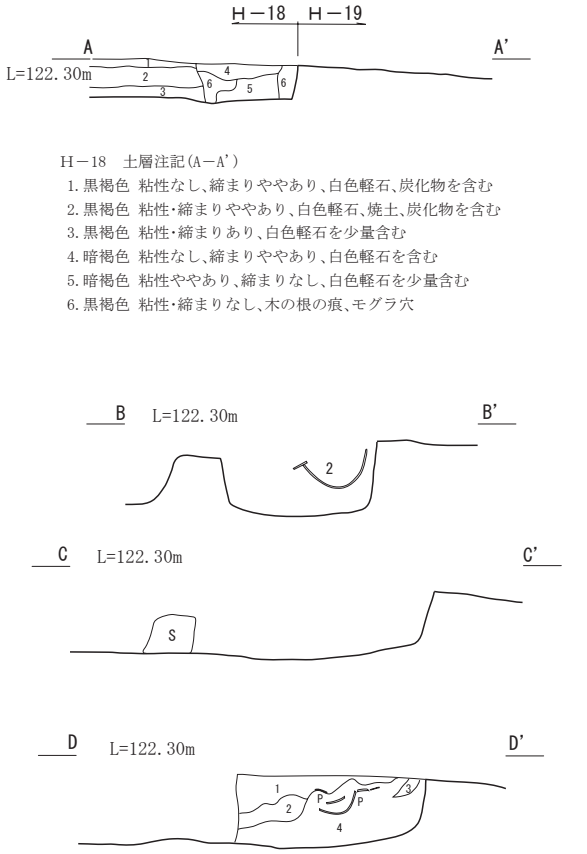


第16図　H－13～15・26号住居跡、D－33号土坑



H-17　竈 土層注記(A－A')
1. にぶい黄橙色 粘性ややあり、締まりなし、粘土が主体で、下位は焼けている
2. 暗褐色 粘性・締まりなし、白色軽石を含み、下位に1. の粘土層がある
3. にぶい褐色 粘性ややあり、締まりなし、白色軽石、焼土を含む
4. 暗褐色 粘性ややあり、締まりなし、白色軽石を含む
5. 暗褐色 粘性ややあり、締まりなし、灰を多量に含む

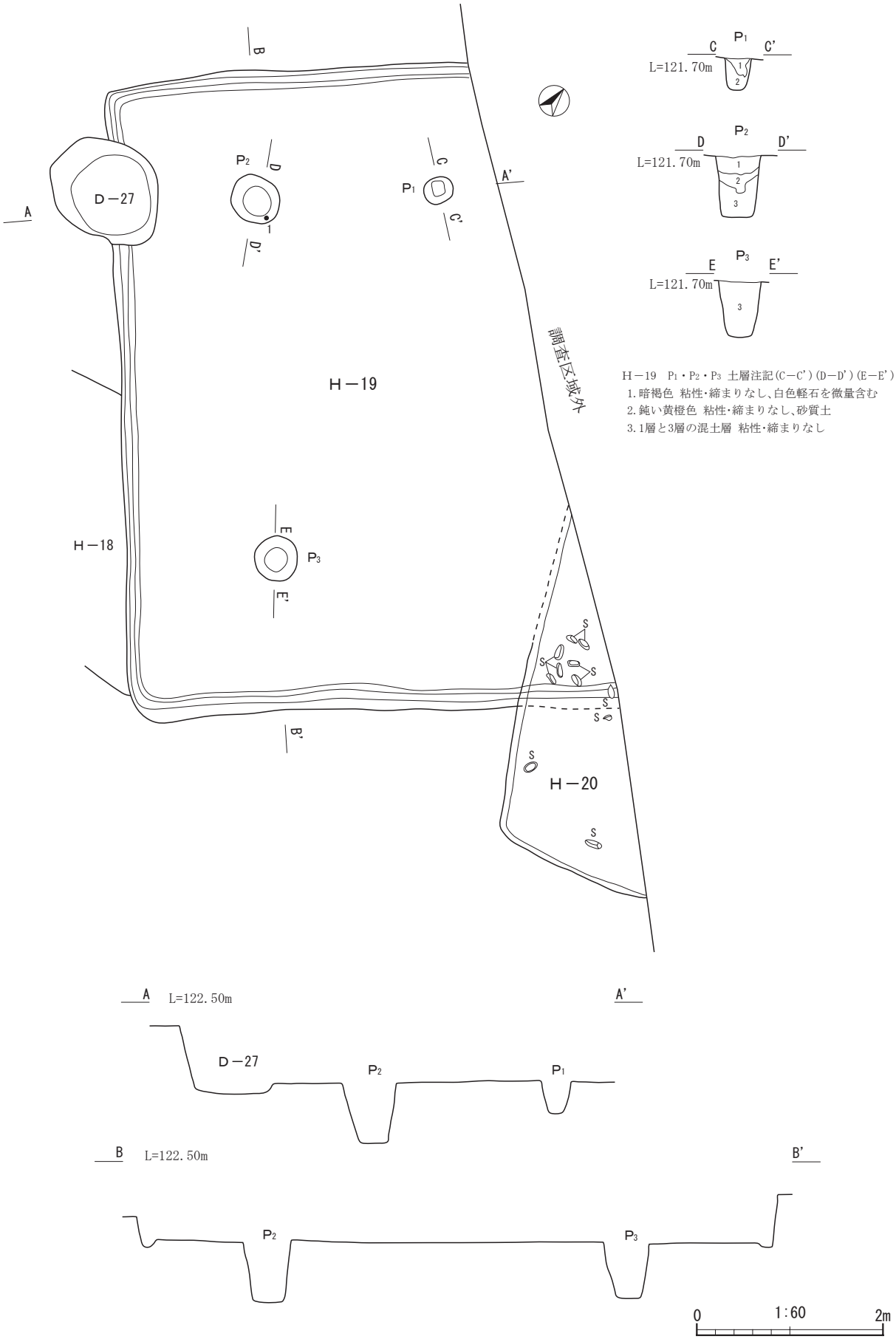




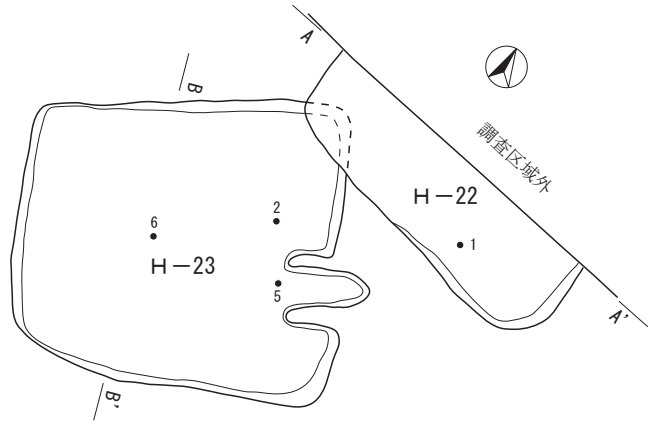
H－18　土層注記(A－A')
1. 黒褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石、炭化物を含む
2. 黒褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石、焼土、炭化物を含む
3. 黒褐色 粘性・締まりあり、白色軽石を少量含む
4. 暗褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石を含む
5. 暗褐色 粘性ややあり、締まりなし、白色軽石を少量含む
6. 黒褐色 粘性・締まりなし、木の根の痕、モグラ穴

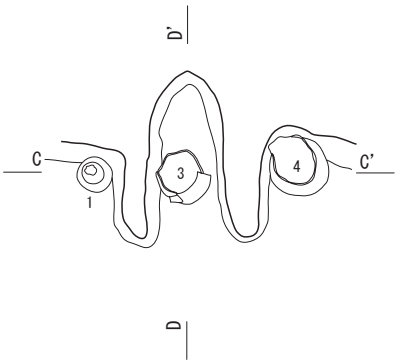
H－18　竈 土層注記(D－D')
1. 暗褐色 粘性なし、締まりあり、白色軽石、ロームブロックφ10～20㎜を含む
2. 暗赤褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石、焼土を少量含む
3. 赤褐色 粘性なし、締まりあり、焼土ブロック
4. 灰褐色 粘性・締まりややあり、焼土を少量、灰を多量に含み下層は黒色に近くなる

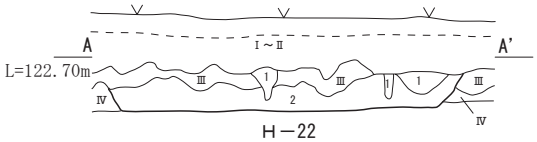
第17図　H－17・18号住居跡



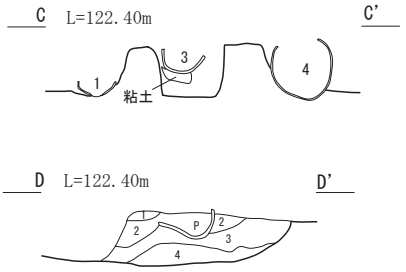
第18図　Ｈ－19・20号住居跡、Ｄ－27号土坑

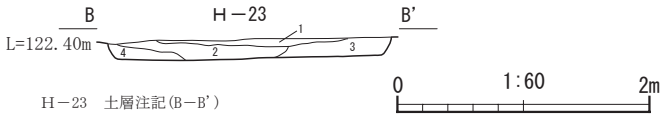






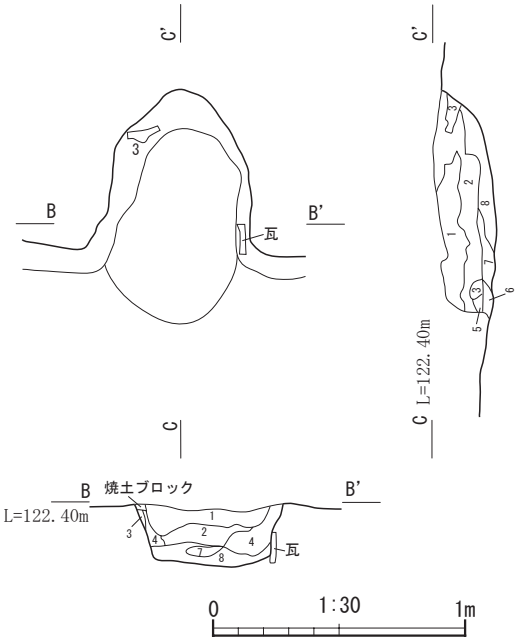
H－22　土層注記(A－A')
1.暗褐色 粘性・締まりなし（根の痕）
2.暗褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石を含む

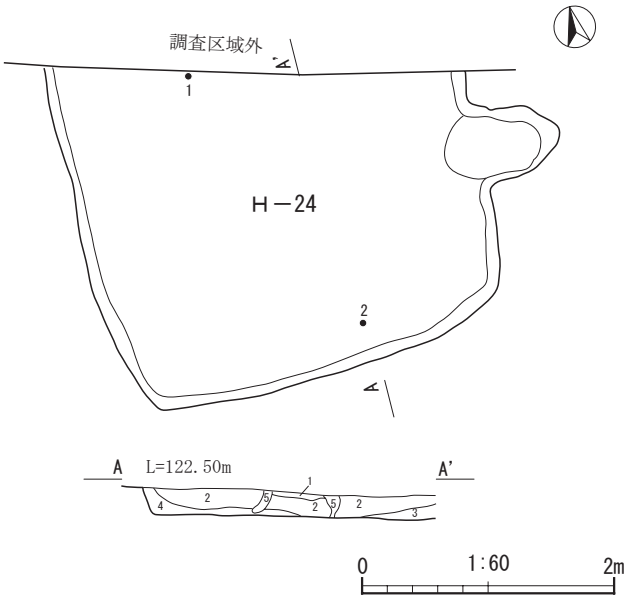




H－23　土層注記(B－B')
1.黒褐色 粘性・締まりなし、白色軽石を含む
2.暗褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石を含み炭化物を微量含む
3.暗褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石を多く、炭化物を微量含む
4.暗褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石、ローム粒、炭化物を含む

H－23　竈 土層注記(D－D')
1.鈍い黄橙色 粘性・締まりややあり、粘土ブロック
2.黒褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石、炭化物、焼土を含む
3.暗褐色 粘性・締まりややあり、砂岩ブロック（φ5～10mm）、焼土を含む
4.暗褐色 粘性・締まりややあり、焼土、灰を含む

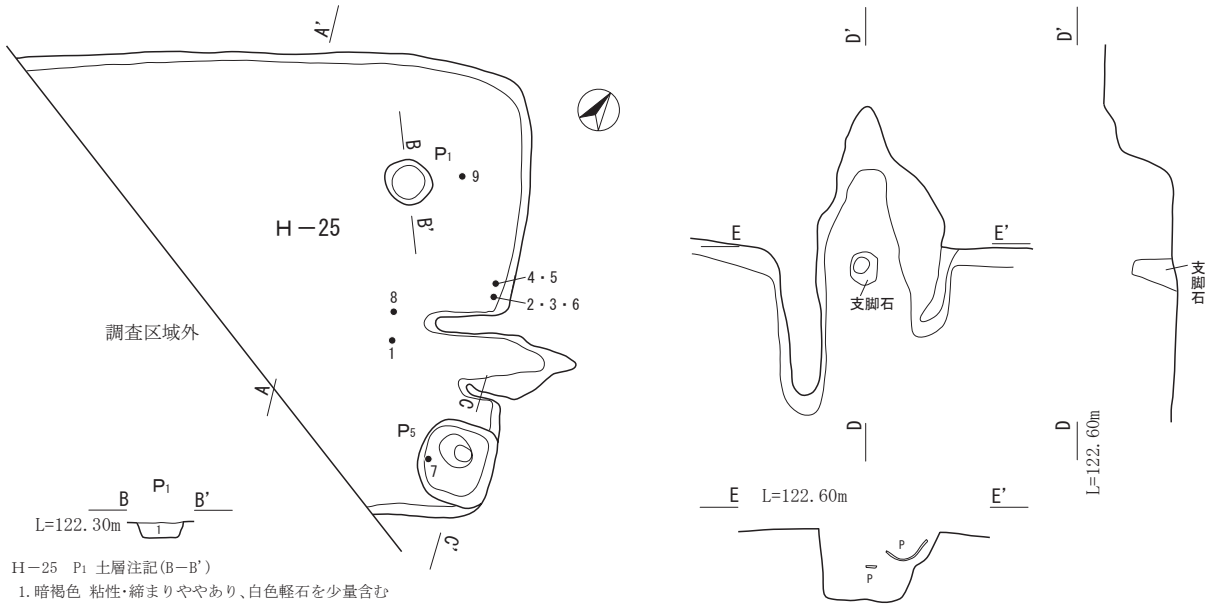




H－24　竈 土層注記(B－B')(C－C')
1.暗褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石を含む
2.暗褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石、焼土を含む
3.暗褐色 粘性・締まりなし、木の根の痕
4.暗赤褐色 粘性なし、締まりややあり、焼土・粘土ブロック
5.褐色 粘性なし、締まりややあり、粘土ブロック
6.黒褐色 粘性・締まりなし、灰層
7.灰黄褐色 粘性・締まりなし、灰層
8.暗褐色 粘性なし、締まりややあり、焼土ブロックを含む

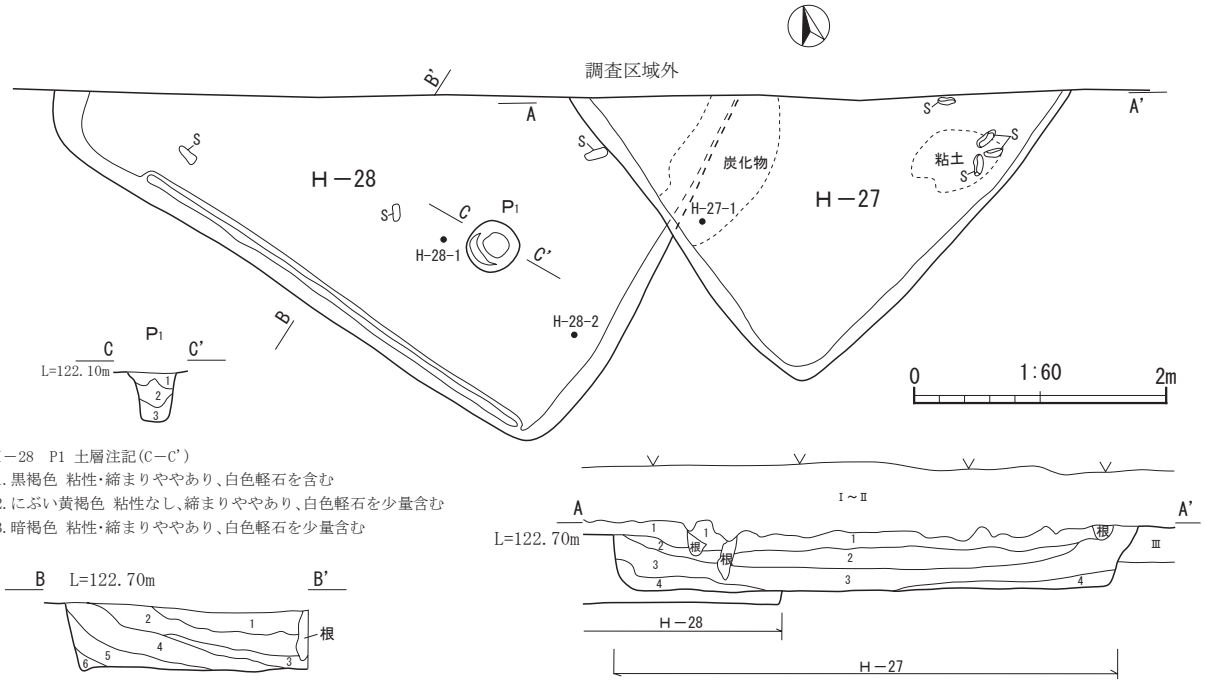
H－24　土層注記(A－A')
1.暗褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石を含む
2.暗褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石を含み、炭化物を微量含む
3.暗褐色 粘性ややあり、締まりあり、白色軽石、白色粘土粒を含む
4.暗褐色 粘性ややあり、締まりあり、白色軽石を含む
5.黒褐色 粘性ややあり、締まりなし、木の根の痕、モグラ穴

第19図　H－22・23・24号住居跡



H－25　P1 土層注記(B－B')
1.暗褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石を少量含む

H－25　土層注記(A－A')
1.暗褐色 粘性・締まりなし、As-Bを多量に含む
2.暗褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石を多量に含む
3.黒褐色 粘性ややあり、締まりあり、白色軽石、ローム粒を少量含む
4.黒褐色 粘性ややあり、締まりあり、白色軽石を微量含む

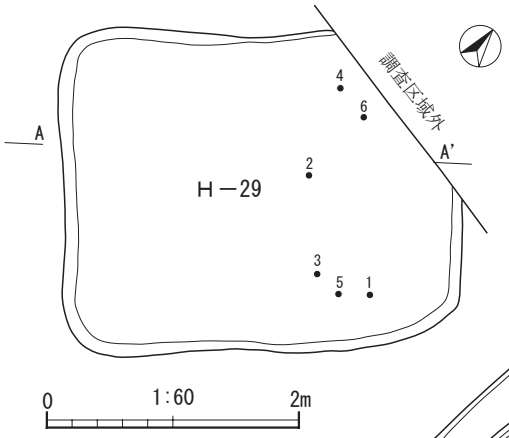


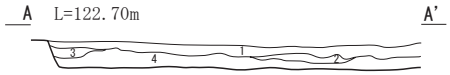
H－28　P1 土層注記(C－C')
1.黒褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石を含む
2.にぶい黄褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石を少量含む
3.暗褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石を少量含む

H－28　土層注記(B－B')
1.暗褐色 粘性なし、締まりあり、白色軽石とロームブロック・粒を含む
2.暗褐色 粘性ややあり、締まりあり、白色軽石とローム粒を含む
3.暗褐色 粘性なし、締まりあり、白色軽石とロームブロック・粒を多量に含む
4.暗褐色 粘性ややあり、締まりあり、白色軽石とローム粒を含む
5.黒褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石を含む
6.黒褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石を少量含む

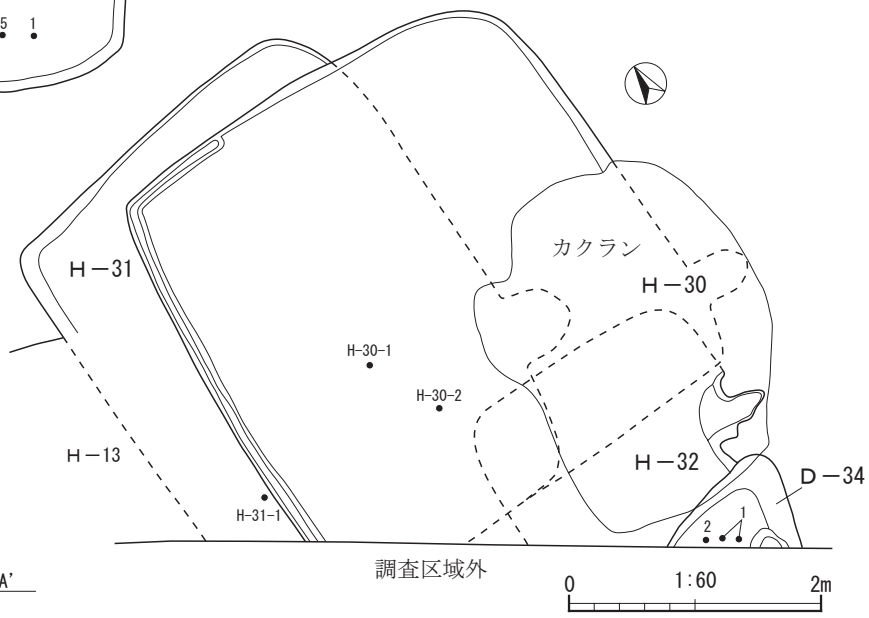
H－27　土層注記(A－A')
1.暗褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石を含む
2.暗褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石、砂岩ブロックを含み、土器片あり
3.暗褐色 粘性ややあり、締まりあり、白色軽石、白色粘土粒を含む
4.黒褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石を少量含む

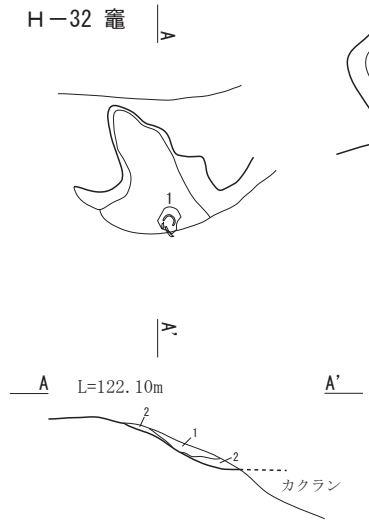
第20図　H－25・27・28号住居跡



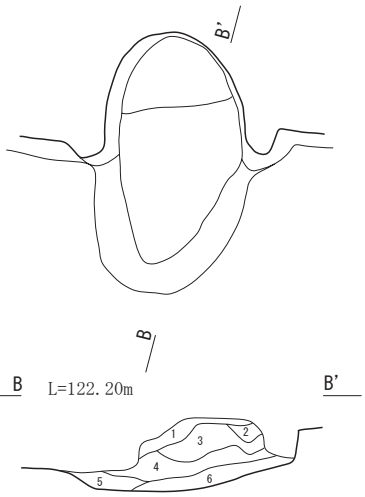


H－29　土層注記(A－A')
1. 暗褐色　粘性ややあり、締まりなし、白色軽石を含む
2. 暗褐色　粘性・締まりややあり、白色軽石、ローム粒を含む
3. 暗褐色　粘性・締まりややあり、白色軽石、ロームブロックを含む
4. 黒褐色　粘性ややあり、締まりあり、白色軽石を少量含む



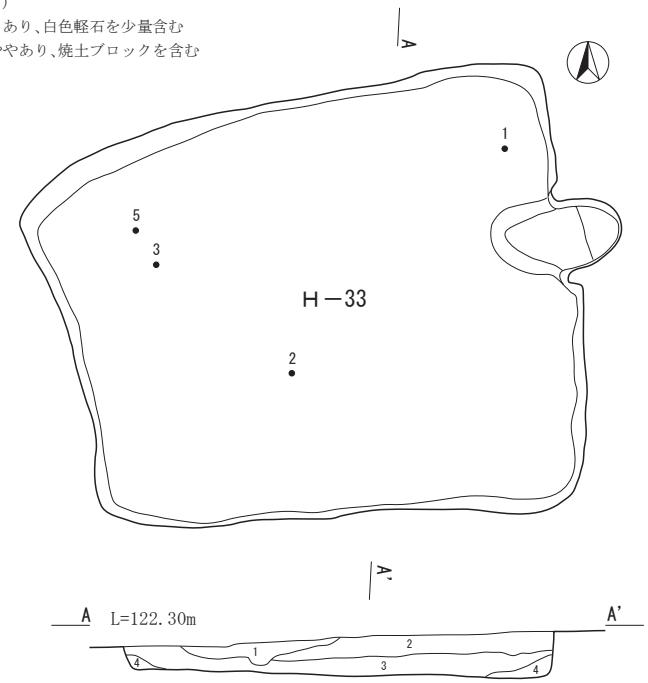


H－32　竈 土層注記(A－A')
1. 黒褐色　粘性なし、締まりあり、白色軽石を少量含む
2. 暗赤褐色　粘性・締まりややあり、焼土ブロックを含む



H－33　竈 土層注記(B－B')
1. 暗褐色　粘性なし、締まりややあり、白色軽石を少量含む
2. にぶい褐色　粘性・締まりややあり、白色粘土が主体
3. にぶい赤褐色　粘性・締まりややあり、焼土粒・ブロック(φ5～10mm)を含む
4. 褐灰色　粘性・締まりなし、灰が主体で焼土を少量含む
5. 褐灰色　粘性・締まりなし、灰層
6. 褐灰色　粘性・締まりややあり、焼土を少量含む灰層

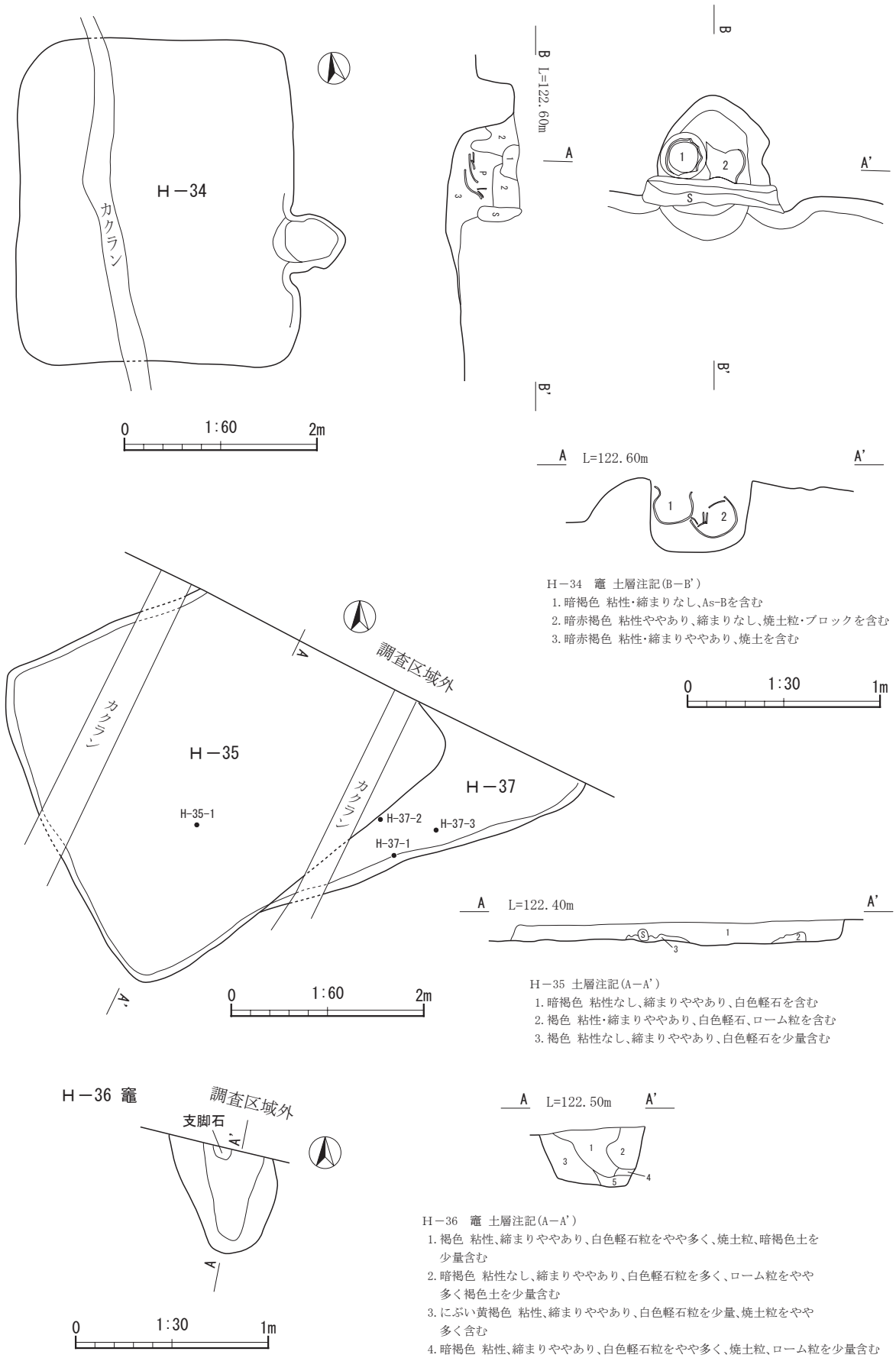
0　1:30　1m



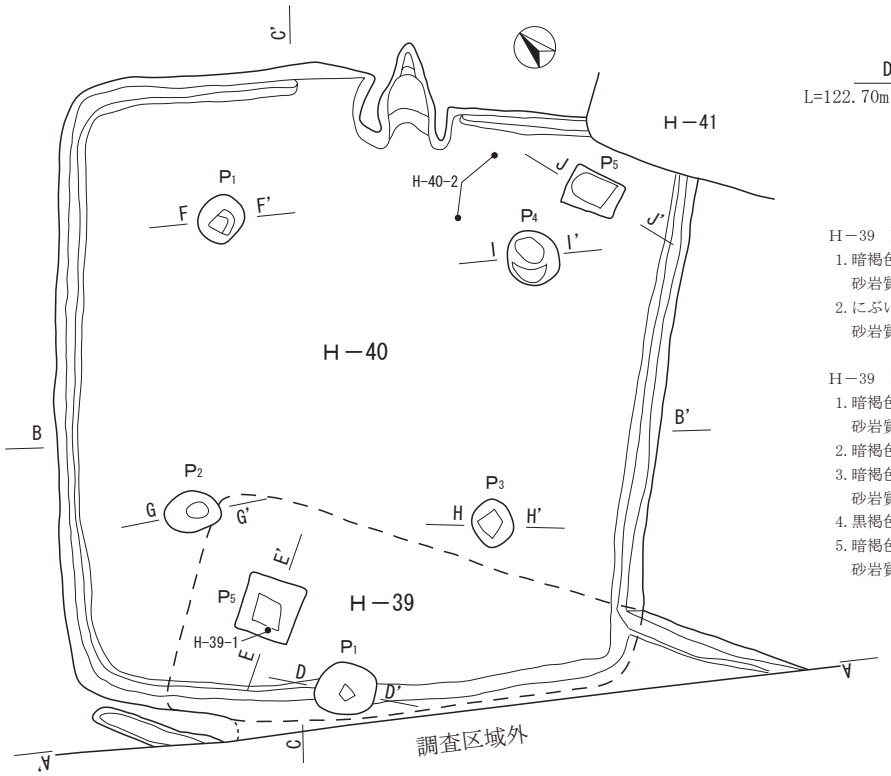
H－33　土層注記(A－A')
1. 暗褐色　粘性なし、締まりややあり、白色軽石、焼土、粘土粒・ブロックを含む
2. 暗褐色　粘性なし、締まりややあり、白色軽石を含む
3. 黒褐色　粘性なし、締まりあり、白色軽石を含む
4. 黒褐色　粘性なし、締まりややあり、白色軽石を少量含む

0　1:60　2m

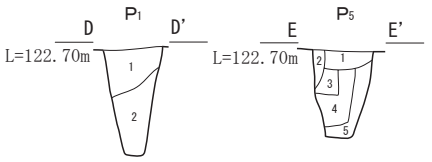
第21図　H－29～33号住居跡、D－34号土坑



第22図　H－34～37号住居跡

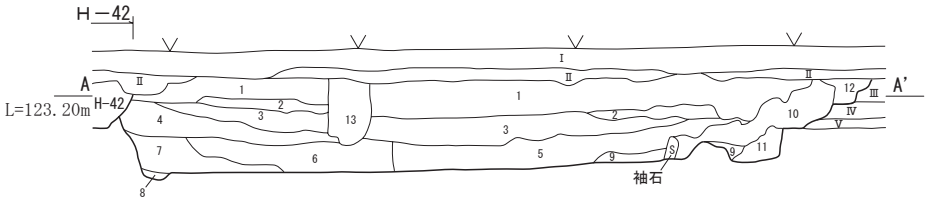


H－39ピット



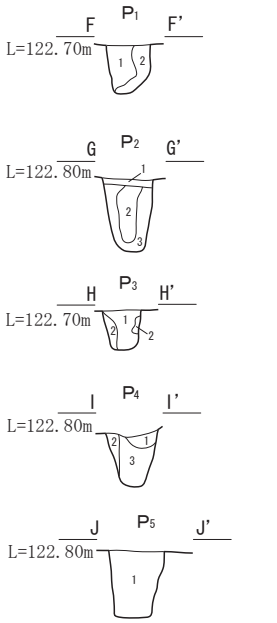
H－39　P1 土層注記(D－D')
1. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを1%、砂岩質粒・ブロックを5%、灰白色粘土を3%含む
2. にぶい黄褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、砂岩質粒・ブロックを3%含む

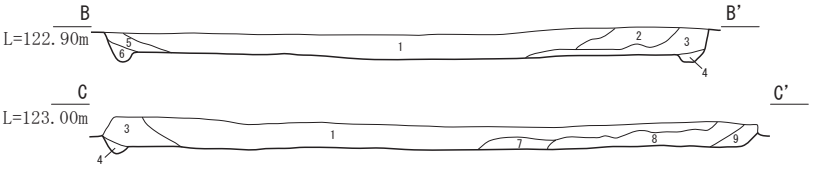
H－39　P5(貯蔵穴) 土層注記(E－E')
1. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、砂岩質粒・ブロックを3%含む
2. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを3%含む
3. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを3%、砂岩質粒φ2～10mmを1%含む
4. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%含む
5. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを1%、砂岩質粒φ2～5mmを1%、焼土粒を少量含む



H－39　土層注記(A－A')
1. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを10%、砂岩質粒φ2～10mmを2%含む
2. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを10%、砂岩質粒・ブロックを10%含む
3. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを7%、砂岩質粒φ2～10mmを2%含む
4. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを10%、砂岩質粒φ2～10mmを1%、黒色土を1%含む
5. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを10%、砂岩質粒φ2～30mmを2%、炭化物と焼土粒を少量含む
6. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを5%、砂岩質粒φ2～20mmを3%含む
7. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを5%、砂岩質粒φ2～10mmを2%含む
8. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを少量、砂岩質粒・ブロックを多量に含む
9. 鈍い黄橙色 中粘、中締、粘質土
10. 9層に鈍い黄褐色シルトを20% 中粘、中締、砂岩質粒を少量含む
11. 9層に鈍い黄褐色シルトを10% 中粘、中締、砂岩質粒を少量、焼土粒を微量含む
12. 1層と9層の混土 弱粘、弱締
13. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを10%、砂岩質粒φ2～10mmを5%含む

H－40ピット



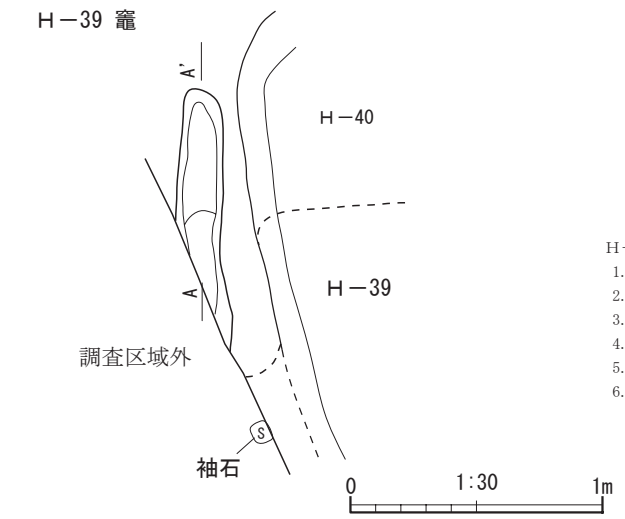


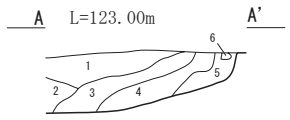
H－40　土層注記(B－B')(C－C')
1. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを5%、砂岩質粒を1%含む
2. 黒褐色 弱粘、中締、白色軽石粒φ1～3mmを5%、砂岩質粒を少量含む
3. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを5%、砂岩質粒を少量含む
4. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを3%含む
5. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを3%、砂岩質粒を1%含む
6. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを2%、砂岩質粒を1%含む
7. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを2%、砂岩質粒を少量含む
8. 鈍い黄褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを2%、砂岩質ブロックを1%、灰白色シルトを1%含む
9. 鈍い黄褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、砂岩質ブロックを1%含む

H－40　P1～P5 土層注記(F－F')～(J－J')
1. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、砂岩質粒φ1～5mmを3%含む
2. 1層に砂岩質ブロックを多量に含む
3. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを5%、砂岩質粒φ1～5mmを1%含む

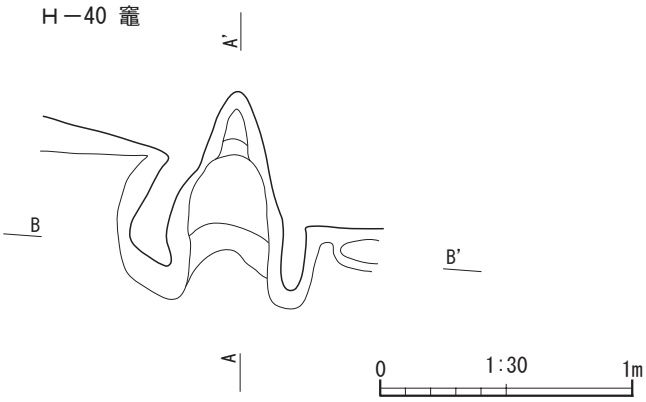
0　1:60　2m

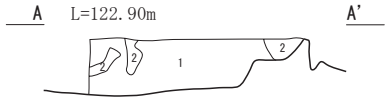
第23図　H－39・40号住居跡

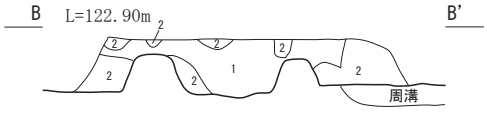




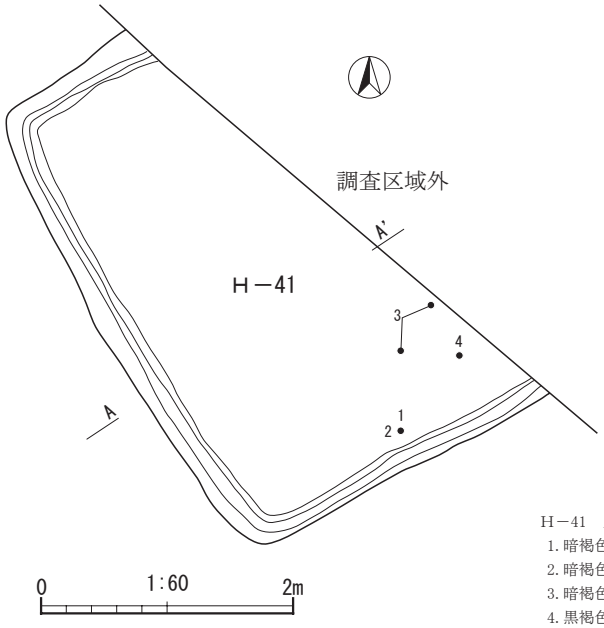
H－39　竈　土層注記(A－A')
1. 鈍い黄橙色　中粘、中締、鈍い黄褐色シルトを20%含む粘質土
2. 鈍い黄橙色　中粘、中締、粘質土
3. 鈍い黄橙色　中粘、中締、鈍い黄褐色シルトを10%、焼土粒を微量含む粘質土
4. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5㎜を5%、3層を3%含む
5. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3㎜を2%、焼土粒を多く含む
6. 焼土ブロック

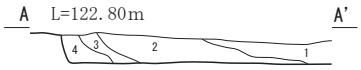






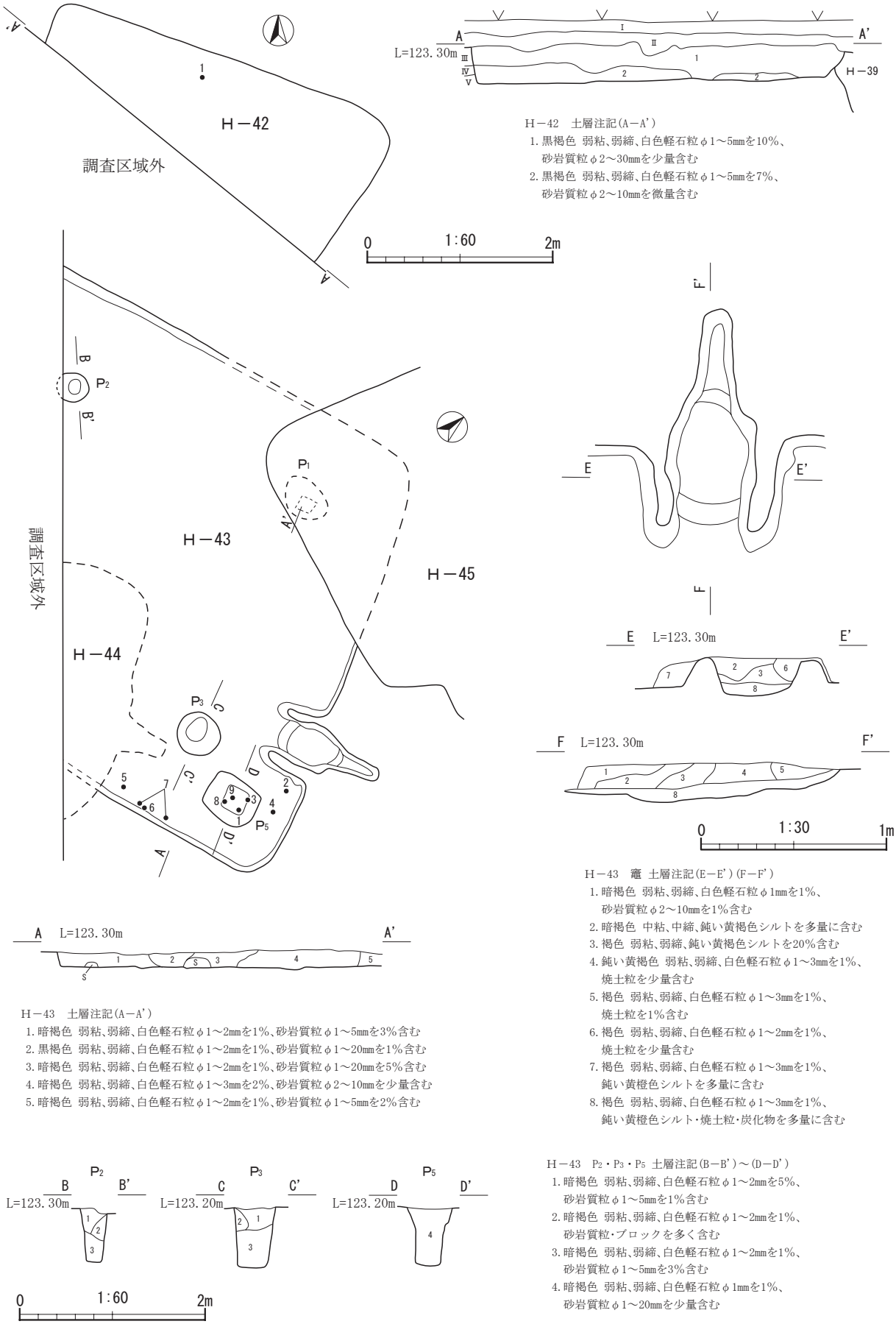
H－40　竈　土層注記(A－A')(B－B')
1. 鈍い黄橙色　中粘、中締、シルト層
2. 鈍い黄橙色　中粘、中締、鈍い黄褐色シルトを30%含む





H－41　土層注記(A－A')
1. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ブロック、炭化物を少量含む
2. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5㎜を5%、砂岩質ブロックを3%、炭化物を少量含む
3. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5㎜を3%、砂岩質ブロックを少量含む
4. 黒褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3㎜を2%、砂岩質ブロックを20%含む

第24図　H－39・40・41号住居跡



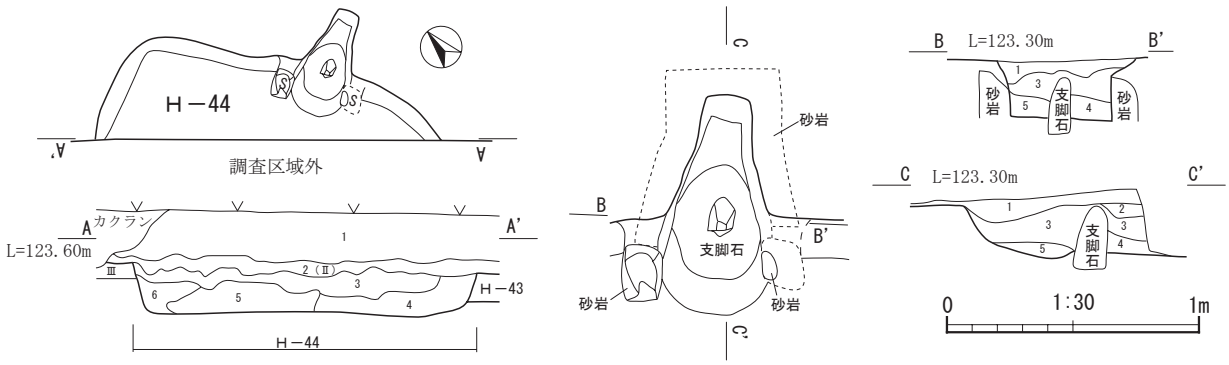
H－42　土層注記(A－A')
1. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを10%、
砂岩質粒φ2～30mmを少量含む
2. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを7%、
砂岩質粒φ2～10mmを微量含む

H－43　竈 土層注記(E－E')(F－F')
1. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1mmを1%、
砂岩質粒φ2～10mmを1%含む
2. 暗褐色 中粘、中締、鈍い黄褐色シルトを多量に含む
3. 褐色 弱粘、弱締、鈍い黄褐色シルトを20%含む
4. 鈍い黄褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを1%、
焼土粒を少量含む
5. 褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを1%、
焼土粒を1%含む
6. 褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、
焼土粒を少量含む
7. 褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを1%、
鈍い黄橙色シルトを多量に含む
8. 褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを1%、
鈍い黄橙色シルト・焼土粒・炭化物を多量に含む

H－43　土層注記(A－A')
1. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、砂岩質粒φ1～5mmを3%含む
2. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、砂岩質粒φ1～20mmを1%含む
3. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、砂岩質粒φ1～20mmを5%含む
4. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを2%、砂岩質粒φ2～10mmを少量含む
5. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、砂岩質粒φ1～5mmを2%含む

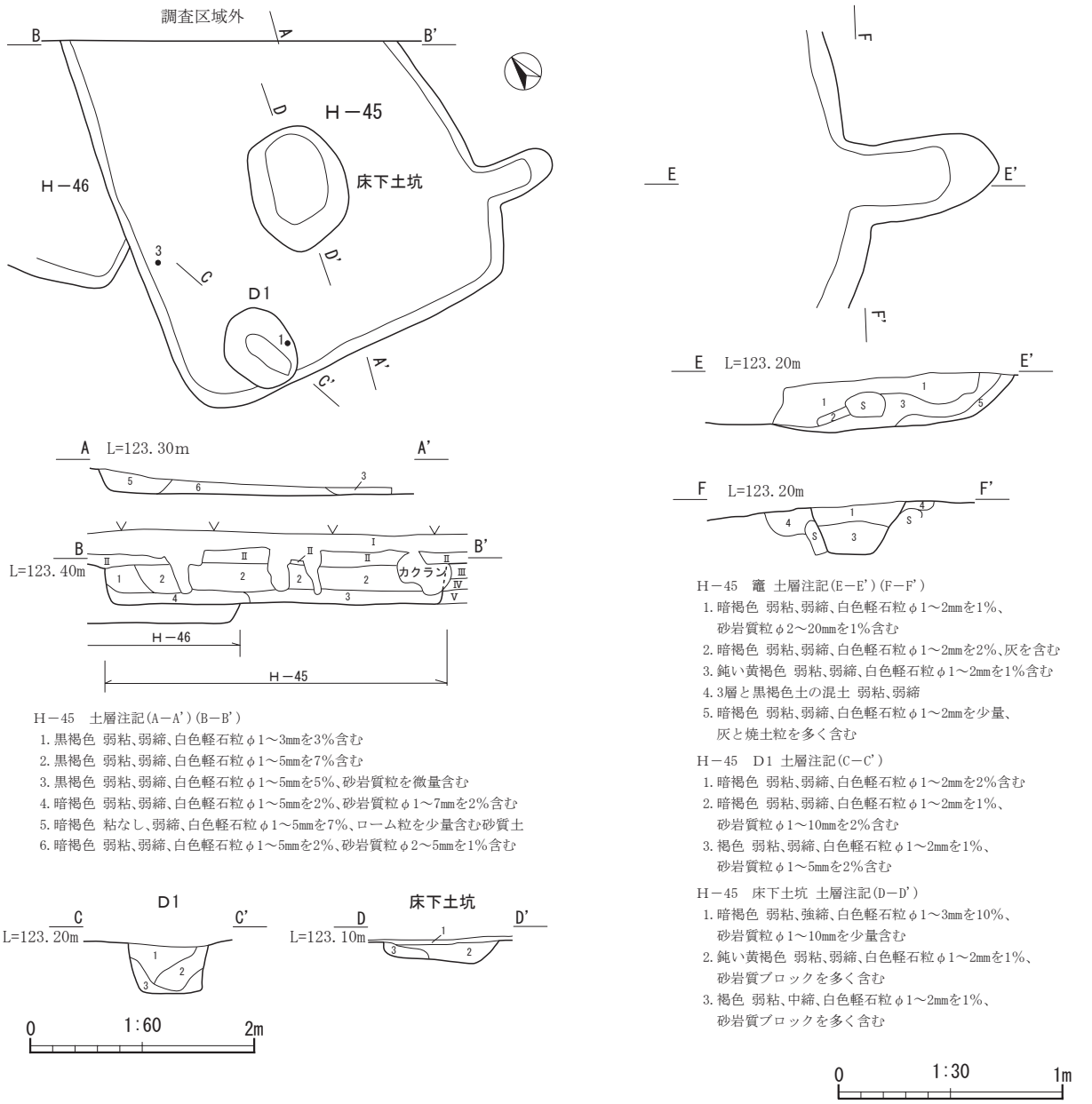
H－43　P2・P3・P5 土層注記(B－B')～(D－D')
1. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを5%、
砂岩質粒φ1～5mmを1%含む
2. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、
砂岩質粒・ブロックを多く含む
3. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、
砂岩質粒φ1～5mmを3%含む
4. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1mmを1%、
砂岩質粒φ1～20mmを少量含む

第25図　H－42・43号住居跡



H－44　土層注記(A－A')
1. 暗褐色　粘なし、中締、(盛土)
2. 西側基本土層のⅡ
3. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを3%、砂岩質粒・ブロックを多く含む
4. 黒褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを5%、砂岩質粒φ1～5mmを2%含む
5. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを2%、砂岩質粒・ブロックを1%、
鈍い黄褐色シルトを多量に含む
6. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを2%、砂岩質粒φ1～10mmを2%含む

H－44　竈　土層注記(B－B')(C－C')
1. 黄褐色　弱粘、中締、灰白色シルト及び砂岩質ブロックを少量含む
2. 1層に砂岩質ブロックを多量に含む
3. 褐色　弱粘、弱締、灰白色シルト粒φ5～10mmを5%含む
4. 黒褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを2%含む
5. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを2%、
砂岩質ブロックφ3～5mmを5%含む



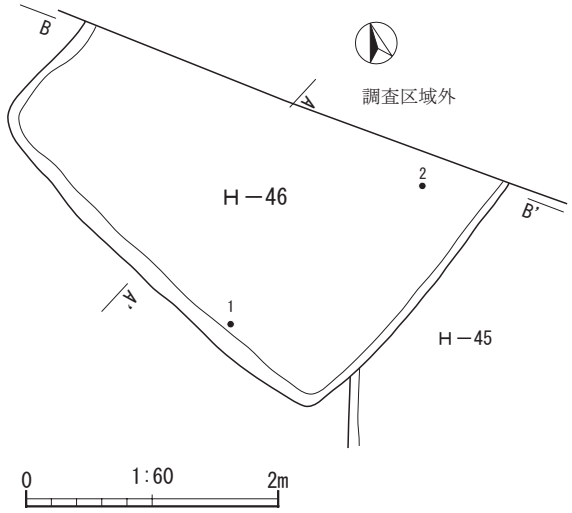
H－45　土層注記(A－A')(B－B')
1. 黒褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを3%含む
2. 黒褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを7%含む
3. 黒褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを5%、砂岩質粒を微量含む
4. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを2%、砂岩質粒φ1～7mmを2%含む
5. 暗褐色　粘なし、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを7%、ローム粒を少量含む砂質土
6. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを2%、砂岩質粒φ2～5mmを1%含む

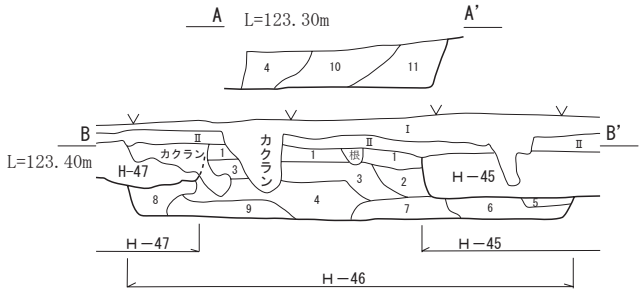
H－45　竈　土層注記(E－E')(F－F')
1. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、
砂岩質粒φ2～20mmを1%含む
2. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを2%、灰を含む
3. 鈍い黄褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%含む
4. 3層と黒褐色土の混土　弱粘、弱締
5. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを少量、
灰と焼土粒を多く含む

H－45　D1 土層注記(C－C')
1. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを2%含む
2. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、
砂岩質粒φ1～10mmを2%含む
3. 褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、
砂岩質粒φ1～5mmを2%含む

H－45　床下土坑　土層注記(D－D')
1. 暗褐色　弱粘、強締、白色軽石粒φ1～3mmを10%、
砂岩質粒φ1～10mmを少量含む
2. 鈍い黄褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、
砂岩質ブロックを多く含む
3. 褐色　弱粘、中締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、
砂岩質ブロックを多く含む

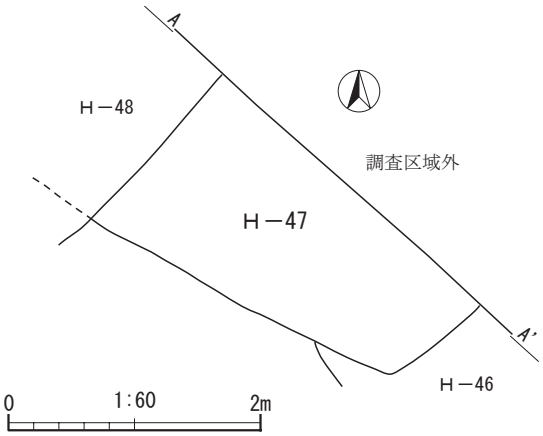
第26図　H－44・45号住居跡

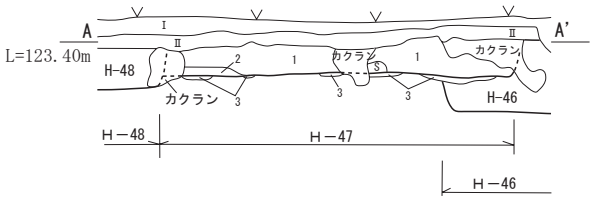




H－46　土層注記(A－A')(B－B')

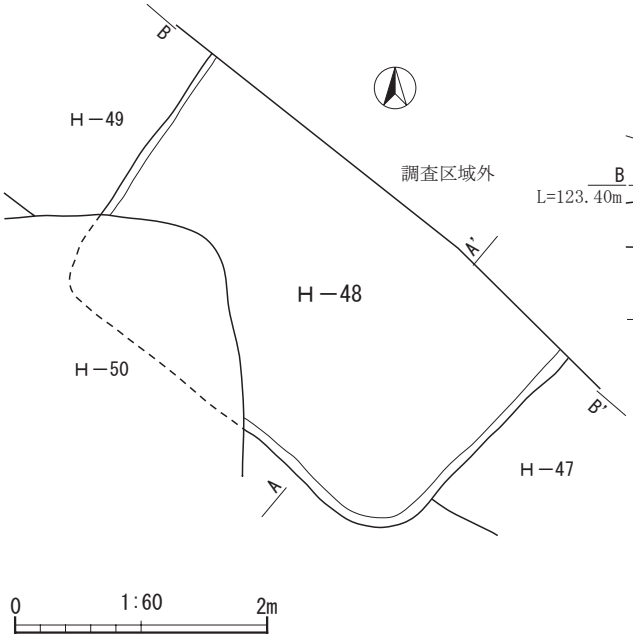
1. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%含む
2. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを2%、砂岩質粒φ1～7mmを1%含む
3. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを2%、砂岩質粒φ1～10mmを1%含む
4. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを5%、砂岩質粒φ1～10mmを2%含む
5. 黒褐色 弱粘、中締、白色軽石粒φ1～5mmを3%、砂岩質粒φ1～10mmを1%含む
6. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを3%、砂岩質粒φ1～10mmを3%、鈍い黄褐色シルトを5%含む
7. 暗褐色 中粘、中締、白色軽石粒φ1～5mmを1%、砂岩質粒φ1～7mmを1%、鈍い黄褐色シルトを多く含む
8. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを1%、砂岩質粒φ1～3mmを3%含む
9. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを3%、砂岩質粒φ1～10mmを3%含む
10. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを3%、砂岩質粒φ2～20mmを3%含む
11. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを5%、砂岩質粒φ2～20mmを2%含む

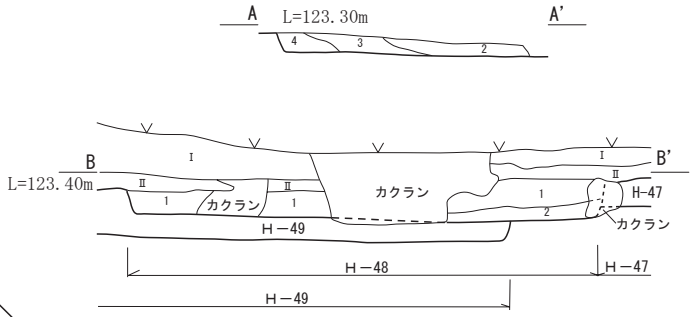




H－47　土層注記(A－A')

1. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを2%、砂岩質粒φ1～10mmを少量含む
2. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを1%含む
3. 黒褐色 弱粘、中締、白色軽石粒φ1～2mmを3%含む

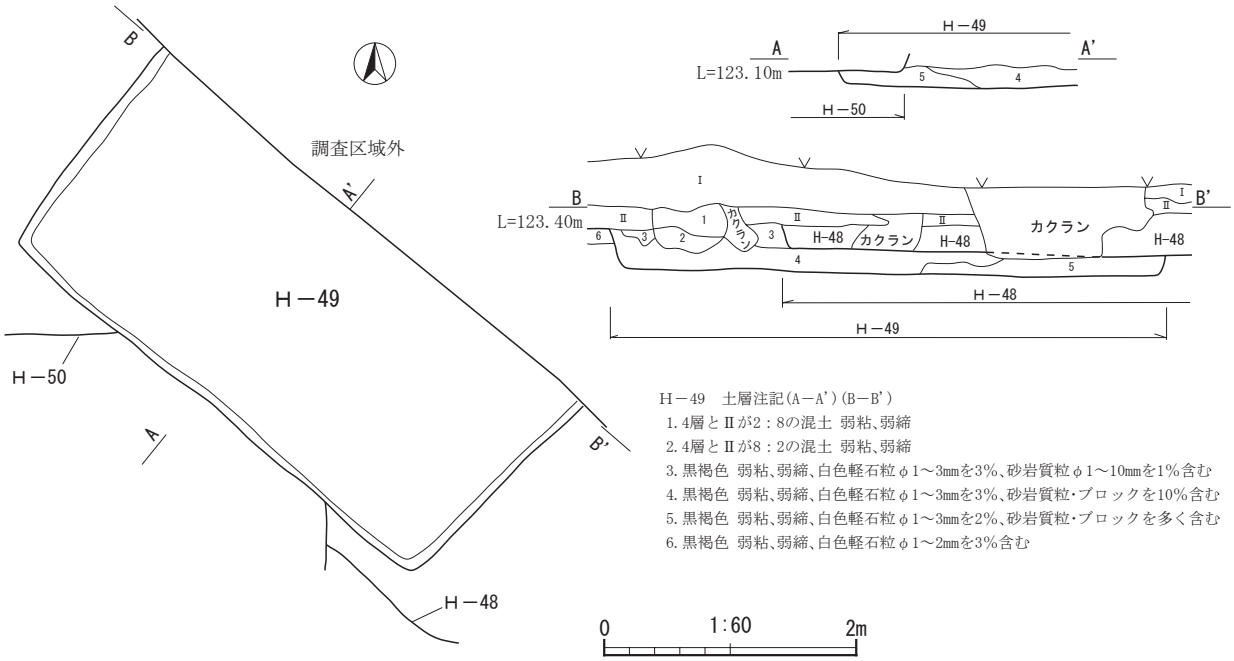




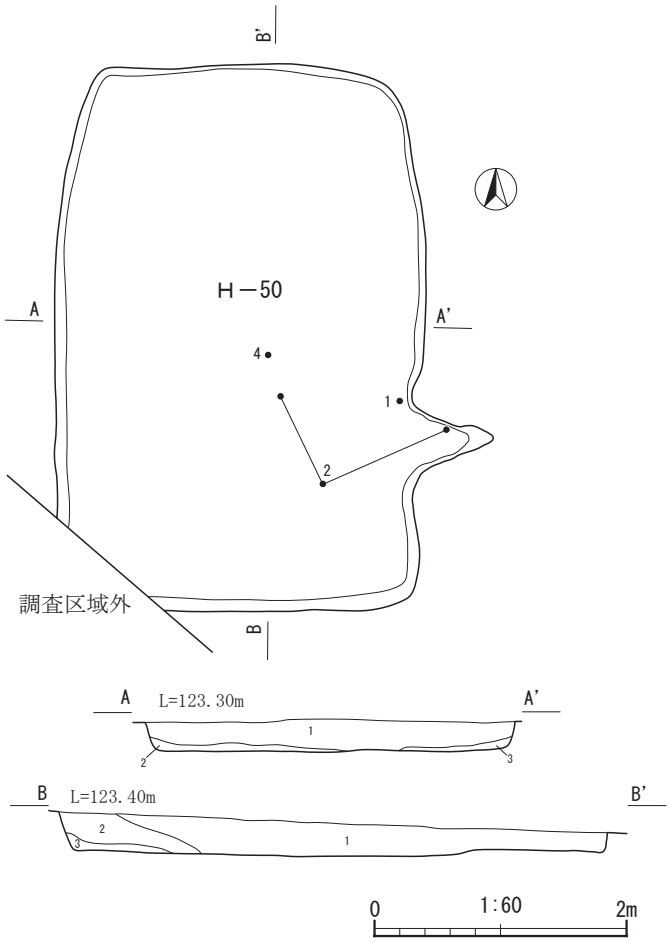
H－48　土層注記(A－A')(B－B')

1. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを1%、砂岩質粒φ1～10mmを少量含む
2. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを2%含む
3. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを2%、砂岩質粒φ1～30mmを1%含む
4. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～10mmを5%、砂岩質粒φ1～20mmを3%、ローム粒を2%含む

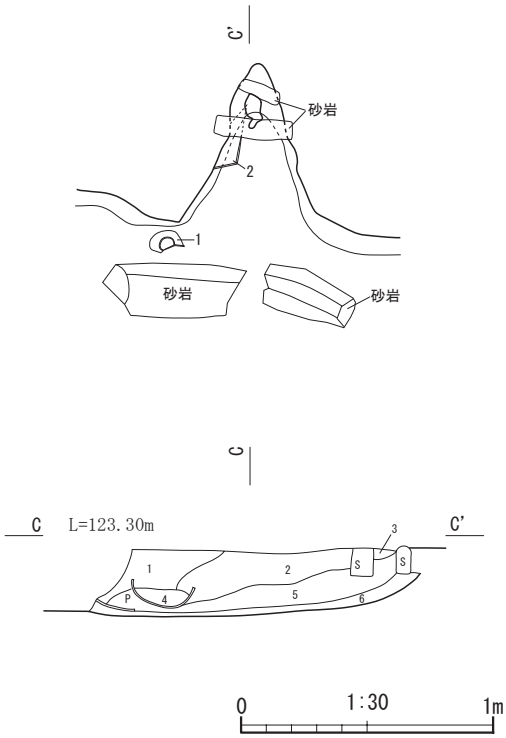
第27図　H－46～48号住居跡



H－49　土層注記(A－A')(B－B')
1. 4層とⅡが2：8の混土 弱粘、弱締
2. 4層とⅡが8：2の混土 弱粘、弱締
3. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを3%、砂岩質粒φ1～10mmを1%含む
4. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを3%、砂岩質粒・ブロックを10%含む
5. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを2%、砂岩質粒・ブロックを多く含む
6. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを3%含む

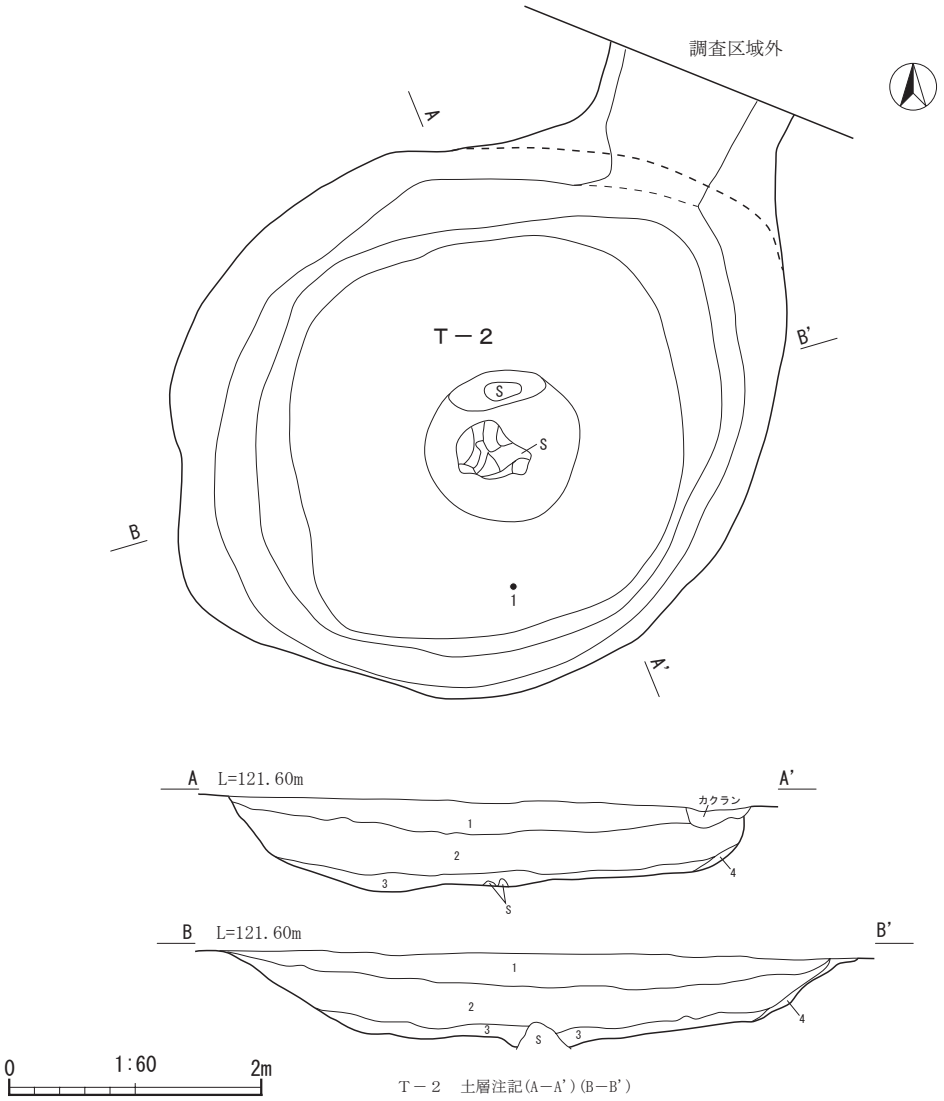


H－50　土層注記(A－A')(B－B')
1. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを3%、砂岩質粒φ2～10mmを1%含む
2. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～10mmを5%、砂岩質粒φ2～10mmを2%含む
3. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～10mmを2%、砂岩質粒φ2～10mmを1%含む

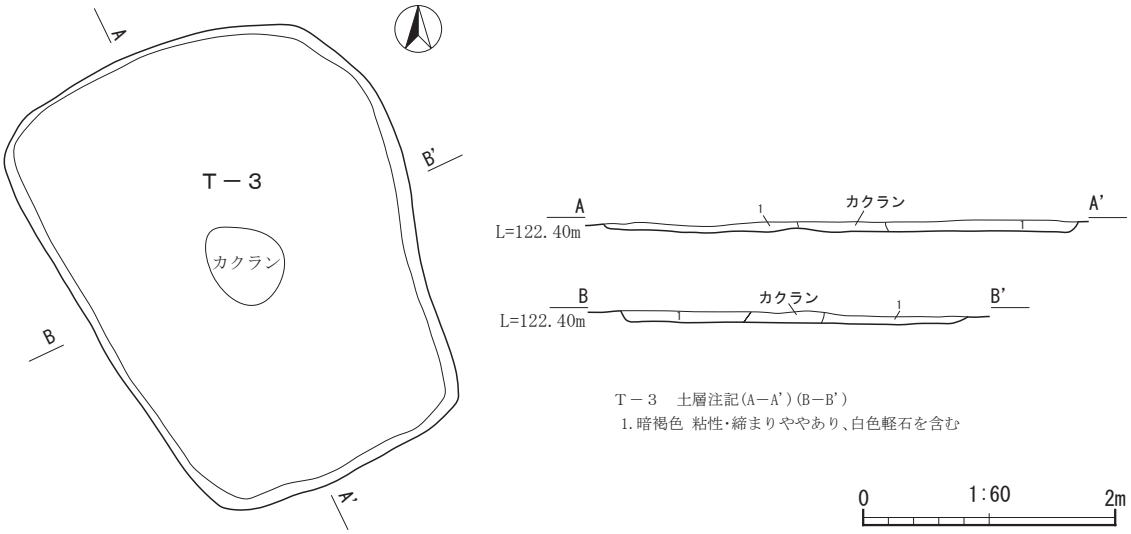


H－50　竈 土層注記(C－C')
1. 褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを3%、灰白色粘土粒φ1～10mmを3%、砂岩質ブロックを2%含む
2. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを3%、灰白色粘土粒φ1～10mmを少量、炭化物を少量含む
3. 褐色 弱粘、弱締、灰白色粘土粒φ1～10mmを2%含む
4. 灰白色粘土 中粘、中締
5. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを2%、焼土粒を少量含む
6. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、焼土粒を少量、炭化物を多く含む

第28図　H－49・50号住居跡

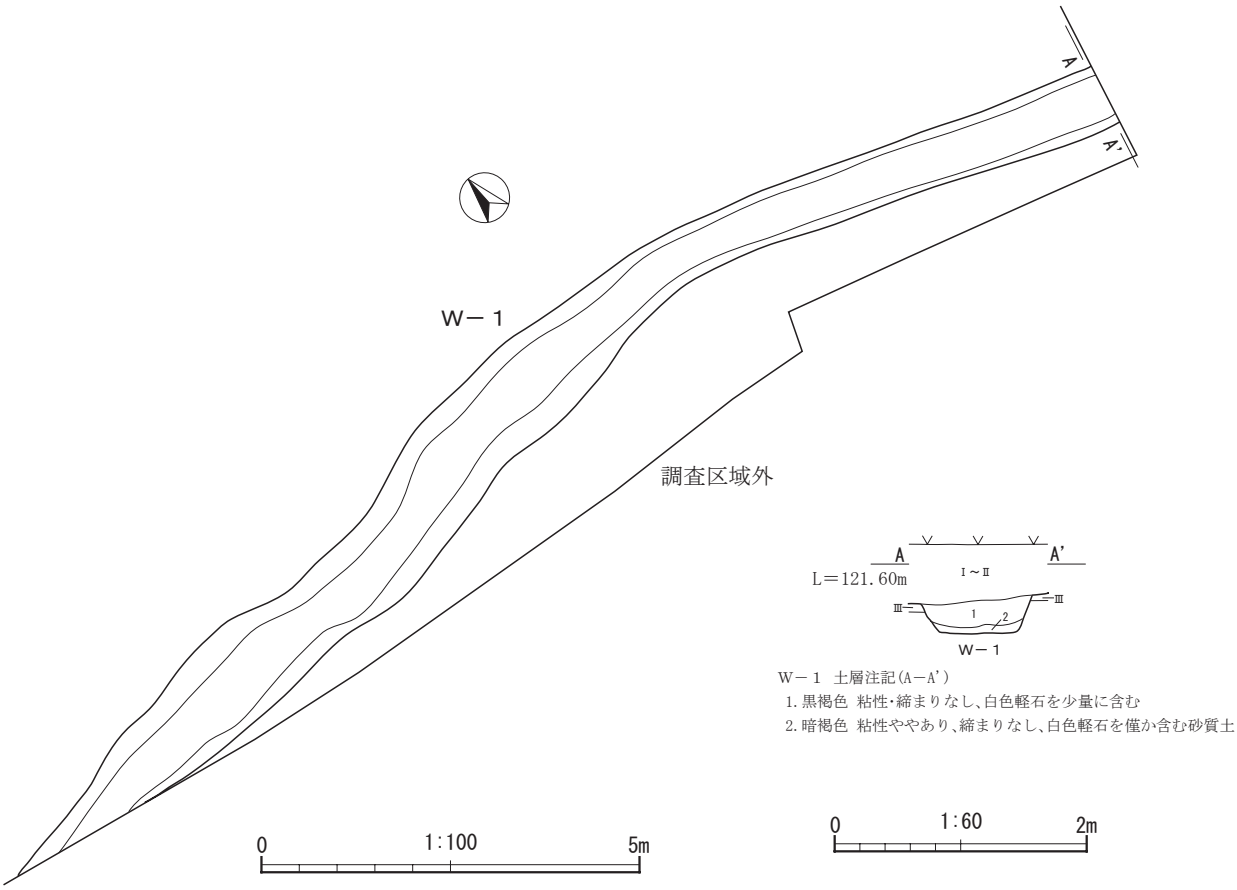


T－2　土層注記(A－A')(B－B')
1.黒褐色 粘性･締まりややあり、白色軽石を含む
2.黒褐色 粘性ややあり、締まりなし、白色軽石を含む
3.黒褐色 粘性なし、締まりあり、白色軽石を少量含む
4.にぶい黄褐色 粘性･締まりなし、地山の砂質土を多量に含む

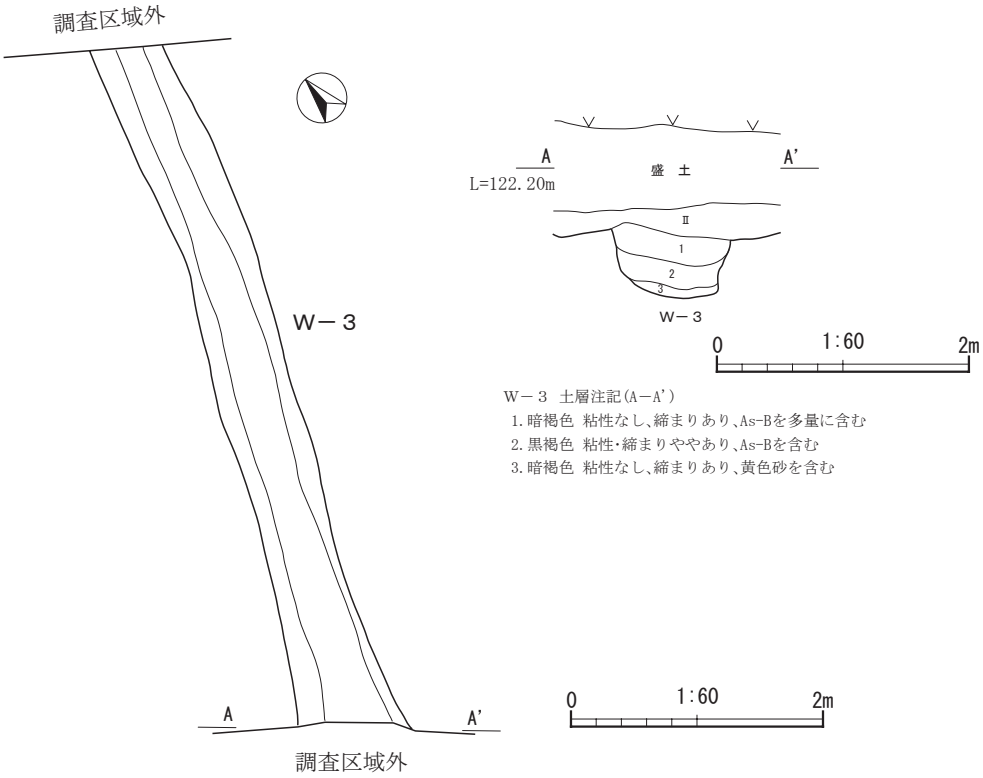


T－3　土層注記(A－A')(B－B')
1.暗褐色 粘性･締まりややあり、白色軽石を含む

第29図　T－2・3号竪穴状遺構

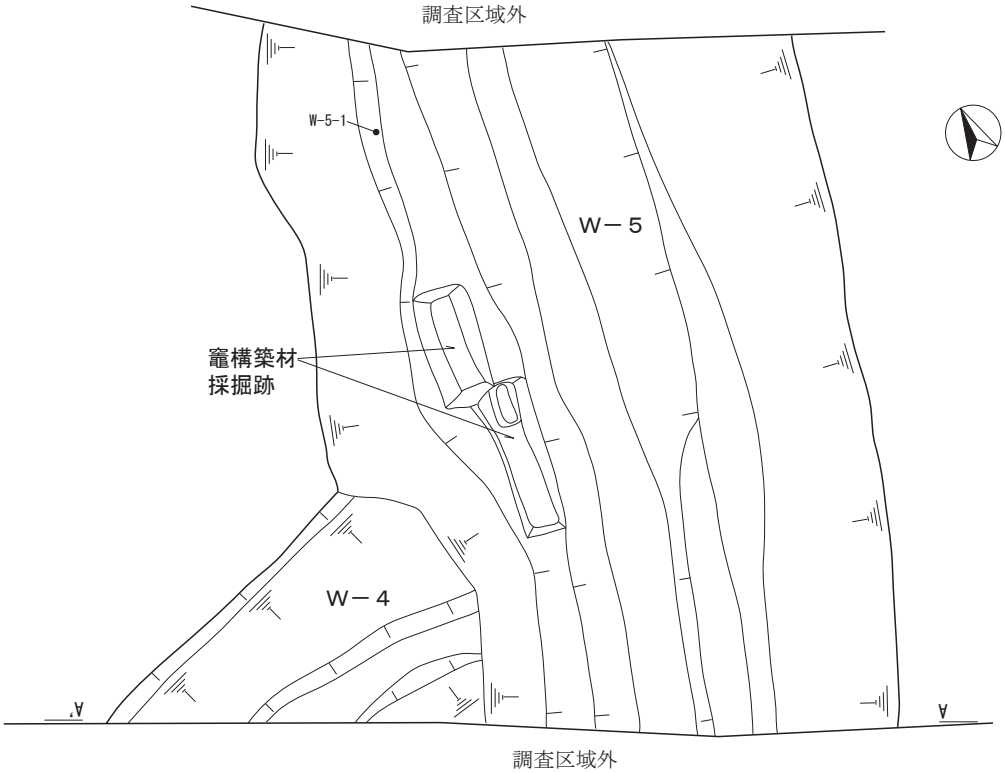


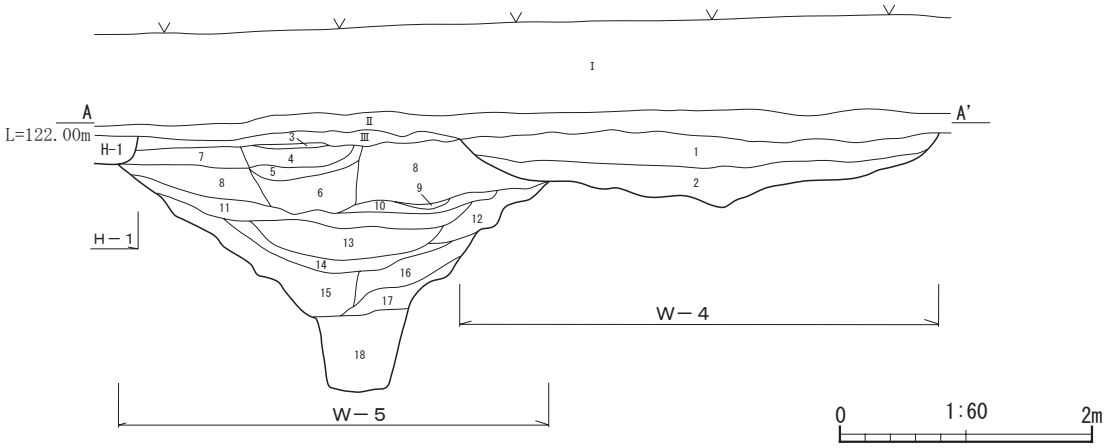
W－１　土層注記(A－A')
1.黒褐色　粘性･締まりなし、白色軽石を少量に含む
2.暗褐色　粘性ややあり、締まりなし、白色軽石を僅か含む砂質土



W－３　土層注記(A－A')
1.暗褐色　粘性なし、締まりあり、As-Bを多量に含む
2.黒褐色　粘性･締まりややあり、As-Bを含む
3.暗褐色　粘性なし、締まりあり、黄色砂を含む

第30図　W－１・３号溝跡

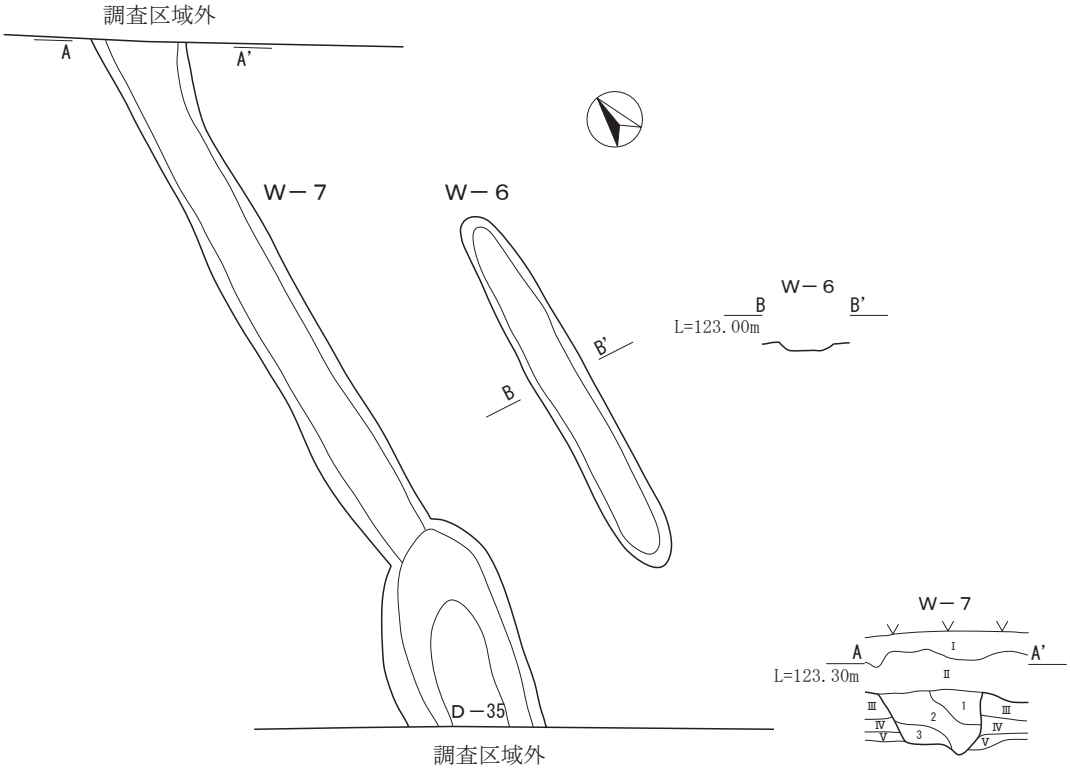




W－４・５ 土層注記(A－A')

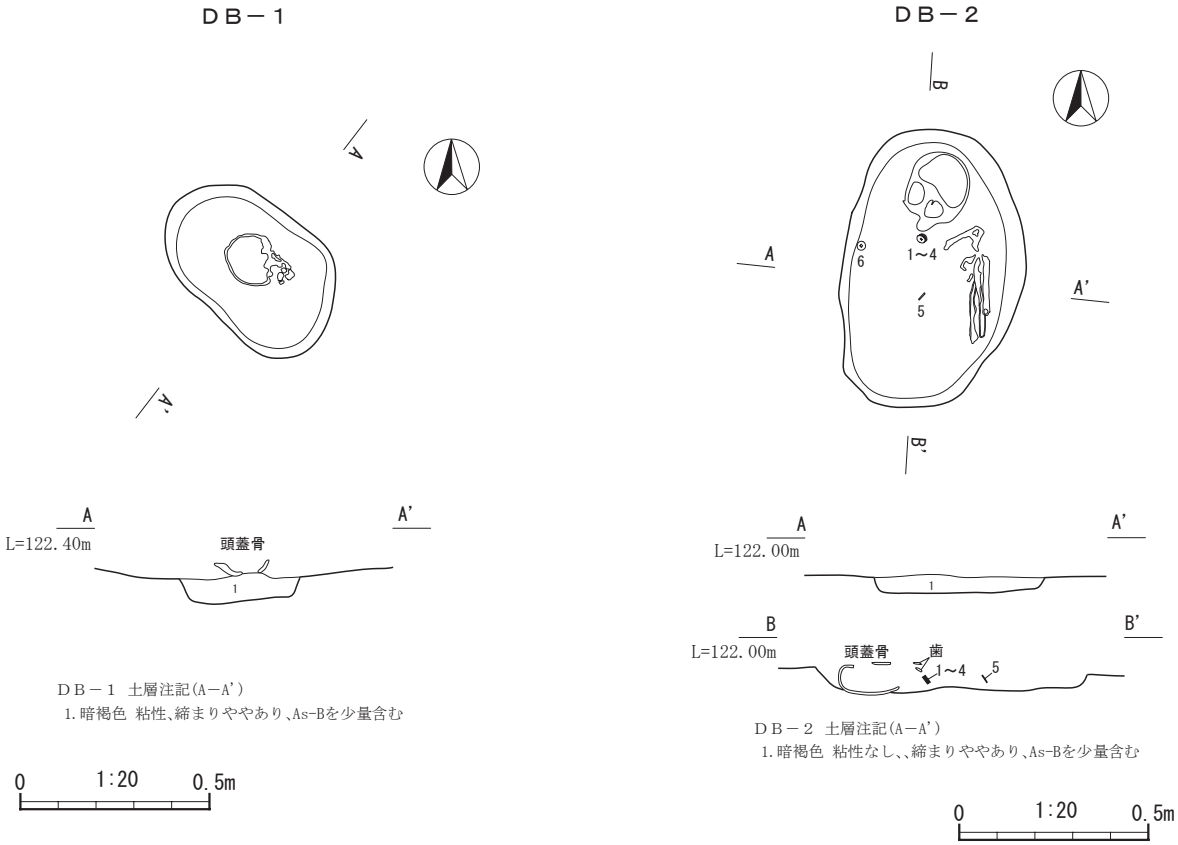
1. 暗褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石粒(φ1～5㎜)を15%、小礫φ10㎜を多量に含む
2. 暗褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石粒(φ1～5㎜)を10%、小礫φ10㎜をやや多く、砂岩質ブロックを2%含む
3. 暗褐色 粘性なし、締まりややあり、白色軽石粒(φ1～2㎜)を3%含む
4. 暗褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石粒(φ1～25㎜)を3%含む
5. 暗褐色 粘性ややあり、・締まりあり、白色軽石粒(φ1～2㎜)を5%、小礫を2%含む
6. 暗褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石粒(φ1～3㎜)を5%、小礫を3%含む
7. 黒褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石粒(φ1～5㎜)を15%、小礫を5%含む
8. 黒褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石粒(φ1～3㎜)を3%含む
9. 暗褐色 粘性・締まりなし、白色軽石粒(φ1㎜)を少量含む
10. 黒褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石粒(φ1～2㎜)を3%、小礫、砂を多量に含む
11. 黒褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石粒(φ1～3㎜)を5%、小礫(φ3～10㎜)を2%含む
12. 黒褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石粒(φ1～3㎜)を5%、小礫(φ3～10㎜)を5%含む
13. 黒褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石粒(φ1～5㎜)を3%、小礫(φ3～10㎜)を5%含む
14. 黒褐色 粘性ややあり、締まりあり、白色軽石粒(φ1～3㎜)を3%、小礫(φ2～10㎜)を10%含む
15. 黒褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石粒(φ1～2㎜)を3%、小礫(φ2～15㎜)を3%含む
16. 黒褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石粒(φ1～5㎜)を3%、小礫(φ2～10㎜)を10%含む
17. 暗褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石粒(φ1～5㎜)を5%、小礫(φ2～10㎜)を5%含む
18. 暗褐色 粘性・締まりややあり、白色軽石粒(φ1～3㎜)を3%、小礫(φ2～10㎜)を1%、砂岩質粒(φ2～20㎜)を2%含む

第31図　W－４・５号溝跡



0　1:60　2m

W－７　土層注記(A－A')
1.黒褐色　粘性･締まりややあり、白色軽石粒(φ1～5mm)を5%、砂岩質粒(φ2～10mm)を2%含む
2.暗褐色　粘性･締まりややあり、白色軽石粒(φ1～5mm)を7%、砂岩質粒を少量含む
3.暗褐色　粘性･締まりややあり、白色軽石粒(φ1～3mm)を5%、砂岩質粒を少量含む



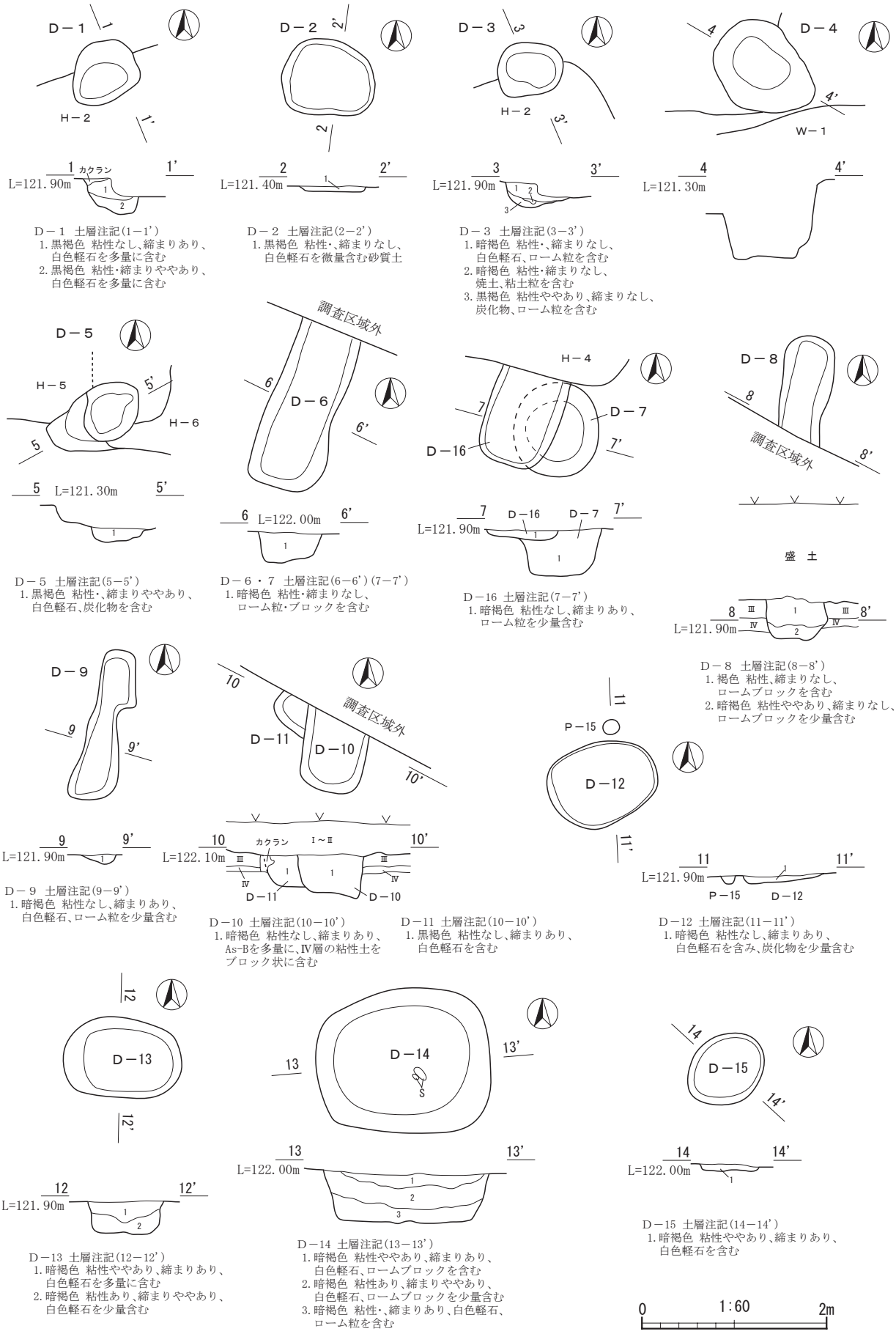
ＤＢ－１　土層注記(A－A')
1.暗褐色　粘性､締まりややあり､As-Bを少量含む

0　1:20　0.5m

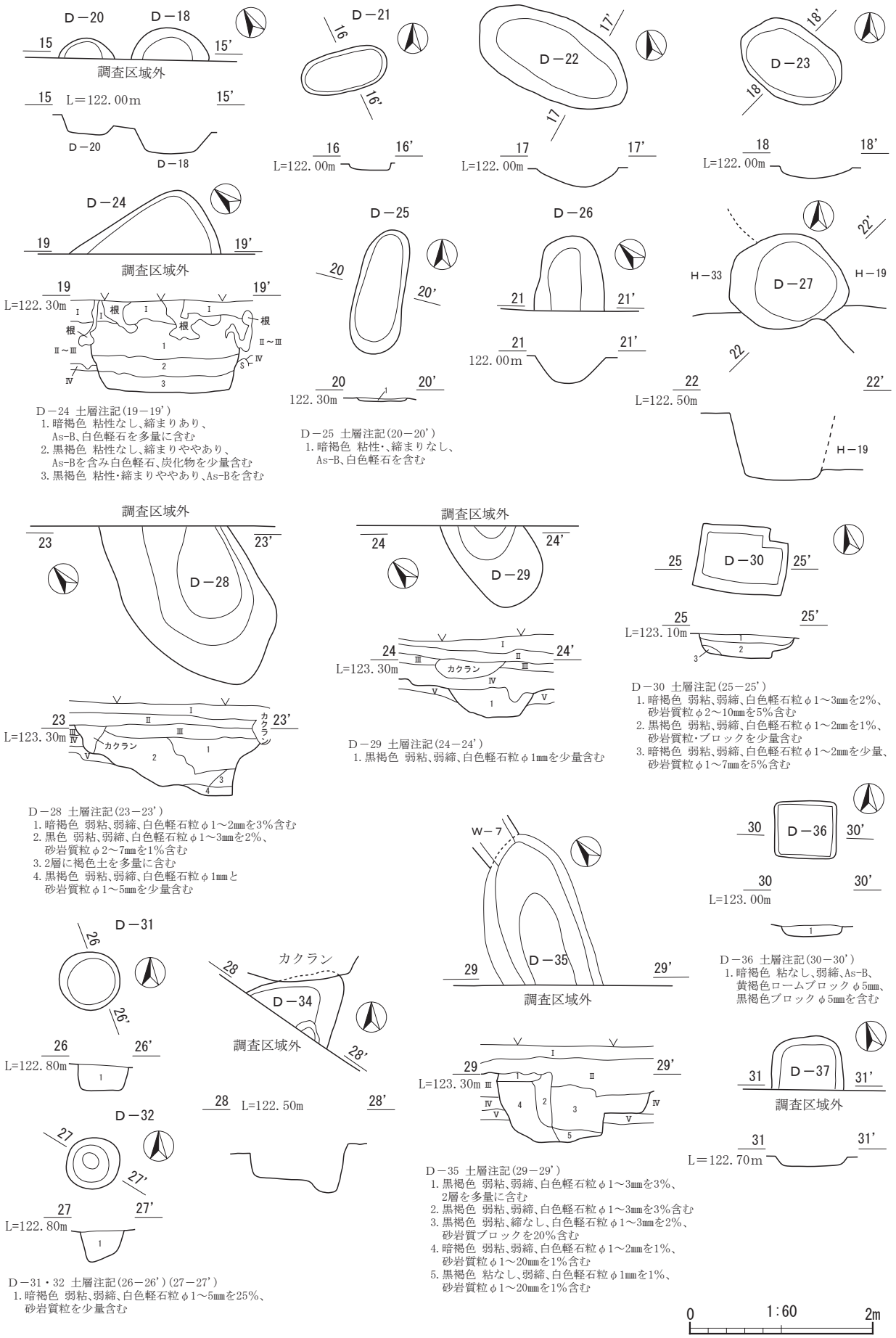
ＤＢ－２　土層注記(A－A')
1.暗褐色　粘性なし､､締まりややあり､As-Bを少量含む

0　1:20　0.5m

第32図　Ｗ－６・７号溝跡、Ｄ－35号土坑、ＤＢ－１・２号土坑墓



第33図　D－1～16号土坑



D－24 土層注記(19－19')
1. 暗褐色 粘性なし、締まりあり、
As-B、白色軽石を多量に含む
2. 黒褐色 粘性なし、締まりややあり、
As-Bを含み白色軽石、炭化物を少量含む
3. 黒褐色 粘性・締まりややあり、As-Bを含む

D－25 土層注記(20－20')
1. 暗褐色 粘性・、締まりなし、
As-B、白色軽石を含む

D－28 土層注記(23－23')
1. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2㎜を3%含む
2. 黒色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3㎜を2%、
砂岩質粒φ2～7㎜を1%含む
3. 2層に褐色土を多量に含む
4. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1㎜と
砂岩質粒φ1～5㎜を少量含む

D－29 土層注記(24－24')
1. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1㎜を少量含む

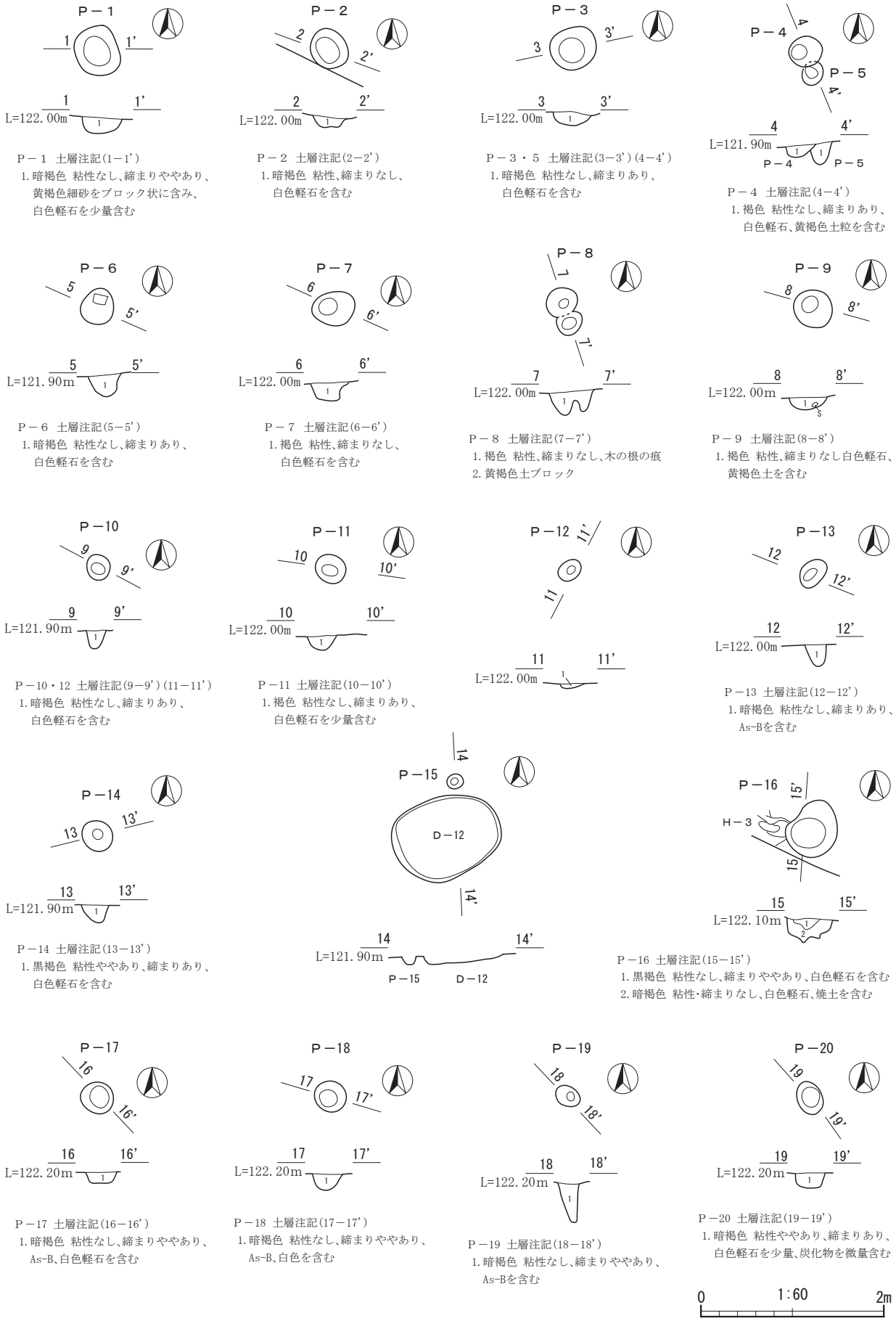
D－30 土層注記(25－25')
1. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3㎜を2%、
砂岩質粒φ2～10㎜を5%含む
2. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2㎜を1%、
砂岩質粒・ブロックを少量含む
3. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2㎜を少量、
砂岩質粒φ1～7㎜を5%含む

D－36 土層注記(30－30')
1. 暗褐色 粘なし、弱締、As-B、
黄褐色ロームブロックφ5㎜、
黒褐色ブロックφ5㎜を含む

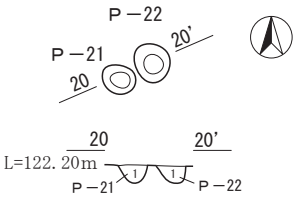
D－31・32 土層注記(26－26')(27－27')
1. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5㎜を25%、
砂岩質粒を少量含む

D－35 土層注記(29－29')
1. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3㎜を3%、
2層を多量に含む
2. 黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3㎜を3%含む
3. 黒褐色 弱粘、締なし、白色軽石粒φ1～3㎜を2%、
砂岩質ブロックを20%含む
4. 暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2㎜を1%、
砂岩質粒φ1～20㎜を1%含む
5. 黒褐色 粘なし、弱締、白色軽石粒φ1㎜を1%、
砂岩質粒φ1～20㎜を1%含む

第34図　D－18・20～32・34～37号土坑

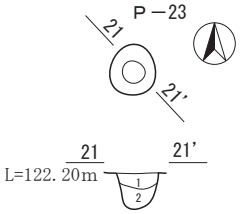


第35図　Ｐ－１～20号ピット

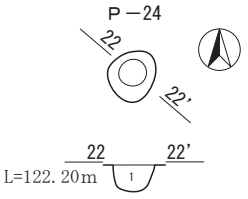


P－21 土層注記(20－20')
1.暗褐色 粘性・締まりややあり、
白色軽石を含む

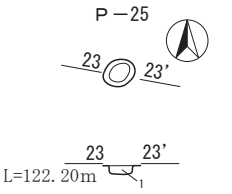
P－22 土層注記(20－20')
1.暗褐色 粘性、締まりややあり、
As-Bを含む



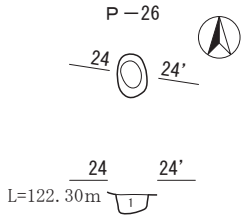
P－23 土層注記(21－21')
1.暗褐色 粘性、締まりややあり、
白色軽石、炭化物を含む
2.黒褐色 粘性ややあり、締まりなし、
白色軽石、炭化物を少量含む



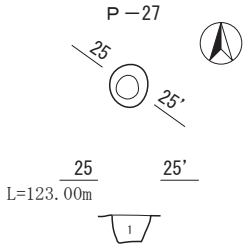
P－24 土層注記(22－22')
1.暗褐色 粘性ややあり、締まりなし、
白色軽石を含む



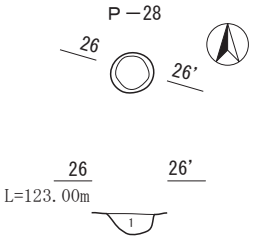
P－25 土層注記(23－23')
1.暗褐色 粘性なし、締まりややあり、
As-B、白色軽石を含む



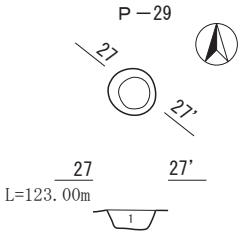
P－26 土層注記(24－24')
1.暗褐色 粘性・締まりややあり、
白色軽石を含む



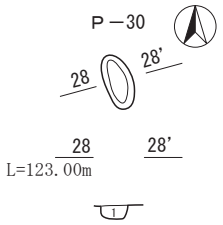
P－27 土層注記(25－25')
1.暗褐色 粘性なし、締まりややあり、
白色軽石粒を少量含む



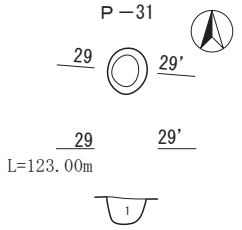
P－28 土層注記(26－26')
1.暗褐色 粘性・締まりややあり

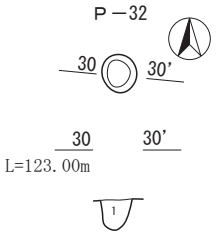


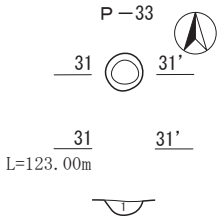
P－29 土層注記(27－27')
1.暗褐色 粘性・締まりややあり、
白色軽石を含む



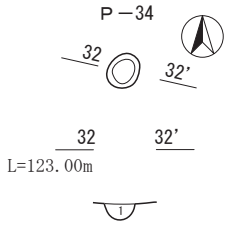
P－30 土層注記(28－28')
1.黒褐色 粘性・締まりややあり、
白色軽石粒を含む



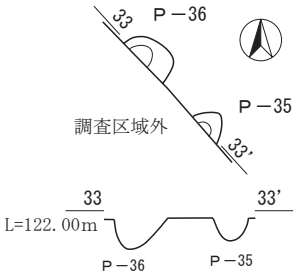


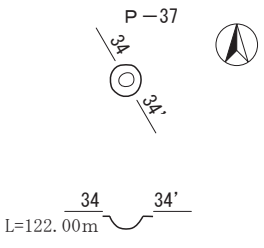


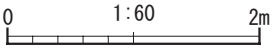
P－31～33 土層注記(29－29')～(31－31')
1.暗褐色 粘性、締まりややあり、
As-Bを含む



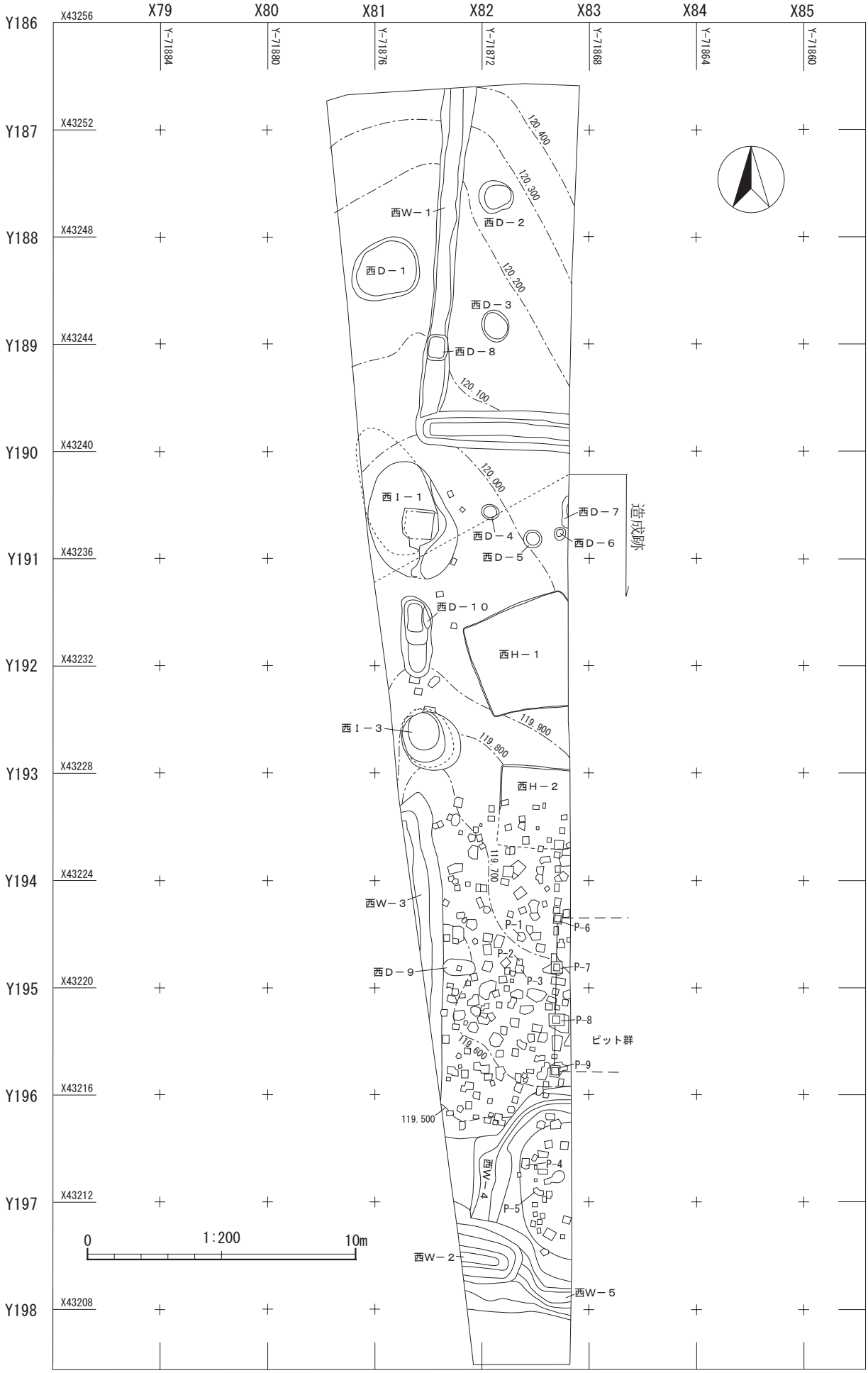
P－34 土層注記(32－32')
1.黒褐色 粘性・締まりややあり、
白色軽石粒を含む



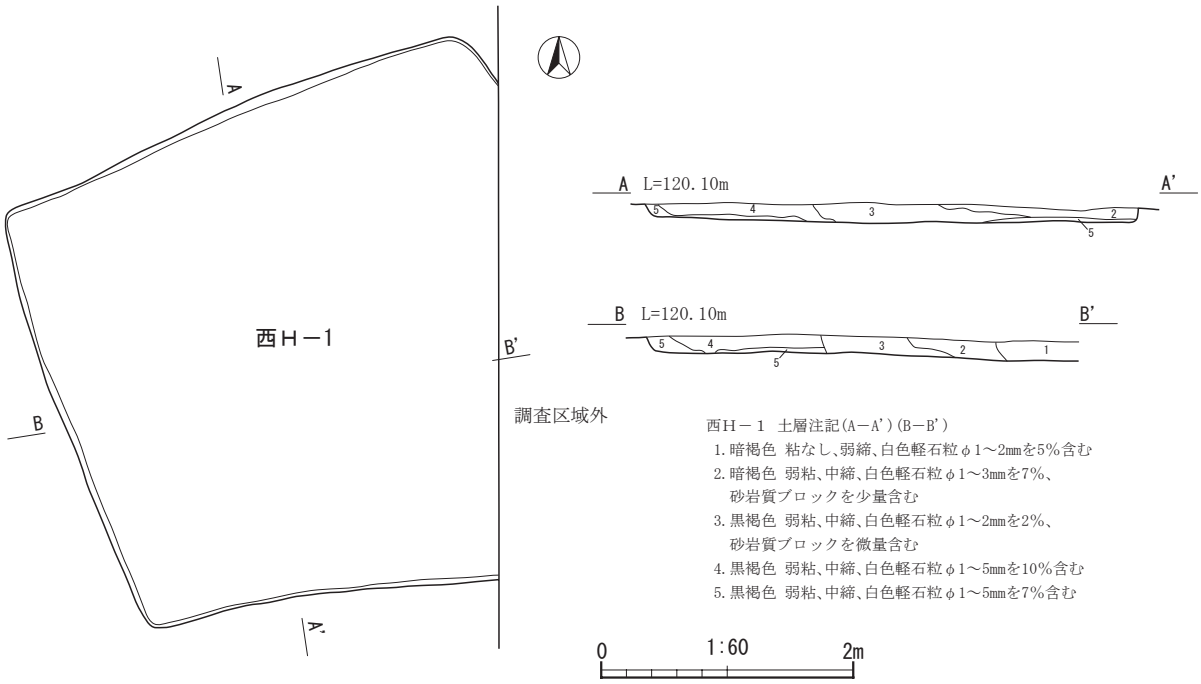


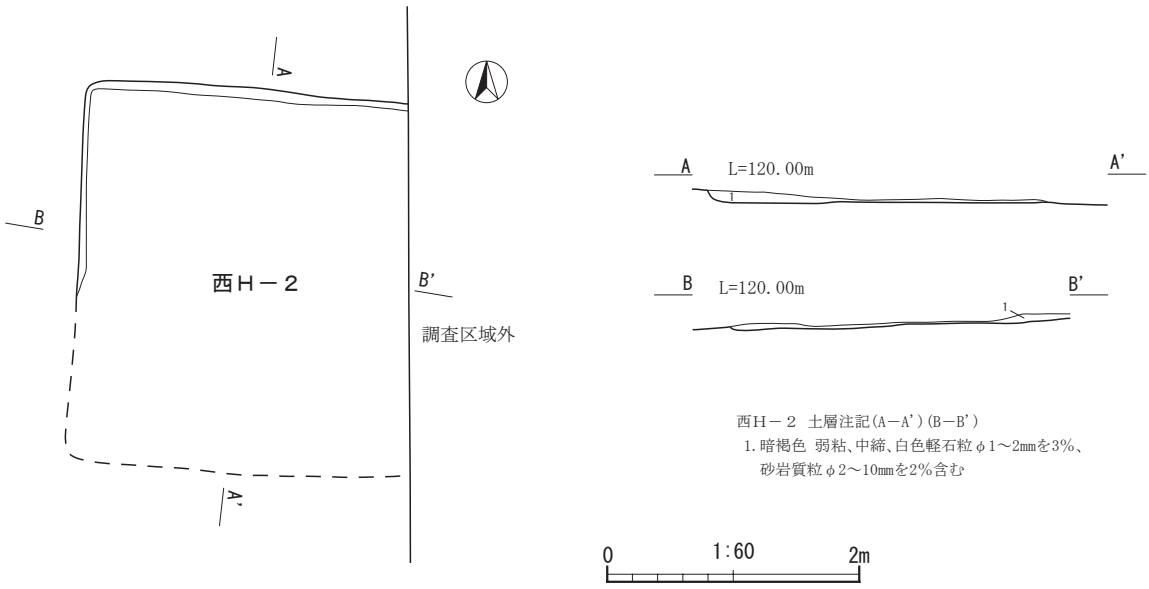


第36図　P－21～37号ピット

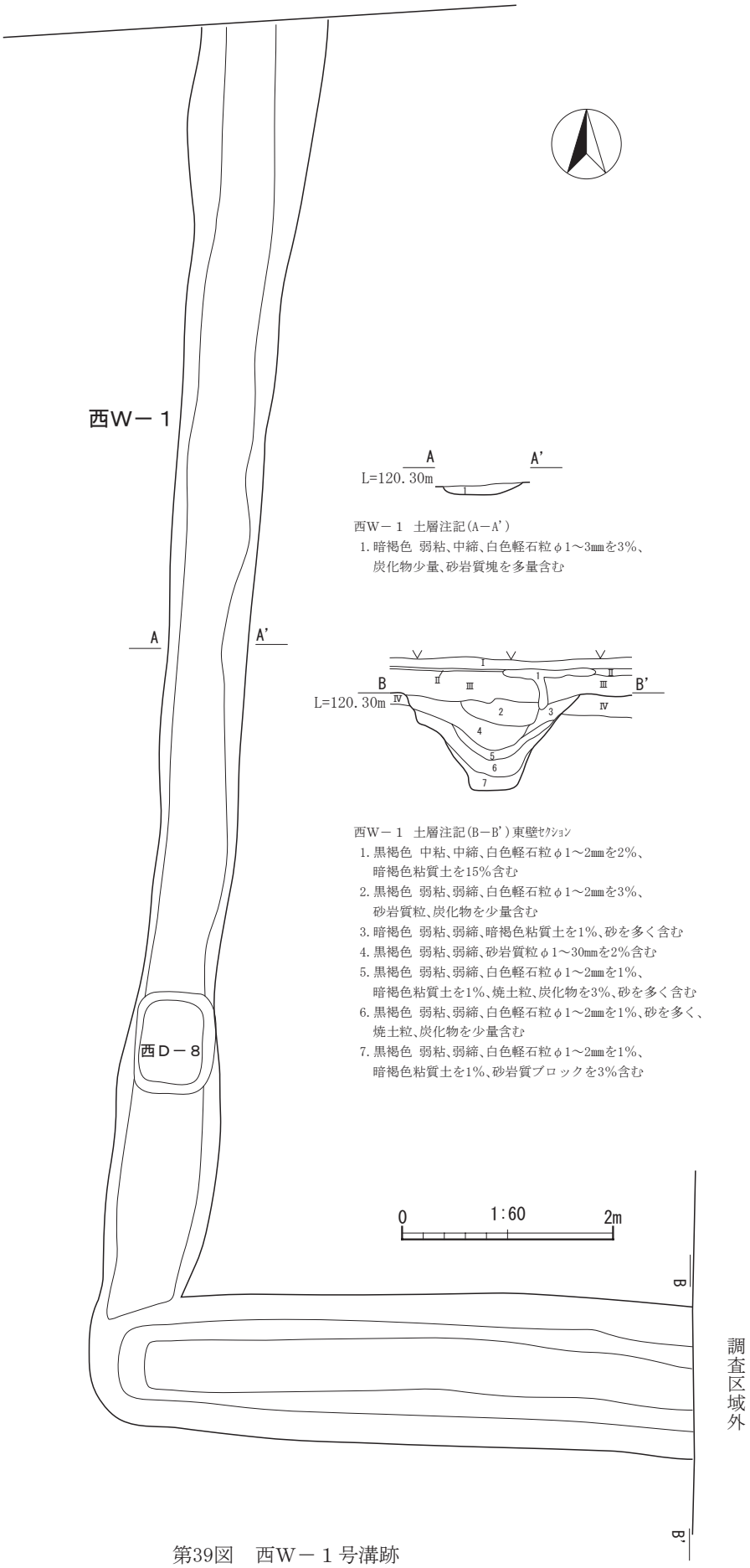


第37図　西通線調査区全体図

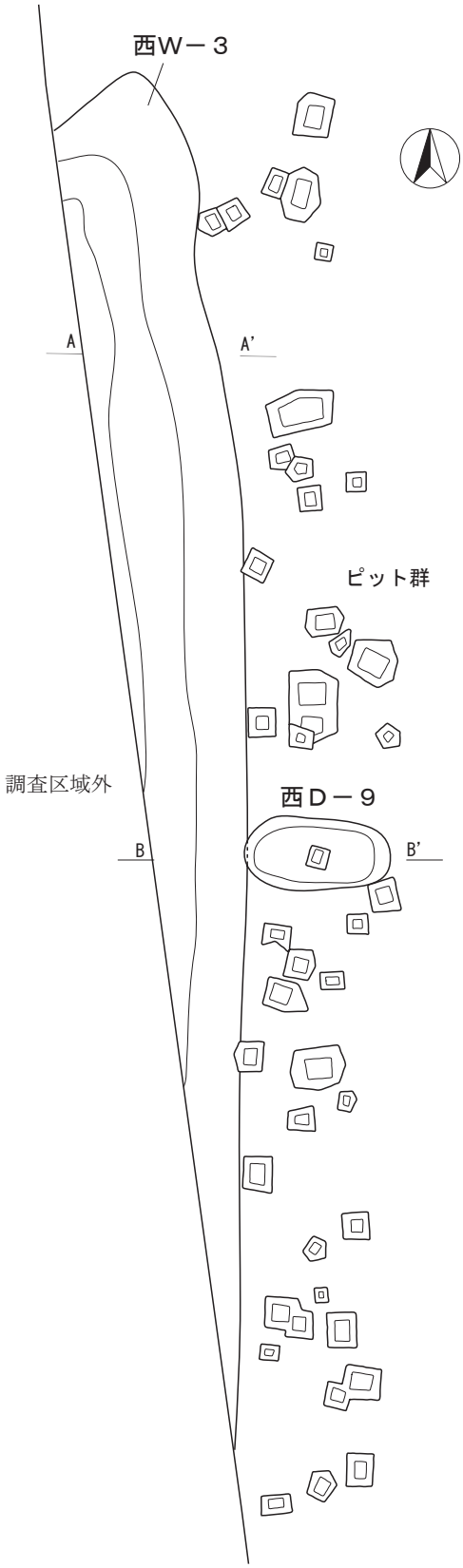


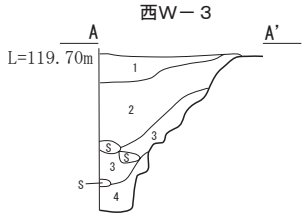


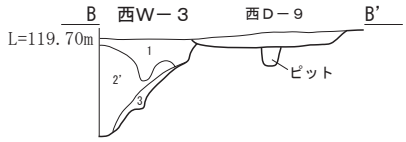
第38図　西Ｈ－1・２号住居跡


西W－1
A
A'
L=120.30m
1
西W－1 土層注記(A－A')
1.暗褐色 弱粘、中締、白色軽石粒φ1～3mmを3%、
炭化物少量、砂岩質塊を多量含む
B
B'
L=120.30m
Ⅰ
Ⅱ
Ⅲ
Ⅳ
1
2
3
4
5
6
7
西W－1 土層注記(B－B')東壁ｾｸｼｮﾝ
1.黒褐色 中粘、中締、白色軽石粒φ1～2mmを2%、
暗褐色粘質土を15%含む
2.黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを3%、
砂岩質粒、炭化物を少量含む
3.暗褐色 弱粘、弱締、暗褐色粘質土を1%、砂を多く含む
4.黒褐色 弱粘、弱締、砂岩質粒φ1～30mmを2%含む
5.黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、
暗褐色粘質土を1%、焼土粒、炭化物を3%、砂を多く含む
6.黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、砂を多く、
焼土粒、炭化物を少量含む
7.黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、
暗褐色粘質土を1%、砂岩質ブロックを3%含む
西D－8
0
1:60
2m
B
B'
調査区域外

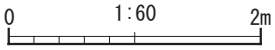
第39図　西W－1号溝跡



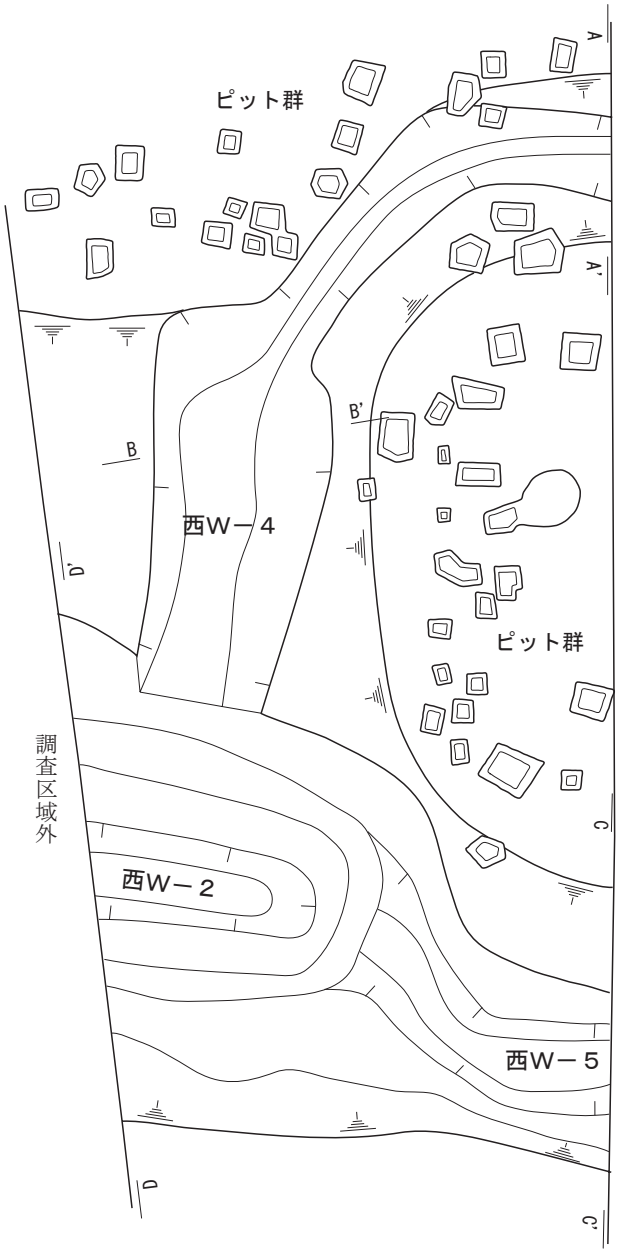


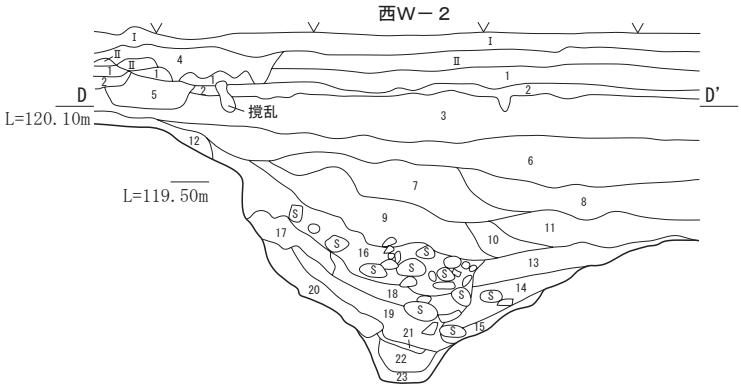


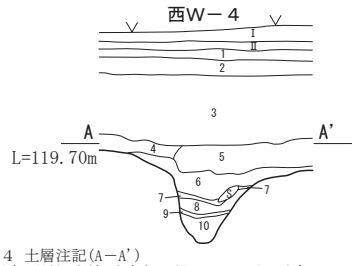
西W－３　土層注記(A－A')(B－B')
1.暗褐色　弱粘、弱締、砂岩質粒φ1～20mmを3%含む
2.暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1mmを少量、砂岩質粒φ1～30mmを3%含む
2'.暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1mmを少量、砂岩質粒φ1～60mmを15%含む
3.暗褐色　弱粘、弱締、砂岩質粒・ブロックを5%含む
4.暗褐色　中粘、中締、鈍い黄褐色シルトを多く含む



第40図　西W－３号溝跡

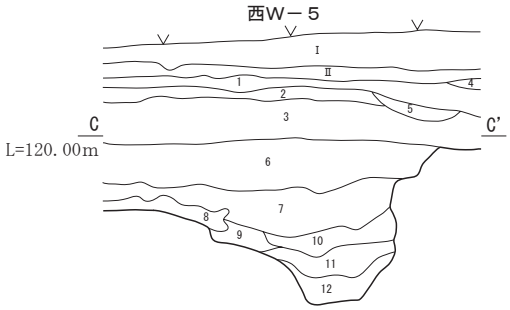






西W－4　土層注記(A－A')
1. 黒褐色　弱粘、中締、白色軽石粒φ1～3mmを5%含む
2. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを3%、小礫を少量含む
3. 暗褐色　弱粘、中締、白色軽石粒φ1～5mmを1%、小礫、砂岩質粒を少量含む
4. 黒褐色　弱粘、中締、白色軽石粒φ1mmを1%、砂岩質粒1～10mmを1%含む
5. 黒褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1mmを少量、砂岩質粒φ1～10mmを3%含む
6. 暗褐色　弱粘、弱締、砂岩質粒・ブロックを5%含む
7. 黒褐色　弱粘、中締、砂岩質粒・ブロックを3%含む
8. 暗褐色　弱粘、弱締、砂岩質粒・ブロックを5%含む
9. 黒褐色　弱粘、中締、砂岩質粒・ブロックを3%含む
10. 暗褐色　弱粘、弱締、砂岩質粒・ブロックを2%含む

西W－4　土層注記(B－B')
1. 褐色　弱粘、弱締、砂岩質粒φ1～10mmを5%、炭化物を少量含む
2. 鈍い黄褐色　粘ナシ、弱締、砂質土、白色砂岩質粒φ1～20mmを7%、炭化物を1%含む

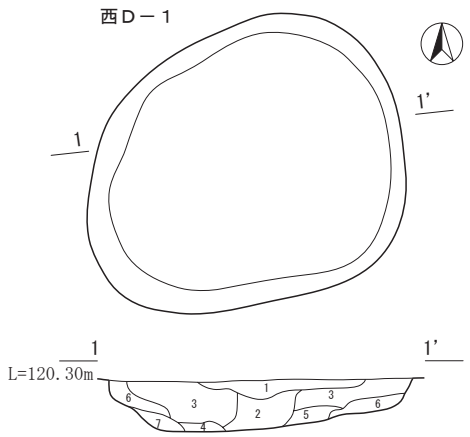


西W－5　土層注記(C－C')
1. 黒褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを5%含む
2. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを3%含む
3. 暗褐色　弱粘、中締、白色軽石粒φ1～5mmを1%、砂岩質粒を少量含む
4. 黒褐色　弱粘、中締、白色軽石粒φ1～3mmを3%、砂岩質粒φ1～7mmを1%含む
5. 黒褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを3%含む
6. 暗褐色　弱粘、中締、白色軽石粒φ1～3mmを3%、砂岩質粒φ1～10mmを2%含む
7. 黒褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1mmを少量、砂岩質粒φ1～7mmを5%含む
8. 黒褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1mmを少量、砂岩質粒φ1～10mmを5%含む
9. 黒褐色　弱粘、弱締、砂岩質粒φ1～10mmを2%、鈍い黄褐色シルトを3%含む
10. 暗褐色　弱粘、弱締、砂岩質粒φ1～57mmを5%、鈍い黄褐色シルトを5%含む
11. 黒褐色　弱粘、弱締、砂岩質粒φ1～10mmを5%、鈍い黄褐色シルトを多量含む
12. 黒褐色　弱粘、弱締、砂岩質粒φ1～10mmを3%、鈍い黄褐色シルトを10%含む

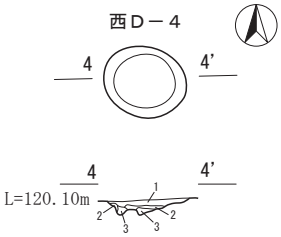
西W－2　土層注記(D－D')
1. 黒褐色　弱粘、中締、白色軽石粒φ1～3mmを5%含む
2. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを3%、小礫を少量含む
3. 暗褐色　弱粘、中締、白色軽石粒φ1～5mmを1%、小礫、砂岩質粒を少量含む
4. 2.3.の混土　弱粘、中締
5. 暗褐色　弱粘、中締、白色軽石粒φ1～2mmを少量、砂岩質粒φ1～10mmを2%含む
6. 暗褐色　弱粘、中締、白色軽石粒φ1～3mmを3%、砂岩質粒φ1～10mmを2%含む
7. 暗褐色　弱粘、中締、白色軽石粒φ1～3mmを3%、砂岩質粒φ1～10mmを5%含む
8. 黒褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1mmを少量、砂岩質粒φ1～7mmを5%含む
9. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1mmを少量、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸを少量、鈍い黄褐色シルトを多量含む
10. 暗褐色　弱粘、弱締、砂岩質ﾌﾞﾛｯｸを5%、鈍い黄褐色シルトを多量含む
11. 黒褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1mmを少量、砂岩質粒φ1～10mmを5%、炭化物を少量含む
12. 黒褐色　弱粘、中締、白色軽石粒φ1～5mmを3%、砂岩質粒φ1～10mmを1%含む
13. 暗褐色　弱粘、弱締、砂岩質粒φ1～20mmを5%、炭化物を少量含む
14. 暗褐色　弱粘、弱締、砂岩質粒φ1～10mmを5%、炭化物を少量、鈍い黄褐色シルトを2%含む
15. 黒褐色　弱粘、弱締、鈍い黄褐色シルトを多量に含む
16. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを1%、砂岩質粒φ2～40mmを5%、自然石を多く含む
17. 砂岩質ブロック
18. 黒褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1mmを1%、砂岩質ブロックを多量に含む
19. 黒褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1mmを少量、鈍い黄褐色シルトを5%含む
20. 黒褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1mmを少量、鈍い黄褐色シルトを2%、砂岩質粒・ブロックを10%含む
21. 暗褐色　弱粘、弱締、砂岩質粒φ1～5mmを2%、砂を多く含む
22. 黒褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを3%、砂岩質粒φ1～7mmを5%含む
23. 黒褐色　弱粘、弱締、砂岩質粒φ1～10mmを7%含む

0　1:60　2m

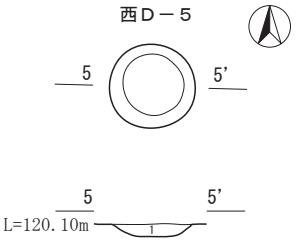
第41図　西W－2・4・5号溝跡



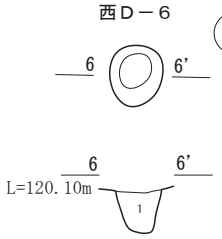
西Ｄ－１　土層注記(1－1')
1. 灰白色　強粘、強締、白色粘土、ローム粒を少量含む
2. 3. と1. の混土　中粘、強締、ローム粒φ2～20㎜を1%含む
3. 黒褐色　中粘、強締、白色軽石粒φ1～2㎜を7%、ローム粒を微量含む
4. 黒褐色　強粘、強締、粘質土ローム粒を微量含む
5. 暗褐色　弱粘、中締、砂を含む
6. 3. に白色粘土を多く含む
7. 暗褐色　粘ナシ、強締、砂質土



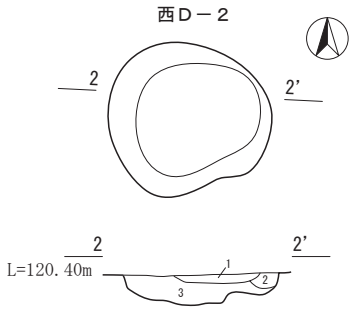
西Ｄ－４　土層注記(4－4')
1. 暗褐色　弱粘、中締、白色軽石粒φ1～2㎜を3%含む
2. 黄褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1㎜を1%含む
3. 暗褐色　弱粘、中締、白色軽石粒φ1～2㎜を2%含む



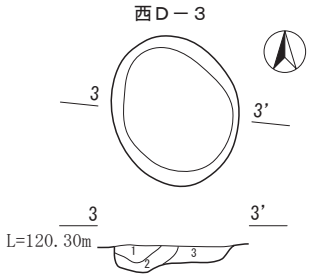
西Ｄ－５　土層注記(5－5')
1. 暗褐色　弱粘、中締、白色軽石粒φ1～10㎜を3%含む



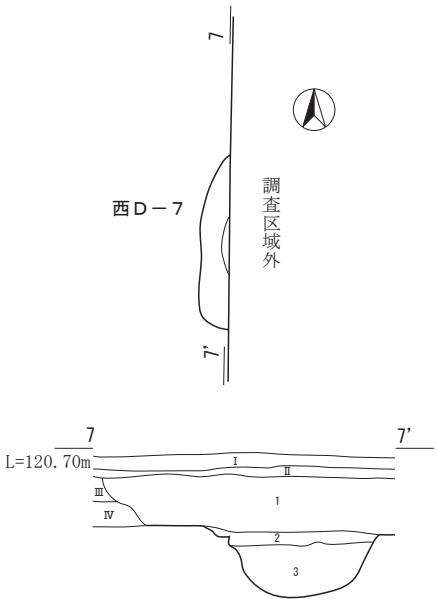
西Ｄ－６　土層注記(6－6')
1. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1㎜を2%含む



西Ｄ－２　土層注記(2－2')
1. 暗褐色　弱粘、中締、白色軽石粒φ1～3㎜を2%含む
2. 暗褐色　弱粘、中締、白色軽石粒φ1～2㎜を1%含む
3. 黒褐色　弱粘、中締、白色軽石粒φ1～3㎜を3%、
粘土ブロックを少量含む



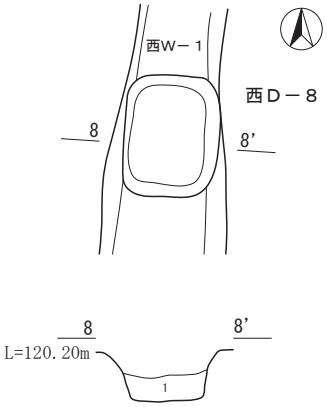
西Ｄ－３　土層注記(3－3')
1. 黒褐色　弱粘、中締、白色軽石粒φ1～3㎜を3%、
粘土ブロックを少量含む
2. 暗褐色　弱粘、中締、白色軽石粒φ1～7㎜を5%含む
3. 暗褐色　弱粘、中締、白色軽石粒φ1～7㎜を10%含む



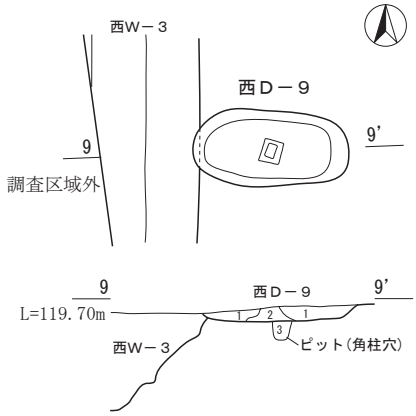
西Ｄ－７　土層注記(7－7')
1. 暗褐色　粘ナシ、弱締、白色軽石粒φ1～5㎜を10%、
砂岩質粒φ2～5㎜を1%含む
2. 暗褐色　粘ナシ、中締、白色軽石粒φ1～2㎜を2%、
砂岩質粒φ2～3㎜を少量含む
3. 黒褐色　弱粘、弱締、暗褐色粘質土を少量、砂を少量含む

0　1:60　2m

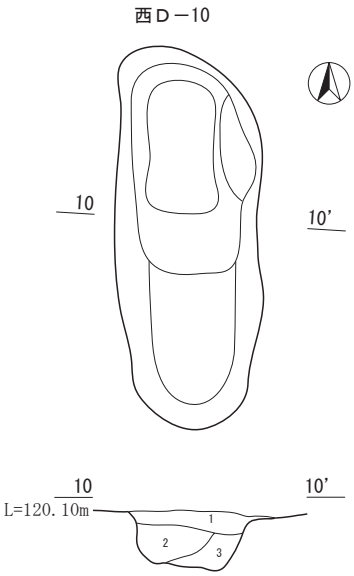
第42図　西Ｄ－１～７号土坑



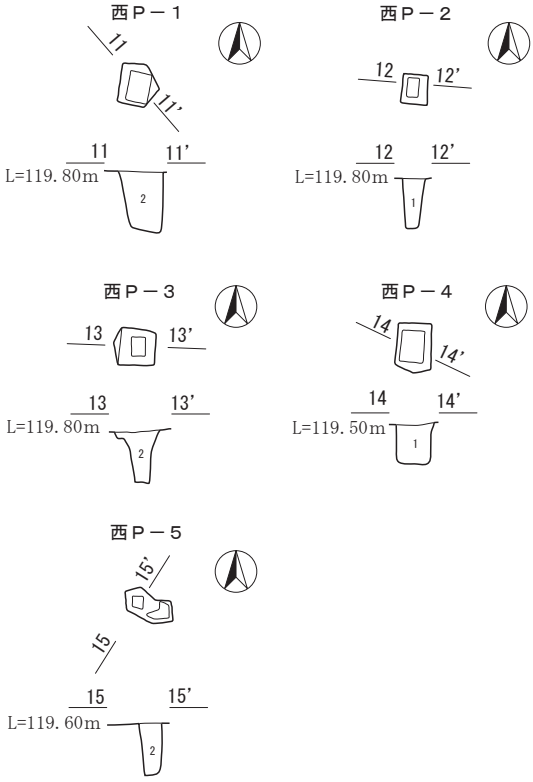
西D－8　土層注記(8－8')
1. 黒褐色　中粘、中締、白色軽石粒φ1～2mmを5%、
灰白色粘質土を10%含む



西D－9　土層注記(9－9')
1. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを2%、砂岩質粒を少量含む
2. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、砂岩質粒を1%含む
3. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5mmを2%含む(角柱穴)



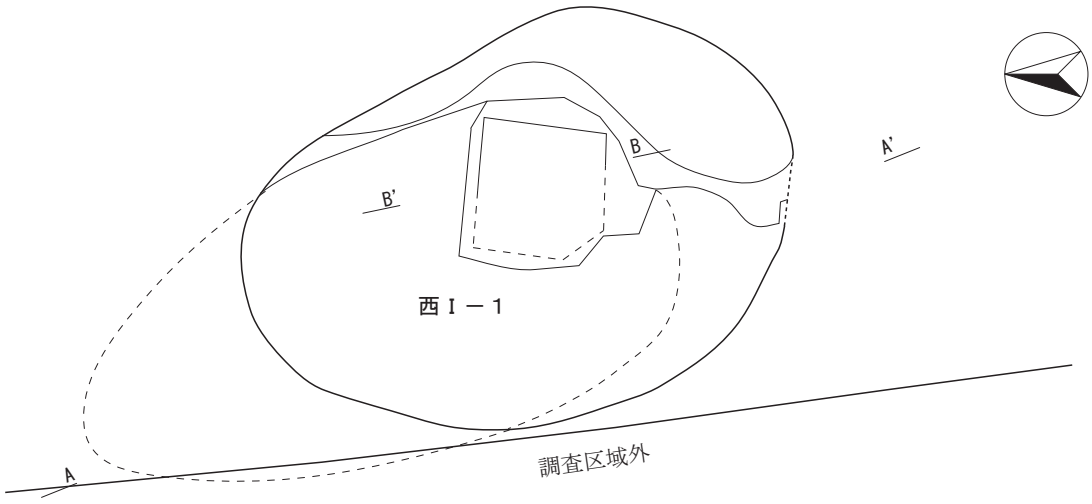
西D－10　土層注記(10－10')
1. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3mmを1%、砂岩質塊φ1～3mmを1%、
灰黄褐色シルト粒φ1～20mmを2%含む
2. 1. に2. を10%含む　弱粘、弱締
3. 鈍い黄褐色　弱粘、中締、シルト層

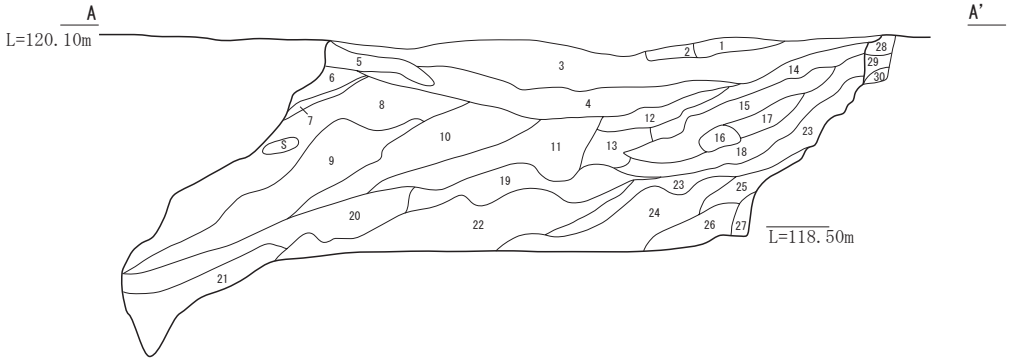


西P－1～5　土層注記(11－11')～(15－15')
1. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、
鈍い黄褐色シルト塊φ1～20mmを2%、砂岩質塊φ2～10mmを2%含む
2. 暗褐色　弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2mmを1%、
鈍い黄褐色シルト塊φ2～20mmを3%含む

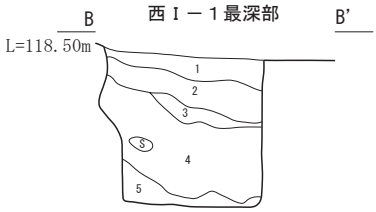
0　1:60　2m

第43図　西D－8～10号土坑、西P－1～5号ピット





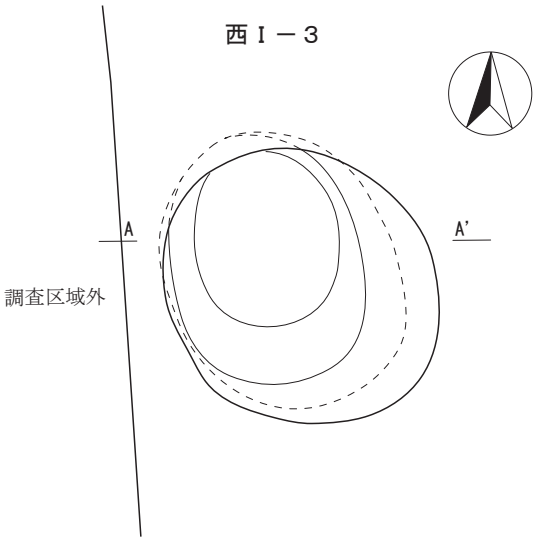
西Ⅰ－1　土層注記(A－A')
1.暗褐色 弱粘、中締、砂岩質粒φ1～20㎜を2%、シルト粒φ1～10㎜を3%含む
2.鈍い黄褐色 弱粘、弱締、砂岩質粒φ1～10㎜を1%、シルト粒φ1～10㎜を1%含む
3.暗褐色 弱粘、弱締、砂岩質粒φ1～50㎜を3%、シルト粒φ1～10㎜を1%含む
4.黒褐色 弱粘、弱締、砂岩質粒φ1～30㎜を2%含む
5.黒褐色 弱粘、弱締、砂岩質粒φ2～10㎜を3%、白色軽石粒φ1～3㎜を2%含む
6.黒褐色 弱粘、弱締、砂岩質粒φ1～10㎜を少量、白色軽石粒φ1～2㎜を3%含む
7.6層に灰白色シルトを1%含む 弱粘、弱締
8.黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2㎜を3%、砂岩質粒φ2～30㎜を2%、自然石を少量含む
9.黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2㎜を3%、砂岩質粒φ2～30㎜を2%、鈍い黄褐色シルトを多く含む
10.黒褐色 弱粘、中締、白色軽石粒φ1㎜を1%、砂岩質粒φ2～10㎜を1%、灰白色シルトを少量含む
11.黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2㎜を1%、砂岩質粒φ2～5㎜を少量含む
12.暗褐色 中粘、弱締、白色軽石粒φ1～3㎜を2%含む
13.黒褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3㎜を1%含む
14.暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2㎜を2%、灰黄褐色シルトを2%含む
15.暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2㎜を1%、灰黄褐色シルトを3%含む
16.砂岩質ブロック 粘なし、強締
17.暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～3㎜を2%、灰黄褐色シルトを3%含む
18.暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～2㎜を1%、灰黄褐色シルトを2%含む
19.黒褐色 中粘、中締、白色軽石粒φ1～2㎜を1%、暗褐色粘質土を5%、砂岩質粒を少量含む
20.暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1㎜を2%、鈍い黄褐色シルトを多く含む
21.暗褐色 中粘、中締、22層を多く、砂岩質ブロックを多く含む
22.にぶい黄褐色 強粘、強締、暗褐色粘質土を10%含む
23.暗褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1㎜を1%、シルトを3%、砂岩質ブロックを1%、炭化物を少量含む
24.暗褐色 弱粘、中締、シルトを5%、砂岩質ブロックを非常に多く含む
25.にぶい黄褐色 弱粘、弱締、白色軽石粒φ1～5㎜を3%、灰黄褐色シルトを3%含む
26.暗褐色 粘なし、強締、砂岩質ブロックを多く、灰黄褐色シルトを2%含む
27.暗褐色 弱粘、弱締、灰黄褐色シルトを非常に多く含む
28.暗褐色 弱粘、中締、灰黄褐色シルトを2%含む
29.にぶい黄橙色 粘なし、強締、黒色土を5%含む、シルト層
30.にぶい黄褐色 粘なし、中締、シルトを非常に多く含む

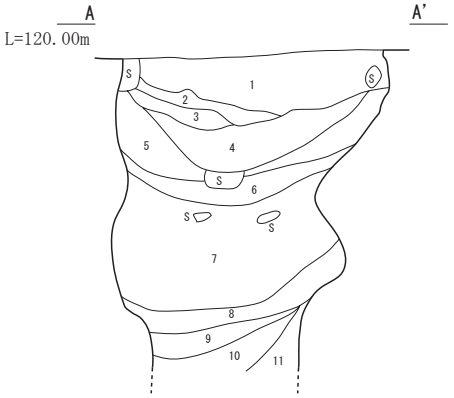


西Ⅰ－1 最深部　土層注記(B－B')
1.暗褐色 弱粘、弱締、灰黄褐色土と砂岩質ブロックを非常に多く含む
2.黒褐色 弱粘、弱締、灰黄褐色土と砂岩質ブロックを非常に多く、炭化物を1%含む
3.黒褐色 中粘、弱締、灰黄褐色粘質土を多く、炭化物を15%含む
4.暗褐色 中粘、中締、灰黄褐色シルトを非常に多く含む
5.黒色 中粘、中締、白色軽石粒φ1～5㎜を15%含む粘質土層

0　1:60　2m

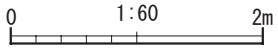
第44図　西Ⅰ－1号井戸跡



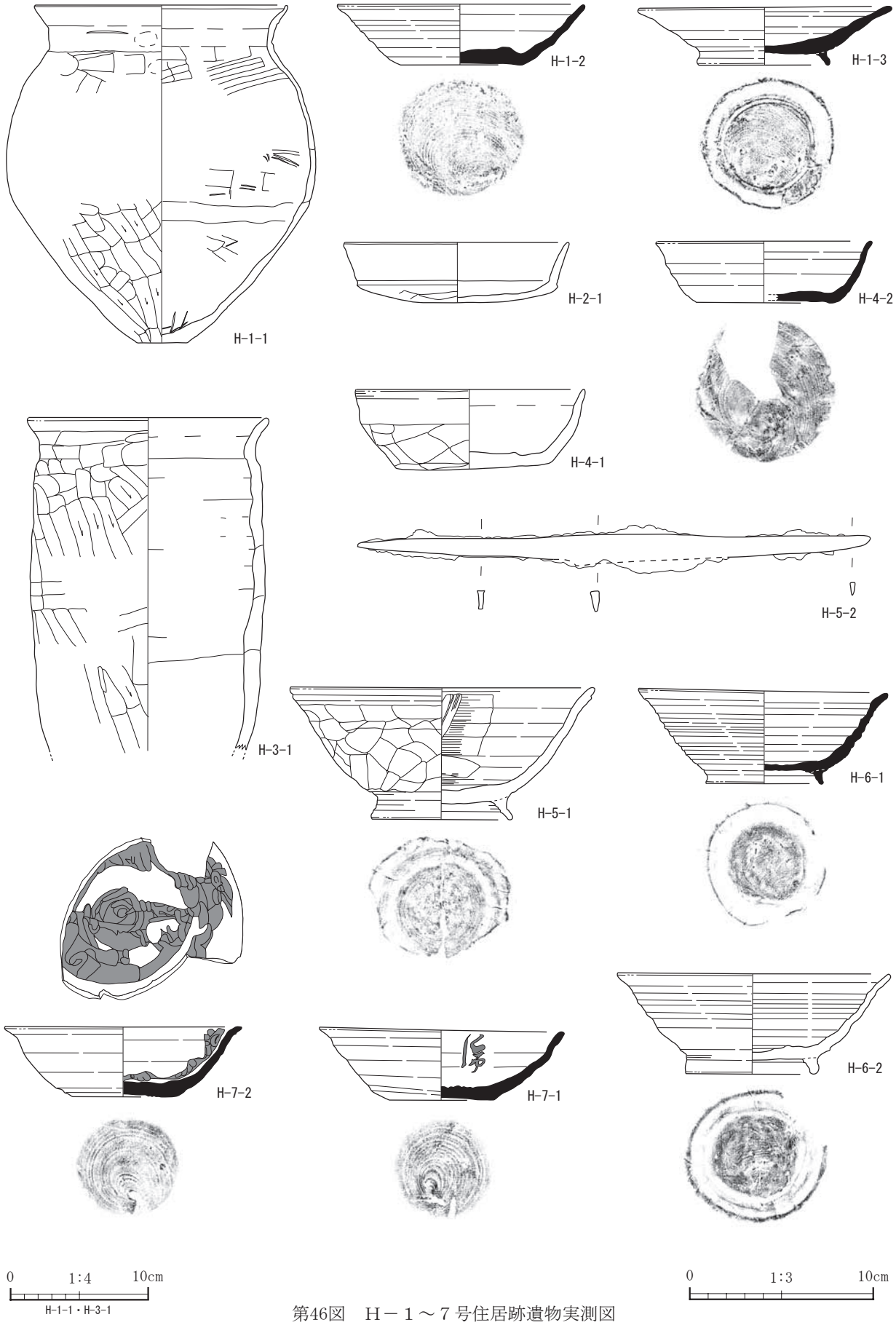


西Ｉ－３　土層注記(A－A')

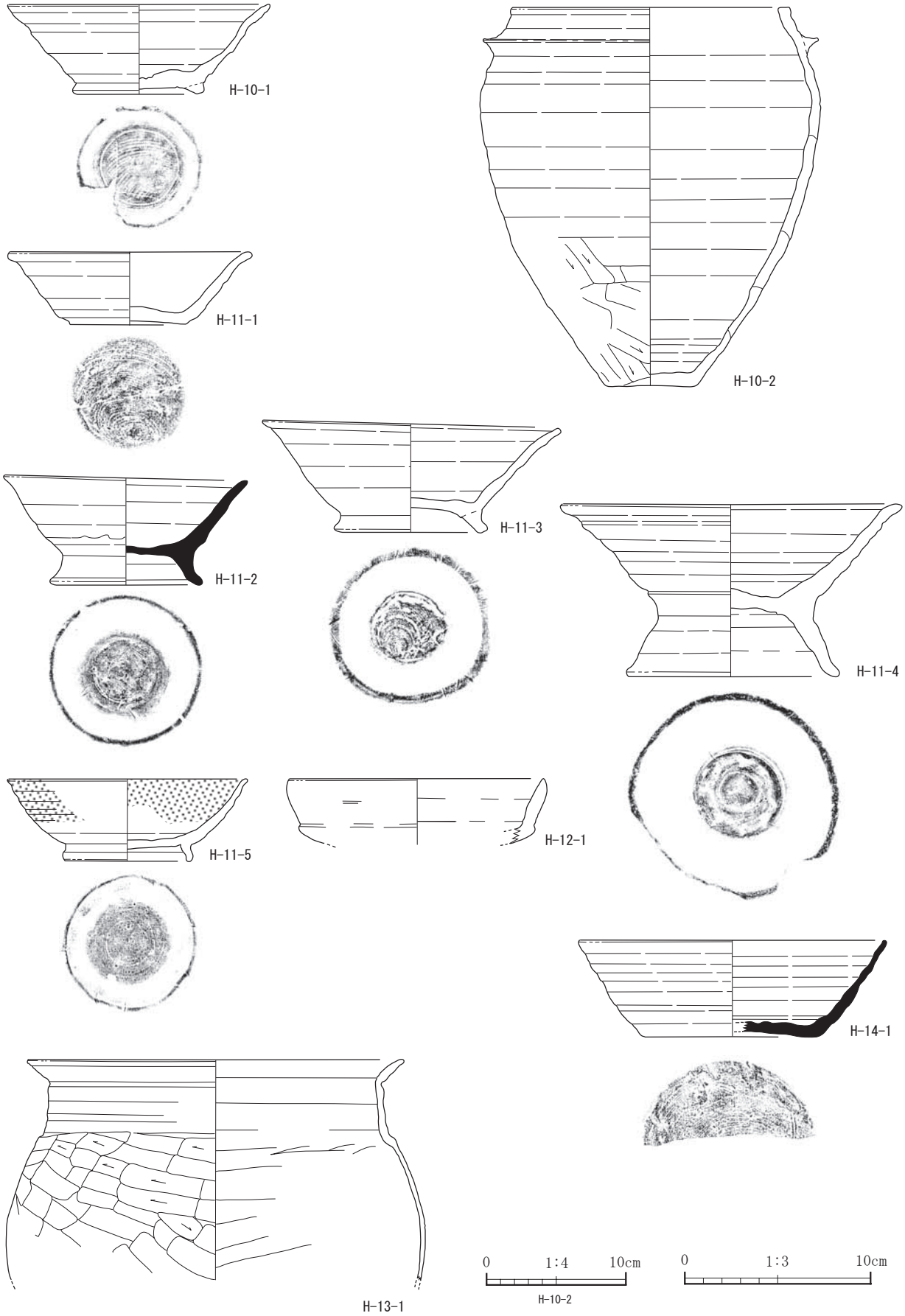
1. 暗褐色 弱粘、中締、砂岩質粒φ1～20㎜を5%含む
2. 暗褐色 弱粘、中締、砂岩質粒φ1～10㎜を2%含む
3. 暗褐色 弱粘、中締、砂岩質粒φ1～5㎜を1%含む
4. 暗褐色 弱粘、中締、砂岩質粒φ1～10㎜を1%、白色軽石粒φ1～2㎜を5%含む
5. 暗褐色 弱粘、中締、砂岩質粒φ1～30㎜を5%、白色軽石粒φ1～2㎜を3%含む
6. 褐色 粘ナシ、弱締、砂質土
7. 暗褐色 弱粘、中締、砂岩質粒φ1～50㎜を2%、白色軽石粒φ1～2㎜を5%含む
8. 暗褐色 中粘、弱締、灰黄褐色シルトを3%、砂を少量含む
9. 暗褐色 弱粘、弱締、灰黄褐色シルトを少量、砂を多量に含む
10. 暗褐色 弱粘、弱締、灰黄褐色シルト・砂を多く含む
11. 暗褐色 弱粘、弱締、灰黄褐色シルトを多く、・砂を非常に多く含む



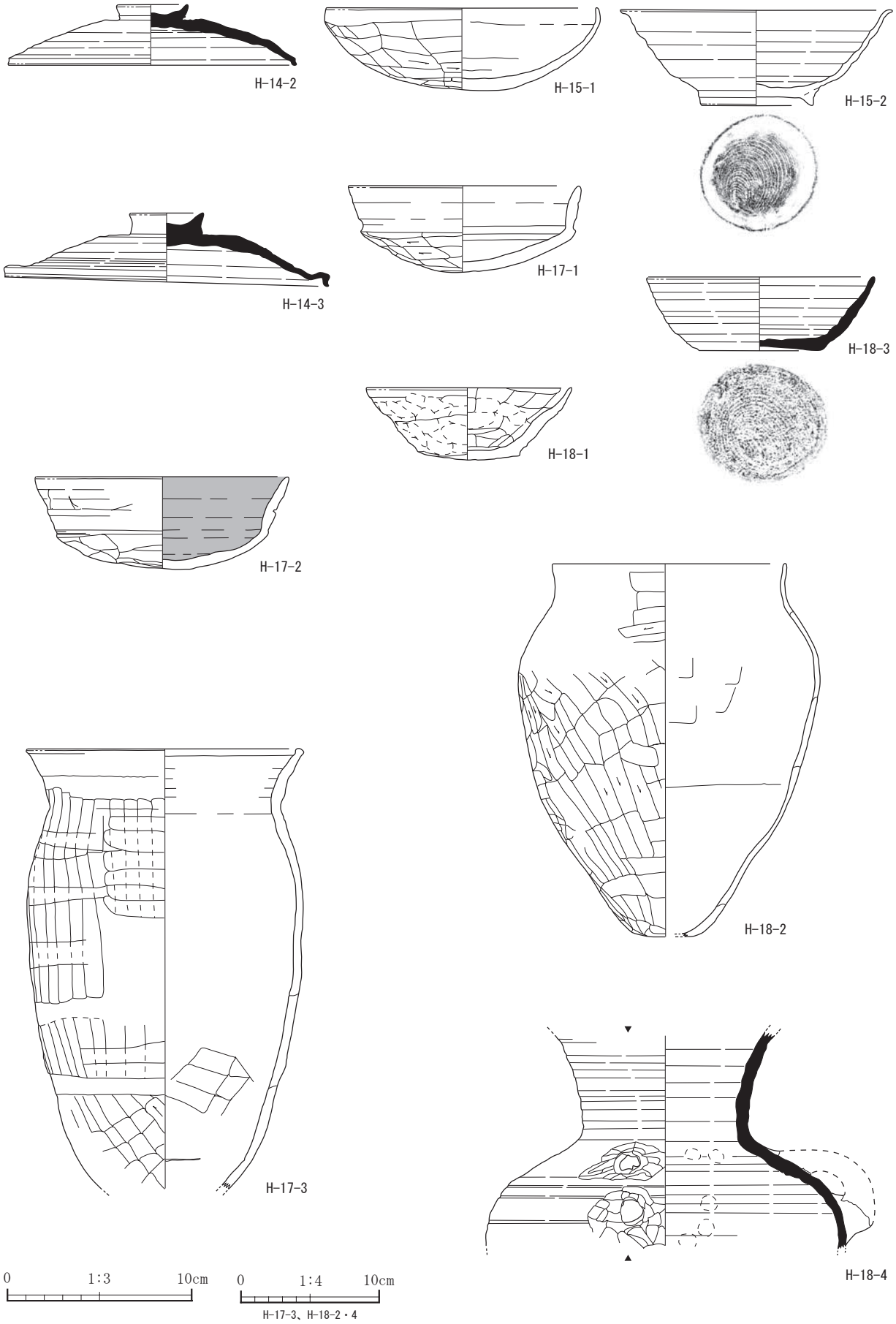
第45図　西Ｉ－３号井戸跡



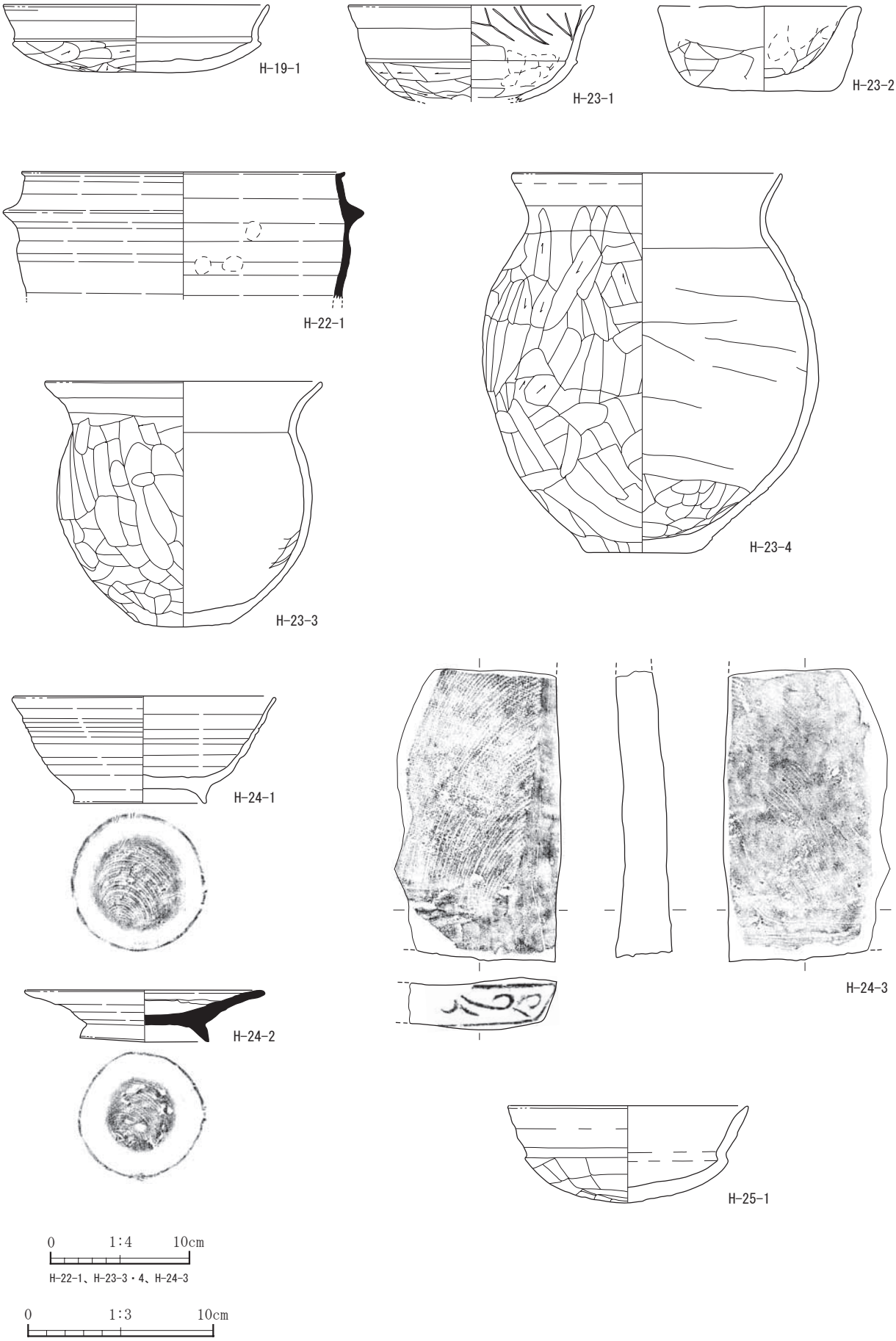
第46図　Ｈ－１～７号住居跡遺物実測図



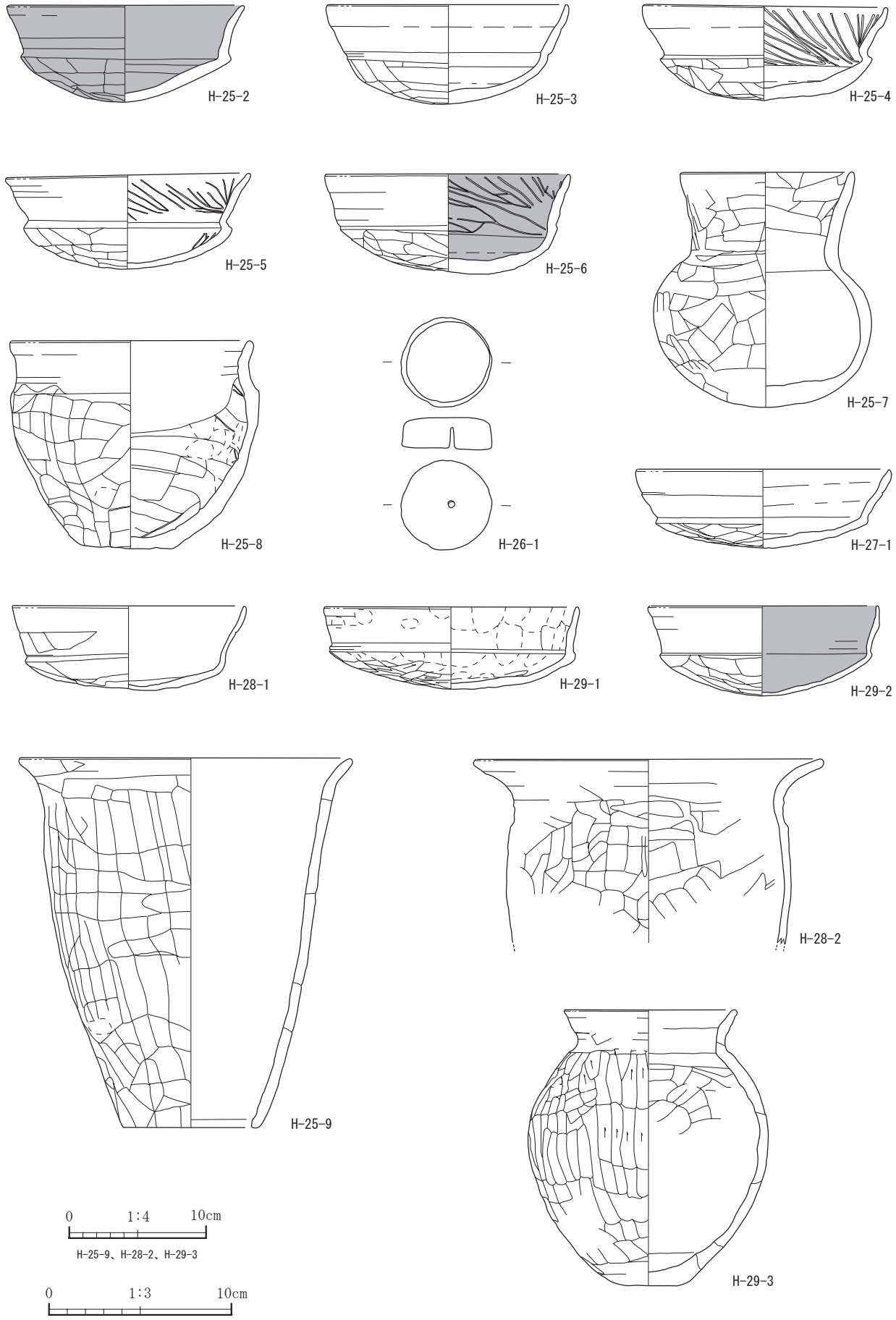
第47図　H－10～14号住居跡遺物実測図



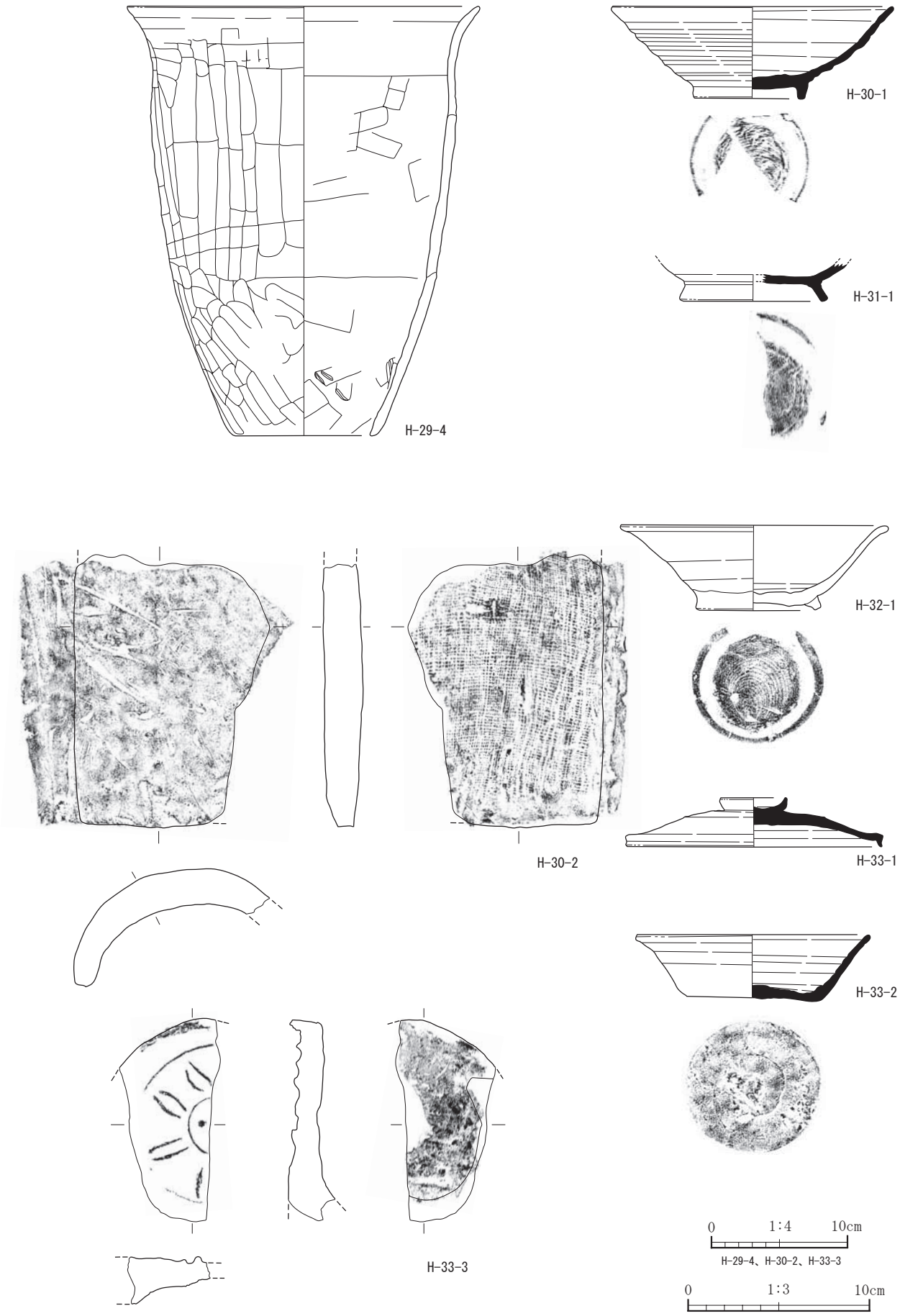
第48図　H－14・15・17・18号住居跡遺物実測図



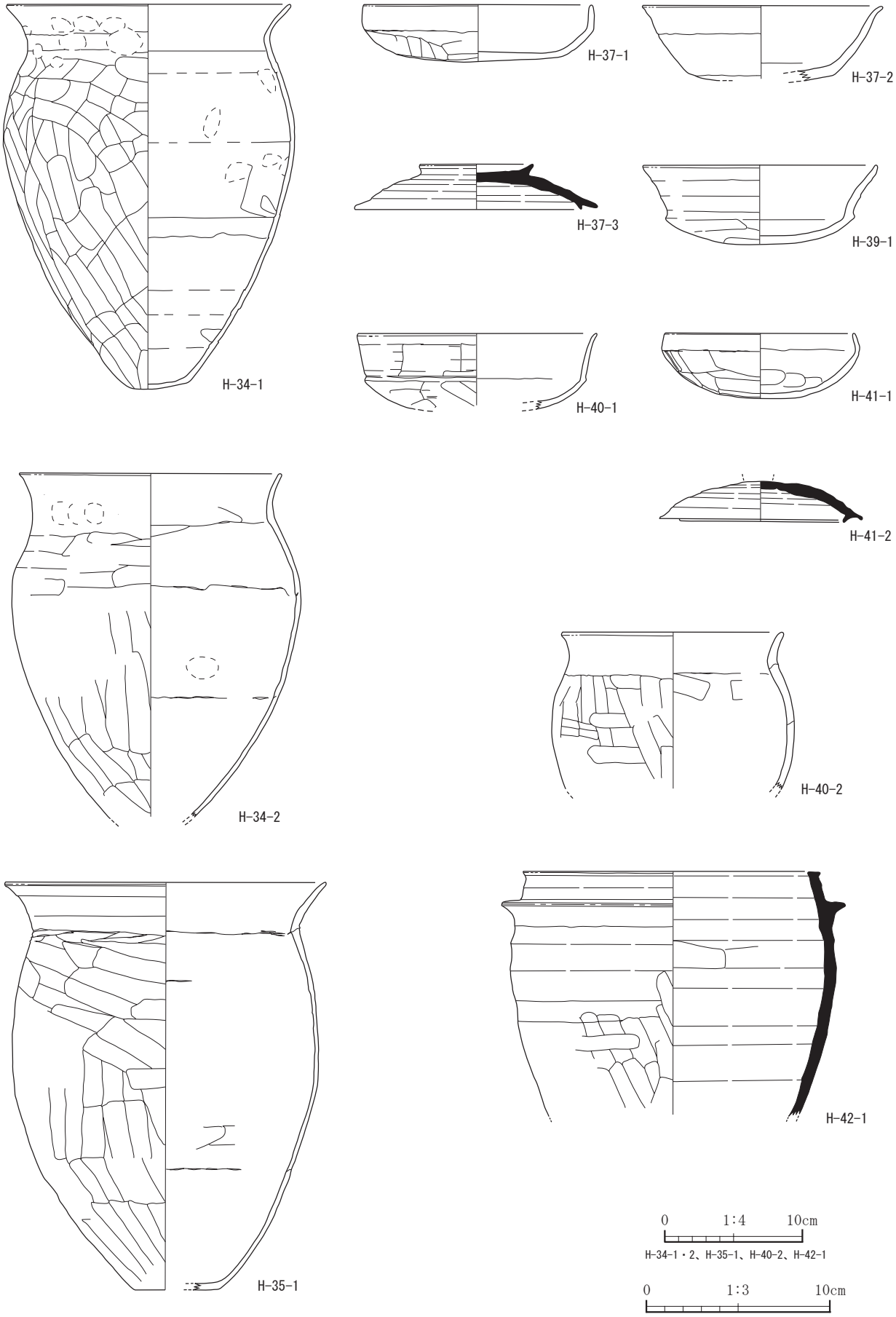
第49図　H－19・22～25号住居跡遺物実測図



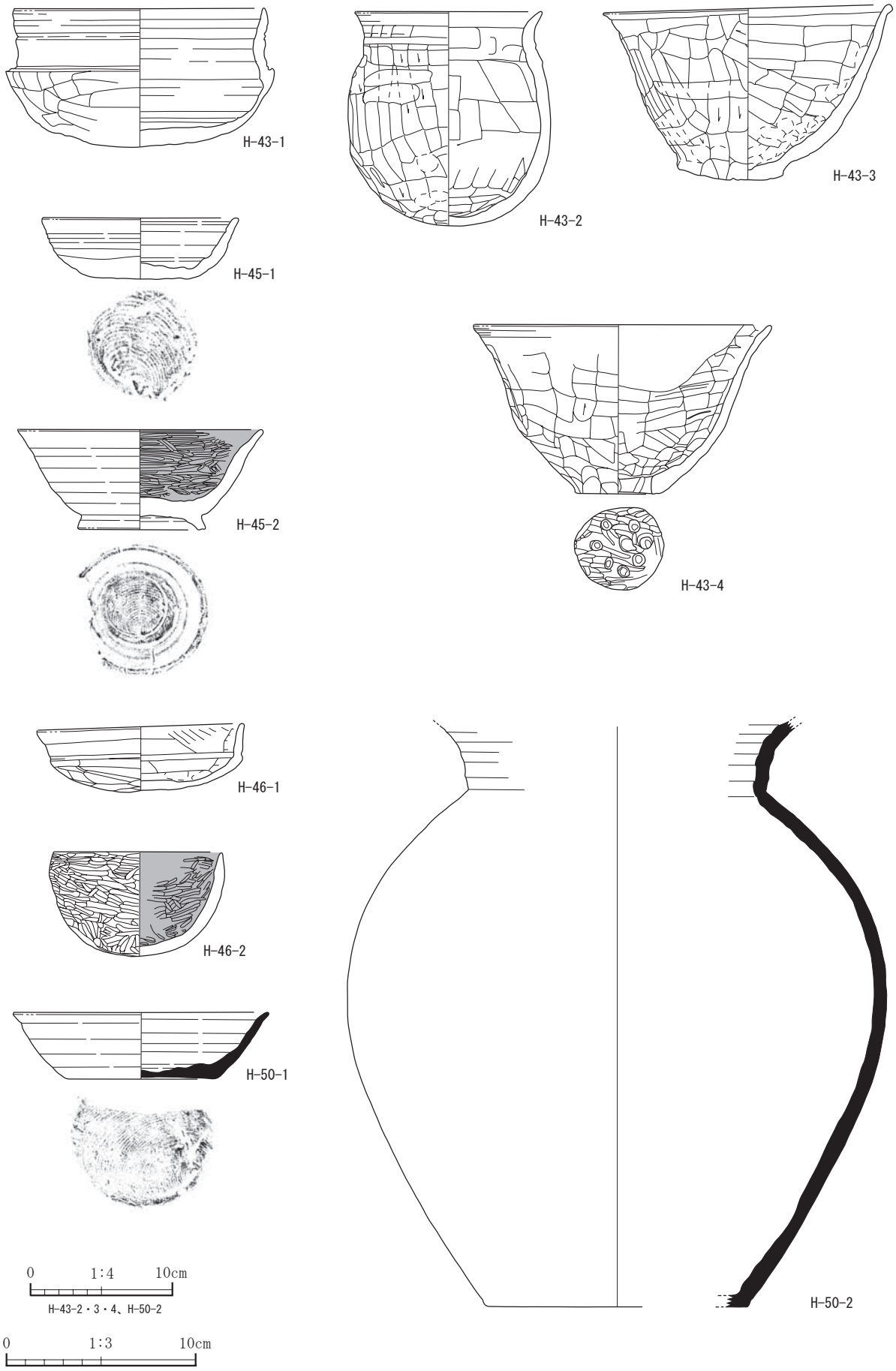
第50図　H－25～29号住居跡遺物実測図



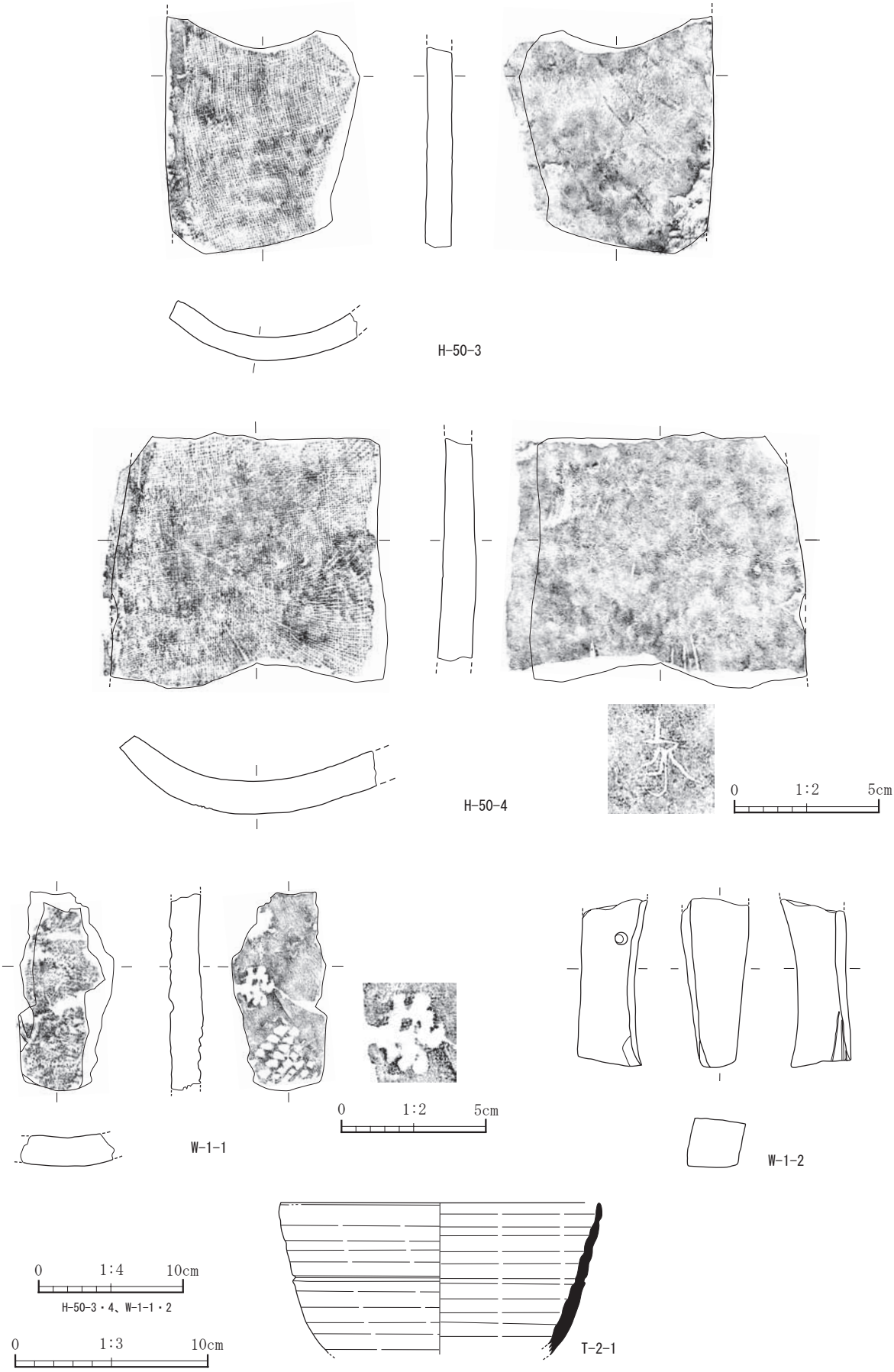
第51図　Ｈ－29～33号住居跡遺物実測図



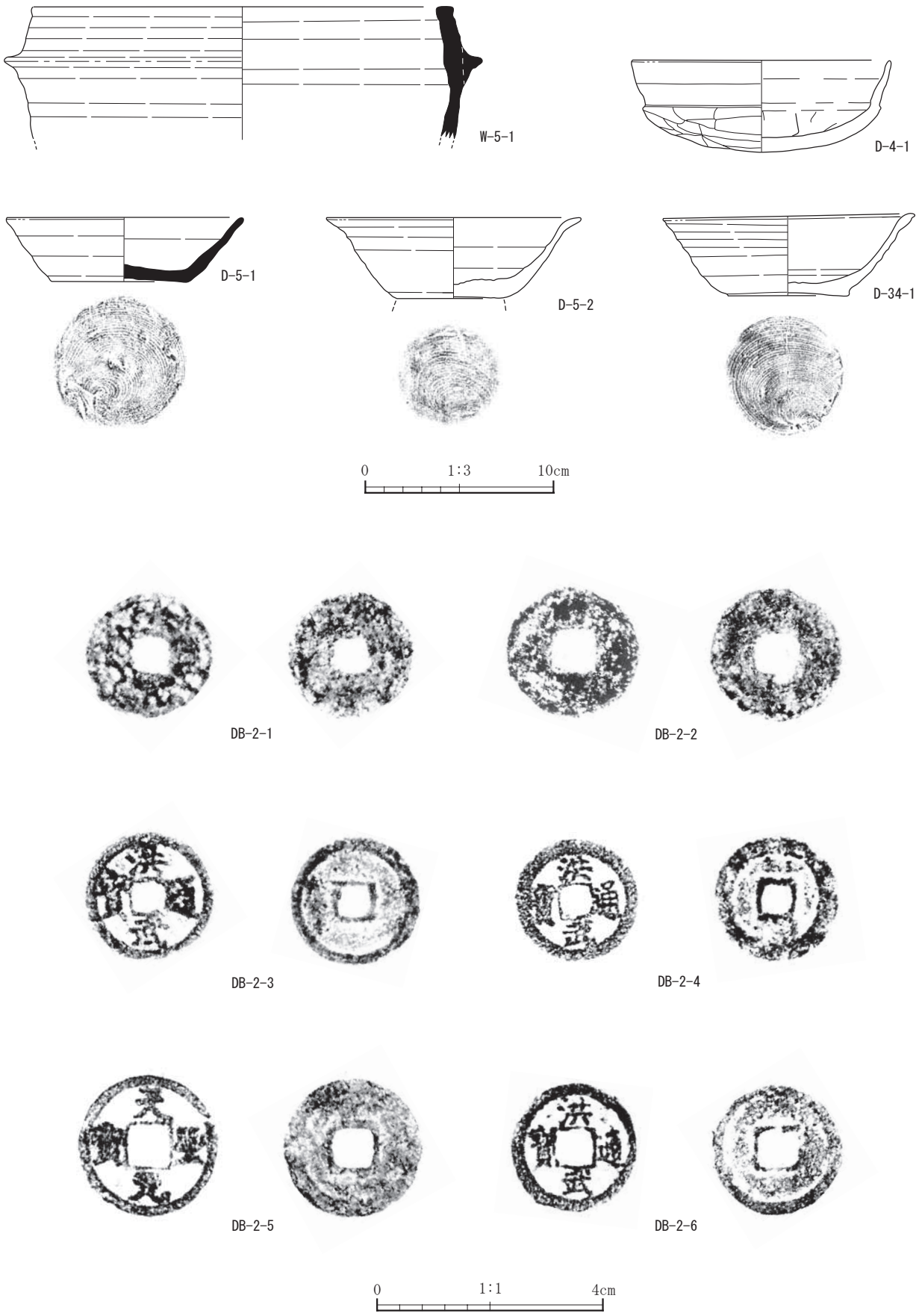
第52図　H－34・35・37・39～42号住居跡遺物実測図



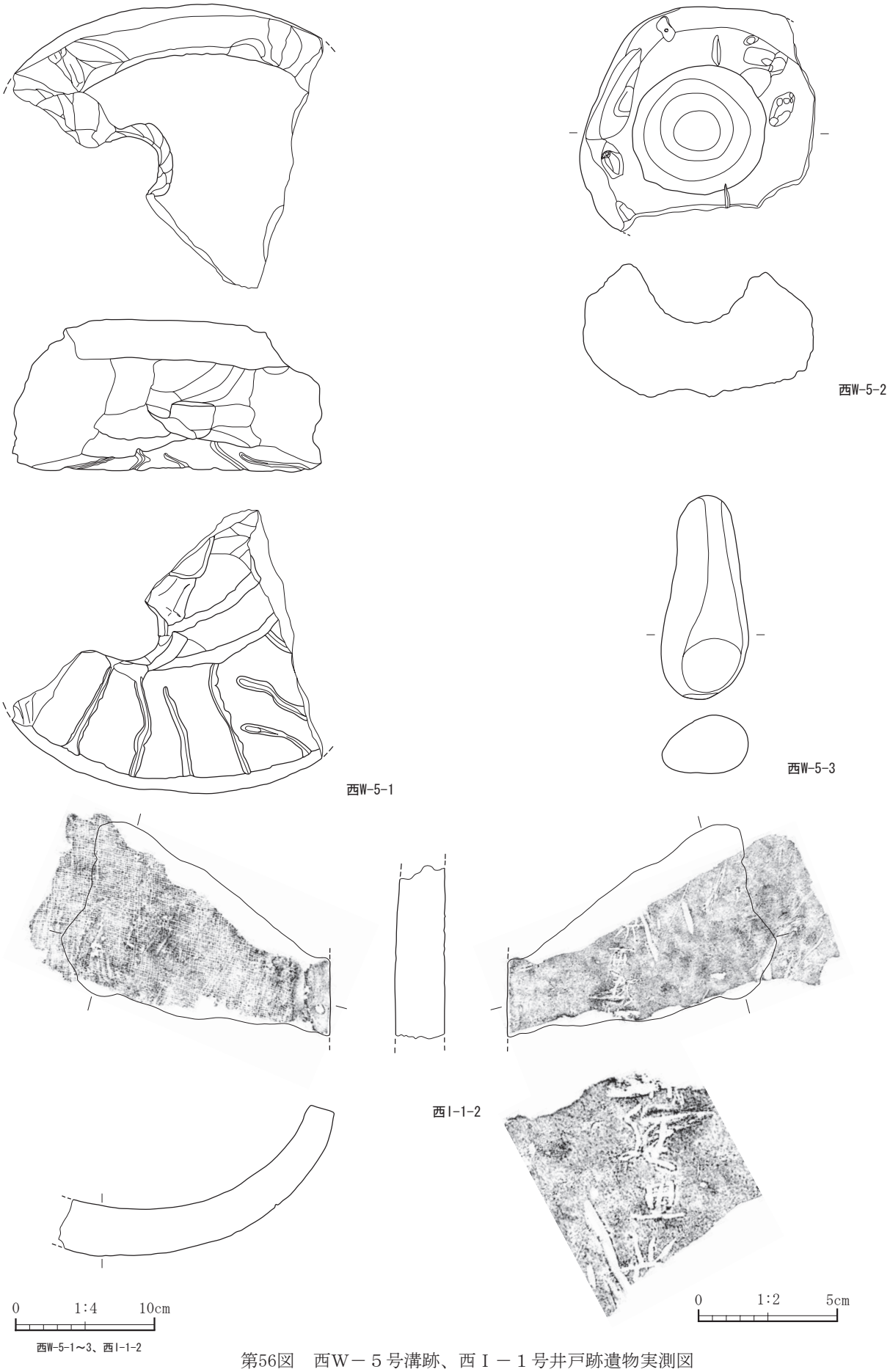
第53図　H－43・45・46・50号住居跡遺物実測図



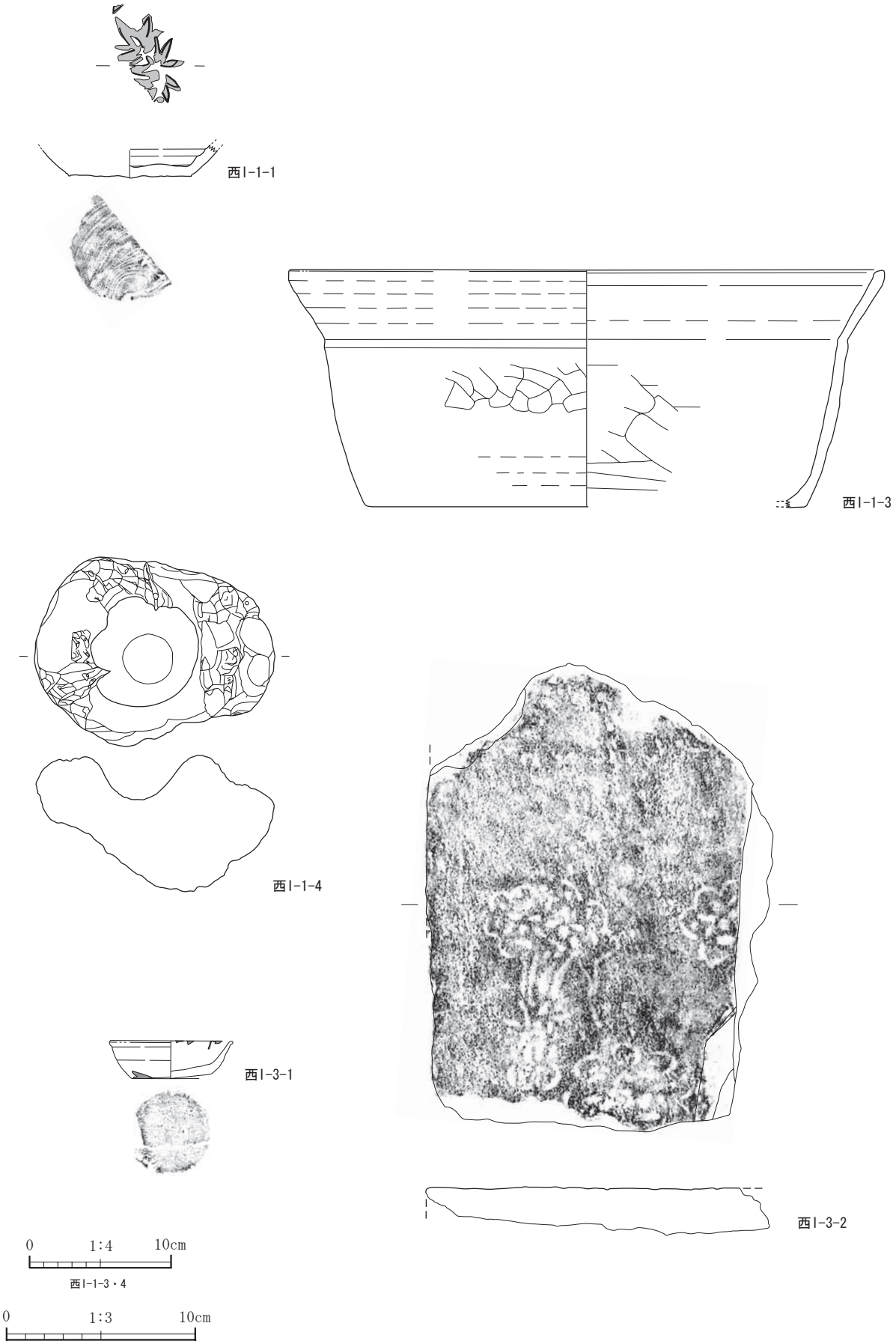
第54図　Ｈ－50号住居跡、Ｗ－１号溝跡、Ｔ－２号竪穴状遺構遺物実測図



第55図　Ｗ－５号溝跡、Ｄ－４・５・34号土坑、ＤＢ－２号土坑墓遺物実測図



第56図　西Ｗ－５号溝跡、西Ｉ－１号井戸跡遺物実測図



第57図　西Ⅰ－１・３号井戸跡遺物実測図

調査前全景東側(東から)

調査前全景西側(北西から)

H－１号住居跡全景(北から)

H－２号住居跡全景(西から)

調査区全景（空撮）

図版2

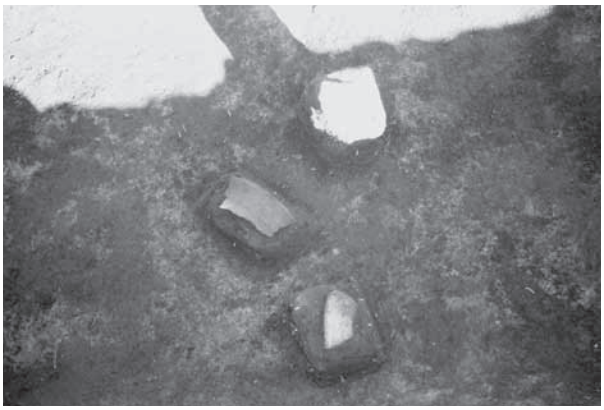
牛池川調査区

Ｈ－３号住居跡全景(西から)

Ｈ－３号住居跡竈全景(西から)

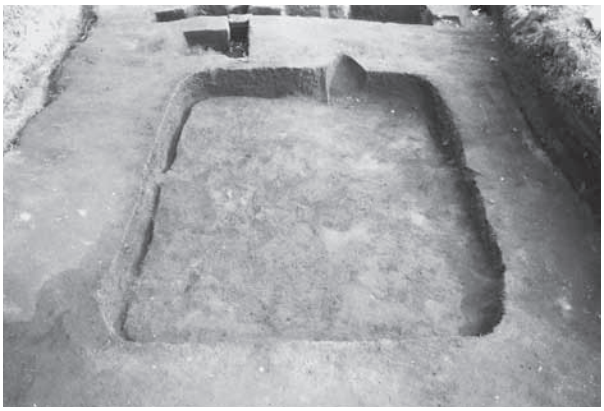
Ｈ－３号住居跡遺物出土状況(西から)

Ｈ－４号住居跡全景(西から)



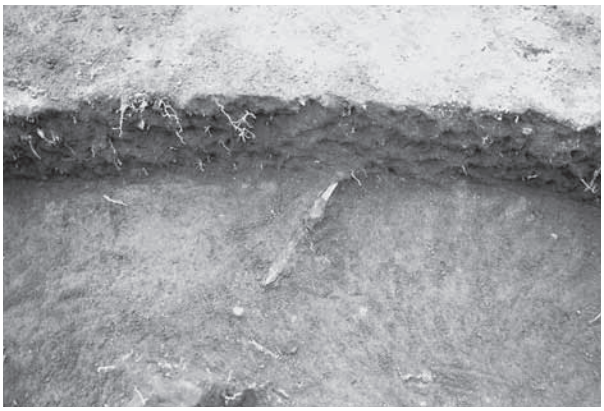
Ｈ－４号住居跡遺物出土状況

Ｈ－４号住居跡竈全景(西から)



Ｈ－５号住居跡全景(西から)

Ｈ－５号住居跡遺物出土状況(西から)

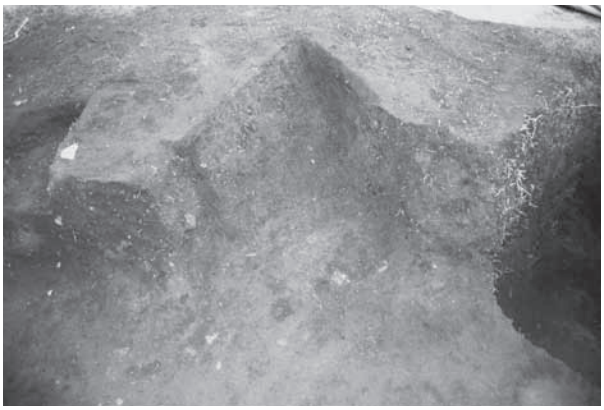


Ｈ－５号住居跡遺物出土状況(刀子)

Ｈ－５号住居跡竈全景(西から)

Ｈ－６号住居跡全景(西から)

Ｈ－６号住居跡遺物出土状況



Ｈ－６号住居跡竈全景(西から)

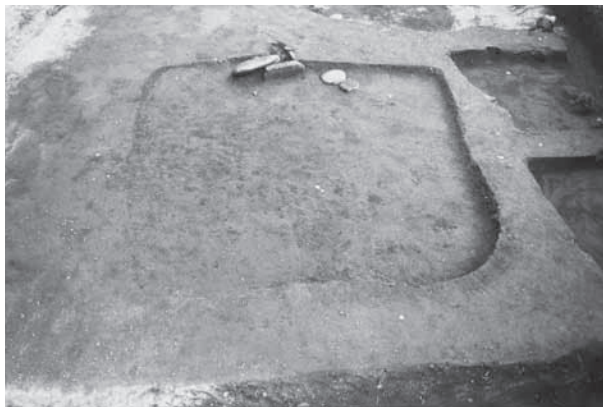
Ｈ－７号住居跡全景(西から)

Ｈ－７号住居跡遺物出土状況(西から)

Ｈ－７号住居跡竈全景(西から)

牛池川調査区

Ｈ－７号住居跡竈遺物出土状況(西から)



Ｈ－10号住居跡全景(西から)

Ｈ－10号住居跡遺物出土状況

Ｈ－10号住居跡竈全景(西から)

Ｈ－10号住居跡竈遺物出土状況

Ｈ－11号住居跡全景(西から)

Ｈ－11号住居跡遺物出土状況(西から)

Ｈ－11号住居跡竈全景(西から)

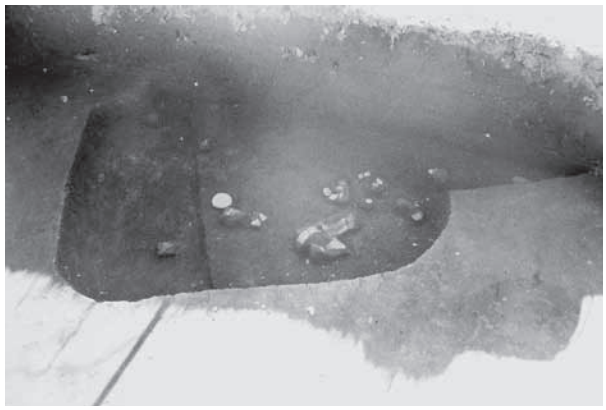
Ｈ－11号住居跡竈遺物出土状況

Ｈ－12号住居跡全景(南から)

Ｈ－12号住居跡遺物出土状況

Ｈ－12号住居跡竈全景(南から)

Ｈ－13・26・30・31・32号住居跡全景



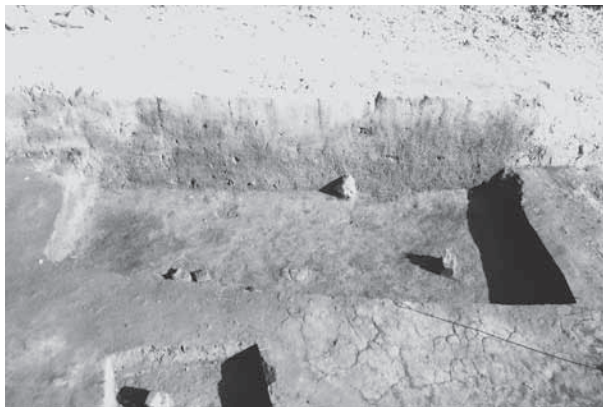
Ｈ－13・26号住居跡遺物出土状況

Ｈ－14号住居跡、Ｄ－33号土坑全景(西から)

Ｈ－14号住居跡、Ｄ－33号土坑遺物出土状況

牛池川調査区

H－14号住居跡竈全景(西から)



H－15号住居跡全景(南西から)

H－15号住居跡遺物出土状況

H－17号住居跡全景(北東から)

H－17号住居跡遺物出土状況

H－17号住居跡竈全景(北東から)

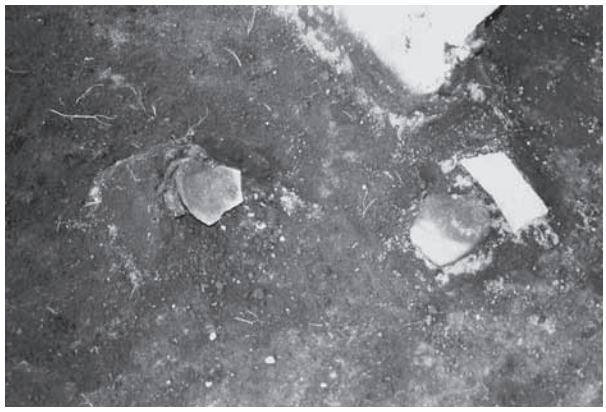
H－18号住居跡全景(西から)

H－18号住居跡遺物出土状況(北西から)

Ｈ－18号住居跡竈全景(西から)

Ｈ－18号住居跡竈遺物出土状況(西から)

Ｈ－19号住居跡全景(北西から)



Ｈ－19号住居跡遺物出土状況(北西から)

Ｈ－20号住居跡遺物出土状況(西から)

Ｈ－22号住居跡全景(南から)

Ｈ－23号住居跡全景(南西から)

Ｈ－23号住居跡遺物出土状況(南西から)

図版8

牛池川調査区

H－23号住居跡竈全景(南西から)

H－23号住居跡竈遺物出土状況

H－24号住居跡全景(西から)

H－24号住居跡遺物出土状況(西から)

H－24号住居跡竈全景(西から)

H－25号住居跡全景(南西から)

H－25号住居跡遺物出土状況

H－25号住居跡遺物出土状況

Ｈ－25号住居跡竈全景(南西から)

Ｈ－25号住居跡貯蔵穴全景

Ｈ－27号住居跡全景(南西から)

Ｈ－27号住居跡遺物出土状況(南西から)

Ｈ－28号住居跡全景(南西から)

Ｈ－28号住居跡遺物出土状況(南西から)

Ｈ－29号住居跡遺物出土状況(南西から)

Ｈ－32号住居跡竈全景(西から)

牛池川調査区

H－33号住居跡全景(西から)

H－33号住居跡遺物出土状況(西から)

H－33号住居跡竈全景(西から)

H－34号住居跡全景(西から)

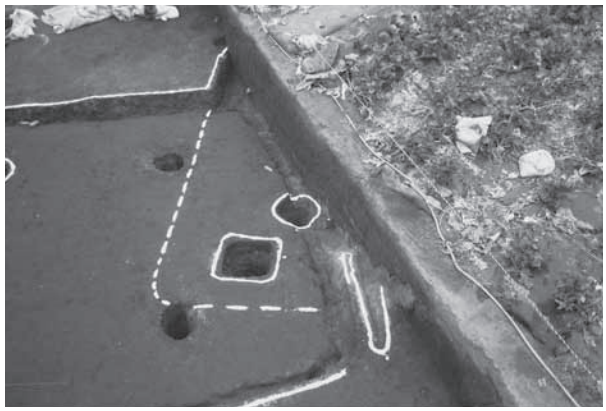
H－34号住居跡竈全景

H－34号住居跡竈遺物出土状況

H－35・37号住居跡全景(南西から)

H－37号住居跡遺物出土状況

H－36号住居跡竈全景(北から)

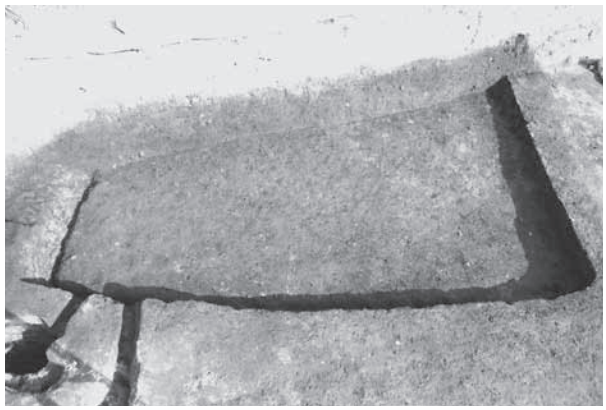


H－39号住居跡全景(北西から)

H－39号住居跡竈全景(北東から)

H－40号住居跡全景(北西から)

H－40号住居跡竈全景(南西から)



H－41号住居跡全景(南西から)

H－41号住居跡遺物出土状況

H－42号住居跡全景(北西から)

牛池川調査区

Ｈ－43・44・45号住居跡全景(南西から)

Ｈ－43号住居跡全景(北西から)

Ｈ－43号住居跡Ｐ５遺物出土状況

Ｈ－43号住居跡竈全景(南西から)

Ｈ－43・44号住居跡全景(南西から)

Ｈ－44号住居跡全景(南西から)

Ｈ－44号住居跡竈全景(南西から)

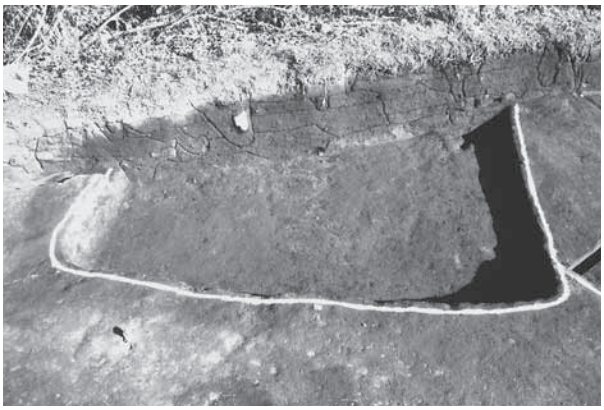
Ｈ－44号住居跡竈構築状況(石組状況)

Ｈ－44号住居跡竈構築状況(石組状況)

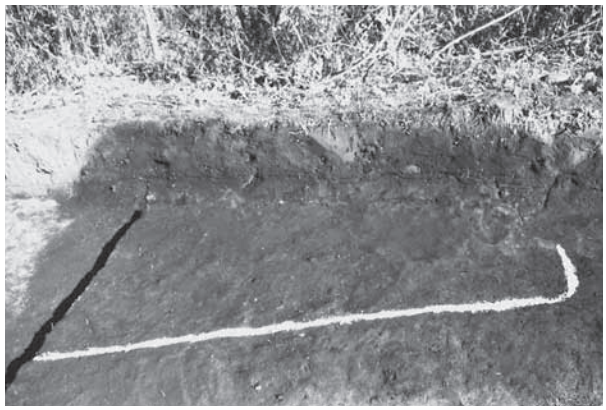
Ｈ－45号住居跡全景(西から)

Ｈ－45号住居跡竈全景(西から)

Ｈ－45号住居跡Ｄ－１遺物出土状況



Ｈ－46号住居跡全景(南西から)



Ｈ－47号住居跡全景(南西から)

Ｈ－48号住居跡全景(南西から)

Ｈ－49号住居跡全景(南西から)

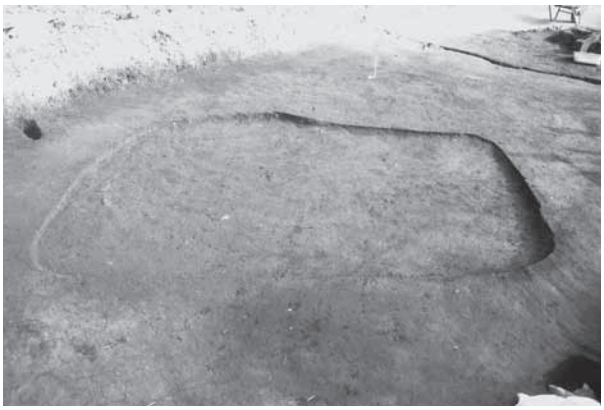
牛池川調査区

Ｈ－50号住居跡全景(西から)

Ｈ－50号住居跡遺物出土状況(西から)

Ｈ－50号住居跡竈全景(西から)

Ｔ－２号竪穴状遺構全景(南から)



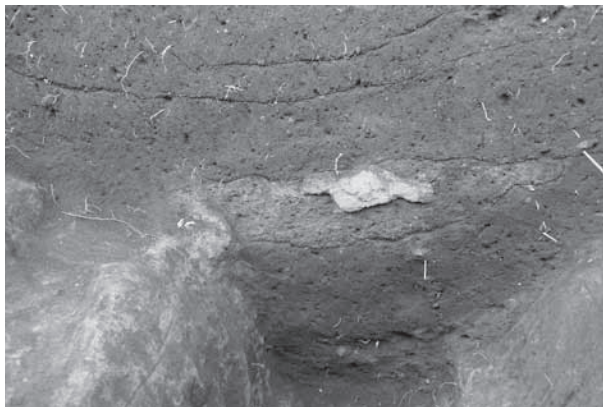
Ｔ－３号竪穴状遺構全景(南西から)

Ｗ－１号溝跡全景(西から)

Ｗ－３号溝跡全景(南から)

Ｗ－４・５号溝跡全景(東から)

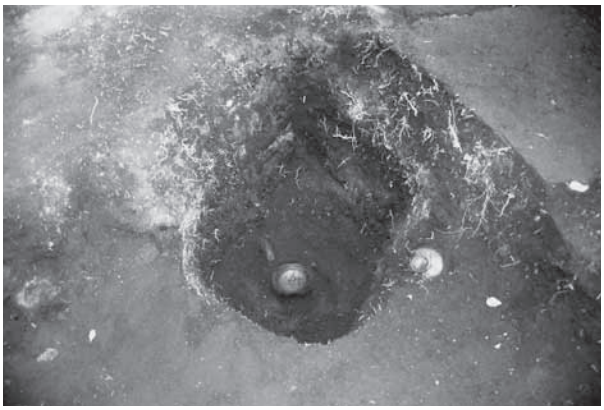
W－５号溝跡全景(南から)



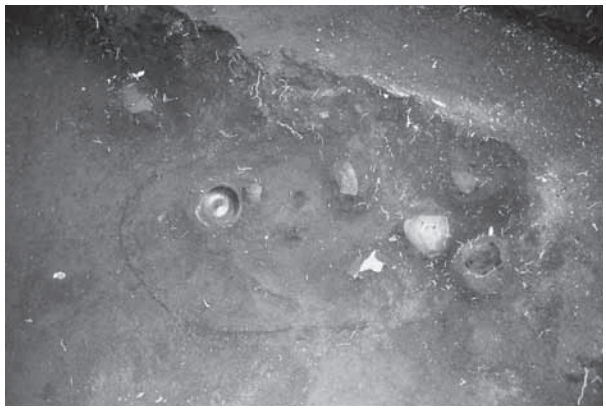
W－５号溝跡土層堆積状況

W－５号溝跡竈構築材採掘跡全景

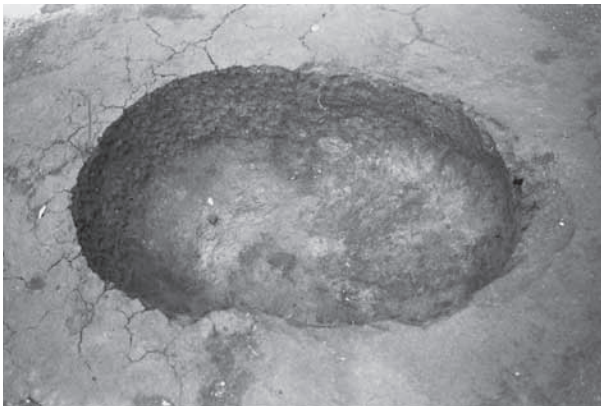
W－６・７号溝跡全景(南西から)



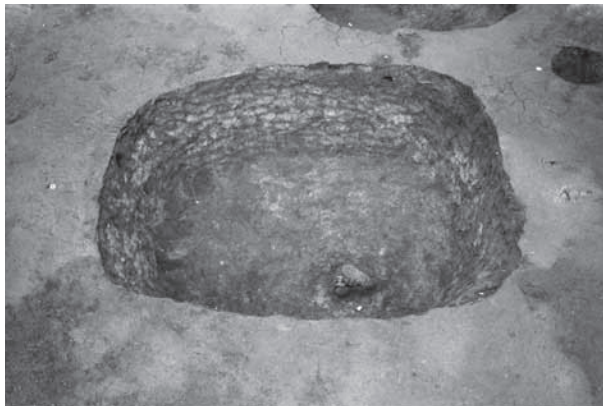
D－４号土坑遺物出土状況



D－５号土坑遺物出土状況

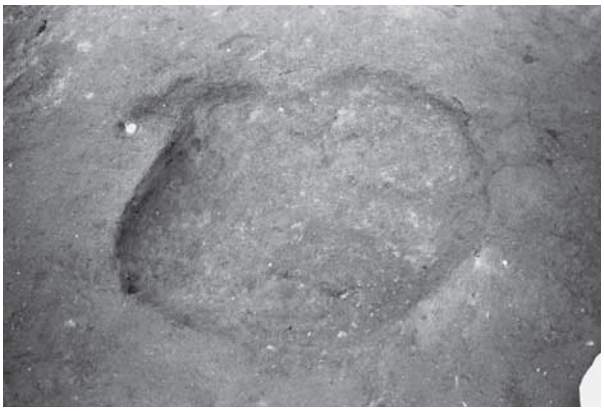


D－13号土坑全景(南から)

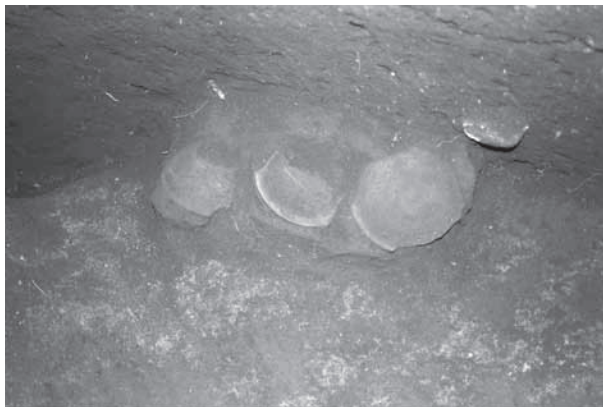


D－14号土坑全景(南から)

牛池川調査区



Ｄ－15号土坑全景

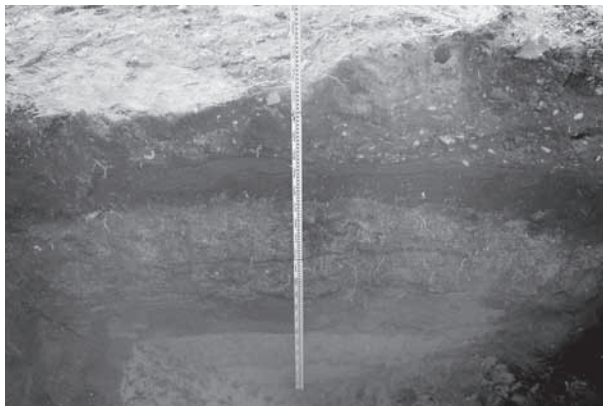


Ｄ－34号土坑遺物出土状況

ＤＢ－１号土坑墓人骨出土状況

ＤＢ－２号土坑墓人骨出土状況

ＤＢ－２号土坑墓人骨出土状況



深掘り(東側)

深掘り(中央)

深掘り(西側)

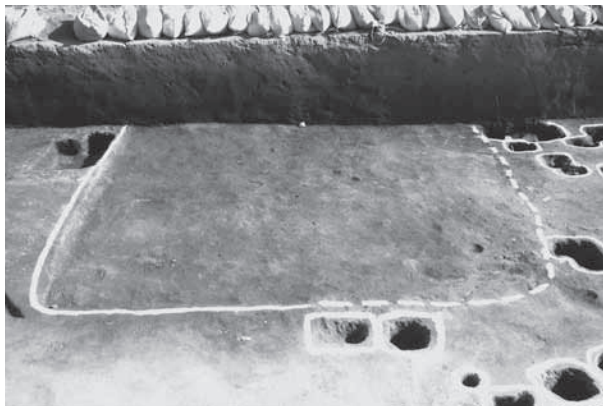
調査前全景(北から)

調査前全景(南から)

調査区全景(北から)

調査区全景(南から)

H－１号住居跡全景(西から)



H－２号住居跡全景(西から)

W－１号溝跡全景(南から)

W－２・４・５号溝跡全景(南から)

牛池川調査区

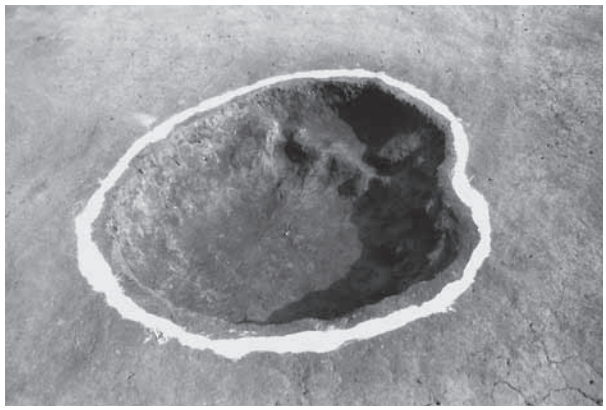
W－２・５号溝跡全景(西から)

W－３号溝跡全景(南から)

W－４号溝跡全景(東から)

W－５号溝跡全景(西から)

D－１号土坑全景(西から)



D－２号土坑全景(西から)

D－３号土坑全景(西から)

D－４号土坑全景(西から)

D－５号土坑全景(西から)

D－６号土坑全景(西から)

D－７号土坑全景(西から)

D－８号土坑全景(西から)

D－９号土坑全景(南から)

D－10号土坑全景(西から)

ピット群全景(北から)

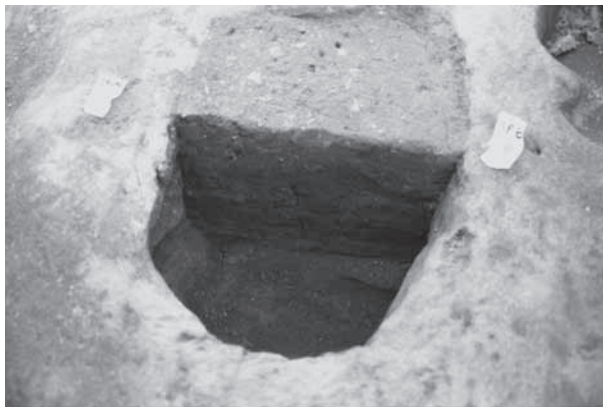
ピット群全景(南から)

西通線調査区

Ｐ－１号ピットセクション

Ｐ－２号ピットセクション

Ｐ－３号ピットセクション



Ｐ－４号ピットセクション

Ｐ－５号ピットセクション

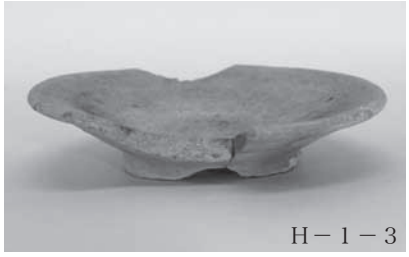
Ｉ－１号井戸跡全景(東から)

Ｉ－３号井戸跡全景(西から)

深掘り(東壁側)

H－1－1

H－1－2


H－1－3

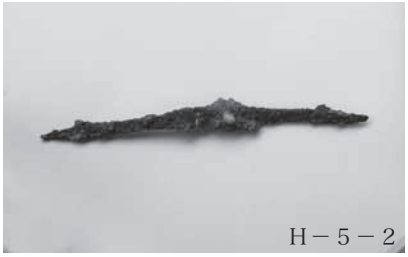
H－2－1

H－4－1

H－3－1

H－4－2

H－5－1


H－5－2

H－5－3

H－5－4

H－6－1

H－7－1

H－6－2

H－7－2

H－7－3

H－7－4

図版22

牛池川調査区

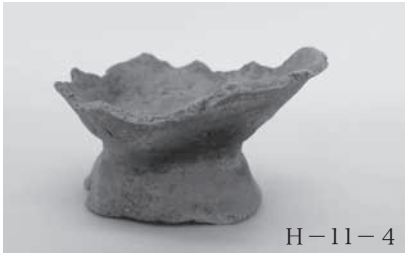
H－10－2

H－10－1

H－11－1

H－11－2

H－11－3


H－11－4

H－11－5

H－12－1

H－13－1

H－14－1

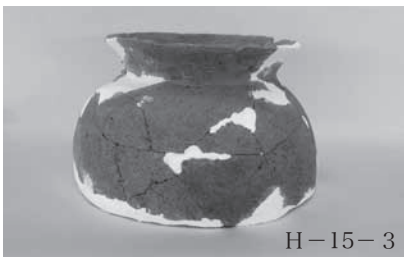
H－14－2

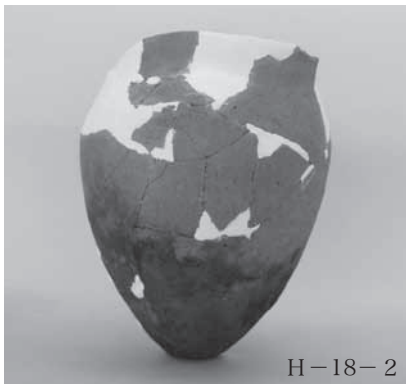
H－14－3

H－15－1

H－17－3

H－15－2

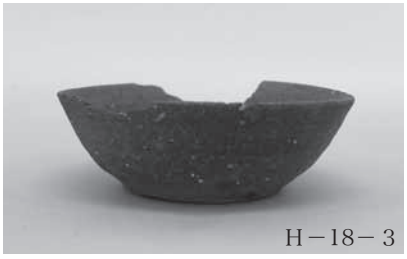

H－15－3


H－18－2

H－17－1

H－17－2

H－18－1


H－18－3

H－18－4

H－18－5

H－19－1

H－22－1

H－23－1

H－23－2

H－23－3

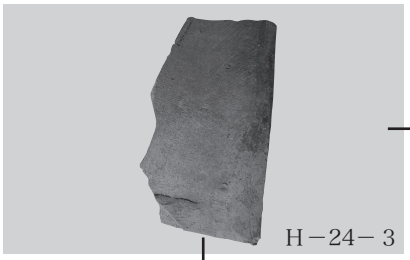
H－23－4

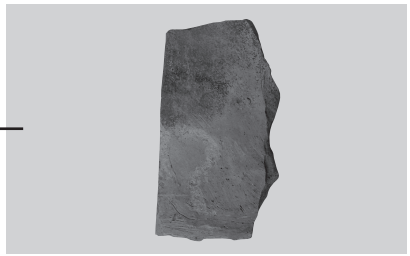
H－23－5

H－23－6

H－24－1

H－24－2


H－24－3



H－25－1

H－25－2

H－25－3

牛池川調査区

H－25－4

H－25－5

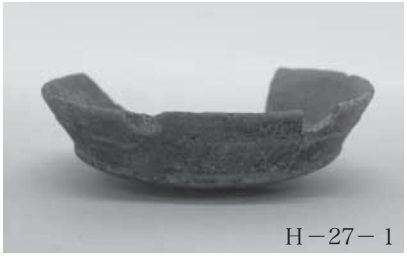
H－25－6

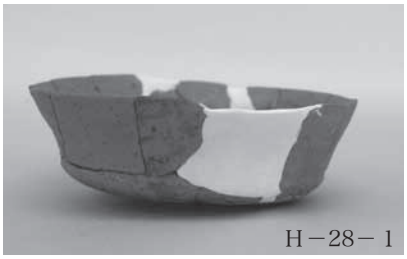
H－25－7

H－25－8

H－25－9

H－26－1

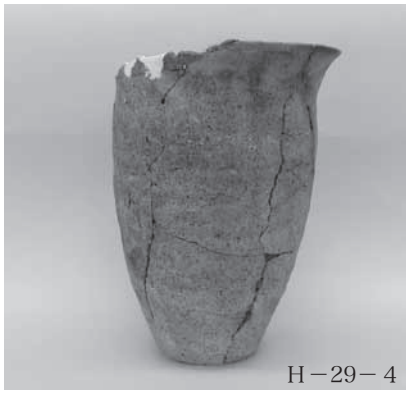

H－27－1


H－28－1

H－28－3

H－28－2

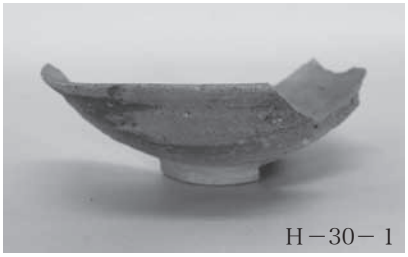
H－29－1


H－29－4

H－29－2

H－29－5

H－29－6


H－30－1

H－31－1

H－30－2

H－32－1

H－33－1

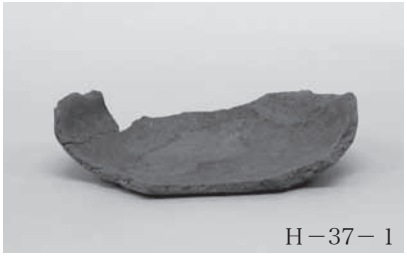
H－33－2

H－33－4

H－33－3

H－33－5

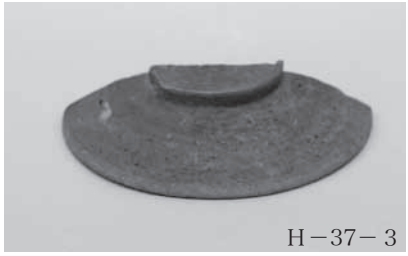
H－34－1


H－37－1

H－35－1

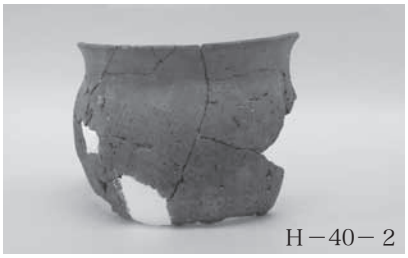
H－34－2

H－37－2


H－37－3

H－39－1

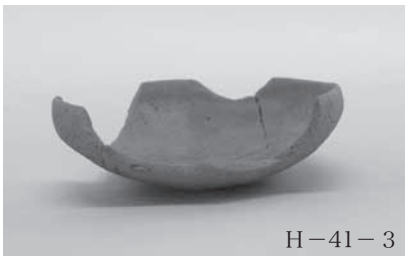
H－40－1

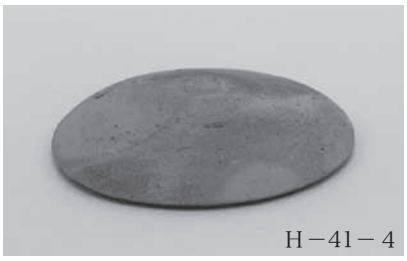

H－40－2

H－41－1

H－41－2

牛池川調査区


H－41－3

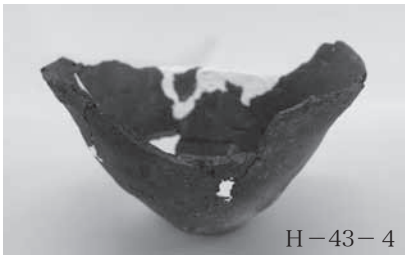

H－41－4

H－42－1

H－43－1

H－43－2

H－43－3


H－43－4

H－43－5

H－43－6

H－43－7

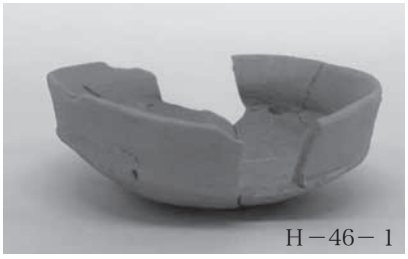
H－43－8

H－43－9

H－45－1

H－45－2

H－45－3

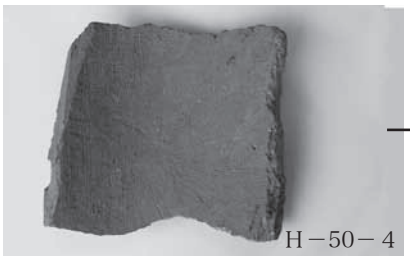

H－46－1

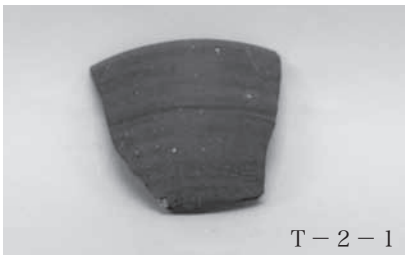
H－46－2

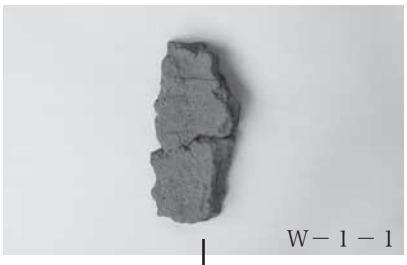
H－50－3

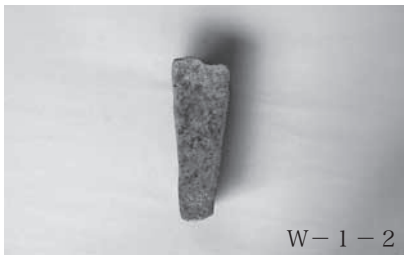
H－50－2

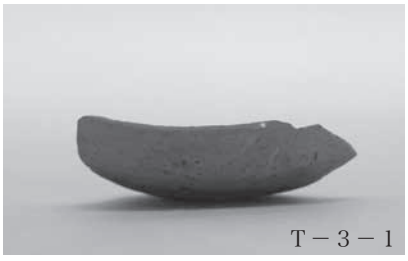
H－50－1

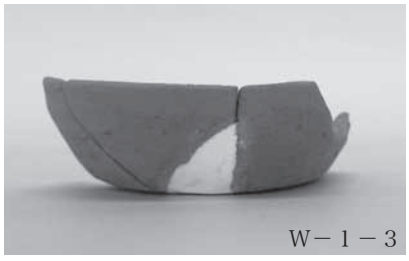

H－50－4

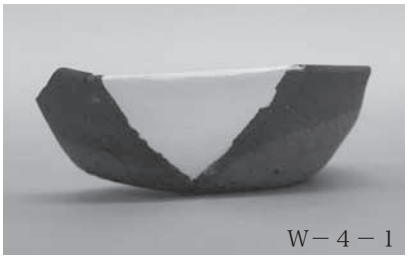

T－2－1

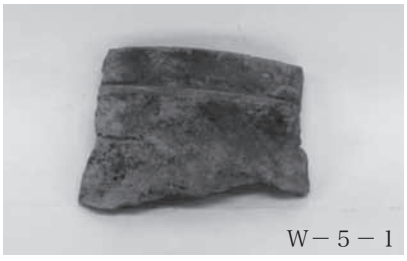

W－1－1


W－1－2


T－3－1


W－1－3


W－4－1

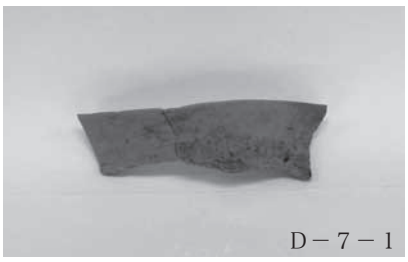

W－5－1

D－4－1

D－4－2

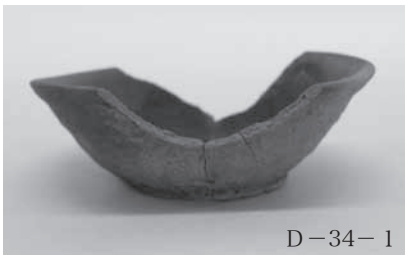
D－5－1

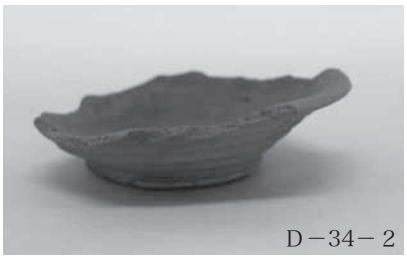
D－5－2

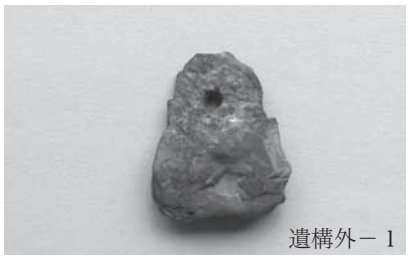

D－7－1

D－33－1

D－33－2

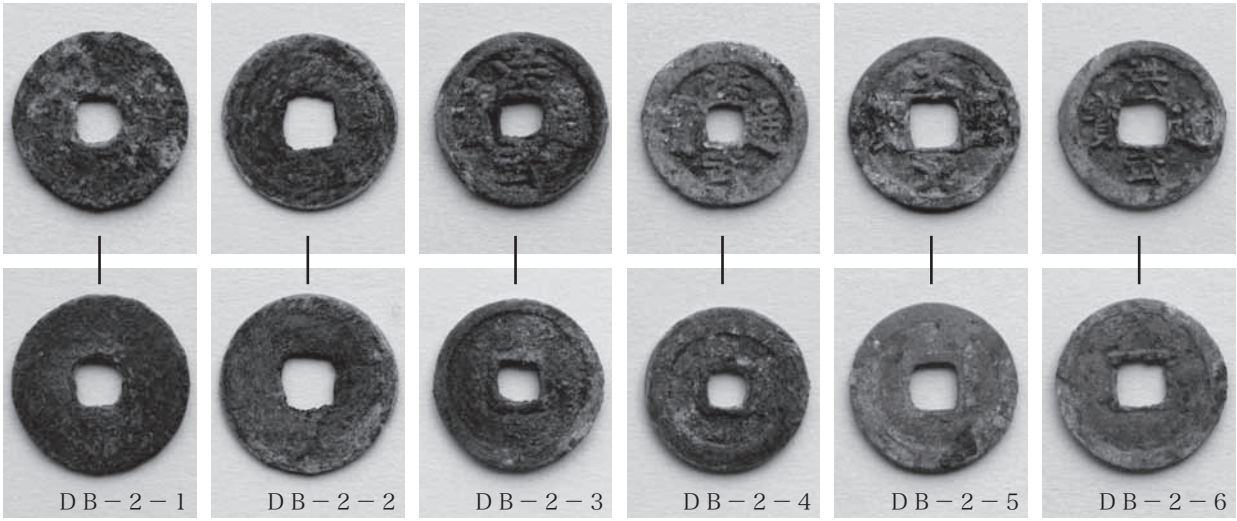

D－34－1


D－34－2

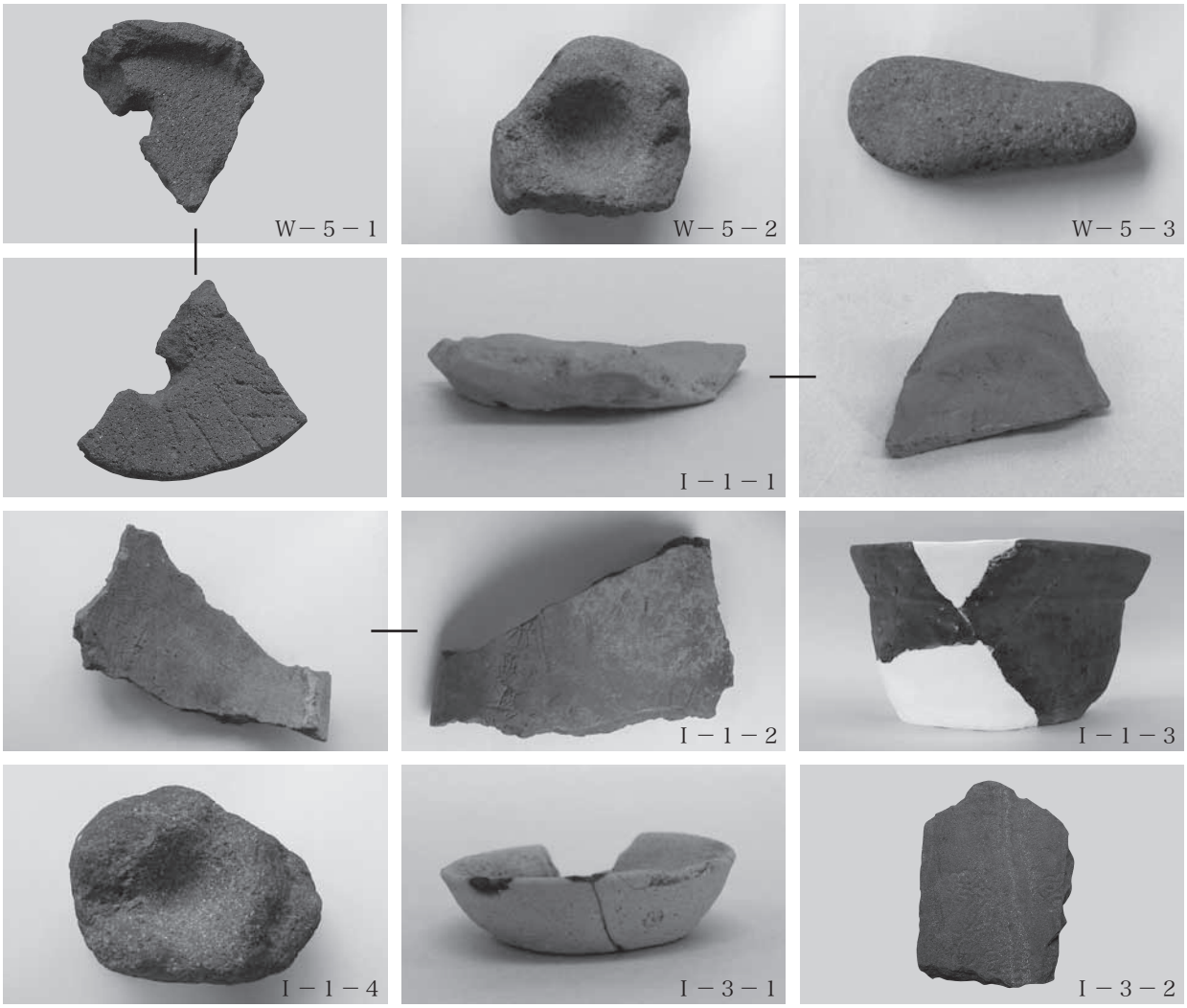

遺構外－1

図版28

牛池川調査区



西通線調査区



抄　　録

フ リ ガ ナ	モトソウジャオウミイセキグン（17）
書　　名	元総社蒼海遺跡群（17）
副 書 名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	梅澤克典（前橋市埋蔵文化財発掘調査団） 金子正人・板垣　宏・権田友寿（スナガ環境測設株式会社）
編 集 機 関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発 行 年 月 日	西暦2008年３月７日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所 在 地	コ ー ド		位　　置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北　緯	東　経			
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群（17）	マエバシシモトソウジャマチ 前橋市元総社町 1858番１号ほか （ウシイケガワカハンドウロ 牛池川河畔道路） 1397番１号 （オウミニシドオリセン 蒼海西通線）	10201	19Ａ130 -17	36°23′27″	139°02′06″	20070925 ～ 20080307	1,512㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特記事項
元総社蒼海遺跡群（17）	集落跡 集落跡	古墳時代 奈良・平安時代 中世以降 不明	竪穴住居跡13軒 竪穴住居跡28軒 竪穴状遺構２軒、溝跡４条、土坑、ピット 土坑墓２基、土坑10基、ピット231基、井戸跡２基、溝跡５条 竪穴住居跡９軒、溝跡２条	土師器・須恵器 土師器・須恵器・瓦・灰釉陶器・鉄製品 灯明皿・軟質陶器・板碑・石臼	

元総社蒼海遺跡群（17）

2008年３月３日　印刷
2008年３月７日　発行

発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
　　前橋市三俣町二丁目10―２
編集　スナガ環境測設株式会社
　　前橋市青柳町211番地の１
印刷　朝日印刷工業株式会社